

# 長久保大畑IV遺跡

2023

群馬県北群馬郡吉岡町教育委員会  
株式会社コスモス薬品  
有限会社毛野考古学研究所

# 長久保大畑IV遺跡

2023

群馬県北群馬郡吉岡町教育委員会  
株式会社コスモス薬品  
有限会社毛野考古学研究所



## 序 文

吉岡町においては、町制を施行してから 30 年が経ちました。近年、人口増加が続き、令和 5 年 1 月 1 日現在人口は 22,371 人、世帯数 8,766 戸となり、大きく発展を遂げ続けています。今では住みたい町ランキングで上位に入る町になっています。

吉岡町では第 6 次総合計画で「思いを紡ぎ、未来につなげる まちづくり吉岡」を理念に町の将来像を推進してきました。将来像実現のための 3 つのまちづくりの一つとして「ブランド力と郷土愛」を掲げています。

今日、長いコロナ禍にあり経済も停滞する中、駒寄スマートインターチェンジ周辺では民間による開発の動きが活発で、大型店舗の出店もされています。

今回の開発地も周辺開発の一環としての店舗建設であり、長久保大畑遺跡包蔵地範囲内の開発であったため、事業者と吉岡町教育委員会との協議の結果、記録保存としての発掘調査を実施することになりました。

本開発地周辺には、南下古墳群や正八角形の形をした三津屋古墳など全国的にも貴重な遺跡があり、また古代の集落跡が多数確認された場所であったことがわかっています。

今も昔も吉岡町の中心を成す場所であったことが予想されます。まさに、吉岡町の「ブランド力と郷土愛」を感じさせる場所であります。

本報告書は、事業地が長久保大畑遺跡包蔵地の一部にあたる場所を発掘調査したものであり、平安時代の住居跡 20 軒、掘立柱建物跡 1 棟、溝跡 7 条、井戸 1 基、土坑 19 基などの遺構や土器類、鉄製品などの遺物が確認されました。当時の人々の生活の一端が垣間見えたことは、吉岡町の歴史をかたる上で貴重な文化財であると確信しています。

今後、本報告書や出土した遺物等が吉岡町のみならず、広く群馬県の古代史を解明する一助として活用されることを願います。

結びに、発掘調査にご尽力いただきました関係者各位に心から感謝を申し上げます。

令和 5 年 7 月

吉岡町教育委員会  
教育長 山 口 和 良

# 例 言

- 1 本報告書は、株式会社コスモス薬品出店建物工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査から報告書刊行までに至るすべての経費は、開発者である株式会社コスモス薬品の負担による。
- 3 株式会社コスモス薬品、有限会社毛野考古学研究所、吉岡町教育委員会が三者協定を締結し、発掘調査および整理作業は吉岡町教育委員会の監理指導のもと、委託を受けた有限会社毛野考古学研究所が実施した。
- 4 現地発掘調査および整理作業の要項は次のとおりである。

遺跡名	長久保大畑Ⅳ遺跡
遺跡コード	154
遺跡所在地	群馬県北群馬郡吉岡町大字大久保字大畑 751 - 2
監理指導	白石光男（吉岡町教育委員会生涯学習室）
調査担当	山本千春 土井道昭（有限会社毛野考古学研究所）
発掘調査期間	令和4年12月12日～令和5年2月8日
整理作業期間	令和5年2月9日～令和5年7月14日
調査面積	948㎡
発掘調査参加者	天田真由美 生駒朝男 市川嘉久 漆原政江 大村美与子 岡田正敏 狩野政弘 北野進二 熊澤 享 小池栄一 坂部三男 白砂福造 新開昌代 榛葉真五 武井博行 近田雅行 都丸ゆかり 中野英治 萩原 薫 羽鳥弥生 星野陽子 星野良三 松岡栄一 松本幸男 三原昭夫 望月百合子 森田美典 養田康晃
整理作業参加者	石川陽子 鬼形敦子 閑野一枝 合田幸子 柴田弘信 新開昌代 武士久美子 田村健志 千木良有香子 半澤利江 日沖美奈子 真下弘美

- 5 現地での遺構の写真は山本・土井が撮影し、遺構測量・航空写真撮影は、小出拓磨（有限会社毛野考古学研究所）が担当した。
- 6 本書の編集は、吉岡町教育委員会指導のもと山本が行った。原稿執筆はⅠを吉岡町教育委員会、その他を山本が担当した。また、遺物写真撮影は井上太（有限会社毛野考古学研究所）が、縄文土器は高橋清文・和久裕昭（同）が、石器・石製品は土井（同）が担当した。
- 7 調査資料は一括して吉岡町教育委員会で保管している。
- 8 発掘調査および整理作業において、下記の機関・諸氏のご指導・ご協力を賜った。記して感謝を申し上げます。（敬称略）

大和ハウス工業株式会社 株式会社横田調査設計 神谷佳明 木津博明 桜岡正信 杉山秀宏 関 邦一  
永井智教

# 凡 例

- 1 挿図中方位記号は座標北を示し、座標値は国家標準直角座標IX系、標高は日本水準原点に基づいている。
- 2 本書ではテフラ（火山噴出物）の呼称として次の記号を用いた。  
As-B：1108（天仁元）年噴出の浅間B軽石    Hr-FA：6世紀初頭噴出の榛名二ツ岳渋川テフラ  
Hr-S：5世紀末噴出の榛名二ツ岳渋川テフラ    As-C：3世紀後葉～4世紀前半噴出の浅間C軽石
- 3 遺構図および遺物実測図の縮尺については図中にスケールを付して表示した。また、遺物写真は遺物実測図とほぼ同縮尺である。
- 4 土層および土器類の色調観察は『新版 標準土色帖』（農林水産技術会議事務局 財団法人日本色彩研究所 監修2006）を基準とした。
- 5 本文中や挿表中において、〈 〉は残存値を、（ ）は推定値をそれぞれ示す。

# 目 次

## 例 言・凡 例・目 次

I 調査に至る経緯	1	3. 竪穴状遺構	47
II 調査の方法と経過	2	4. 溝	48
1. 調査の方法	2	5. 井戸	53
2. 調査の経過	2	6. 土坑	54
III 基本層序	3	7. ピット	60
IV 遺跡の位置と周辺の環境	3	8. 遺構外出土遺物	61
1. 地理的環境	3	VI まとめ	71
2. 歴史的環境	4	1. 古墳時代の溝について	71
V 遺構と遺物	6	2. 奈良・平安時代の集落について	71
1. 竪穴住居跡	6	写真図版・抄録・奥付	
2. 掘立柱建物跡	46		

# 挿 図 目 次

第1図 調査区域図	1	第14図 4号住居跡遺構図（1）	12
第2図 基本土層図	3	第15図 4号住居跡遺構図（2）	13
第3図 遺跡の位置	3	第16図 4号住居跡遺物実測図	14
第4図 遺跡分布図	4	第17図 5号住居跡遺構図（1）	15
第5図 全体図	5	第18図 5号住居跡遺構図（2）	16
第6図 1号住居跡遺構図	6	第19図 5号住居跡遺物実測図	16
第7図 1号住居跡遺物実測	6	第20図 6号住居跡遺構図（1）	17
第8図 2号住居跡遺構図	7	第21図 6号住居跡遺構図（2）	18
第9図 2号住居跡遺物実測図	7	第22図 6号住居跡遺物実測図	18
第10図 3号住居跡遺構図（1）	8	第23図 7号住居跡遺構図（1）	19
第11図 3号住居跡遺構図（2）	9	第24図 7号住居跡遺構図（2）	20
第12図 3号住居跡遺物実測図（1）	10	第25図 7号住居跡遺物実測図	21
第13図 3号住居跡遺物実測図（2）	11	第26図 8号住居跡遺構図（1）	22

第27図	8号住居跡遺構図(2).....	23	第60図	20号住居跡遺構図(1).....	45
第28図	8号住居跡遺物実測図.....	23	第61図	20号住居跡遺構図(2).....	46
第29図	9号住居跡遺構図(1).....	24	第62図	1号掘立柱建物跡遺構図.....	47
第30図	9号住居跡遺構図(2).....	25	第63図	2号竪穴状遺構遺物実測図.....	47
第31図	9号住居跡遺物実測図(1).....	25	第64図	1・2号竪穴状遺構遺構図.....	48
第32図	9号住居跡遺物実測図(2).....	26	第65図	1号溝遺構図.....	48
第33図	10号住居跡遺構図(1).....	26	第66図	2号溝遺構図.....	49
第34図	10号住居跡遺構図(2).....	27	第67図	4号溝遺構図.....	49
第35図	10号住居跡遺物実測図.....	28	第68図	3号溝遺物実測図.....	49
第36図	11号住居跡遺構図(1).....	29	第69図	3号溝遺構図.....	50
第37図	11号住居跡遺構図(2).....	30	第70図	5・6号溝遺構図.....	51
第38図	11号住居跡遺物実測図.....	31	第71図	5号溝遺物実測図.....	52
第39図	12号住居跡遺構図.....	32	第72図	7号溝遺構図・遺物実測図.....	53
第40図	12号住居跡遺物実測図.....	33	第73図	1号井戸遺構図.....	53
第41図	13号住居跡遺物実測図.....	33	第74図	1号井戸遺物実測図.....	54
第42図	13号住居跡遺構図.....	34	第75図	1～9・11・12号土坑遺構図.....	56
第43図	14号住居跡遺物実測図.....	34	第76図	10号土坑遺構図.....	57
第44図	14号住居跡遺構図.....	35	第77図	14号土坑遺構図.....	58
第45図	15号住居跡遺物実測図.....	36	第78図	13・15～19号土坑遺構図.....	59
第46図	15号住居跡遺構図(1).....	36	第79図	10号土坑遺物実測図.....	59
第47図	15号住居跡遺構図(2).....	37	第80図	16号土坑遺物実測図.....	60
第48図	16号住居跡遺構図(1).....	37	第81図	ピット遺物実測図.....	61
第49図	16号住居跡遺構図(2).....	38	第82図	遺構外出土遺物実測図(1).....	62
第50図	16号住居跡遺物実測図.....	38	第83図	遺構外出土遺物実測図(2).....	63
第51図	16号住居跡遺構図(3).....	39	第84図	遺構外出土遺物実測図(3).....	64
第52図	17号住居跡遺構図(1).....	40	第85図	遺構外出土遺物実測図(4).....	65
第53図	17号住居跡遺構図(2).....	41	第86図	遺構外出土遺物実測図(5).....	66
第54図	17号住居跡遺物実測図.....	41	第87図	遺構外出土遺物実測図(6).....	67
第55図	18号住居跡遺構図.....	42	第88図	張り出しを持つ竪穴住居跡.....	72
第56図	18号住居跡遺物実測図.....	42	第89図	元島名B・吹屋遺跡出土金属器.....	72
第57図	19号住居跡遺構図(1).....	43	第90図	18号住居跡No.3 X線写真.....	72
第58図	19号住居跡遺構図(2).....	44	第91図	周辺の遺跡.....	73
第59図	19号住居跡遺物実測図.....	45			

## 挿表目次

第1表	1号住居跡遺物観察表.....	6	第13表	9号住居跡遺物観察表.....	26
第2表	2号住居跡遺物観察表.....	7	第14表	10号住居跡遺物観察表.....	28
第3表	3号住居跡遺物観察表(1).....	11	第15表	11号住居跡遺物観察表(1).....	30
第4表	3号住居跡遺物観察表(2).....	12	第16表	11号住居跡遺物観察表(2).....	31
第5表	4号住居跡遺物観察表(1).....	13	第17表	12号住居跡遺物観察表.....	32
第6表	4号住居跡遺物観察表(2).....	14	第18表	13号住居跡遺物観察表.....	33
第7表	4号住居跡遺物観察表(3).....	15	第19表	14号住居跡遺物観察表.....	35
第8表	5号住居跡遺物観察表.....	17	第20表	15号住居跡遺物観察表.....	36
第9表	6号住居跡遺物観察表.....	18	第21表	16号住居跡遺物観察表.....	40
第10表	7号住居跡遺物観察表(1).....	21	第22表	17号住居跡遺物観察表.....	41
第11表	7号住居跡遺物観察表(2).....	22	第23表	18号住居跡遺物観察表.....	42
第12表	8号住居跡遺物観察表.....	24	第24表	19号住居跡遺物観察表.....	44

第25表	2号竪穴状遺構遺物観察表	47
第26表	3号溝遺物観察表	50
第27表	5号溝遺物観察表	52
第28表	7号溝遺物観察表	53
第29表	1号井戸遺物観察表	54
第30表	10号土坑遺物観察表	59
第31表	16号土坑遺物観察表	60
第32表	ピット計測表(1)	60

第33表	ピット計測表(2)	61
第34表	ピット遺物観察表	61
第35表	遺構外出土遺物観察表(1)	67
第36表	遺構外出土遺物観察表(2)	68
第37表	遺構外出土遺物観察表(3)	69
第38表	遺構外出土遺物観察表(4)	70
第39表	遺構外出土遺物観察表(5)	71

## 写真図版目次

図版 1	遺跡遠景(南東から) 遺跡全景(上が北)	11号住居跡カマド全景(西から) 11号住居跡カマド遺物出土状態(西から)
図版 2	1号住居跡全景(南西から) 1号住居跡カマド全景(南西から) 2号住居跡全景(西から) 3・19号住居跡全景(南西から) 3号住居跡カマド遺物出土状態(南西南から) 3号住居跡カマド周辺遺物出土状態(南西南から) 4・20号住居跡全景(西から) 4号住居跡遺物出土状態(北から)	11号住居跡焼土・礫検出状態(北から) 図版 6 12号住居跡全景(西から) 12号住居跡カマド遺物出土状態(西から) 13号住居跡全景(西から) 13号住居跡カマド全景(西から) 13・14号住居跡全景(西から) 14号住居跡カマド全景(西から) 15号住居跡全景(西から) 15号住居跡カマド遺物出土状態(西から)
図版 3	4号住居跡カマド全景(西から) 20号住居跡カマド全景(西から) 5号住居跡全景(西から) 5号住居跡カマド全景(南西から) 5号住居跡床下土坑1全景(東から) 5号住居跡床下土坑1土層断面(南から) 6号住居跡全景(西から) 6号住居跡土坑1遺物出土状態(南から)	図版 7 15号住居跡カマド全景(西から) 15号住居跡カマド掘方(西から) 16号住居跡全景(西から) 16号住居跡カマド全景(西から) 16号住居跡土坑1遺物出土状態(北から) 16号住居跡土坑1遺物出土状態近景(北から) 17号住居跡全景(西から) 17号住居跡カマド全景(西から)
図版 4	7号住居跡全景(西から) 7号住居跡カマド全景(西から) 7号住居跡カマド掘方(北西から) 7号住居跡カマド遺物出土状態(西から) 8号住居跡全景(西から) 8号住居跡遺物出土状態近景(東から) 9号住居跡全景(西から) 9号住居跡カマド全景(西から)	図版 8 17号住居跡カマド周辺遺物出土状態(西から) 17号住居跡土坑1遺物出土状態(西から) 18号住居跡全景(西から) 18号住居跡遺物出土状態(西から) 19号住居跡全景(西から) 19号住居跡カマド全景(西から) 1号掘立柱建物跡全景(南から) 1号竪穴状遺構全景(北から)
図版 5	10号住居跡全景(西から) 10号住居跡カマド全景(西から) 10号住居跡カマド遺物出土状態(西から) 10号住居跡遺物出土状態近景(西から) 11号住居跡全景(西から)	図版 9 2号竪穴状遺構全景(西から) 2号竪穴状遺構遺物出土状態(西から) 2号溝全景(東から) 7号溝全景(北東から) 1号溝全景(南から)

- |      |                   |      |             |
|------|-------------------|------|-------------|
| 図版10 | 3・4号溝全景(北から)      | 図版16 | 9号住居跡出土遺物   |
|      | 3号溝土層断面(南から)      |      | 10号住居跡出土遺物  |
|      | 4号溝土層断面(南から)      |      | 11号住居跡出土遺物  |
|      | 5号溝全景(北から)        | 図版17 | 12号住居跡出土遺物  |
|      | 6号溝全景(北から)        |      | 13号住居跡出土遺物  |
| 図版11 | 1号井戸、10号土坑全景(南から) |      | 14号住居跡出土遺物  |
|      | 1号井戸全景(南西から)      |      | 15号住居跡出土遺物  |
|      | 10号土坑全景(西から)      |      | 16号住居跡出土遺物  |
|      | 2号土坑全景(北から)       |      | 17号住居跡出土遺物  |
|      | 6号土坑全景(西から)       | 図版18 | 18号住居跡出土遺物  |
| 図版12 | 7号土坑礫検出状態(東から)    |      | 19号住居跡出土遺物  |
|      | 7号土坑全景(西から)       |      | 2号竪穴状遺構出土遺物 |
|      | 8号土坑礫検出状態(東から)    |      | 3号溝出土遺物     |
|      | 8号土坑全景(東から)       |      | 5号溝出土遺物     |
|      | 13号土坑全景(西から)      |      | 7号溝出土遺物     |
|      | 14号土坑全景(西から)      |      | 1号井戸出土遺物(1) |
|      | 18号土坑全景(東から)      | 図版19 | 1号井戸出土遺物(2) |
|      | 基本層序土層断面(北から)     |      | 10号土坑出土遺物   |
| 図版13 | 1号住居跡出土遺物         |      | 16号土坑出土遺物   |
|      | 2号住居跡出土遺物         |      | P-16出土遺物    |
|      | 3号住居跡出土遺物(1)      |      | P-46出土遺物    |
| 図版14 | 3号住居跡出土遺物(2)      |      | P-71出土遺物    |
|      | 4号住居跡出土遺物         |      | 遺構外出土遺物(1)  |
|      | 5号住居跡出土遺物         | 図版20 | 遺構外出土遺物(2)  |
|      | 6号住居跡出土遺物         | 図版21 | 遺構外出土遺物(3)  |
| 図版15 | 7号住居跡出土遺物         | 図版22 | 遺構外出土遺物(4)  |
|      | 8号住居跡出土遺物         |      |             |



# I 調査に至る経緯

令和4年8月2日付けで事業者（株式会社コスモス薬品）より、吉岡町大字大久保字大畑 751-1、751-2、751-5、751-6 に店舗を建設するため、文化財保護法第93条「埋蔵文化財発掘の届出」の提出があった。

吉岡町教育委員会（生涯学習室文化財センター）は事業者に対して、開発予定地は吉岡町遺跡台帳No.154 長久保・大畑遺跡（縄文、古墳、平安の散布地）の範囲に該当し、埋蔵文化財調査対象地であるため確認調査が必要であることを回答した。その後、吉岡町教育委員会と事業者による協議が行われた。

事業者と協議を行った結果、4913.32㎡を対象に確認調査を実施することになった。確認調査は令和4年9月12日・13日の2日間かけて実施した。その結果、開発地南側より遺構・遺物の検出が確認されたため、事業者へ報告した。その後、事業者と協議をしたが設計変更及び現状保存が困難であったため、遺構が確認された部分約948㎡に関して記録保存を目的とした発掘調査が必要である旨を事業者へ伝えた。その後、群馬県（文化財保護課）より発掘調査の指示があり、事業者と協議した。その結果、登録民間調査組織による記録保存を目的とした発掘調査を実施することで合意した。

発掘調査実施にあたり、吉岡町教育委員会は「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財発掘調査における登録民間調査組織事務取扱要綱」（以下、「事務取扱要綱」と称する）第10号の規定により、「長久保大畑遺跡発掘調査実施計画書」の提出を登録民間調査組織に依頼した。その後、登録民間調査組織より「長久保大畑遺跡発掘調査実施計画書」が吉岡町教育委員会に提出された。内容を検討した結果、適応する民間調査組織を事業者へ紹介した。

事業者は有限会社毛野考古学研究所を選定したため、令和4年10月28日事業者と登録民間調査組織（有限会社毛野考古学研究所）・吉岡町教育委員会の三者間で三者協定を締結した。その後、有限会社毛野考古学研究所より文化財保護法第92条に基づく「届出」が吉岡町教育委員会に提出されたため、吉岡町教育委員会は群馬県（文化財保護課）に進達した。

群馬県（文化財保護課）より有限会社毛野考古学研究所へ「群馬県埋蔵文化財発掘調査取扱い基準」、「群馬県埋蔵文化財発掘調査基準」を遵守するよう通知があったため、吉岡町教育委員会を経由して有限会社毛野考古学研究所に通知した。結果令和4年12月12日から発掘調査に着手する運びとなった。



※吉岡町発行 1/2,500 都市計画図『吉岡町平面図No.18』をもとに一部加筆・修正し作成。

第1図 調査区域図

## Ⅱ 調査の方法と経過

### 1. 調査の方法

現地における発掘調査は、吉岡町教育委員会による試掘調査結果を参照し、重機で表土等の除去をした後、人力による遺構精査を行った。遺構の掘削はジョレン・移植ゴテなどの掘削用具にて行った。遺構の掘り下げにあたっては、遺物の出土状態に留意すると共に、土層観察用のベルトを残し、遺構の埋没状態を確認した。掘方調査については都合上、カマドと付帯施設の調査をする程度に止まっている。記録作業は測量および写真撮影で対応し、作業の進捗状況に応じて適宜行った。遺構の写真撮影および実測図作成については、埋没土の堆積状態、完掘状態の各局面を記録した。測量杭は世界測地系(国家座標Ⅸ系)に基づき設置した。平面測量はトータルステーション、断面測量は基準点からの測り込みによって行った。写真撮影には、35mm判のフィルムカメラ(モノクロ・リバーサル)、デジタルカメラ(NikonD3400)を使用し、航空写真はドローン(HasselbladL1D-20c)で行った。

整理作業・報告書作成にあたっては、出土遺物は洗浄・注記をし、接合にはセメダインC、補強・復元にはエポキシ系樹脂を使用し、デジタル一眼レフカメラ(NikonD850)で撮影をした。遺構図は修正を加えた第二次原図を作成し、Adobe Illustrator CS2を用いてデジタルトレースを行った。挿図および入稿用のデータはAdobe InDesign CS2を用いて編集した。

### 2. 調査の経過

#### 【発掘調査】

- 12月期 12日：調査区の設定をし、重機による表土除去作業開始。排土はクローラードンプで場内移動。除草作業。仮設トイレの設置。発掘器材の搬入。安全対策を施す。13日：プレハブの設置。作業員による調査区整備および遺構確認作業を行う。15日：GPSによる基準点測量。16日：重機による表土除去作業終了。遺構確認作業を終え、ドローンによる調査区全景写真撮影。19日：遺構調査に着手。29日：年内の遺構調査は終了。
- 1月期 5日：遺構調査再開。9日：作業員増員。11日：1号井戸は安全管理を考慮した深さまで掘削を一時中断し、記録作業をした後、重複する遺構の調査に着手した。27日：やや天候不良であったが空撮準備を行い、ドローンによる調査区全景写真撮影。
- 2月期 1日：再度空撮準備を行い、ドローンによる調査区遠景および全景写真撮影。4日：遺構調査に係る工程を終え、吉岡町教育委員会による現地調査の終了確認を受ける。6日：重機による埋め戻し作業および器材撤収開始。7日：仮設トイレの汲み取り。8日：重機による埋め戻し作業および器材撤収終了。プレハブおよび仮設トイレの撤収。現地における全作業工程終了。

#### 【整理作業・報告書作成】

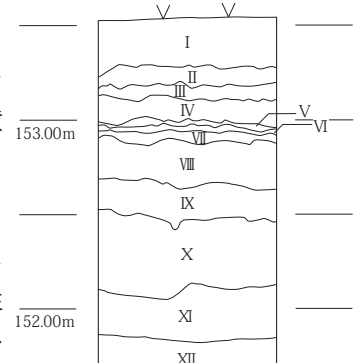
- 2月期：遺構図面・写真の基礎整理。遺物洗浄・注記。
- 3月期：遺構図面の修正。遺物の接合・復元。
- 4月期：遺構図面の第2次原図作成。遺物写真撮影・実測。
- 5月期：各挿図・図版作成。原稿執筆。遺物実測・拓本。
- 6月期：各挿図・図版作成。遺物図トレース。報告書の編集作業。原稿執筆。入稿・校正。
- 7月期：印刷・製本。報告書刊行・納品。



### Ⅲ 基本層序

基本層序の観察は、調査区内に設けたトレンチ内の壁面を利用して実施した。本遺跡地は洪積地にあり、北から南へ緩傾斜する。なお、Ⅷ～Ⅹ層では縄文土器や石器を多く包含していた。

Ⅰ層：表土／耕作土。軽石粒・小礫（0.5～1.0cm）を含む褐灰色土。砂質で、しまり・粘性やや弱い。Ⅱ層：H r - F A・軽石粒・砂粒を含む暗褐色土。しまり・粘性ややあり。Ⅲ・Ⅳ層：H r - F A泥流層。白色軽石粒を含むにぶい黄橙色土。Ⅴ～Ⅶ層：H r - F A一次堆積層。部分的な堆積。灰黄～淡黄色土。Ⅷ層：A s - Cを含む黒褐色土。しまり・粘性ややあり。上面を遺構確認面とした。Ⅸ層：褐色粒・礫（0.5～5.0cm）を含む黒褐色土。しまり・粘性あり。Ⅹ層：白色軽石粒・褐色粒・焼土・炭化物を含む暗褐色土。しまりはあるが、粘性はやや弱い。Ⅺ層：含有物がⅩ層より少ない。Ⅻ層：黄褐色土で、白色軽石粒を含む礫層。陣馬岩層なだれによる堆積物か。しまりはあるが、粘性はやや弱い。



第2図 基本土層図

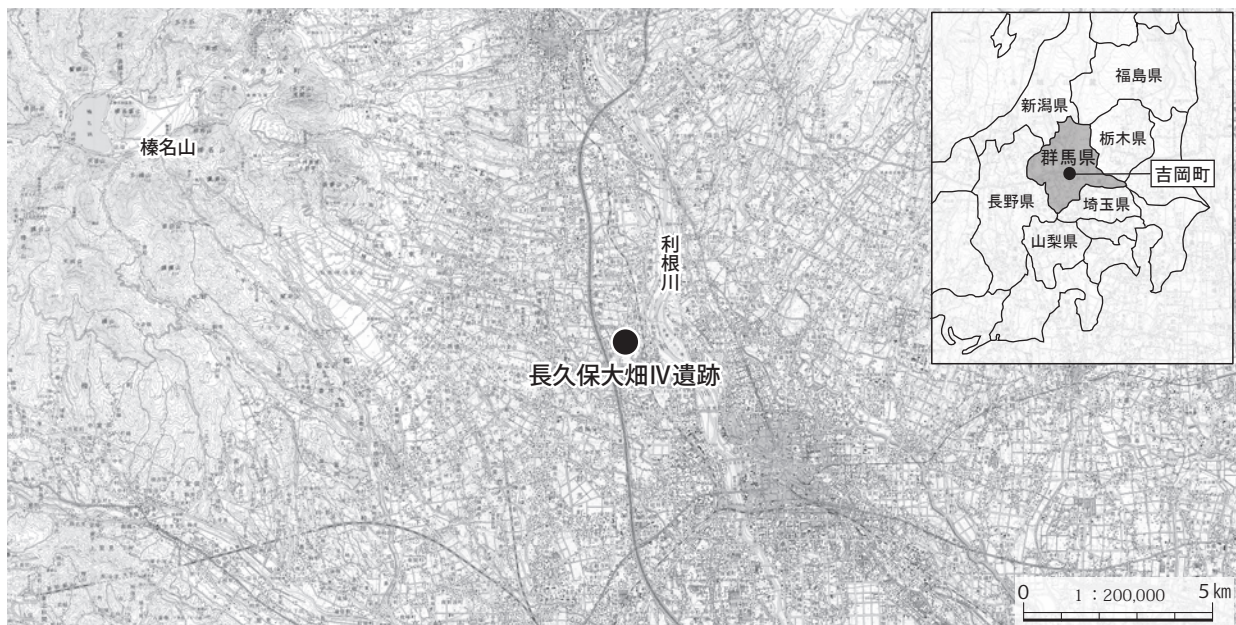
### Ⅳ 遺跡の位置と周辺環境

#### 1. 地理的環境

本遺跡の所在する北群馬郡吉岡町は、群馬県のほぼ中央に位置する。町域は細長く榛名山の東麓に広がり、東端は北から南へ流下する利根川に接する。

吉岡町の地形は、榛名山南東麓の急傾斜地、町域中心の緩傾斜をする台地部、利根川沿いに広がる低地部から成り、その比高差は700mほどである。さらに榛名山中腹を源とする滝沢・吉岡・駒寄・午王頭・八幡川の中小河川が南東へ流下し、台地を開析し細分する。

本遺跡は北と南に東流する午王頭川と八幡川に挟まれた利根川の河岸段丘上に立地する。台地上には榛名山起源の岩屑流丘が随所にみられ、本遺跡地はこの流丘末端近くに位置する。現況は畠であったが、周辺は宅地化に加え、近年は吉岡バイパス沿線における大型店舗開発が著しい。現地表面の標高値は約153mを測る。



※国土地理院発行 1/200,000 『宇都宮』『長野』を改変。

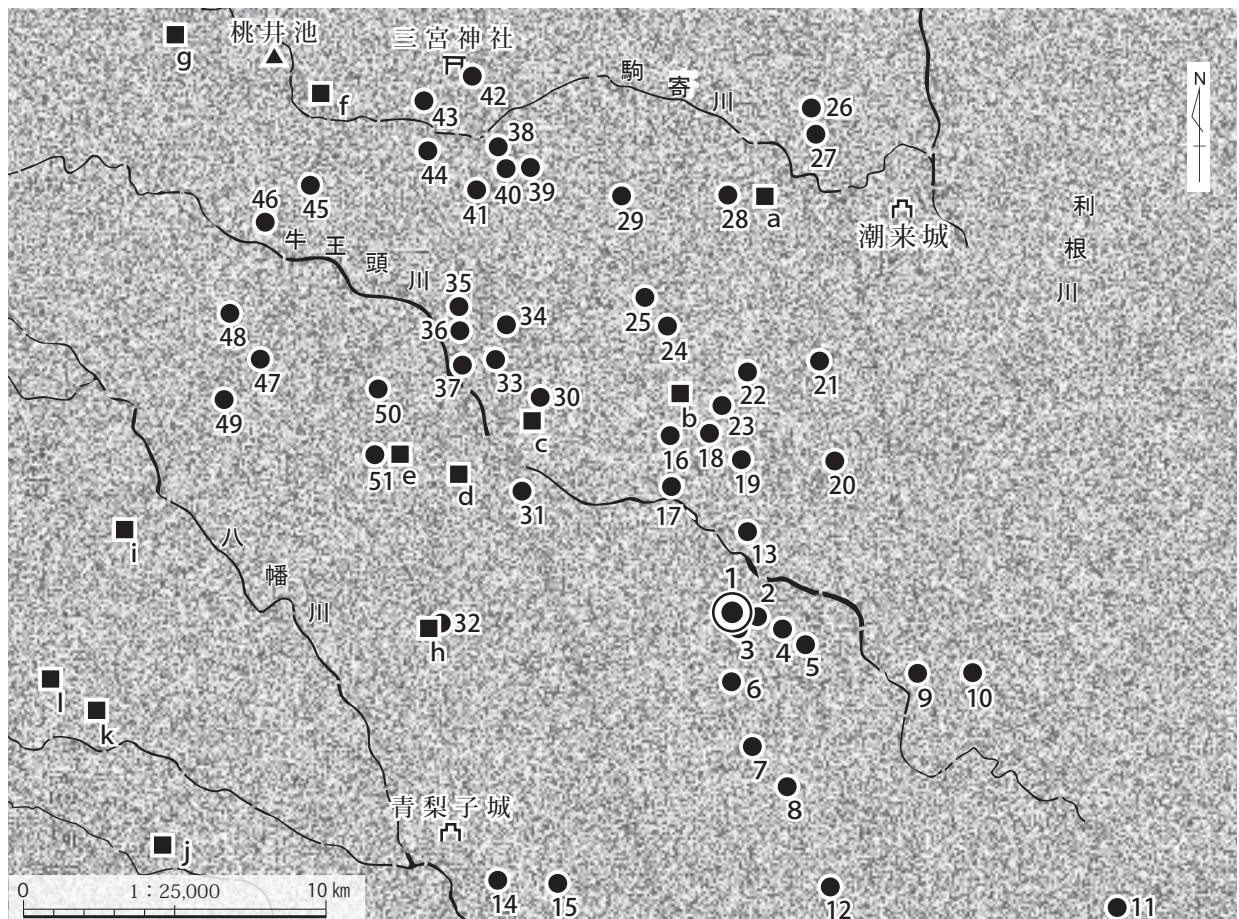
第3図 遺跡の位置



## 2. 歴史的環境

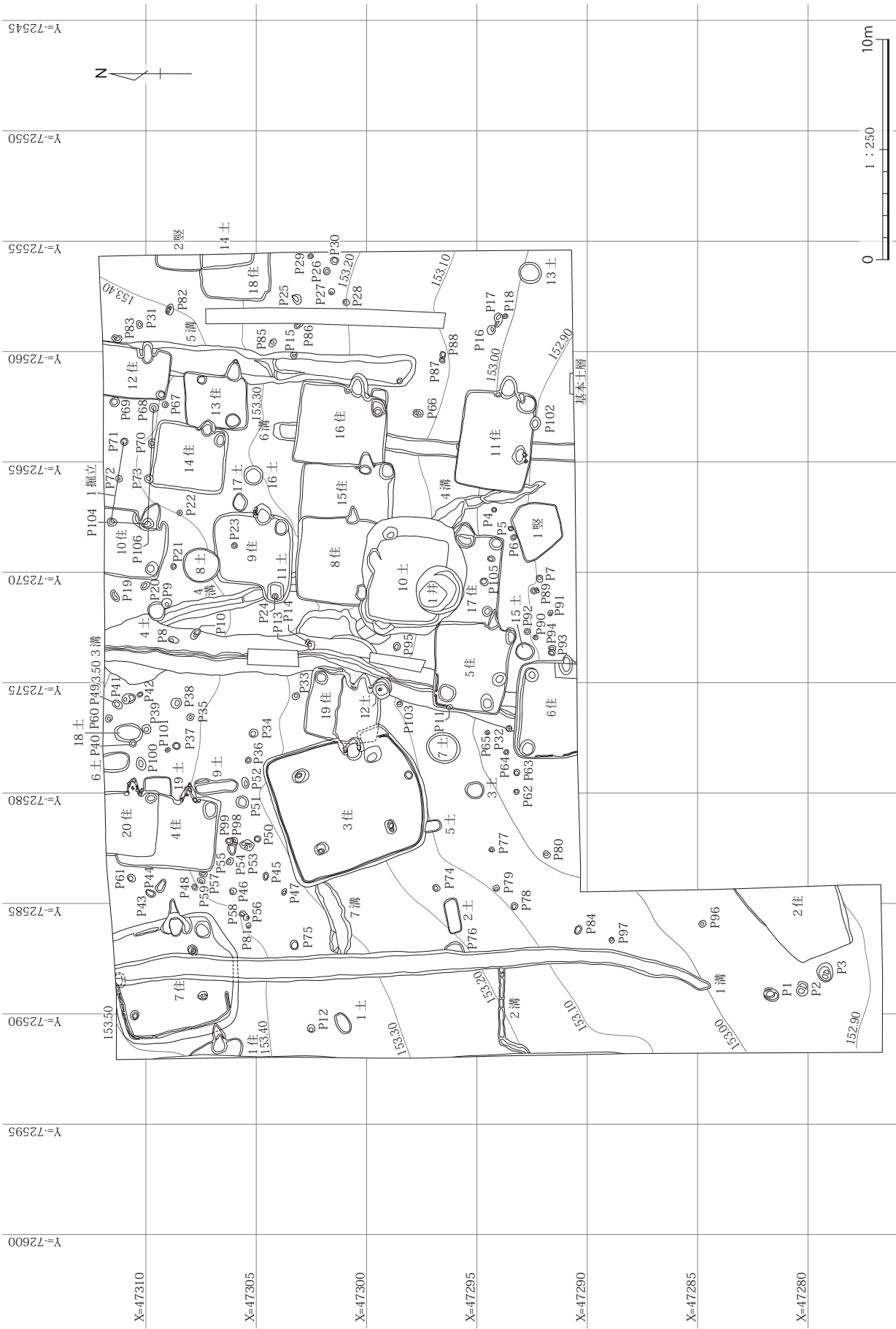
長久保大畑遺跡では、過去にも道路整備事業および店舗開発に伴う発掘調査が実施されている。なお、周辺の遺跡は『長久保大畑遺跡・新田入口遺跡』および『七日市東遺跡・七日市遺跡』の報告において詳しいので、そちらを参照されたい。ここでは過去3回ほど行われた調査成果について概観しておく。

旧石器時代の遺構・遺物は確認されていない。縄文時代は泥流丘に挟まれた谷から中期後半の集石遺構・配石遺構・列石遺構・土坑が検出され、墓域あるいは祭祀跡と想定されている。遺物では前期前半の諸磯式土器から後期後半の加曾利B式期の土器や石器類が出土している。弥生時代は低地の深い谷の縁辺部から溝と土坑が検出されている。古墳時代は泥流丘に挟まれる緩斜面地において4・5世紀の住居跡が散見され、後者の住居跡では周堤帯も確認されている。生産遺構としては榛名山二ツ岳に起因する5世紀末頃に降下したHr-S層の上下面から水田・畠が確認されている。奈良・平安時代では8～10世紀に集落が形成され、9世紀代が中心である。居住域と生産遺構にはそれぞれ区画溝が構築される。水田は緩斜面地では棚田状に創られ、平坦地では畔を伴う。畠は平坦地から検出されており、以後は概ね断続的に営農される。中世に入ると『長久保大畑遺跡・新田入口遺跡』のG区の微高地から、自然地形と溝・柵列により区画された屋敷の一部が確認されている。区画内には多数のピットが検出されており、建物の存在を示唆している。近世以降は生産遺構が中心となっており、水田・畠が確認されている。



1. 長久保大畑IV遺跡 2. 長久保大畑II遺跡 3. 長久保大畑III遺跡 4. 長久保大畑遺跡・新田入口遺跡 5. 善徳遺跡 6. 前原遺跡 7. 見柳東遺跡 8. 見柳東II遺跡 9. 大下遺跡 10. 総社桜ヶ丘遺跡 11. 若宮遺跡 12. 高井桃ノ木遺跡 13. 沼南遺跡 14. 清里南部遺跡群 15. 薬師前遺跡 16. 片貝遺跡 17. 片貝II遺跡 18. 金竹西遺跡・金竹西II遺跡 19. 金竹西A遺跡 20. 金竹西IV遺跡 21. 中町遺跡 22. 金竹西III遺跡 23. 金竹西V遺跡 24. 熊野遺跡 25. 熊野III遺跡 26. 上ノ原I遺跡 27. 上ノ原II遺跡 28. 元宿遺跡 29. 辺玉遺跡 30. 七日市東遺跡・七日市遺跡 31. 清里・長久保遺跡 32. 清里・庚申塚遺跡 33. 七日市遺跡(駒寄P A地点) 34. 七日市遺跡(駒寄S I C地点) 35. 七日市II遺跡 36. 七日市III遺跡 37. 池下北耕地下ノ割遺跡 38. 道城遺跡 39. 道城II遺跡 40. 道城III遺跡 41. 女塚遺跡 42. 大久保A遺跡 43. 宮西遺跡 44. 宮前III遺跡 45. 下八幡南遺跡 46. 三疋遺跡 47. 清里・陣場遺跡 48. 中御所遺跡 49. 中御所II遺跡 50. 前橋市0107遺跡 51. 池端屋敷小路遺跡  
a. 三津屋古墳 b. 源兵衛山古墳 c. 七日市東遺跡・七日市遺跡1号墳 d. 清里・長久保古墳群 e. 清里3号墳 f. 南下古墳群 g. 藤塚古墳 h. 清里・庚申塚古墳群 i. 新井・長久保古墳群 j. 内林・橋向古墳群 k. 観音山古墳 l. いなり山古墳  
\*国土地理院発行 1/25,000『渋川』『前橋』をもとに一部加筆・修正し作成した。

第4図 遺跡分布図



第5図 全体図

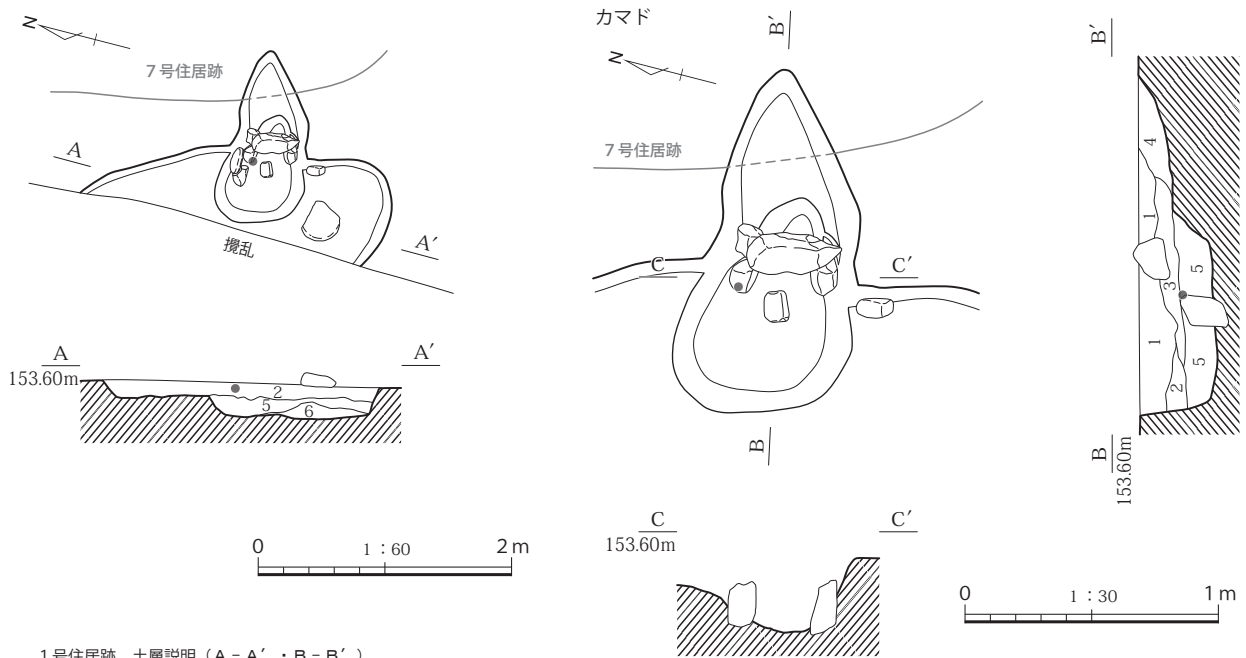


## V 遺構と遺物

### 1. 竪穴住居跡

1号住居跡 (第6・7図/第1表/図版2・13)

X=47306~47309、Y=-72591・-72592に位置する。東端のカマド部分が7号住居跡と重複し、先後関係は本遺構の方が新しい。西側は調査区外である。規模は、東西〈0.98〉m、南北〈2.44〉mの不整形で、南壁はやや丸みを帯びる。主軸方位はN-70°-E。壁高は0.23m程度で、壁面はやや急に立ち上がる。床は



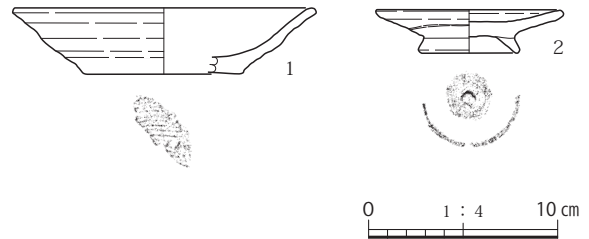
1号住居跡 土層説明 (A-A'・B-B')

1. 暗褐色土 白色軽石粒・黄褐色粒・焼土中量、炭化物少量。しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 黄褐色粒中量、焼土少量。しまり・粘性ややあり。
3. 暗褐色土 黒褐色土多量、焼土中量、白色軽石粒少量。しまり・粘性ややあり。

4. 黒褐色土 白色軽石粒中量、焼土微量。しまり・粘性ややあり。
5. 暗褐色土 黄褐色粒・焼土微量。しまりあり。粘性やや弱い。
6. 暗褐色土 焼土中量、黄褐色粒微量。しまり・粘性ややあり。

第6図 1号住居跡遺構図

地山硬化床。埋土は白色軽石粒・黄褐色粒を含む暗褐色土が主体である。カマドは東壁中央やや南寄りに付設される。全長1.37m、燃烧部幅0.36m、壁外長0.81m。火床面に多少の焼土が堆積していたが、内壁の被熱は顕著ではない。構築部材として、両袖部には長形状に加工された安山岩が据えられており、焚口部には天井石が架けられていた。出土遺物は土師器(甕)、須恵器(埴・高台付皿・壺・甕)である。



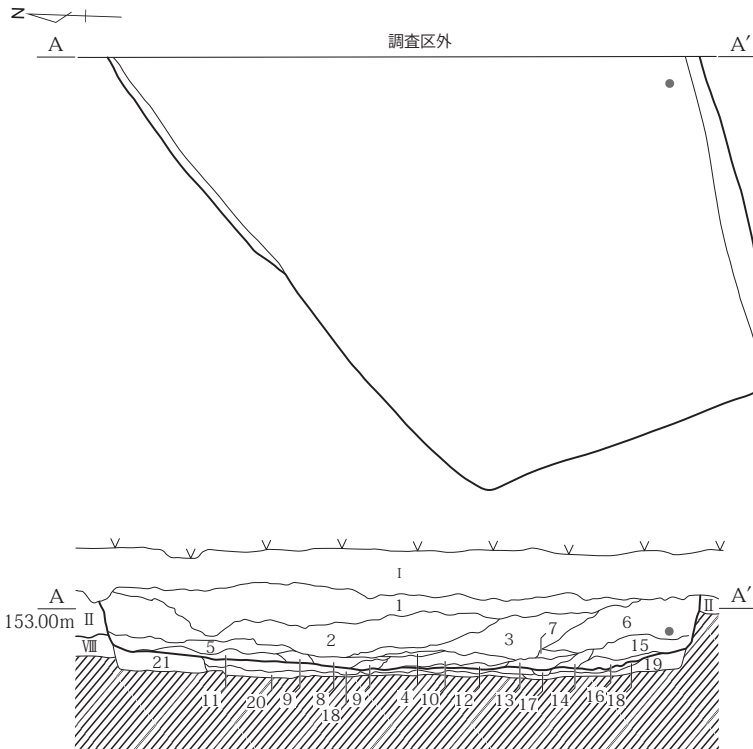
第7図 1号住居跡遺物実測図

第1表 1号住居跡遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考
1	須恵器 埴	口径:(16.0) 底径:(8.8) 器高:3.5	1/5	外面:にぶい黄 橙 内面:にぶ い黄橙	黒色鈹物・ 赤褐色粒・ 白色粒	酸化焰	外面:口縁部~体部回転ナデ、底部回転系切り。 内面:口縁部~底部回転ナデ。	
2	須恵器 高台付皿	口径:(10.0) 底径:(5.1) 器高:2.3	1/3	外面:にぶい黄 褐 内面:明赤褐	赤褐色粒・ 白色粒・黒 色粒	酸化焰	外面:口縁部~高台部回転ナデ、底部回転系切り→高台貼付。 内面:口縁部~底部回転ナデ。	

2号住居跡 (第8・9図/第2表/図版2・13)

X=47279~47284、Y=-72585~-72588に位置する。西側が検出され、壁の立ち上がり等はやや不明瞭であった。東側は調査区外である。規模は、東西〈4.26〉m、南北〈4.40〉mの不整形である。主軸方位はN-62°-E。壁高は確認面から0.30m程度で、壁面の観察では0.61mを測る。南壁面はやや急に立ち上がる。床はAs-C・Hr-FA・焼土・炭化物を含む暗褐色土による貼床を施し、中央付近で顕著なしまりが確認された。東壁下中央寄りの床土には、多量のHr-FAを主体とした黄褐色土ブロックが混入する。埋土は白色軽石粒・焼土・炭化物を含む褐灰~暗褐色土である。カマドは調査区外と考えられる。出土遺物は土師器(甕)、須恵器(坏・壺・甑・甗)で、南壁下東寄りからやや集中して出土した。

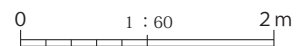


2号住居跡 土層説明 (A-A')

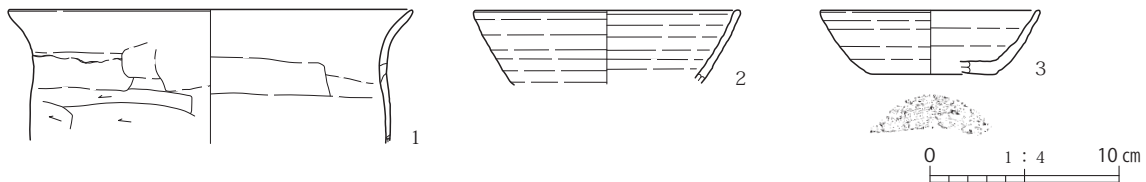
1. 暗褐色土 白色軽石粒・黄褐色粒少量。しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 白色軽石粒・黄褐色粒中量、焼土・炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
3. 暗褐色土 白色軽石粒多量、黄褐色粒・焼土少量。しまり・粘性ややあり。
4. 褐灰色土 焼土・灰多量、炭化物微量。しまりあり。粘性やや弱い。
5. 暗褐色土 焼土中量、白色軽石粒・黄褐色粒・炭化物少量。しまり・粘性ややあり。
6. 暗褐色土 白色軽石粒・黄褐色粒中量、焼土少量。しまり・粘性ややあり。
7. 暗褐色土 白色軽石粒少量、焼土微量。しまり・粘性ややあり。
8. 褐灰色土 炭化物・灰多量、白色軽石粒・焼土少量。しまりややあり。粘性やや弱い。
9. 褐灰色土 白色軽石粒・焼土・炭化物少量、Hr-FA (0.5~2.0cm) 微量。しまり・粘性あり。
10. 褐灰色土 焼土多量、白色軽石粒・焼土少量、炭化物微量。しまりややあり。粘性やや弱い。
11. 暗褐色土 白色軽石粒中量、焼土・炭化物少量。しまり・粘性ややあり。
12. 褐灰色土 焼土・炭化物・灰がラミナ状に堆積。白色軽石粒中量。しまり・粘性弱い。
13. 暗褐色土 焼土多量、白色軽石粒少量。しまり・粘性ややあり。
14. 褐灰色土 焼土中量、白色軽石粒少量、炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
15. 暗褐色土 白色軽石粒少量、焼土・炭化物・砂礫微量。しまり・粘性ややあり。

16. 褐灰色土 Hr-FA・白色軽石粒少量、焼土・炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
17. 暗褐色土 礫 (0.5~2.0cm) 中量、白色軽石粒・焼土・炭化物少量。しまりややあり。粘性あり。
18. 褐灰色土 白色軽石粒多量、Hr-FA・炭化物少量、黄褐色粒・焼土微量。しまり・粘性あり。

19. 暗褐色土 Hr-FA中量、白色軽石粒・黄褐色粒少量。しまりややあり。粘性やや弱い。
20. 黒褐色土 白色軽石粒・Hr-FA・焼土・砂礫少量。しまりややあり。粘性あり。
21. 暗褐色土 白色軽石粒・黄褐色粒・Hr-FA少量。しまり・粘性ややあり。



第8図 2号住居跡遺構図



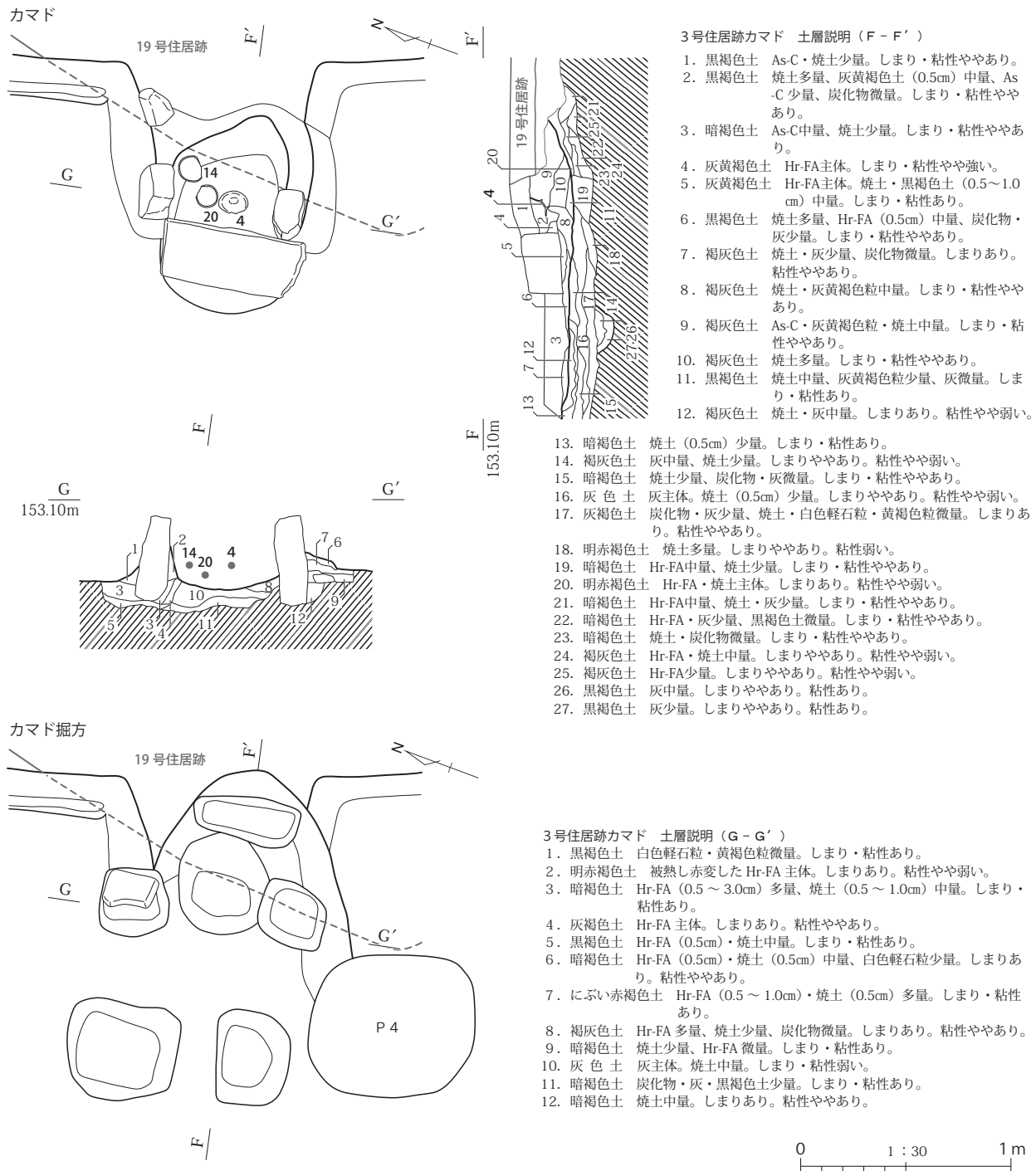
第9図 2号住居跡遺物実測図

第2表 2号住居跡遺物観察表

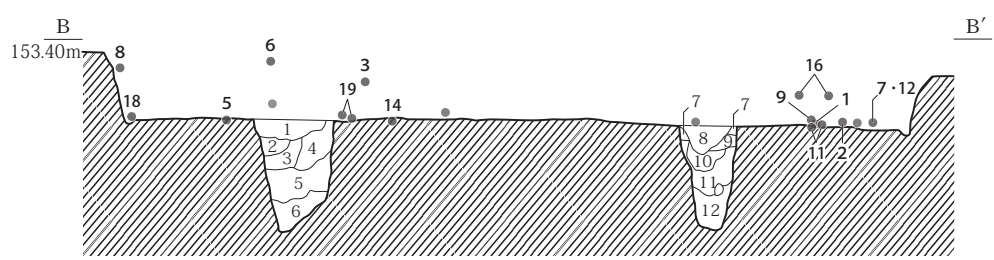
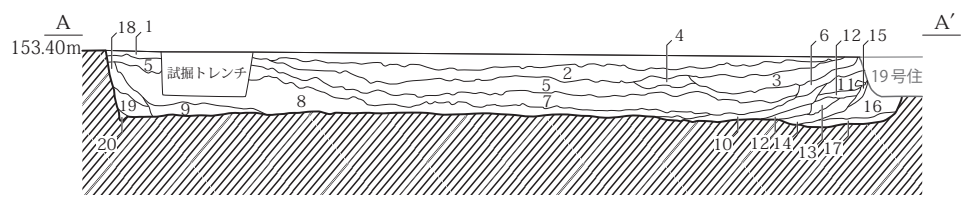
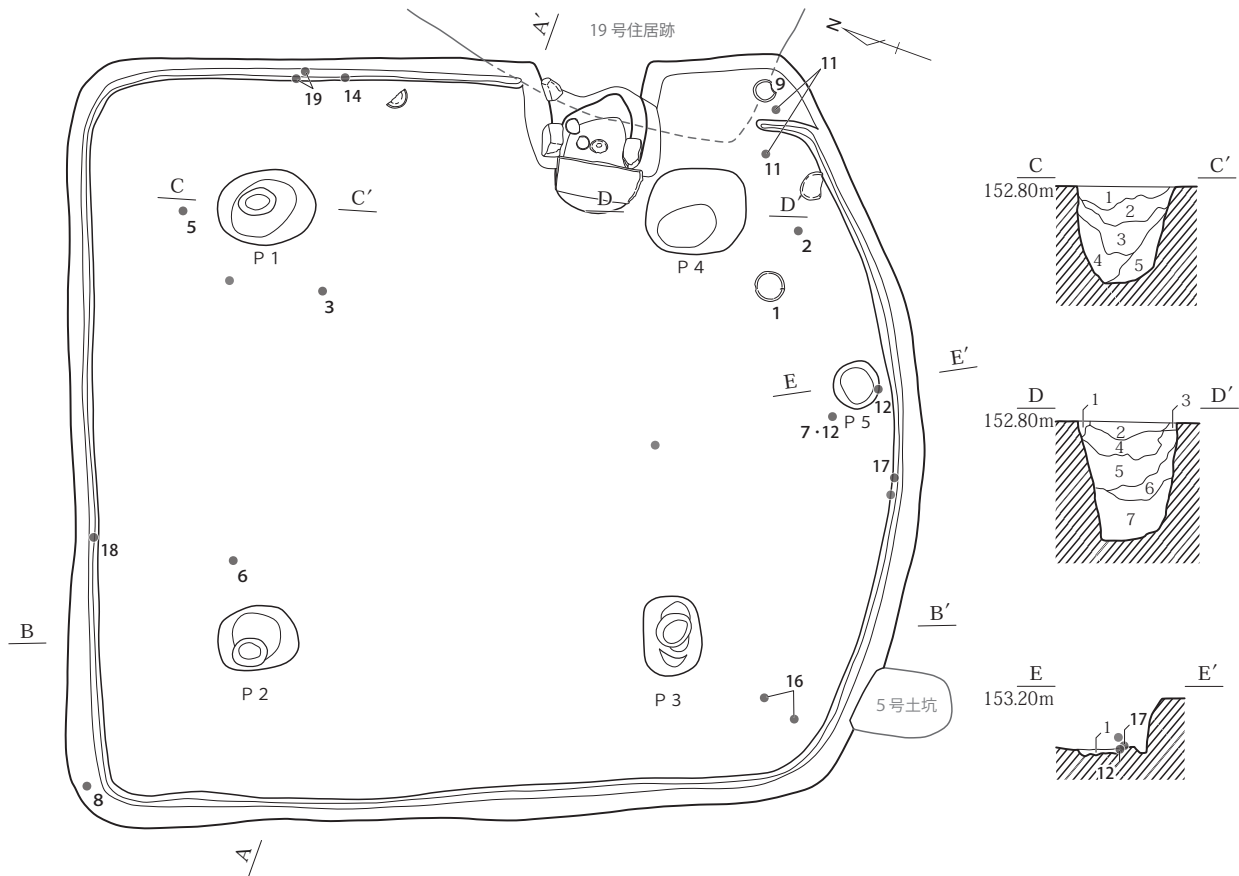
No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考
1	土師器 甕	口径:(21.4) 底径:— 器高:<7.1>	口縁部~ 胴部上位片	外面:にぶい褐 内面:明赤褐	黒色鉱物・ 白色粒・チ ャート	酸化焰	外面:口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ→上位ヘラナデ。 内面:口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	
2	須恵器 坏	口径:(14.1) 底径:— 器高:<3.9>	口縁部~ 体部 1/6	外面:灰 内面:黄灰	白色粒	還元焰	外面:口縁部~体部回転ナデ。 内面:口縁部~底部回転ナデ。	
3	須恵器 坏	口径:(11.6) 底径:(7.0) 器高:3.4	1/6	外面:にぶい黄 褐 内面:にぶ い黄橙	赤褐色粒・ 石英・白色 粒	酸化焰 気味	外面:口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り。 内面:口縁部~底部回転ナデ。	

3号住居跡 (第10~13図/第3・4表/図版2・13・14)

X=47298~47305、Y=-72577~-72585に位置する。19号住居跡、7号溝、5号土坑と重複し、先後関係は3号住居跡→19号住居跡→7号溝、5号土坑と考えられる。規模は、東西6.05m、南北6.74mの方形で、南壁がやや弧状を呈する。主軸方位は、N-71°-E。壁高は0.55m程度で、壁面はやや急に立ち上がる。カマド部分を除く壁下に壁溝が巡り、幅は0.02~0.07m、深さ0.03m程度である。床は地山硬化床で、顕著なしまりが確認された。埋土は白色軽石粒・焼土・炭化物を含む暗褐色土である。カマドは東壁中央よりやや南寄りに付設される。全長<1.02>m、燃烧部幅0.46m。Hr-FAと暗褐色土により構築され、両袖部には長方形に加工された凝灰岩が据えられていた。燃烧部内から土師器・坏2点、台付甕脚部が出土した。内壁は被熱による赤変が認められた。焚口部~燃烧部中央までは焼土・炭化物を含む灰が、燃烧部中央から煙道部までは焼土が堆積していた。焚口部~カマド前面には灰と焼土が互層堆積をしていた。支柱穴と考えられるピツ

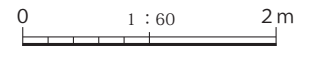


第10図 3号住居跡遺構図(1)



3号住居跡 土層説明 (A-A')

- |  |  |
|--|--|
| <p>1. 暗褐色土 白色軽石粒少量、焼土・炭化物微量。しまりややあり。粘性やや弱い。</p> <p>2. 暗褐色土 As-C多量、Hr-FA少量、焼土・炭化物微量。しまり・粘性ややあり。</p> <p>3. 褐灰色土 As-C多量、Hr-FA (0.5cm)・焼土中量、炭化物少量。しまり・粘性ややあり。</p> <p>4. 暗褐色土 As-C少量、Hr-FA (0.5~1.0cm)・焼土・炭化物微量。しまり・粘性ややあり。</p> <p>5. 暗褐色土 As-C・焼土中量・しまりあり。粘性ややあり。</p> <p>6. 暗褐色土 焼土中量、As-C少量、炭化物微量。しまり・粘性ややあり。</p> <p>7. 暗褐色土 As-C少量、焼土・炭化物・黄褐色粒微量。しまり・粘性ややあり。</p> <p>8. 暗褐色土 As-C中量、焼土・黄褐色粒少量、炭化物微量。しまりあり。粘性ややあり。</p> | <p>9. 暗褐色土 黄褐色粒中量、As-C少量、炭化物微量。しまり・粘性あり。</p> <p>10. 暗褐色土 As-C中量、焼土少量、炭化物微量。しまり・粘性ややあり。</p> <p>11. 暗褐色土 As-C・焼土少量、炭化物微量。しまり・粘性ややあり。</p> <p>12. 褐灰色土 As-C少量。しまり・粘性ややあり。</p> <p>13. 暗褐色土 As-C・焼土少量、炭化物微量。しまり・粘性ややあり。</p> <p>14. 灰褐色土 焼土多量、As-C・灰少量、炭化物微量。しまり・粘性ややあり。</p> <p>15. にぶい赤褐色土 焼土中量。しまりややあり。粘性やや弱い。</p> <p>16. 暗褐色土 焼土少量、As-C・炭化物微量。しまり・粘性ややあり。</p> <p>17. 灰褐色土 焼土・炭化物少量、As-C微量。しまりややあり。粘性やや弱い。</p> <p>18. 褐灰色土 As-C少量、Hr-FA微量。しまり・粘性ややあり。</p> <p>19. 暗褐色土 As-C中量。しまり・粘性ややあり。</p> <p>20. 暗褐色土 As-C・黒色土少量、炭化物微量。しまり・粘性ややあり。</p> |
|--|--|



第 11 図 3号住居跡遺構図 (2)

ト4基（P1～P4）が検出された。P1は規模0.78×0.59mの長楕円形で、深さ0.85m。P2は規模0.63×0.59mの不整隅丸長方形で、深さ0.80m。P3は規模0.63×0.46mの隅丸長方形で、深さ1.10m。P4は規模0.78×0.68mの隅丸長方形で、深さ0.96m。P3のみ軸方位が異なる。南壁下中央付近から出入り口ピットと考えられるP5が検出された。規模0.36×0.36mの不整形円で、深さ0.07m。出土遺物は土師器（坏・皿・小形甕・台付甕・甕・壺）、須恵器（高台付碗・蓋・盤）、石器・石製品（磨石・砥石）である。遺物は南壁下東寄りにやや集中しており、P4とP5の間からは土師器・甕の上半部が床面に据え置かれているような状態で出土した。

3号住居跡P2・3 土層説明（B-B'）

- |  |   |
|--|---|
| 1. 暗褐色土 As-C中量、Hr-FA・礫（0.5～3.0cm）少量。しまり・粘性ややあり。        | 6. 暗褐色土 Hr-FA（0.5～2.0cm）少量、礫（0.5cm）中量。しまり・粘性ややあり。 |
| 2. 暗褐色土 Hr-FA中量、As-C少量。しまり・粘性ややあり。                     | 7. 黒褐色土 As-C中量、Hr-FA少量。しまり・粘性あり。                  |
| 3. 暗褐色土 Hr-FA少量、As-C・炭化物微量。しまり・粘性ややあり。                 | 8. 黄褐色土 Hr-FA大量。しまり・粘性あり。                         |
| 4. 暗褐色土 Hr-FA（0.5～3.0cm）多量、As-C微量。しまりあり。粘性ややあり。        | 9. 暗褐色土 As-C・Hr-FA・炭化物微量。しまり・粘性ややあり。              |
| 5. 暗褐色土 Hr-FA（0.5～1.0cm）中量、黒褐色土（0.5cm）微量。しまりあり。粘性ややあり。 | 10. 暗褐色土 Hr-FA（0.5～2.0cm）多量、As-C微量。しまり・粘性ややあり。    |
|  | 11. 暗褐色土 Hr-FA（0.5～2.0cm）中量、As-C少量。しまり・粘性あり。      |
|  | 12. 暗褐色土 Hr-FA少量、As-C微量。しまりややあり。粘性やや弱い。           |

3号住居跡P1 土層説明（C-C'）

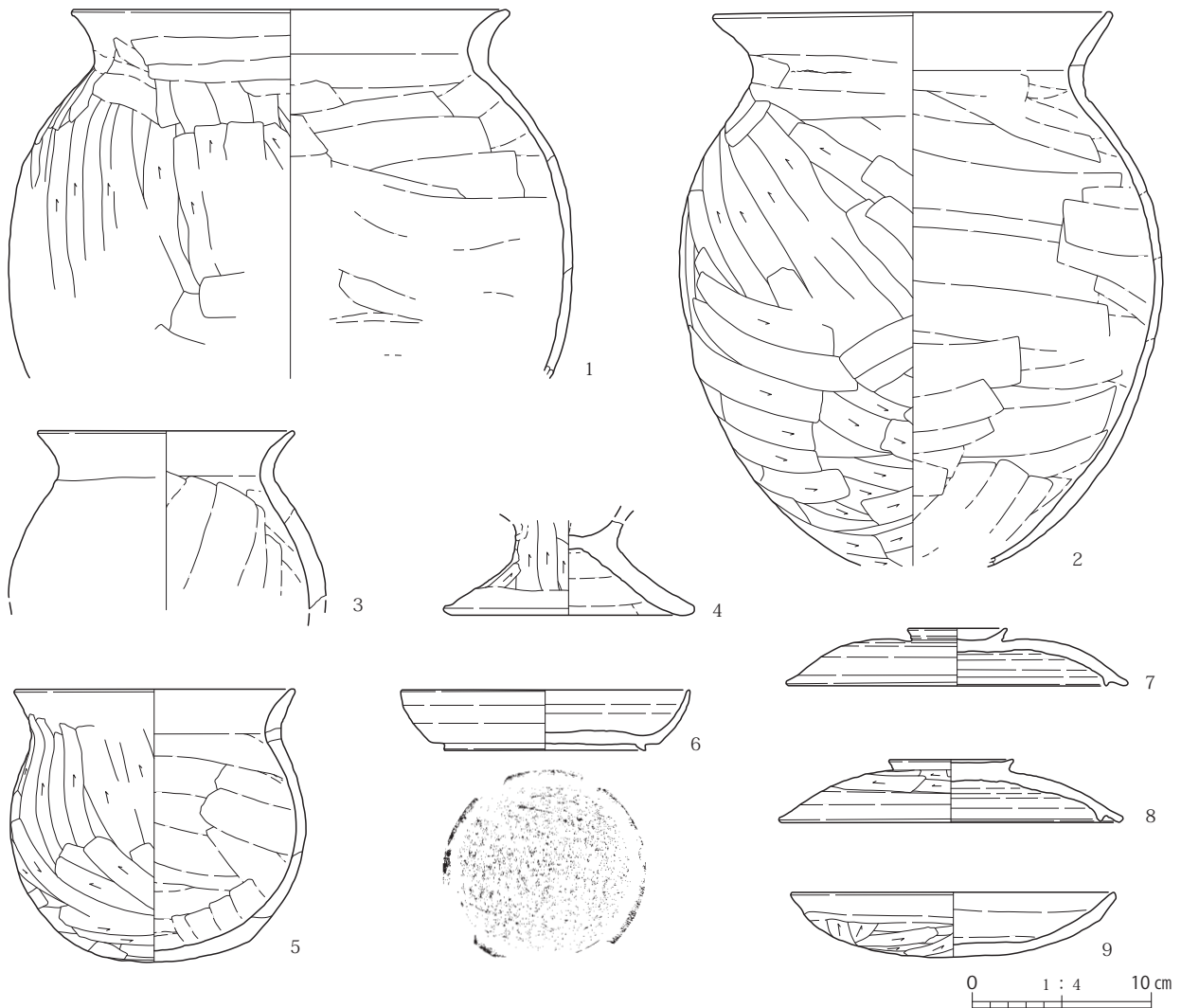
1. 暗褐色土 As-C多量、Hr-FA少量、焼土微量。しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 As-C・Hr-FA少量、焼土微量。しまり・粘性あり。
3. 暗褐色土 As-C・Hr-FA・礫（0.5～5.0cm）微量。しまり・粘性あり。
4. 暗褐色土 As-C・焼土・炭化物微量。しまり・粘性あり。
5. 暗褐色土 Hr-FA（0.5cm）中量、As-C少量。しまり・粘性あり。

3号住居跡P5 土層説明（E-E'）

1. 暗褐色土 As-C多量、焼土・炭化物微量。しまり・粘性ややあり。

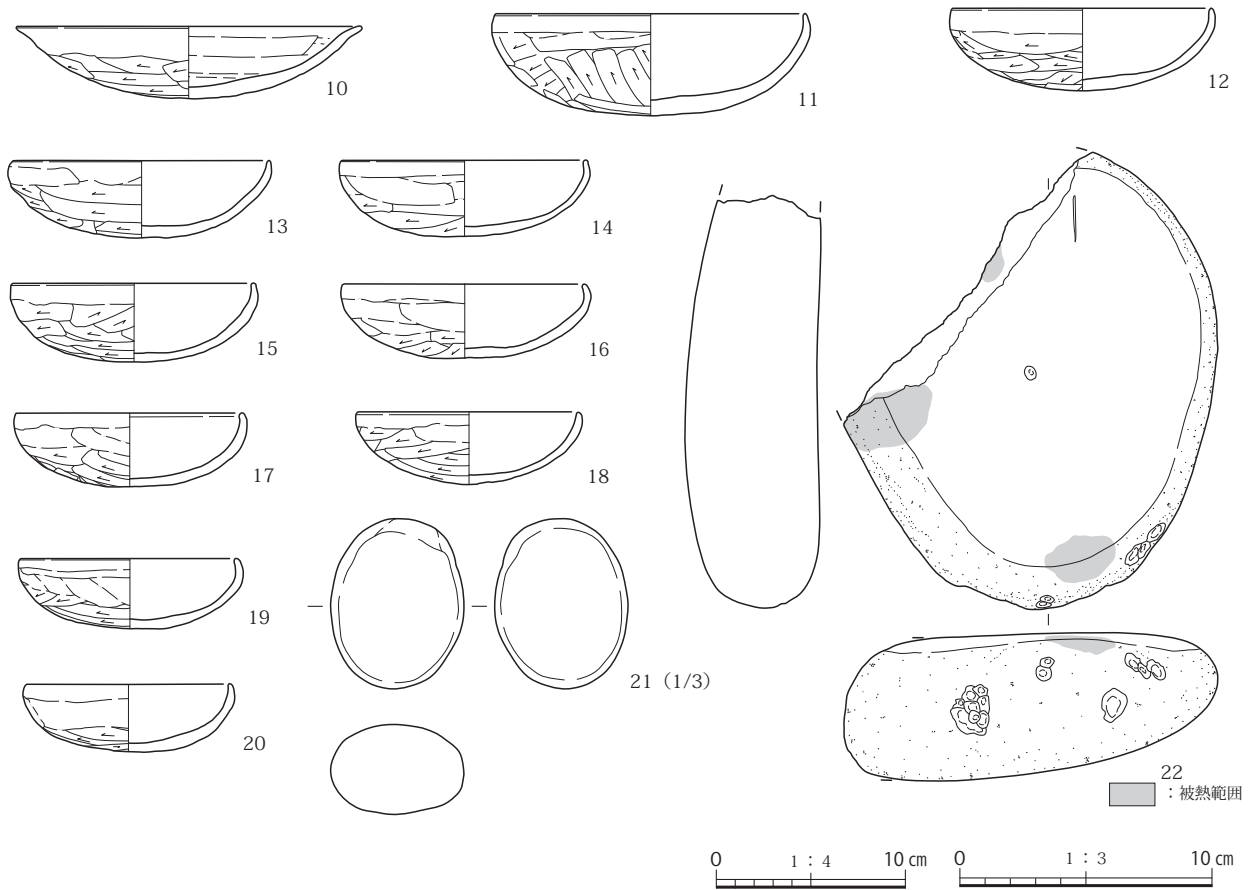
3号住居跡P4 土層説明（D-D'）

1. 暗褐色土 As-C多量、Hr-FA少量、焼土微量。しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 As-C・Hr-FA少量、焼土微量。しまり・粘性あり。
3. 暗褐色土 As-C・Hr-FA・礫（0.5～5.0cm）微量。しまり・粘性あり。
4. 暗褐色土 As-C・焼土・炭化物微量。しまり・粘性あり。
5. 暗褐色土 Hr-FA（0.5cm）中量、As-C少量。しまり・粘性あり。
6. 褐灰色土 As-C・Hr-FA少量。しまり・粘性ややあり。
7. 褐灰色土 As-C・Hr-FA微量。しまり・粘性ややあり。



第12図 3号住居跡遺物実測図（1）





第13図 3号住居跡遺物実測図(2)

第3表 3号住居跡遺物観察表(1)

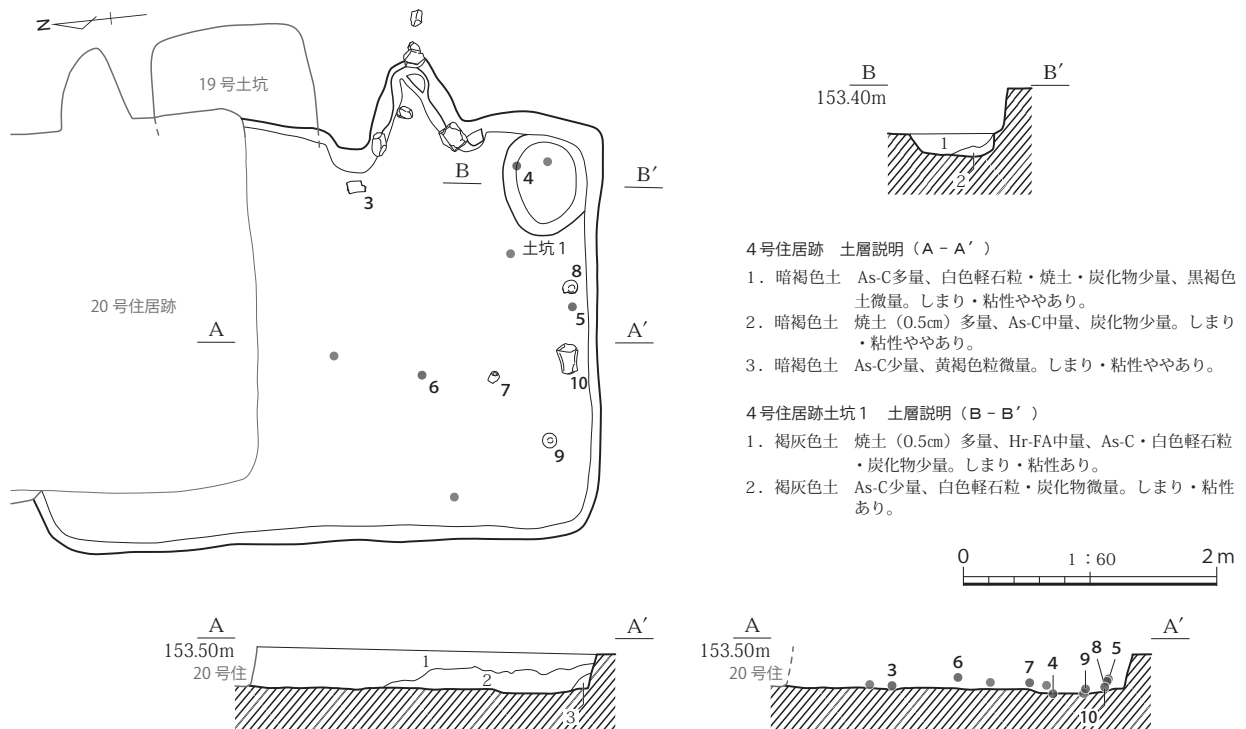
No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考
1	土師器 甗	口径: 24.4 底径: — 器高: <20.6>	口縁部~胴部 上半 4/5	外面: にぶい褐色 内面: 明赤褐色	片岩粒・黒色粒・白色粒	酸化焰	外面: 口縁部ヨコナデ、頸部ヘラナデ、胴部ヘラケズリ。 内面: 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	
2	土師器 甗	口径: 22.3 底径: — 器高: <30.9>	口縁部~胴部 5/6	外面: にぶい褐色 内面: にぶい褐色	片岩粒・黒色粒・白色粒	酸化焰	外面: 口縁部ヨコナデ、頸部ヘラナデ、胴部ヘラケズリ。 内面: 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	
3	土師器 甗	口径: (14.4) 底径: — 器高: <10.0>	口縁部~胴部 上半 1/6	外面: 明赤褐色 内面: 橙	赤褐色粒・石英・黒色鉱物	酸化焰	外面: 器面荒れ、磨滅。 内面: 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	
4	土師器 台付甗	口径: — 底径: 14.1 器高: <5.3>	台部	外面: 明赤褐色 内面: にぶい黄褐色	透明粒・黒色鉱物・チャート	酸化焰	外面: 台部ヘラケズリ後下端部ヘラナデ。 内面: 台部ヘラナデ。	
5	土師器 甗	口径: 15.7 底径: — 器高: 15.2	1/2	外面: 黒褐色 内面: にぶい黄褐色	透明粒・黒色粒・褐色粒	酸化焰	外面: 口縁部ヨコナデ、胴部~底部ヘラケズリ。 内面: 口縁部ヨコナデ、胴部~底部ヘラナデ。	
6	須恵器 盤	口径: (16.2) 底径: 11.3 器高: 3.4	1/4	外面: 灰 内面: 灰	白色粒	還元焰	外面: 口縁部~高台部回転ナデ、底部ヘラ切り→高台貼付。 内面: 口縁部~底部回転ナデ。	
7	須恵器 蓋	口径: (19.2) 摘み径: (5.5) 器高: 3.2	1/2	外面: 黄灰 内面: 灰褐色	石英・白色粒	還元焰	外面: 天井部~口縁部回転ナデ、環状摘み。 内面: 天井部~口縁部回転ナデ。カエリ有。	
8	須恵器 蓋	口径: (19.2) 摘み径: 7.0 器高: 3.5	1/4	外面: 暗灰黄 内面: 暗灰黄	石英・白色粒	還元焰	外面: 天井部回転ヘラケズリ、口縁部回転ナデ、環状摘み。 内面: 天井部~口縁部回転ナデ、カエリ有。	
9	土師器 皿	口径: 18.2 底径: — 器高: 3.6	5/6	外面: 褐色 内面: にぶい褐色	角閃石・黒色粒・白色粒	酸化焰	外面: 口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ。 内面: 口縁部~底部ヘラナデ。	
10	土師器 皿	口径: (18.2) 底径: — 器高: 3.8	1/3	外面: 明赤褐色 内面: にぶい褐色	黒色鉱物・石英・黒色粒	酸化焰	外面: 口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ。 内面: 口縁部~底部ヘラナデ。	
11	土師器 坏	口径: 16.6 底径: — 器高: 5.4	1/2	外面: 明赤褐色 内面: 橙	片岩粒・黒色鉱物・石英	酸化焰	外面: 口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ。 内面: 口縁部~底部ヘラナデ。	
12	土師器 坏	口径: 13.8 底径: — 器高: 4.4	1/6	外面: 褐色 内面: 褐色	黒色粒・白色粒	酸化焰	外面: 口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ。 内面: 口縁部~底部ヘラナデ。	
13	土師器 坏	口径: 13.6 底径: — 器高: 4.1	2/3	外面: 明赤褐色 内面: 褐色	黒色鉱物・黒色粒・白色粒	酸化焰	外面: 口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ。 内面: 口縁部~底部ヘラナデ。	

第4表 3号住居跡遺物観察表(2)

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考
14	土師器 環	口径: 13.0 底径: — 器高: 4.0	ほぼ完形	外面: 明赤褐 内面: 明赤褐	片岩粒・黒色 鉄物・黒色 粒	酸化焰	外面: 口縁部ヨコナデ、体部〜底部ヘラケズリ。 内面: 口縁部〜底部ヘラナデ。	
15	土師器 環	口径: 12.8 底径: — 器高: 4.2	2/3	外面: 明赤褐 内面: 明赤褐	黒色粒・白 色粒	酸化焰	外面: 口縁部ヨコナデ、体部〜底部ヘラケズリ。 内面: 口縁部〜底部ヘラナデ。	
16	土師器 環	口径: 12.8 底径: — 器高: 3.9	5/6	外面: 明赤褐 内面: にぶい赤 褐	黒色鉄物・ 黒色粒・白 色粒	酸化焰	外面: 口縁部ヨコナデ、体部〜底部ヘラケズリ。 内面: 口縁部〜底部ヘラナデ。	
17	土師器 環	口径: 12.0 底径: — 器高: 3.9	ほぼ完形	外面: 明赤褐 内面: 明赤褐	片岩粒・石 英・黒色粒	酸化焰	外面: 口縁部ヨコナデ、体部〜底部ヘラケズリ→体部上位ヘ ラナデ。 内面: 口縁部〜底部ヘラナデ。	
18	土師器 環	口径: 11.7 底径: — 器高: 3.8	完形	外面: にぶい黄 褐 内面: にぶ い赤褐	片岩粒・黒 色鉄物・黒 色粒	酸化焰	外面: 口縁部ヨコナデ、体部〜底部ヘラケズリ。 内面: 口縁部〜底部ヘラナデ。	
19	土師器 環	口径: 11.5 底径: — 器高: 3.7	4/5	外面: 明赤褐 内面: 明赤褐	黒色鉄物・ 黒色粒・白 色粒	酸化焰	外面: 口縁部ヨコナデ、体部〜底部ヘラケズリ。 内面: 口縁部〜底部ヘラナデ。	
20	土師器 環	口径: 10.8 底径: — 器高: 3.6	5/6	外面: にぶい褐 内面: にぶい褐	黒色鉄物・ 黒色粒・褐 色粒	酸化焰	外面: 口縁部ヨコナデ、体部〜底部ヘラケズリ→体部上半ヘ ラナデ。 内面: 口縁部〜底部ヘラナデ。	
No.	器種	法量 (cm)	残存	重さ / 石材 / 成整形の特徴等			備考	
21	石製品 磨石	長さ: 6.75 幅: 5.29 厚さ: 3.57	ほぼ完形	重さ: 112.68g。石材: 安山岩 (角閃石)。小型楕円形。表裏面に磨耗痕が認められる。				
22	石製品 砥石	長さ: <24.19> 幅: <19.77> 厚さ: < 7.84>	3/4	重さ: 4.550g。石材: 安山岩。扁平礫の一面に顕著な磨耗痕が認められ、平滑している。部分的に被熱痕あり。一部が欠損。磨・砥石→敲石。				

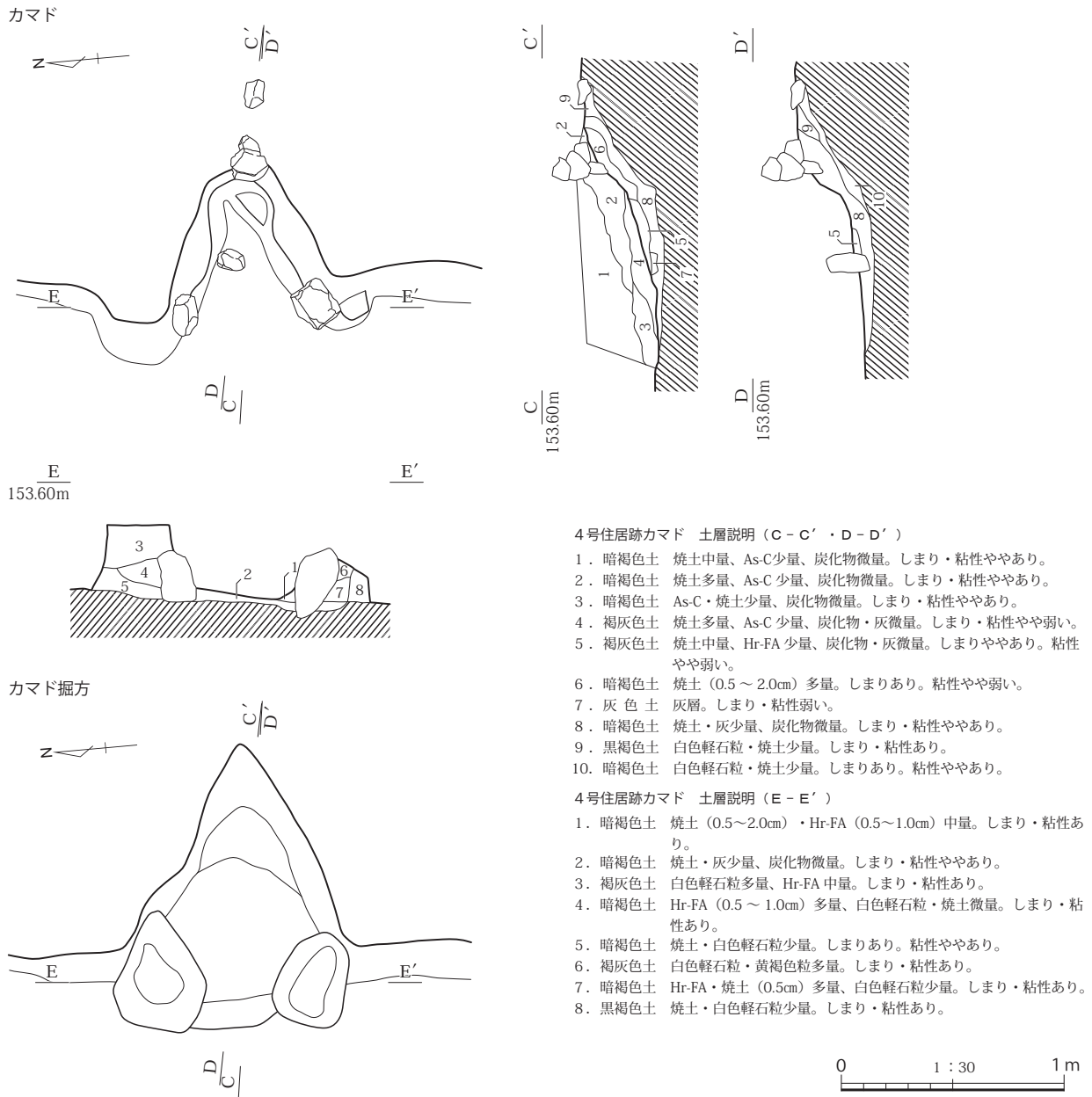
4号住居跡 (第14～16図/第5～7表/図版2・3・14)

X=47307～47312、Y=-72580～-72584に位置する。20号住居跡、19号土坑、P-57と重複し、先後関係は4号住居跡→20号住居跡→19号土坑と考えられる。P-57とは不詳である。規模は、東西3.39m、南北<4.63>mの長方形基調である。主軸方位はN-96°-E。壁高は0.27m程度で、壁面はやや急に立ち上がる。床は地山硬化床で、比較的顕著なしまりが確認された。埋土は白色軽石粒・黄褐色粒を含む暗褐色土である。カマドは東壁中央よりやや南寄りに付設される。全長0.86m、燃烧部幅0.44m、壁外長0.53m。構築部材として、両袖部には長方形状に加工された凝灰岩が据えられ、燃烧部と煙道部との境から安山岩が検出された。



第14図 4号住居跡遺構図(1)

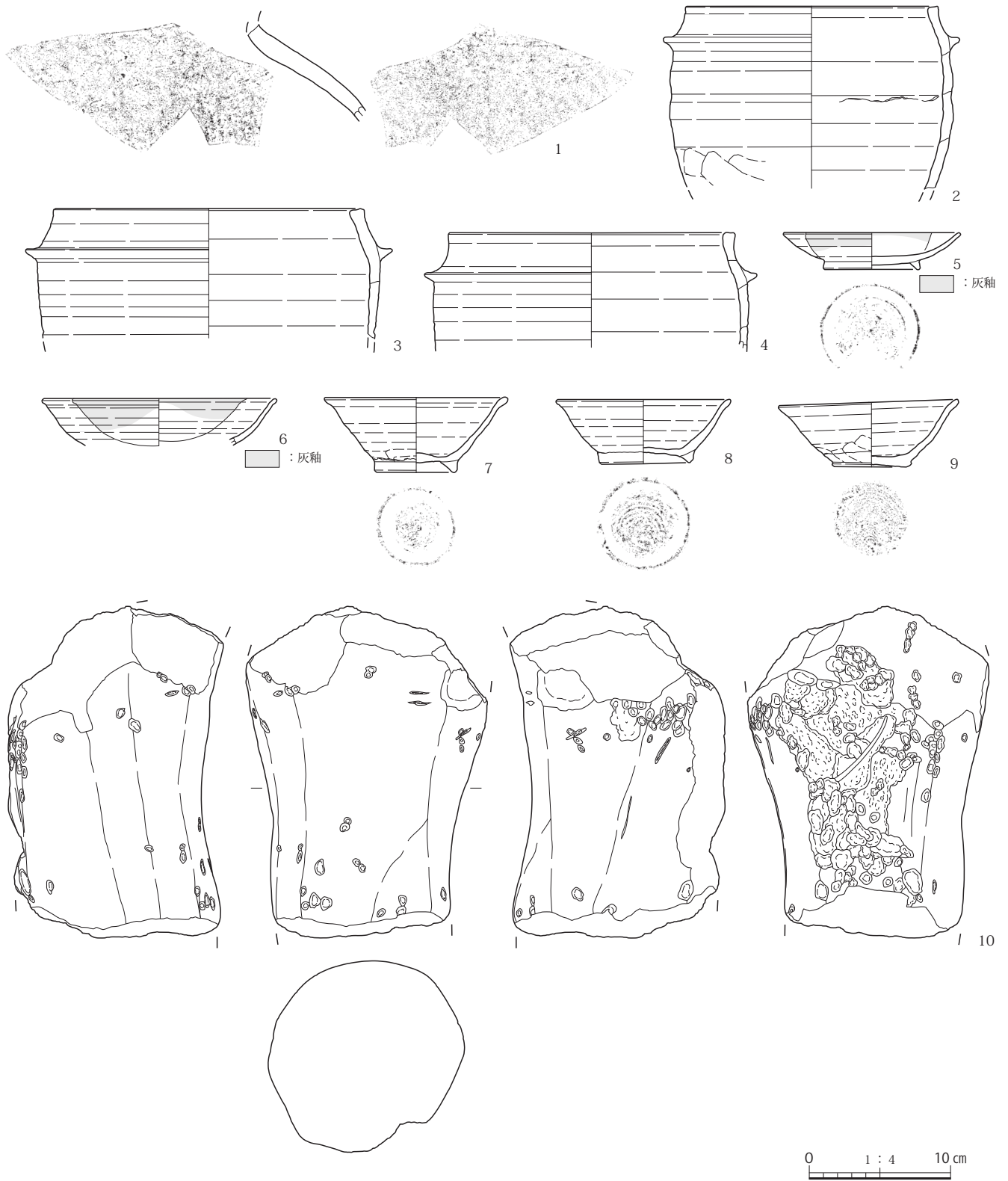
燃焼部内からは直立した状態で、長形状に加工された安山岩製の支脚が検出された。壁面は被熱により焼土化している。火床面には焼土を含む灰が堆積していた。貯蔵穴と考えられる土坑1が南東隅から検出された。規模は0.80×0.67mの不整楕円形で、深さ0.20m。出土遺物は土師器（坏・甕）、須恵器（坏・高台付碗・甕・羽釜）、灰釉陶器（高台付碗・高台付皿）、石製品（砥石）である。住居内中央～南壁下から集中して出土する傾向がみられた。



第15図 4号住居跡遺構図(2)

第5表 4号住居跡遺物観察表(1)

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考
1	須恵器 甕	口径：— 底径：— 器高：〈6.7〉	胴部片	外面：灰 内面：灰	白色粒・黒色粒	還元焰	外面：胴部回転ナデ。 内面：胴部回転ナデ、当て具痕。	
2	須恵器 羽釜	口径：(17.8) 底径：— 器高：〈12.9〉	口縁部～ 胴部 1/8	外面：にぶい橙 内面：にぶい褐	石英・白色粒・黒色粒	酸化焰	外面：口縁部～胴部回転ナデ→胴部下半ヘラナデ。 内面：口縁部～胴部回転ナデ。	
3	須恵器 羽釜	口径：(22.0) 底径：— 器高：〈9.2〉	口縁部～ 胴部上位片	外面：橙 内面：にぶい黄 橙	石英・片岩・黒色粒	酸化焰	外面：口縁部～胴部回転ナデ。 内面：口縁部～胴部回転ナデ。	



第16図 4号住居跡遺物実測図

第6表 4号住居跡遺物観察表(2)

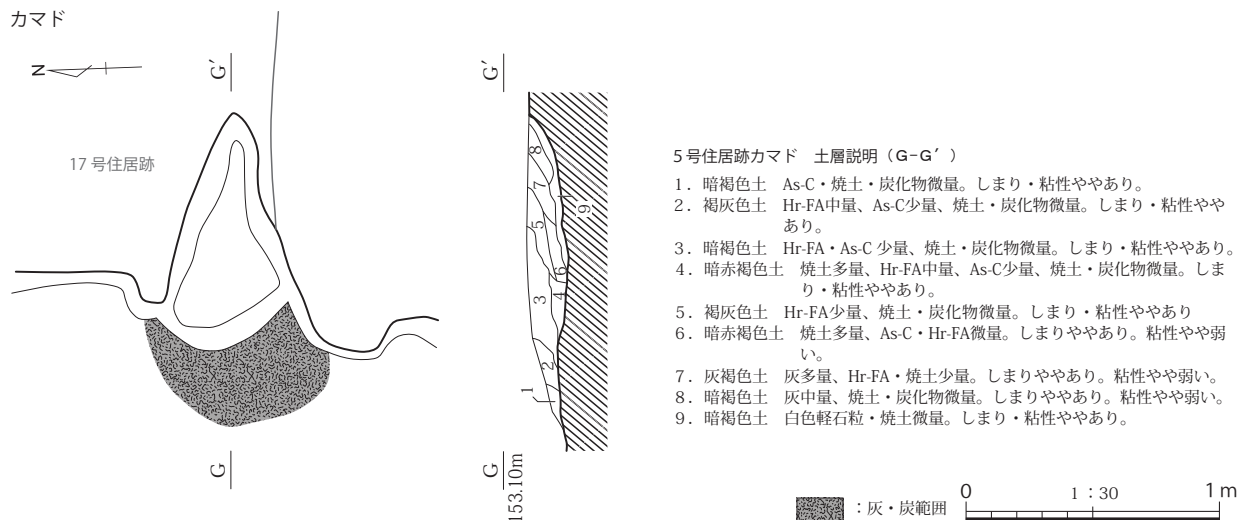
No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考
4	須恵器 羽釜	口径：(20.2) 底径：— 器高：(8.4)	口縁部～ 胴部上位片	外面：橙 内面：にぶい黄 橙	石英・片岩・ 黒色粒	酸化焰	外面：口縁部～胴部回転ナデ。 内面：口縁部～胴部回転ナデ。	
5	灰釉陶器 高台付碗	口径：(12.6) 底径：6.9 器高：2.6	1/3	外面：灰黄 内面：灰黄	白色粒	堅緻	外面：口縁部～高台部回転ナデ、底部回転糸切り→高台貼付。口縁部～体部ハケヌリ。釉調褐灰。 内面：口縁部～底部回転ナデ。口縁部～体部ハケヌリ。釉調褐灰。	

第7表 4号住居跡遺物観察表(3)

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考
6	灰釉陶器 碗	口径:(16.6) 底径:— 器高:<3.3>	口縁部~ 体部 1/3	外面:灰黄 内面:灰黄	白色粒	堅緻	外面:口縁部~体部回転ナデ、ハケヌリ。釉調灰。 内面:口縁部~体部回転ナデ、ハケヌリ。釉調灰。	
7	須恵器 高台付碗	口径:(13.0) 底径:5.8 器高:5.3	1/4	外面:黄灰 内面:灰黄褐	石英・チャ ート・黒色 粒	酸化焰	外面:口縁部~高台部回転ナデ、底部回転系切り→高台貼付。 内面:口縁部~底部回転ナデ。	
8	須恵器 高台付碗	口径:12.5 底径:6.2 器高:4.6	5/6	外面:灰黄 内面:にぶい黄 橙	石英・チャ ート・黒色 粒	還元焰 気味	外面:口縁部~高台部回転ナデ、底部回転系切り→高台貼付。 内面:口縁部~底部回転ナデ。	
9	須恵器 高台付碗	口径:12.7 底径:5.6 器高:4.6	完形	外面:にぶい黄 内面:灰黄褐	片岩粒・石 英・黒色粒	酸化焰 気味	外面:口縁部~高台部回転ナデ、底部回転系切り→高台貼付。 内面:口縁部~底部回転ナデ。	
No.	器種	法量 (cm)	残存	重さ / 石材 / 成整形の特徴等			備考	
10	石製品 砥石	長さ:<23.47> 幅:<17.08> 厚さ:<15.23>	両端部欠損	重さ:5.950g。石材:安山岩。大型柱状の砥石。全体に砥面があり、いずれも顕著な磨耗により平滑している。砥面の一部には線状痕や敲打痕が認められる。上・下端部には人為的な剝離痕あり。磨・砥石→敲石。				

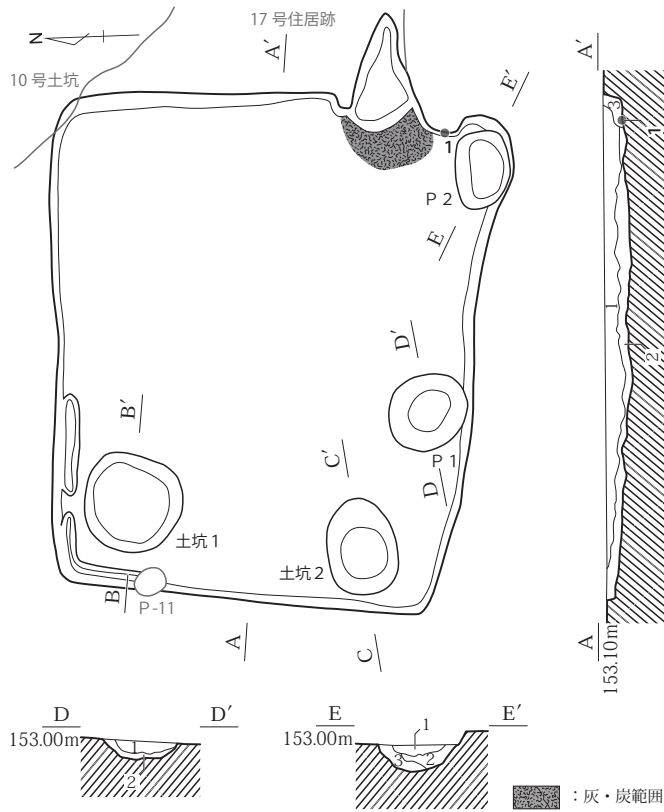
5号住居跡 (第17~19図/第8表/図版3・14)

X=47294~47297、Y=-72572~-72577に位置する。17号住居跡、3号溝、10号土坑、P-11と重複し、先後関係は17号住居跡、3号溝→5号住居跡→10号土坑、P-11と考えられる。規模は、東西4.02m、南北3.66mの長方形基調。主軸方位は、N-96°-E。壁高は0.24m程度で、壁面はやや急に立ち上がる。床は地山硬化床で、顕著なしまりが確認された。埋土はHr-F A・焼土・炭化物を含む暗褐色土である。カマドは東壁南寄りに付設される。全長0.89m、燃烧部幅0.40m、壁外長0.63m。Hr-F A主体で構築される。内壁は被熱による赤変が認められた。焚口部~火床面には焼土を含む灰が堆積していた。貯蔵穴と考えられるP2が検出された。規模は0.61×0.43mの不整隅丸長方形で、深さ0.23m。支柱穴は明確に確認されなかった。南壁下中央付近から出入り口ピットと考えられるP1が検出された。規模0.67×0.58mの不整楕円形で、深さ0.18m。この他、土坑2基(土坑1・2)と床下から土坑1基(床下土坑1)が検出された。土坑1は規模0.78×0.76mの不整形円で、深さ0.17m。土坑2は規模0.76×0.55mの不整楕円形で、深さ0.16m。床下土坑1は規模1.01×0.96mの不整形形で、深さ0.23mである。埋土はAs-C混暗褐色土とHr-F Aが互層堆積していた。出土遺物は土師器(坏)、須恵器(坏・甕・羽釜)、灰釉陶器(碗)である。



第17図 5号住居跡遺構図(1)





5号住居跡 土層説明 (A-A')

1. 暗褐色土 Hr-FA (0.5~1.0cm) 中量、炭化物少量、焼土微量。しまり・粘性ややあり。
2. 褐灰色土 Hr-FA (0.5~3.0cm) 多量、炭化物少量、焼土微量。しまり・粘性ややあり。
3. 暗褐色土 As-C・Hr-FA少量、焼土・炭化物微量。しまり・粘性ややあり。

5号住居跡土坑1 土層説明 (B-B')

1. 黒褐色土 黒褐色土と暗褐色土の混土層。Hr-FA (0.5cm) 中量、As-C・炭化物少量。しまりややあり。粘性あり。
2. 暗褐色土 Hr-FA・黒褐色土 (0.5~1.0cm) 少量、焼土微量。しまり・粘性ややあり。
3. 暗褐色土 Hr-FA 多量、黒褐色土 (0.5~1.0cm) 中量、As-C 少量。しまり・粘性ややあり。

5号住居跡土坑2 土層説明 (C-C')

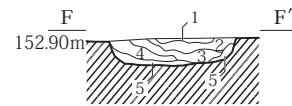
1. 黒褐色土 黒褐色土と暗褐色土の混土層。Hr-FA (0.5cm) 中量、As-C・炭化物少量。しまりややあり。粘性あり。

5号住居跡P1 土層説明 (D-D')

1. 灰褐色土 Hr-FA多量、As-C微量。しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 黒褐色土多量、As-C・Hr-FA少量。しまりややあり。粘性やや弱い。

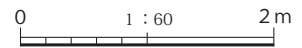
5号住居跡P2 土層説明 (E-E')

1. 灰黄褐色土 Hr-FA多量、As-C少量。しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 As-C・黒褐色土少量。しまりややあり。粘性やや弱い。
3. 暗褐色土 黒褐色土と暗褐色土の混土層。As-C少量。しまり・粘性ややあり。

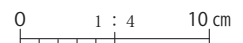
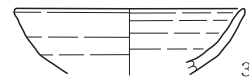
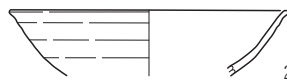
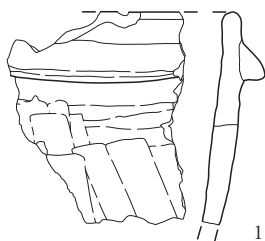


5号住居跡床下土坑1 土層説明 (F-F')

1. 黒褐色土 Hr-FA少量。しまり・粘性あり。
2. 暗褐色土 Hr-FA (0.5~1.0cm) 多量、黒褐色土少量、白色軽石粒微量。しまり・粘性ややあり。
3. 暗褐色土 Hr-FA中量、白色軽石粒・黒褐色土少量。
4. 黒褐色土 Hr-FA・白色軽石粒少量、礫 (0.5~3.0cm) 微量。しまり・粘性ややあり。
5. にぶい黄褐色土 Hr-FA堆積物。泥流。しまりあり。粘性ややあり。



第18図 5号住居跡遺構図(2)



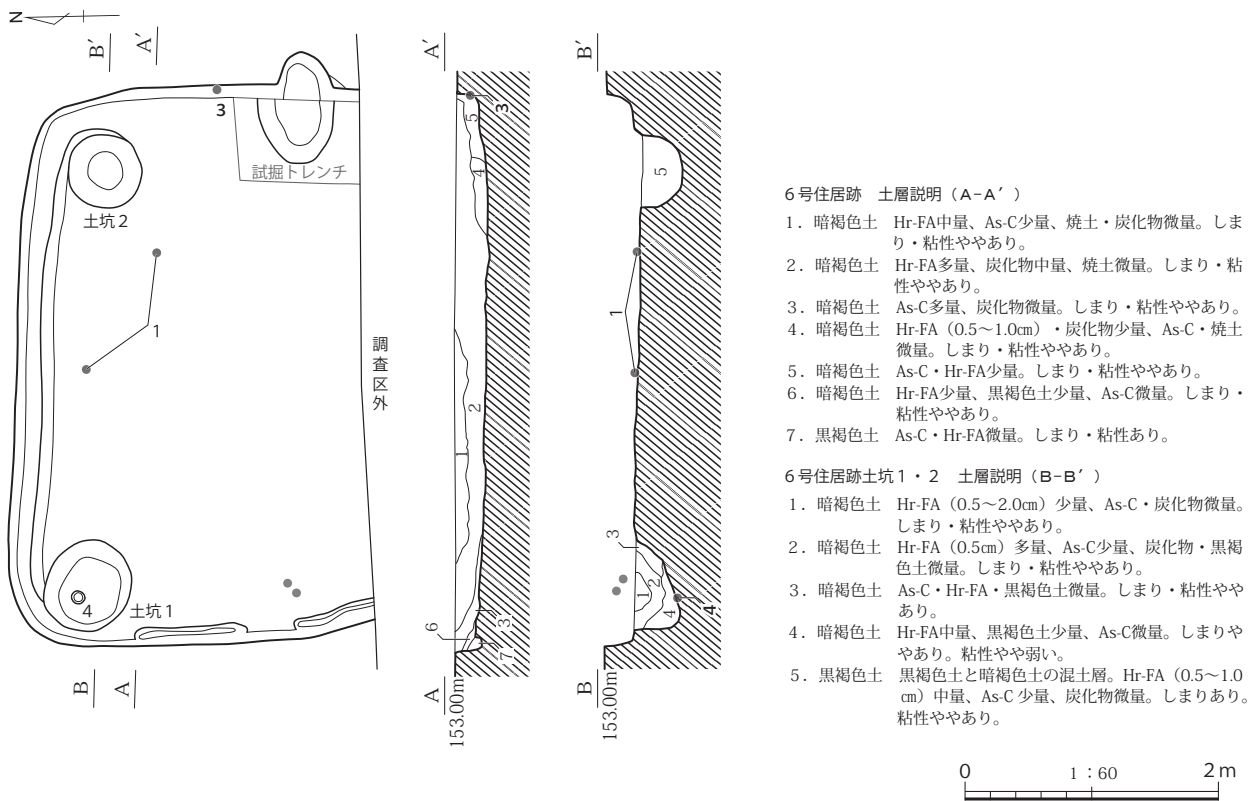
第19図 5号住居跡遺物実測図

第8表 5号住居跡遺物観察表

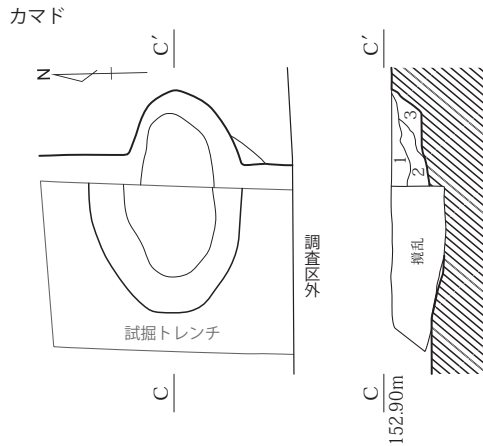
No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考
1	須恵器 羽釜	口径：— 底径：— 器高：〈11.3〉	口縁部～胴部上位破片	外面：にぶい黄褐 内面：にぶい黄褐	黒色鉱物・褐色粒・チャート	酸化焰	外面：口縁部～胴部回転ナデ→胴部ヘラナデ。 内面：口縁部～胴部回転ナデ。	
2	灰釉陶器 (高台付碗)	口径：(14.8) 底径：— 器高：〈3.5〉	口縁部～体部片	外面：灰白 内面：灰白	白色粒	堅緻	外面：口縁部～体部回転ナデ。剥落しているが、口縁部施釉の痕跡あり。 内面：口縁部～体部回転ナデ。口縁部～体部はやや釉薬が剥落気味。釉調灰オリーブ色。	
3	須恵器 坏	口径：(12.2) 底径：— 器高：〈3.5〉	口縁部～体部片	外面：にぶい黄褐 内面：にぶい黄褐	黒褐色粒・白色粒・チャート	酸化焰	外面：口縁部～体部回転ナデ。 内面：口縁部～体部回転ナデ。	

6号住居跡 (第20～22図/第9表/図版3・14)

X=47291～47294、Y=-72574～-72579に位置する。3号溝と重複し、先後関係は3号溝→6号住居跡と考えられる。南側は調査区外である。カマド前面は攪乱を受ける。規模は、東西4.44m、南北〈2.87〉mの方形基調。主軸方位は、N-91°-E。壁高は0.28m程度で、壁面はやや急に立ち上がる。床は地山硬化床で、しまりが確認された。埋土はHr-F・A・白色軽石粒・焼土・炭化物を含む暗褐色土である。西壁下に壁溝が巡り、幅は0.03～0.05m、深さ0.03m程度である。北壁下は0.03～0.07mの弱い段差を伴う。カマドは東壁中央よりやや南寄りに付設される。全長0.89m、燃烧部幅0.26m、壁外長0.27m。埋土に焼土が比較的多く混入していたが、内壁に被熱を受けた痕跡や火床面に灰や焼土の堆積はほとんど認められない。貯蔵穴や柱穴を明確に確認することはできなかったが、土坑2基(土坑1・2)が検出された。土坑1の規模は0.73×0.66mの不整楕円形で、深さ0.38m。土坑2は規模0.59×0.57mの円形で、深さ0.32m。出土遺物は土師器(坏・甕)、須恵器(坏・埴・高台付坏・羽釜)、灰釉陶器(坏・碗)、石製品(砥石・磨石)である。土坑1の底面から正位の状態須恵器・坏が出土した。



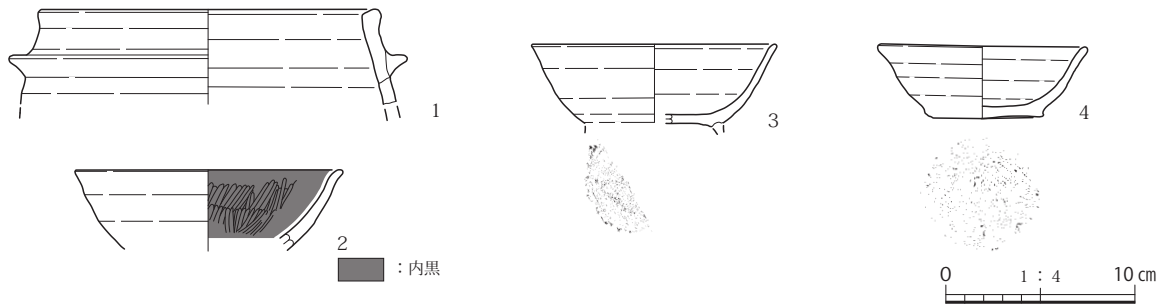
第20図 6号住居跡遺構図(1)



6号住居跡カマド 土層説明 (C-C')

1. 灰褐色土 Hr-FA多量、焼土中量、As-C少量、炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
2. 褐灰色土 焼土少量、As-C・炭化物・礫 (0.5~1.0cm) 微量。しまり・粘性ややあり。
3. 暗褐色土 焼土中量、Hr-FA少量。しまりややあり。粘性やや弱い。

第21図 6号住居跡遺構図(2)



第22図 6号住居跡遺物実測図

第9表 6号住居跡遺物観察表

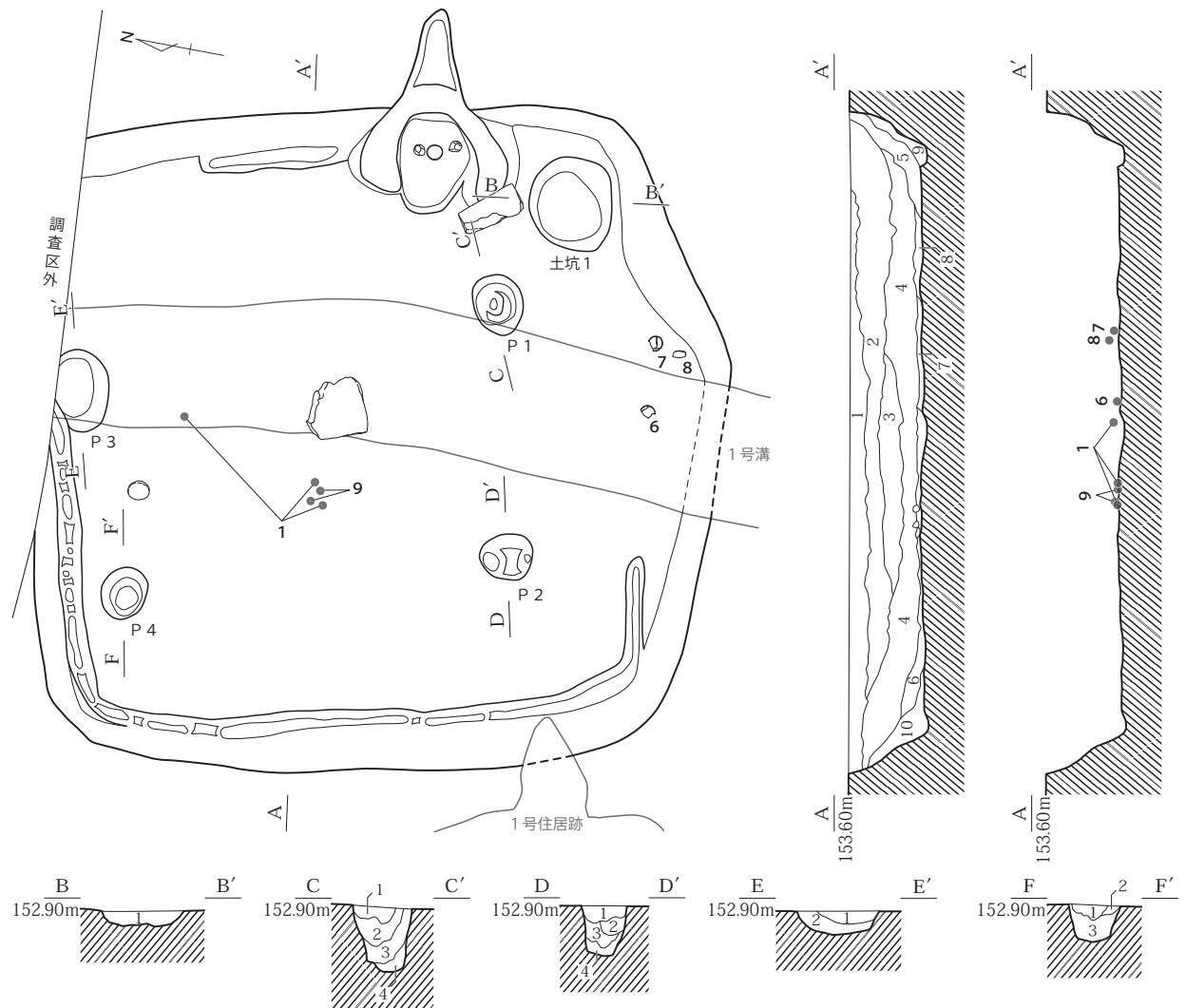
No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考
1	須恵器 羽釜	口径:(18.0) 底径:— 器高:<5.2>	口縁部~胴部 上部破片	外面:灰褐 内面:灰黄褐	赤褐色粒・ 白色粒・チヤート	酸化焰	外面:口縁部~胴部回転ナデ。 内面:口縁部~胴部回転ナデ。	
2	須恵器 埴	口径:(14.2) 底径:— 器高:<4.3>	口縁部~ 体部片	外面:灰黄褐 内面:黒褐	黒色鉱物・ 白色粒・チヤート	酸化焰	外面:口縁部~体部回転ナデ。 内面:口縁部~体部回転ナデ→体部暗文。	内面黒色処理。
3	須恵器 高台付坏	口径:(13.0) 底径:— 器高:<4.4>	口縁部~ 体部 1/4	外面:にぶい黄 橙 内面:にぶ い黄褐	角閃石・黒 色粒・褐色 粒	酸化焰	外面:口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り→高台貼付。 内面:口縁部~底部回転ナデ。	高台部欠損。
4	須恵器 坏	口径:11.1 底径:6.2 器高:3.9	完形	外面:橙 内面:にぶい橙	黒色鉱物・ 褐色粒・石 英	酸化焰	外面:口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り。 内面:口縁部~底部回転ナデ。	

7号住居跡 (第23~25図/第10・11表/図版4・15)

X=47306~47312、Y=-72585~-72592に位置する。1号住居跡、1号溝と重複し、先後関係は7号住居跡→1号住居跡→1号溝と考えられる。北側は調査区外である。規模は、東西5.55m、南北<5.84>mの方形基調で、南壁は外方へやや張り出す。主軸方位は、N-79°-E。壁高は0.62m程度で、壁面はやや急に立ち上がる。床は地山硬化床で、しまりが確認された。埋土は白色軽石粒・焼土・炭化物・小礫を含む暗褐色土である。西~北壁下、および東壁下の一部に壁溝が巡り、幅は0.05~0.11m、深さ0.03~0.05m程度である。カマドは東壁中央よりやや南寄りに付設される。全長1.72m、燃烧部幅0.61m、壁外長0.80m。Hr-FA主体の浅黄色土で構築される。左袖部には長方形に加工された凝灰岩が据えられていたが、右袖部の凝灰岩は抜き取られて前面に投棄されていた。燃烧部内には長方形に加工された凝灰岩製の支脚2本が直立した状態で検出され、その間には土師器・坏が正位の状態に据え置かれていた。内壁は被熱による赤変が認められた。土坑1基(土坑1)、ピット4基(P1~4)が検出され、このうちP1・2が支柱穴の可能性が考えられる。土坑1の規模は0.77×0.69mの不整楕円形で、深さ0.16m。P1は規模0.51×0.41mの不整楕円形で、深さ0.61m。P2は規模0.45×0.39mの不整楕円形で、深さ0.40m。P3は規模0.69×<0.47>mの不整楕円形で、深さ0.27m。P4は規模0.43×0.41mの不整楕円形で、深さ0.32m。出土遺物は土師器(坏・皿・甕)、須恵器(坏・



高台付堀・蓋・甕・甔)、石製品(砥石・磨石・台石)である。南壁下中央寄りから土師器・坏3点、カマド右袖内から半円状の石製品が出土した。



7号住居跡 土層説明 (A-A')

1. 暗褐色土 As-C多量、As-B・焼土・砂礫微量。しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 As-C多量、Hr-FA・礫 (0.5~10.0cm) 少量、焼土微量。しまり・粘性ややあり。
3. 黒褐色土 As-C少量、焼土・礫 (0.5~5.0cm) 微量。しまり・粘性あり。
4. 暗褐色土 As-C多量、Hr-FA・礫 (0.5~5.0cm) 少量、焼土・炭化粒微量。しまり・粘性ややあり。
5. 暗褐色土 As-C・Hr-FA (0.5~3.0cm) 中量、黒褐色土 (0.5~2.0cm) 少量。しまり・粘性ややあり。
6. 暗褐色土 As-C中量、Hr-FA少量、炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
7. 暗褐色土 As-C・焼土・炭化粒微量。しまりあり。粘性ややあり。
8. 暗褐色土 Hr-FA多量、As-C少量、焼土・炭化粒微量。しまり・粘性ややあり。
9. 黒褐色土 As-C・Hr-FA微量。しまり・粘性ややあり。
10. 黒褐色土 As-C少量、Hr-FA微量。しまり・粘性ややあり。

7号住居跡土坑1 土層説明 (B-B')

1. 暗褐色土 炭化物・黒褐色土・礫 (0.5~3.0cm) 中量、Hr-FA (0.5cm) 少量、As-C微量。しまり・粘性ややあり。

7号住居跡P1 土層説明 (C-C')

1. 暗褐色土 As-C・炭化物少量、Hr-FA・礫 (0.5~2.0cm) 微量。しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 As-C・Hr-FA・炭化物少量。しまり・粘性ややあり。

3. 暗褐色土 As-C中量、炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
4. 暗褐色土 As-C微量。しまりややあり。粘性やや弱い。

7号住居跡P2 土層説明 (D-D')

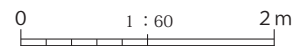
1. 暗褐色土 As-C多量、Hr-FA少量、焼土・炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 Hr-FA・黒褐色土少量、As-C微量。しまり・粘性ややあり。
3. 暗褐色土 黒褐色土中量、As-C微量。しまり・粘性ややあり。
4. 暗褐色土 黄褐色粒多量。しまりややあり。粘性やや弱い。

7号住居跡P3 土層説明 (E-E')

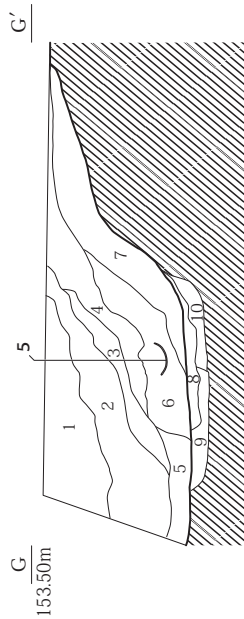
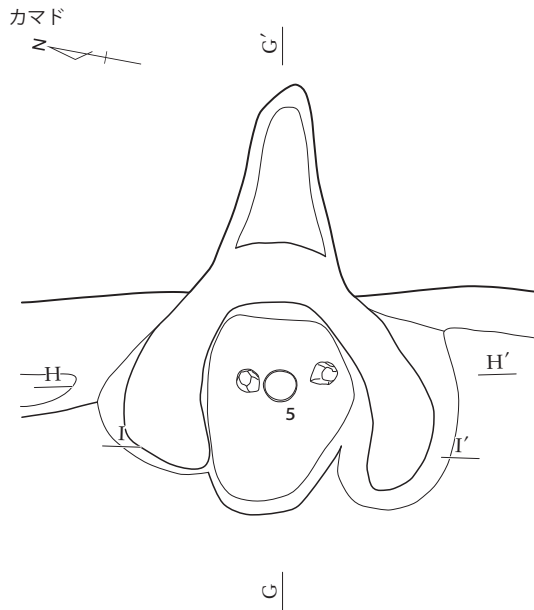
1. 暗褐色土 Hr-FA (0.5cm) 中量、As-C少量、炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 Hr-FA (0.5~1.0cm) 多量、As-C・黄褐色粒少量、炭化物微量。しまり・粘性ややあり。

7号住居跡P4 土層説明 (F-F')

1. 黒褐色土 As-C少量。しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 Hr-FA (0.5cm) 中量、As-C少量、炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
3. 暗褐色土 As-C・黄褐色土・砂礫中量、Hr-FA少量。しまり・粘性ややあり。

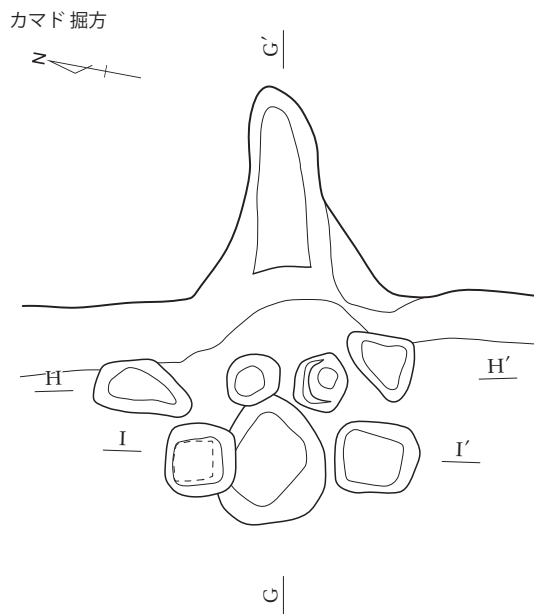
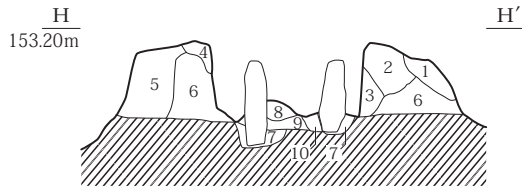


第23図 7号住居跡遺構図(1)



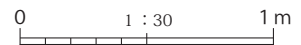
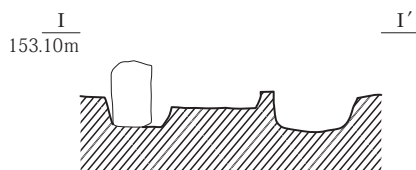
7号住居跡カマド 土層説明 (G-G')

1. 暗褐色土 As-C・Hr-FA少量。しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 As-C・Hr-FA多量、焼土微量。しまり・粘性あり。
3. 暗褐色土 As-C中量、Hr-FA少量、灰・炭化物微量。しまりあり。粘性ややあり。
4. 灰褐色土 Hr-FA多量、As-C少量。しまりややあり。粘性あり。
5. 褐灰色土 As-C中量、Hr-FA・灰少量、焼土微量。しまりややあり。粘性やや弱い。
6. 灰黄褐色土 焼土少量。しまり・粘性あり。
7. 褐灰色土 Hr-FA主体に暗褐色土少量。しまり・粘性ややあり。
8. 黄灰色土 Hr-FA (0.5cm) 中量、灰少量。しまり・粘性ややあり。
9. 灰黄褐色土 Hr-FAと黒褐色土の混土层。しまりややあり。粘性あり。
10. 灰褐色土 灰多量、焼土中量、As-C少量。しまりややあり。粘性やや弱い。

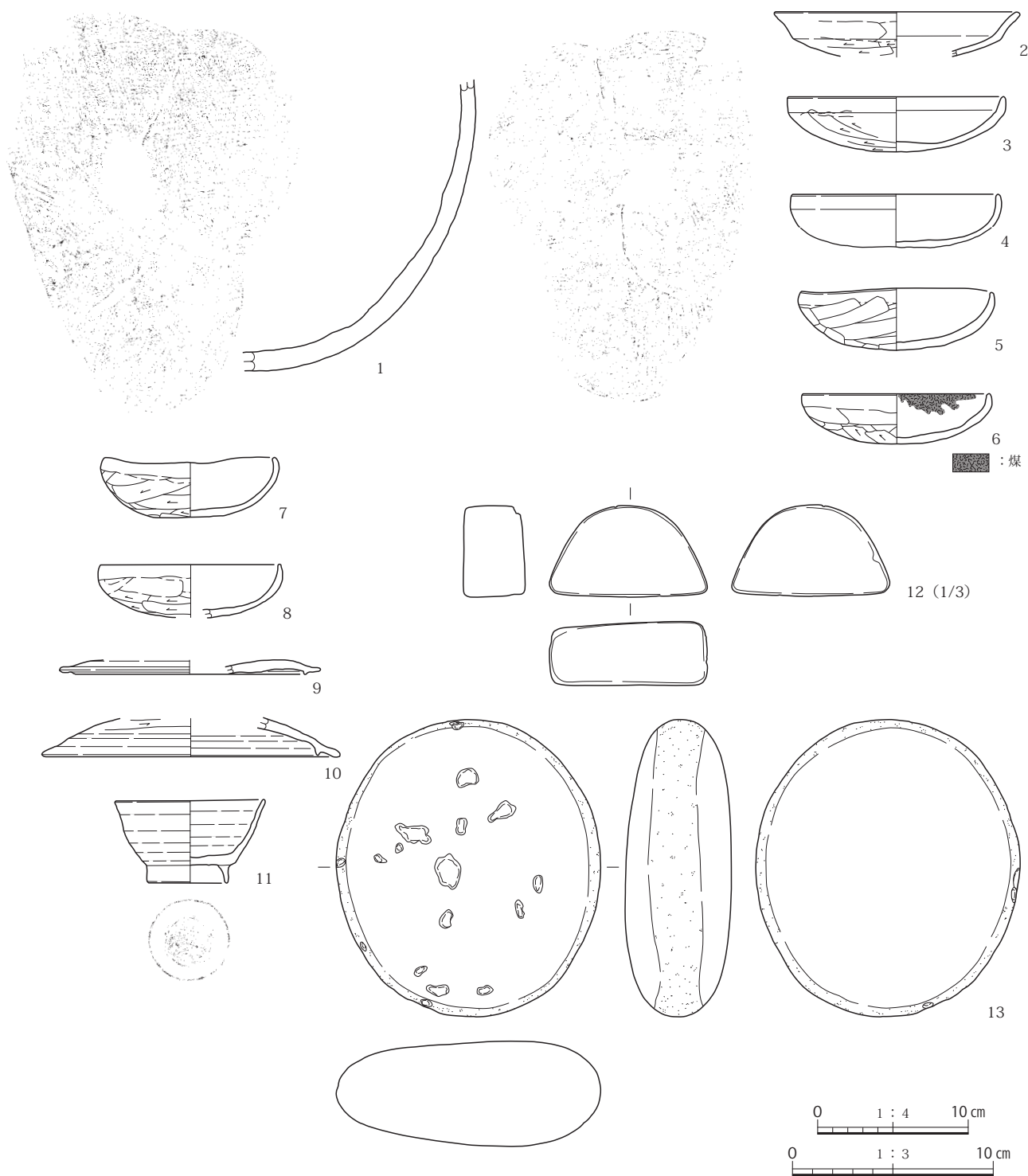


7号住居跡カマド 土層説明 (H-H')

1. 灰黄褐色土 Hr-FA主体に暗褐色土中量。白色軽石粒・砂礫含む。しまり・粘性あり。
2. 灰黄褐色土 Hr-FA主体に暗褐色土微量。白色軽石粒含む。しまり・粘性あり。
3. にぶい黄褐色土 Hr-FA主体に暗褐色土少量。白色軽石粒・砂礫含む。しまり・粘性あり。
4. 灰黄褐色土 Hr-FA主体に白色軽石粒・暗褐色土少量。砂礫含む。しまり・粘性あり。
5. 灰黄褐色土 Hr-FA主体に暗褐色土少量、白色軽石粒・焼土微量。しまり・粘性あり。
6. にぶい黄褐色土 Hr-FA主体。しまり・粘性あり。
7. 暗褐色土 Hr-FA (0.5~2.0cm) 多量、白色軽石粒少量。しまりあり。粘性ややあり。
8. にぶい黄褐色土 Hr-FA主体に白色軽石粒・焼土・暗褐色土少量。しまり・粘性ややあり。
9. 暗褐色土 Hr-FA・焼土少量。しまり・粘性ややあり。
10. 暗褐色土 Hr-FA少量、白色軽石粒微量。しまり・粘性ややあり。



第24図 7号住居跡遺構図(2)



第 25 図 7号住居跡遺物実測図

第 10 表 7号住居跡遺物観察表 (1)

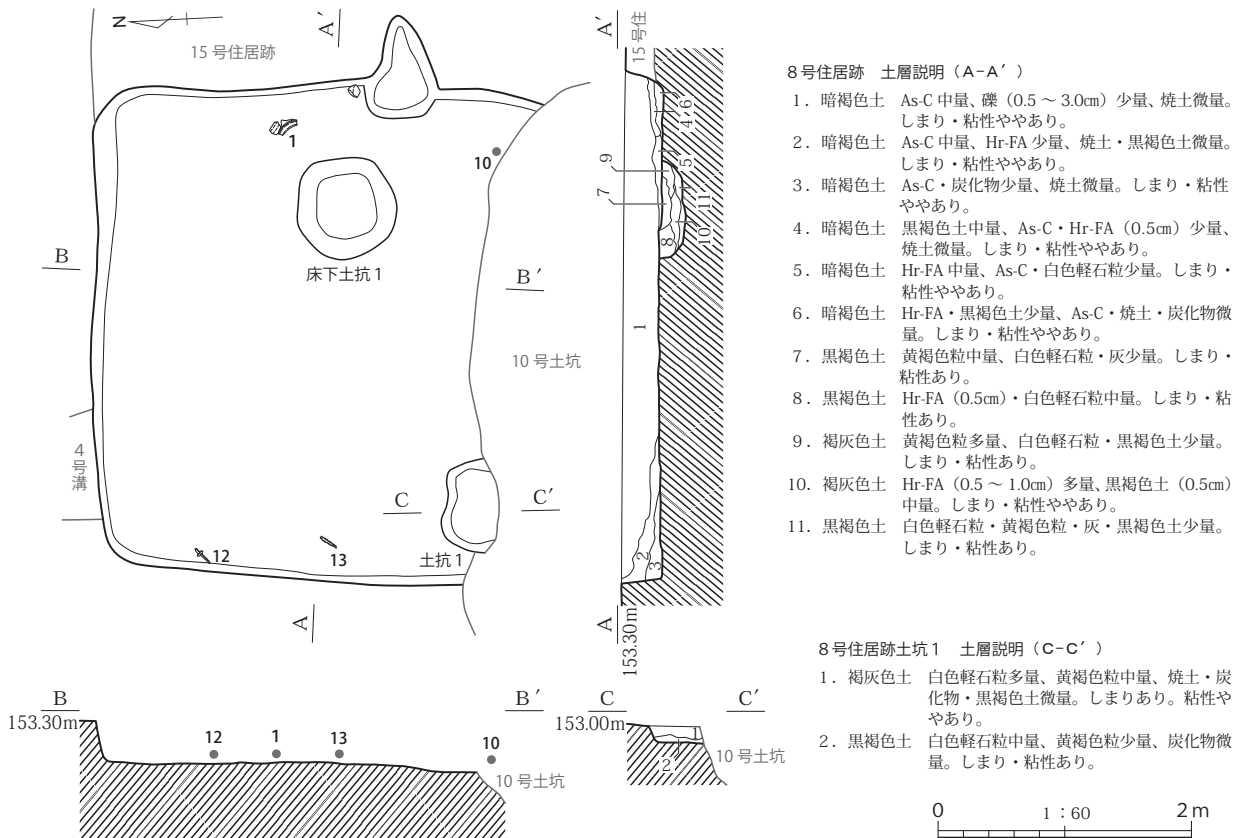
No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考
1	須恵器 甕	口径：— 底径：— 器高：〈19.3〉	胴部破片	外面：灰 内面：褐灰	白色粒・黒色粒	還元焰	外面：胴部叩き (平行叩き目)。 内面：胴部当て具痕→ナデ。	
2	土師器 皿	口径：(16.4) 底径：— 器高：〈2.9〉	口縁部～ 体部片	外面：明赤褐 内面：明赤褐	黒色鉱物・ 石英・チャート	酸化焰	外面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 内面：口縁部～体部ヘラナデ。	
3	土師器 杯	口径：(14.5) 底径：— 器高：3.7	1/3	外面：橙 内面：明赤褐	黒色粒・砂粒・片岩粒	酸化焰	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。 内面：口縁部～体部ヘラナデ、底部ナデ。	
4	土師器 杯	口径：(13.8) 底径：— 器高：3.6	1/2	外面：明赤褐 内面：明赤褐	黒色粒・砂粒・チャート	酸化焰	外面：口縁部ヨコナデ。 内面：口縁部～体部ヘラナデ、底部ナデ。	外面体部～底部器面が荒れている。

第 11 表 7号住居跡遺物観察表(2)

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考
5	土師器 環	口径：12.8 底径：— 器高：4.1	ほぼ完形	外面：明赤褐 内面：赤褐	角閃石・石英・チャート	酸化焰	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。 内面：口縁部～底部ナデ。	内面やや器面が荒れている。
6	土師器 環	口径：(12.6) 底径：— 器高：3.3	1/2	外面：にぶい黄褐 内面：明赤褐	黒色鉱物・白色粒・砂粒	酸化焰	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。 内面：口縁部～体部ヘラナデ、底部ナデ。	内面口縁部～体部上位煤付着。
7	土師器 環	口径：11.2 底径：— 器高：4.0	完形	外面：明赤褐 内面：赤褐	黒色鉱物・石英・チャート	酸化焰	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。 内面：口縁部～体部ヘラナデ、底部ナデ。	
8	土師器 環	口径：(11.8) 底径：— 器高：〈3.5〉	1/3	外面：にぶい黄褐 内面：褐	黒色粒・赤褐色粒・石英	酸化焰	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。 内面：口縁部～体部ヘラナデ、底部ナデ。	
9	須恵器 蓋	口径：(17.4) 摘み径：— 器高：〈0.9〉	天井部～ 口縁部 1/3	外面：灰 内面：灰	白色粒・石英	還元焰	外面：回転ナデ→天井部回転ヘラナデ。 内面：回転ナデ。カエリ有。	歪み著しい。
10	須恵器 蓋	口径：(19.8) 摘み径：— 器高：〈2.6〉	天井部～ 口縁部 1/6	外面：灰白 内面：灰黄	チャート・白色粒	還元焰	外面：回転ナデ→天井部回転ヘラケズリ。 内面：回転ナデ。カエリ有。	
11	須恵器 高台付塊	口径：10.0 底径：5.4 器高：5.4	ほぼ完形	外面：灰白 内面：灰黄	白色粒・黒色粒	還元焰	外面：口縁部～高台部回転ナデ、底部回転糸切り→高台貼付。 内面：口縁部～底部回転ナデ。	
No.	器種	法量 (cm)	残存	重さ / 石材 / 成整形の特徴等				備考
12	石製品	長さ：〈4.58〉 幅：〈7.87〉 厚さ：〈3.19〉	ほぼ完形	重さ：60.19g。石材：軽石。半円状。研磨により整形。				
13	石製品 台石	長さ：〈19.75〉 幅：〈17.56〉 厚さ：〈7.06〉	ほぼ完形	重さ：3640.75g。石材：閃緑岩。扁平礫を素材とし、表表面に磨耗痕が認められ、部分的に敲打痕あり。磨石→敲石。				

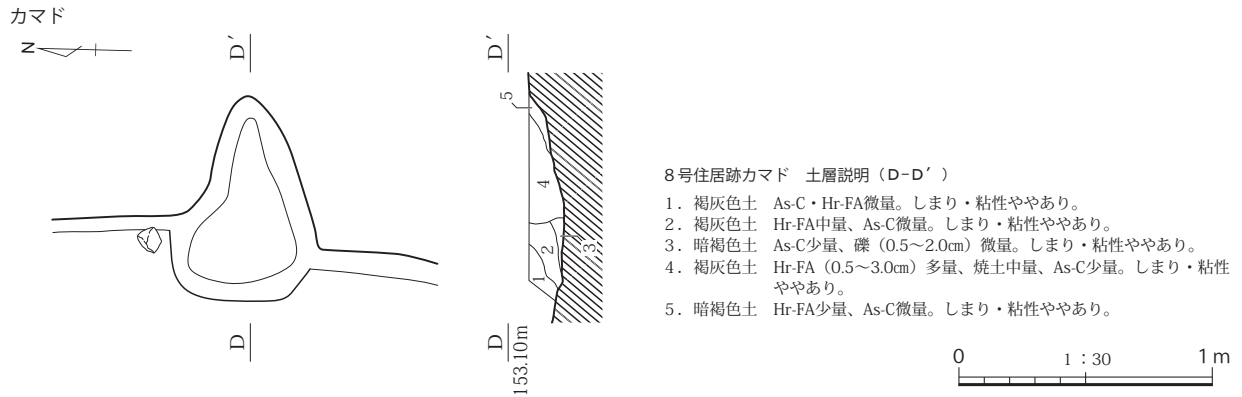
8号住居跡 (第 26～28 図/第 12 表/図版 4・15)

X=47300~47304、Y=-72568~-72572に位置する。15号住居跡、4号溝、10号土坑と重複し、先後関係は15号住居跡、4号溝→8号住居跡→10号土坑と考えられる。規模は、東西4.02m、南北〈3.70〉mの方形基調。主軸方位は、N-94°-E。壁高は0.31m程度で、壁面はやや急に立ち上がる。床はHr-F A・白色軽石粒・砂礫を含む暗～黒褐色土による貼床を施し、しまりが確認された。埋土はHr-F A・白色軽石粒・焼土・炭化物を含む暗～黒褐色土である。カマドは東壁中央よりやや南寄りに付設される。全長0.81m、燃焼

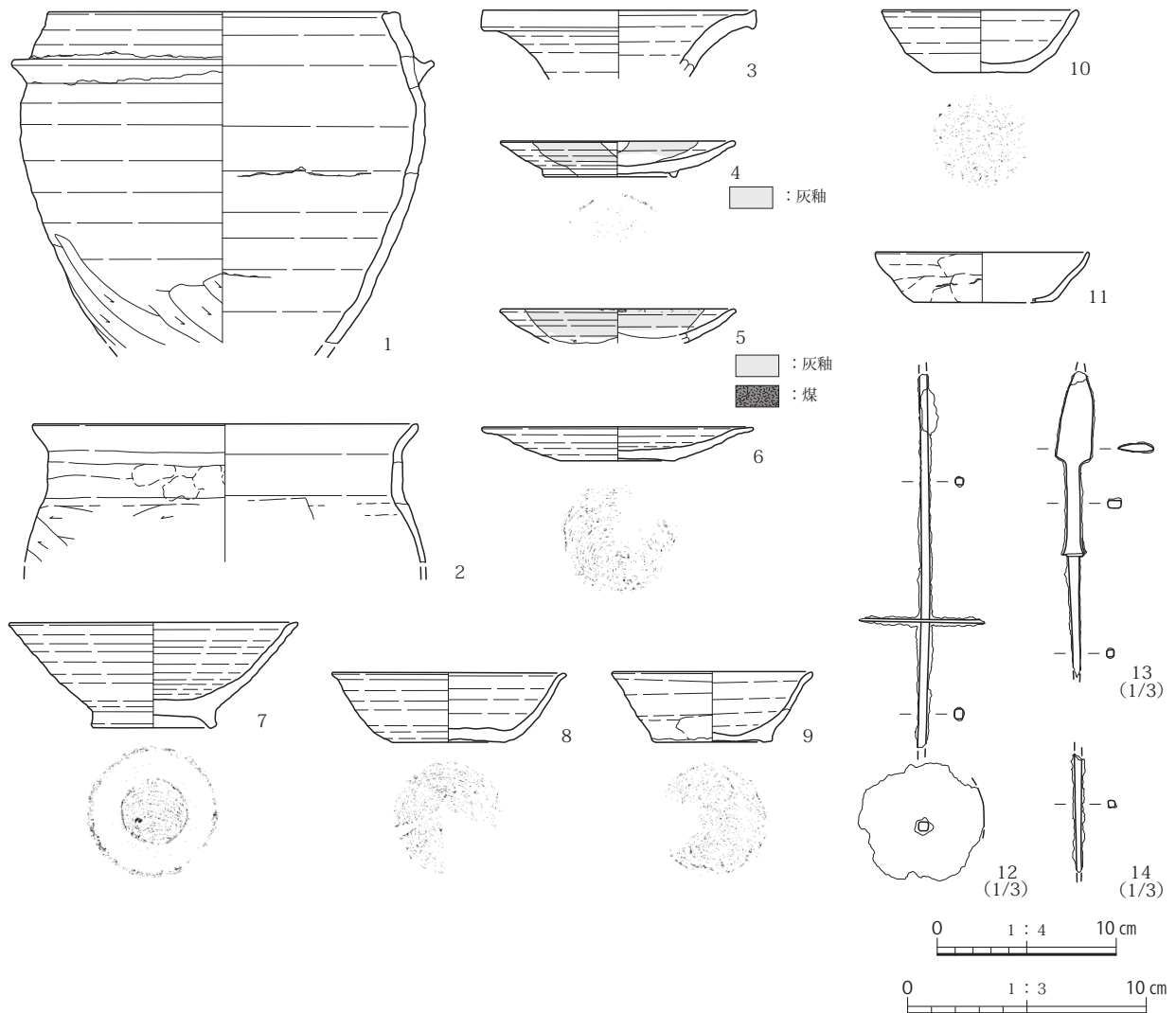


第 26 図 8号住居跡遺構図(1)

部幅0.42m、壁外長0.48m。内壁は被熱による赤変が認められた。火床面には焼土を含む灰が堆積していた。貯蔵穴や柱穴を明確に確認することはできなかったが、土坑1基（土坑1）が検出された。規模は〈0.74〉×〈0.46〉mの不整形で、深さ0.13m。床下から土坑1基（床下土坑1）が検出された。規模は0.81×0.80mの不整形で、深さ0.18m。埋土の中層には多量のHr-FAが混入していた。出土遺物は土師器（坏・甕）、須恵器（坏・高台付碗・皿・蓋・壺・甕・羽釜）、灰釉陶器（碗・高台付碗・皿）、鉄製品（紡錘車・鉄鏃）である。床面直上から鉄製の紡錘車が出土した。



第 27 図 8号住居跡遺構図 (2)

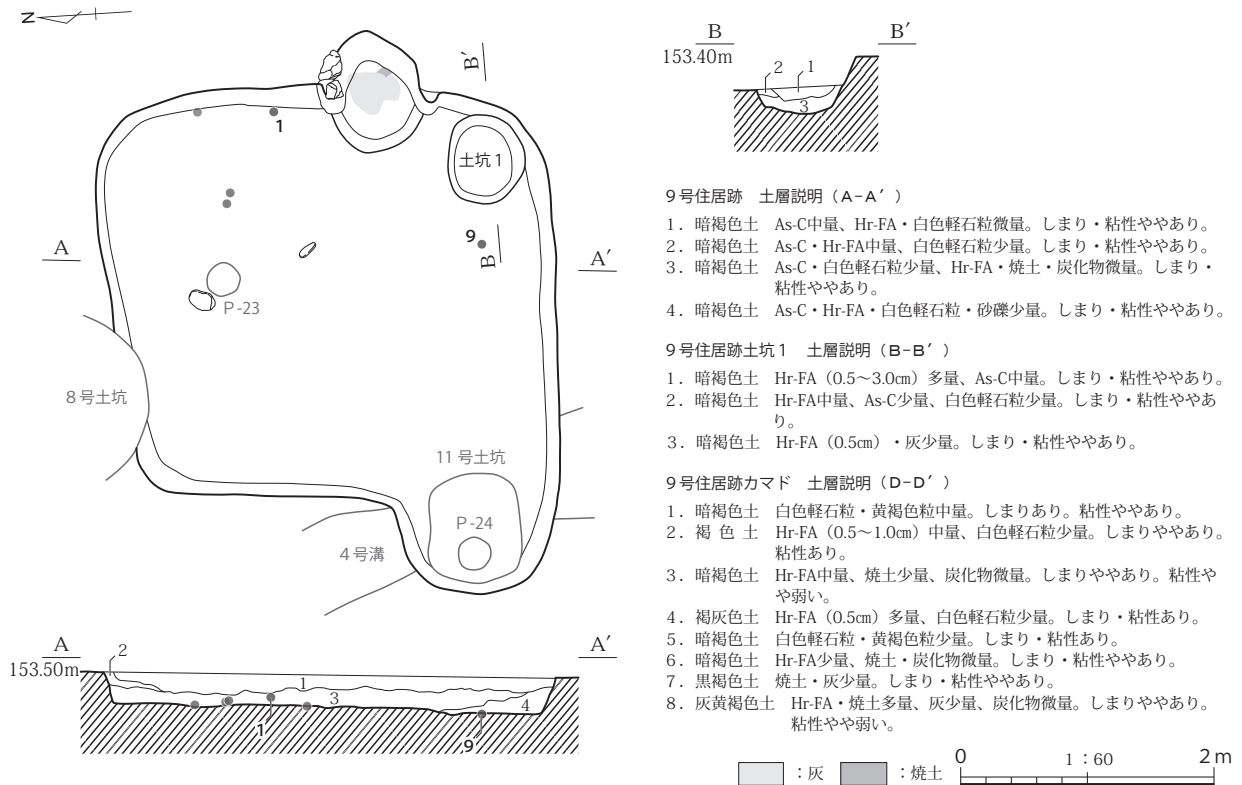


第 28 図 8号住居跡遺物実測図

第 12 表 8号住居跡遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考
1	須恵器 羽釜	口径：(19.6) 底径：— 器高：〈18.5〉	口縁部～胴 部上位破片	外面：明赤褐 内面：にぶい赤 褐	片岩粒・石 英・褐色粒	酸化焰	外面：口縁部～胴部回転ナデ→胴部下位ヘラケズリ。 内面：口縁部～胴部回転ナデ。	
2	土師器 甕	口径：(21.6) 底径：— 器高：〈7.7〉	口縁部～ 胴部上位	外面：明赤褐 内面：明赤褐	片岩粒・白 色粒・黒色 粒	酸化焰	外面：口縁部ヨコナデ・指頭圧痕、胴部ヘラケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	
3	須恵器 壺	口径：(15.4) 底径：— 器高：〈3.8〉	口縁部片	外面：褐灰 内面：黒褐	白色粒・石 英・チャ ート	還元焰	外面：口縁部回転ナデ。 内面：口縁部回転ナデ。	
4	灰釉陶器 皿	口径：(13.2) 底径：(7.5) 器高：2.0	1/6	外面：灰白 内面：灰白	白色粒	堅緻	外面：口縁部～高台部回転ナデ、底部回転糸切り→高台貼 付。口縁部ハケヌリ。釉調半透明。 内面：口縁部～底部回転ナデ。口縁部ハケヌリ。釉調灰オ リーブ色。	
5	灰釉陶器 杯	口径：(13.2) 底径：— 器高：〈1.9〉	口縁部～ 体部 1/8	外面：灰白 内面：灰白	白色粒	堅緻	外面：口縁部～体部回転ナデ。口縁部ハケヌリ。釉調灰白。 内面：口縁部～体部回転ナデ。口縁部ハケヌリ。釉調灰白。	煤付着。
6	須恵器 皿	口径：(15.2) 底径：6.5 器高：1.9	3/5	外面：黄灰 内面：灰	片岩粒・石 英・白色粒	還元焰	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ。	
7	須恵器 高台付埴	口径：(16.2) 底径：7.1 器高：5.9	5/6	外面：灰オリー フ 内面：暗灰 黄	石英・チャ ート・褐色 粒	還元焰	外面：口縁部～高台部回転ナデ、底部回転糸切り→高台貼 付。 内面：口縁部～底部回転ナデ。	
8	須恵器 杯	口径：(13.2) 底径：6.4 器高：3.9	1/3	外面：褐灰 内面：にぶい黄	片岩粒・チャ ート・褐色 色粒	還元焰 気味	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ。	
9	須恵器 杯	口径：11.3 底径：6.6 器高：3.9	4/5	外面：明褐 内面：にぶい褐	黒色粒・褐 色粒・チャ ート	酸化焰	外面：口縁部～体部回転ナデ→体部下位ナデ、底部回転糸切 り。 内面：口縁部～底部回転ナデ。	
10	須恵器 杯	口径：(11.0) 底径：5.5 器高：3.5	1/3	外面：にぶい黄 橙 内面：にぶい 褐	黒色粒・石 英・褐色粒	酸化焰	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ。	
11	土師器 杯	口径：(12.0) 底径：— 器高：〈2.8〉	1/6	外面：明赤褐 内面：明赤褐	黒色鉱物・ 黒色粒・白 色粒	酸化焰	外面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。 内面：口縁部～体部ヘラナデ、底部ナデ。	
No.	器種	法量 (cm・g)						備考
12	鉄製品 紡錘車	長さ：〈15.6〉 紡輪径 5.4 幅：〈5.2〉 厚さ：0.4 重さ：22.12。						
13	鉄製品 鉄鎌	【鎌身部】長さ：〈3.8〉 幅：1.5 厚さ：0.3 【頸部】長さ：3.9 幅：1.0 厚さ：0.4 【茎部】長さ：〈5.1〉 幅：0.35 厚さ：0.35 重さ：12.37。						
14	鉄製品 (鉄鎌)	長さ：〈4.8〉 幅：0.3 厚さ：0.3 重さ：2.35。						茎部カ。

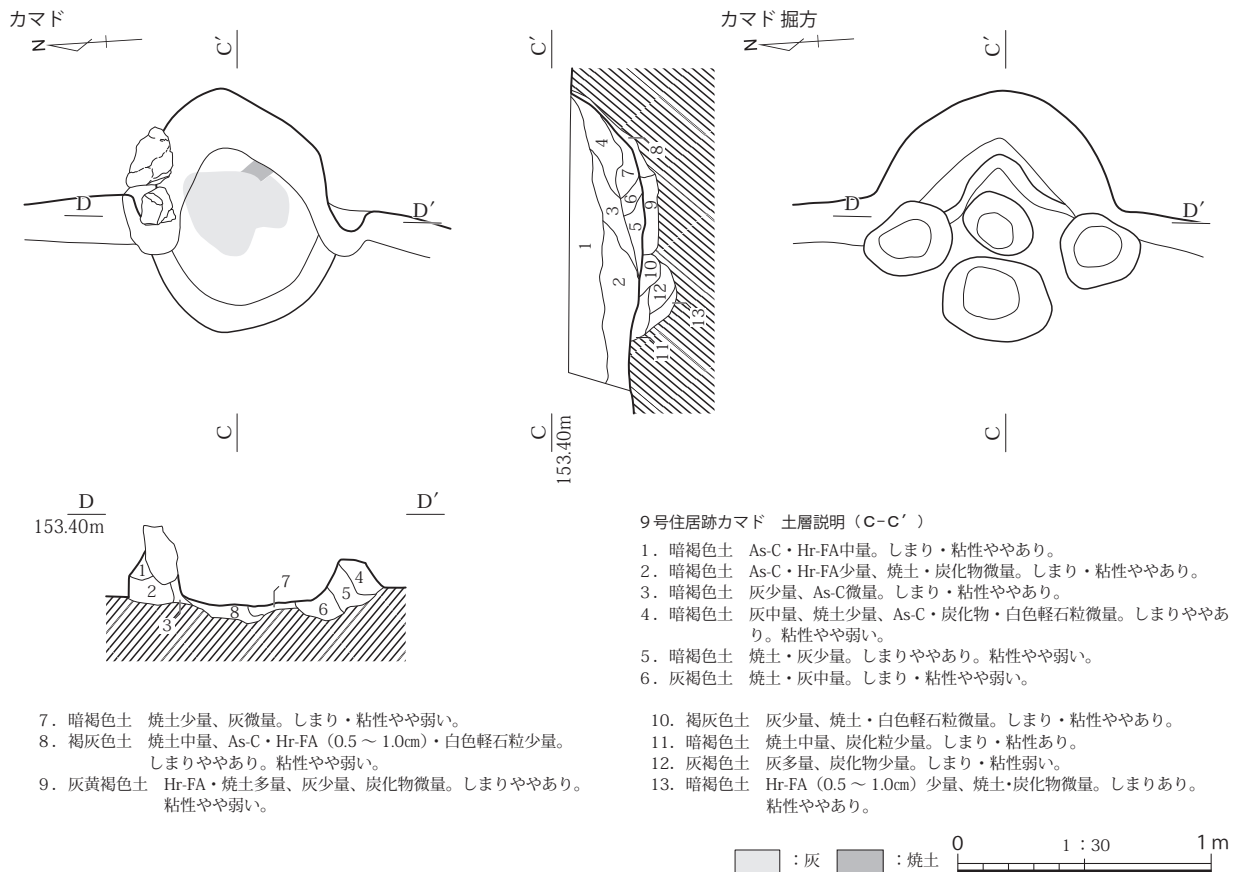
9号住居跡 (第 29～32 図/第 13 表/図版 4・16)



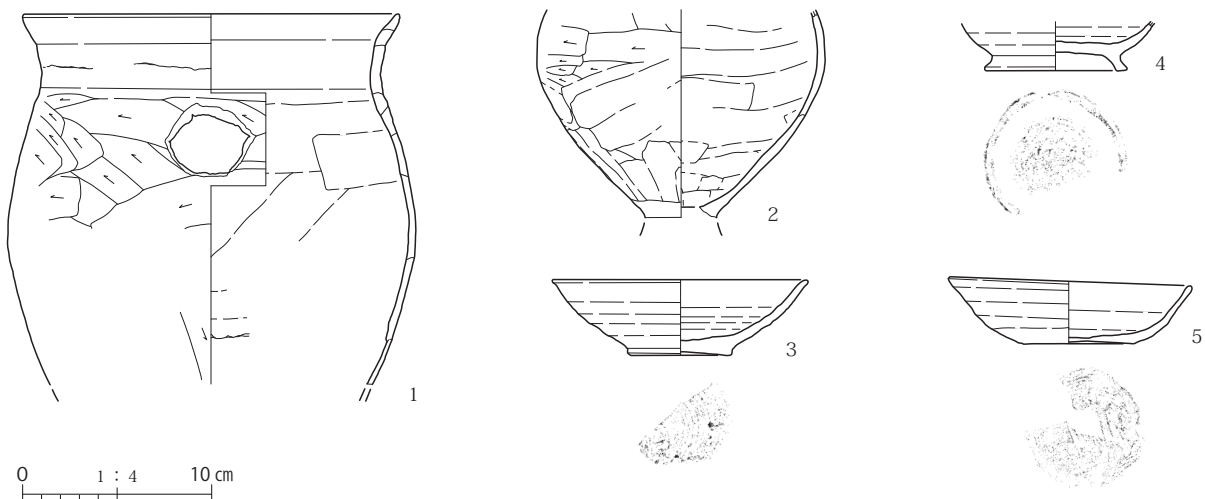
第 29 図 9号住居跡遺構図 (1)



X=47304~47307、Y=-72567~-72572に位置する。4号溝、8・11号土坑、P-23・24と重複し、先後関係は4号溝、P-23→9号住居跡、11号土坑→8号土坑、P-24と考えられる。規模は、東西4.11m、南北3.60mの長方形基調。西壁南側に張り出し部を持つ。その範囲内から11号土坑が確認され、本遺構に伴う可能性が考えられる。主軸方位は、N-92°-E。壁高は0.33m程度で、壁面はやや急に立ち上がる。床は地山硬化床で、中央部でやや顕著なしまりが確認された。埋土はHr-FA・白色軽石粒を含む暗褐色土である。カマドは東壁中央よりやや南寄りに付設される。全長0.96m、燃烧部幅0.54m、壁外長0.40m。構築部材として左壁面に安山岩、左袖部には長方形に加工された角閃石安山岩が据えられていた。右袖部では確認されなかったが、掘方から袖石が据えられていたと考えられる掘り込みが検出された。内壁は被熱による赤変が認められた。火床面にはHr-FAを含む灰が堆積していた。貯蔵穴と考えられる土坑1基(土坑1)が検出された。規

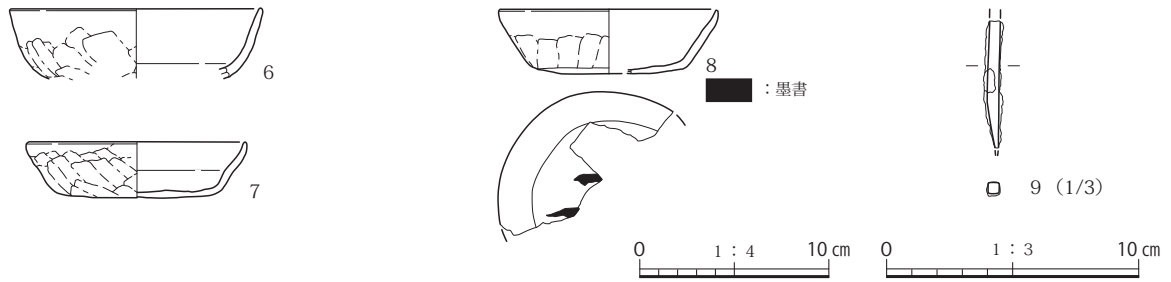


第30図 9号住居跡遺構図(2)



第31図 9号住居跡遺物実測図(1)

横は0.69×0.61mの不整楕円形で、深さ0.21m。出土遺物は土師器（坏・台付甕・甕）、須恵器（坏・高台付碗・蓋・壺・甕）、鉄製品（釘カ）である。

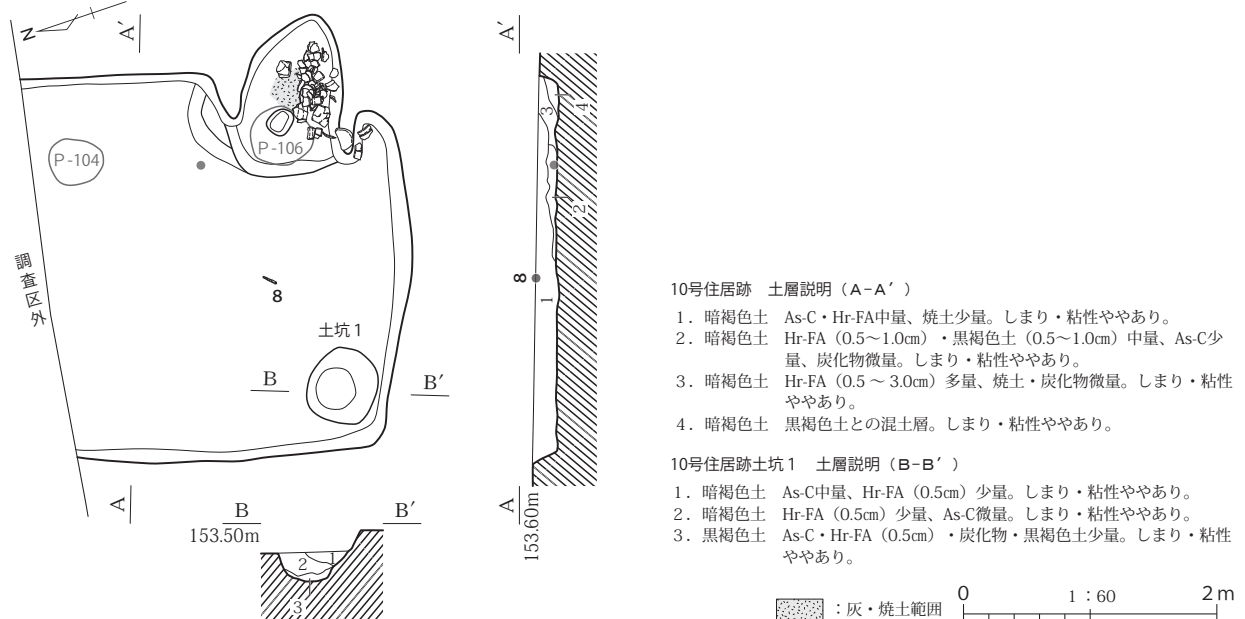


第32図 9号住居跡遺物実測図（2）

第13表 9号住居跡遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考
1	土師器 甕	口径：(20.0) 底径：— 器高：〈19.6〉	口縁部～ 胴部上半	外面：にぶい赤 褐 内面：赤褐	黒色粒・チ ャート・石 英	酸化焰	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	胴部上位焼成後 穿孔あり。
2	土師器 台付甕	口径：— 底径：— 器高：〈11.0〉	胴部 3/5	外面：褐 内面：にぶい赤 褐	片岩粒・黒 色粒・チ ャート	酸化焰	外面：胴部ヘラケズリ→ヘラナデ。 内面：胴部ヘラナデ。	
3	須恵器 坏	口径：(13.6) 底径：(5.2) 器高：4.0	1/3	外面：灰 内面：灰オリ ーブ	片岩粒・赤 褐色粒・白 色粒	還元焰	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ。	
4	須恵器 高台付碗	口径：— 底径：7.6 器高：〈2.7〉	体部下半～ 底部 3/4	外面：褐灰 内面：褐灰	石英・黒色 粒・チ ャート	還元焰	外面：体部～高台部回転ナデ、底部回転糸切り→高台貼 付。 内面：体部～底部回転ナデ。	外面底部ヘラ記 号「×」カ。
5	須恵器 坏	口径：13.2 底径：6.1 器高：3.3	4/5	外面：灰白 内面：灰白	黒色粒・白 色粒・チ ャート	還元焰	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ。	
6	土師器 坏	口径：(13.4) 底径：— 器高：〈3.7〉	口縁部～ 体部 1/2	外面：明赤褐 内面：明赤褐	黒色鉱物・ 白色粒	酸化焰	外面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。 内面：口縁部～体部ヘラナデ。	
7	土師器 坏	口径：(11.2) 底径：8.0 器高：3.0	1/2	外面：にぶい褐 内面：褐	角閃石・黒 色粒・褐色 粒	酸化焰	外面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ・指頭圧痕、底部ヘ ラケズリ。 内面：口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	
8	土師器 坏	口径：(11.6) 底径：(8.2) 器高：〈3.4〉	1/2	外面：明赤褐 内面：明赤褐	黒色粒・白 色粒・褐色 粒	酸化焰	外面：口縁部ヨコナデ→体部ナデ、底部ヘラケズリ。 内面：口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。	外面底部墨書あ り。
No.	器種	法量 (cm・g)						備考
9	鉄製品 釘カ	長さ：〈5.0〉 幅：0.5 厚さ：0.4 重さ：3.76。						

10号住居跡（第33～35図／第14表／図版5・16）



10号住居跡 土層説明 (A-A')

1. 暗褐色土 As-C・Hr-FA中量、焼土少量。しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 Hr-FA (0.5～1.0cm)・黒褐色土 (0.5～1.0cm) 中量、As-C少  
量、炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
3. 暗褐色土 Hr-FA (0.5～3.0cm) 多量、焼土・炭化物微量。しまり・粘性  
ややあり。
4. 暗褐色土 黒褐色土との混土層。しまり・粘性ややあり。

10号住居跡土坑1 土層説明 (B-B')

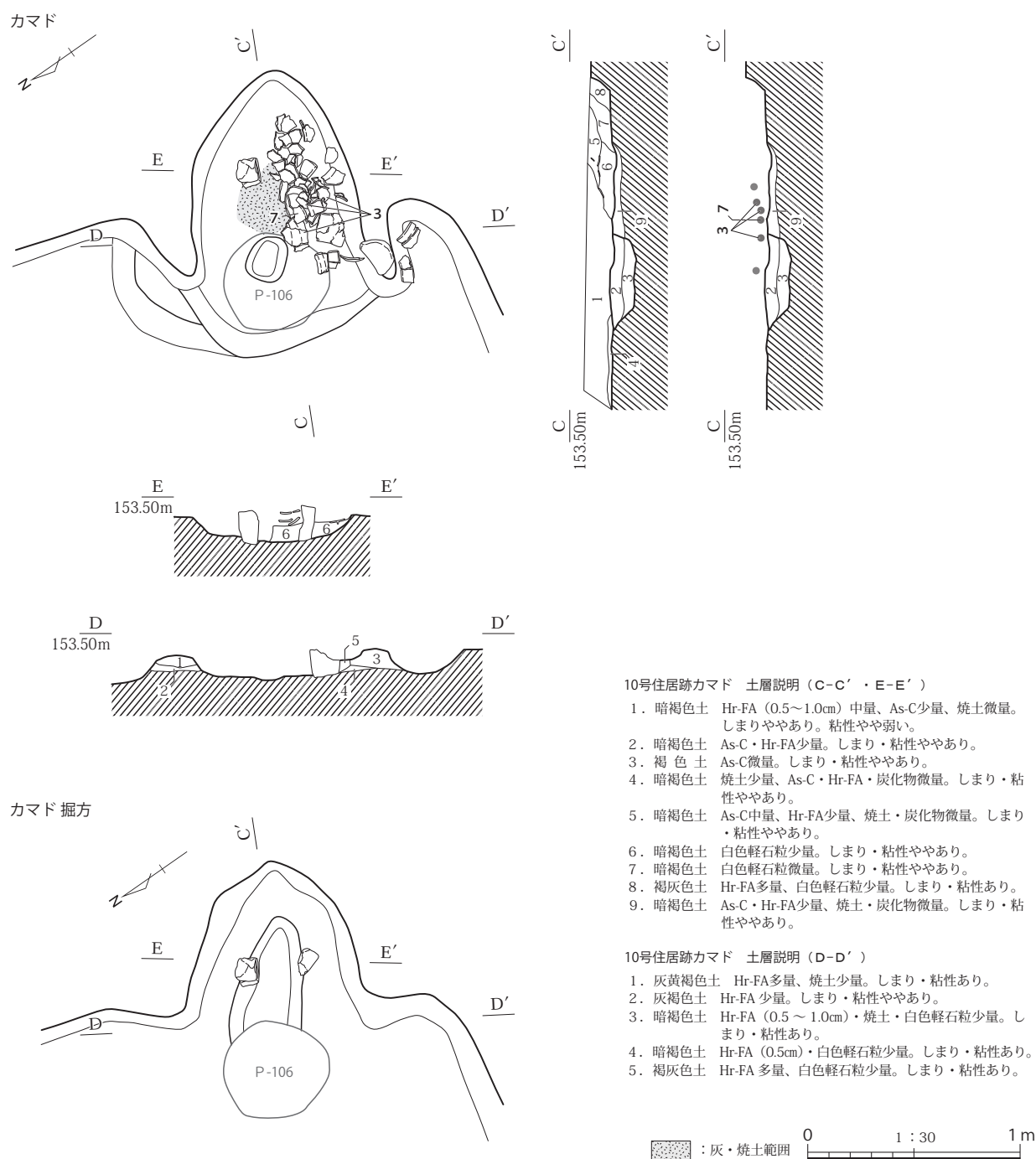
1. 暗褐色土 As-C中量、Hr-FA (0.5cm) 少量。しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 Hr-FA (0.5cm) 少量、As-C微量。しまり・粘性ややあり。
3. 黒褐色土 As-C・Hr-FA (0.5cm)・炭化物・黒褐色土少量。しまり・粘性  
ややあり。

：灰・焼土範囲 0 1 : 60 2m

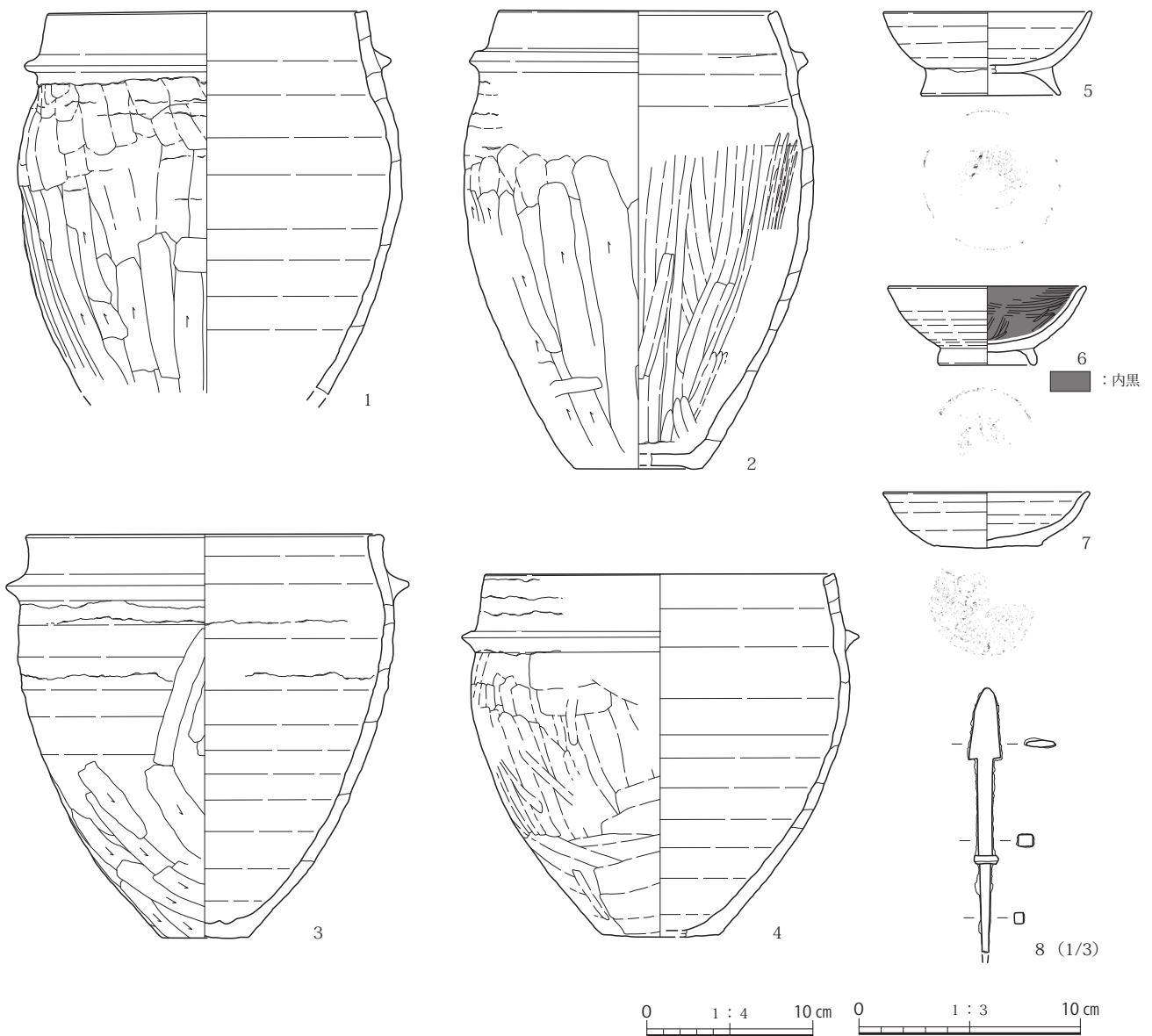
第33図 10号住居跡遺構図（1）



X = 47310 ~ 47312、Y = - 72567 ~ - 72571 に位置する。1号掘立柱建物跡（P-104・106）と重複し、先後関係は本遺構の方が新しいと考えられる。北側は調査区外である。規模は、東西〈3.10〉m、南北〈3.06〉mの長方形基調。主軸方位は、N-98°-E。壁高は0.18m程度で、壁面はやや急に立ち上がる。床は地山硬化床で、しまりが確認された。埋土はHr-F A・白色軽石粒・焼土・炭化物を含む暗褐色土である。カマドは東壁南寄りに付設される。全長1.32m、燃烧部幅0.69m、壁外長0.65m。構築部材として、右袖部には長方形に加工された凝灰岩が据えられていた。燃烧部内には長方形に加工された凝灰岩製の支脚2本が直立した状態で検出された。内壁は被熱による赤変が認められた。火床面には被熱し焼土化したHr-F Aが堆積していた。貯蔵穴と考えられる土坑1基（土坑1）が検出された。規模は0.59×0.54mの不整楕円形で、深さ0.26m。出土遺物は縄文土器（深鉢）、土師器（坏）、須恵器（坏・高台付碗・羽釜）、鉄製品（鉄鎌）である。カマド南半側の埋土内から羽釜などの破片がやや集中して出土した。



第34図 10号住居跡遺構図(2)



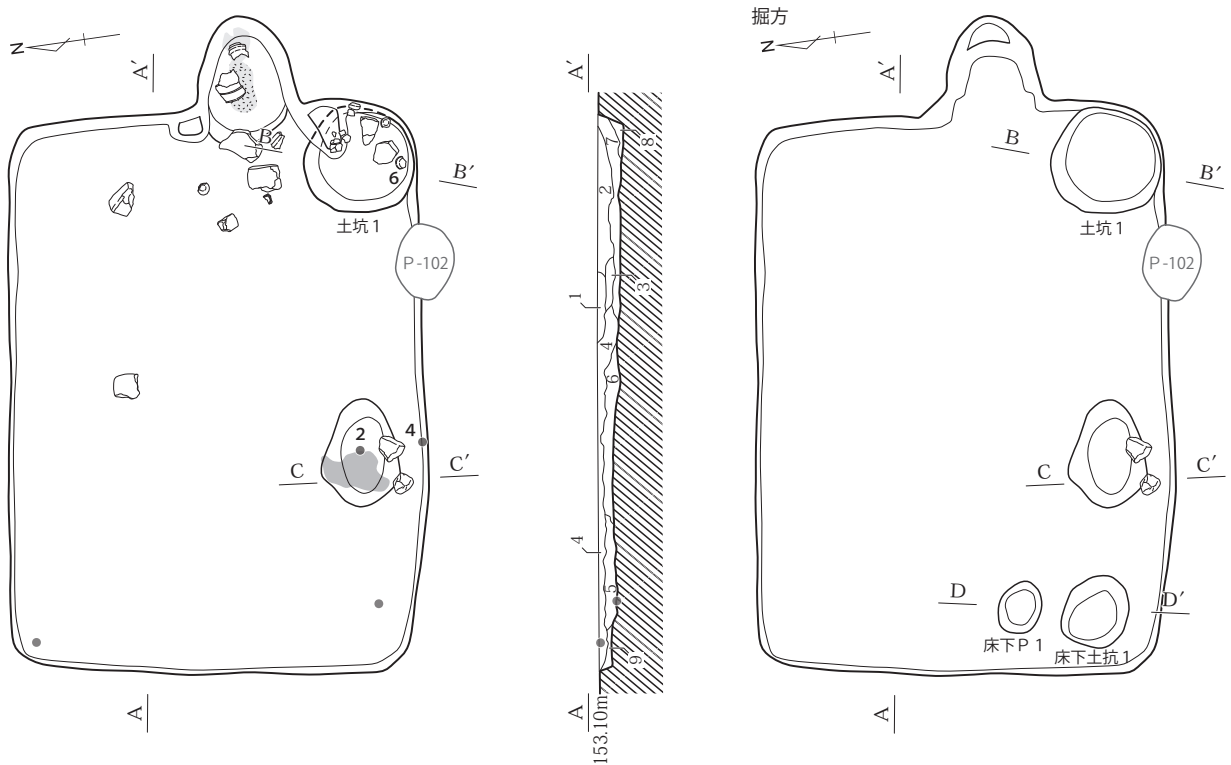
第 35 図 10 号住居跡遺物実測図

第 14 表 10 号住居跡遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考
1	須恵器 羽釜	口径：19.2 底径：— 器高：<23.0>	口縁部～ 胴部 5/6	外面：にぶい黄 褐色 内面：灰黄褐	チャート・ 白色粒・黒 色粒	酸化焰	外面：口縁部～胴部回転ナデ→胴部ヘラケズリ後上半ヘラ ナデ。 内面：口縁部～胴部回転ナデ。	
2	須恵器 羽釜	口径：(16.8) 底径：(7.8) 器高：27.6	1/3	外面：にぶい黄 褐色 内面：にぶ い黄橙	チャート・ 片岩粒・白 色粒	酸化焰	外面：口縁部～胴部回転ナデ→胴部下半ヘラケズリ、底部 ナデ。 内面：口縁部～胴部回転ナデ→胴部～底部ナデ。	
3	須恵器 羽釜	口径：(21.5) 底径：5.2 器高：24.4	1/3	外面：にぶい黄 橙 内面：明赤 褐	チャート・ 褐色粒・白 色粒	酸化焰	外面：口縁部～胴部回転ナデ→胴部ヘラケズリ→ヘラナデ、 底部ナデ。 内面：口縁部～底部回転ナデ。	
4	須恵器 羽釜	口径：(21.2) 底径：(7.2) 器高：21.9	1/4	外面：灰黄褐 内面：黄灰	白色粒・チ ャート・石 英	還元焰	外面：口縁部～胴部回転ナデ→胴部ヘラナデ、底部ナデ。 内面：口縁部～胴部回転ナデ、底部ナデ。	外面胴部粘土付 着。
5	須恵器 高台付埴	口径：12.6 底径：8.5 器高：5.0	4/5	外面：にぶい黄 橙 内面：にぶ い橙	褐色粒・黒 色粒・白 色粒	酸化焰	外面：口縁部～高台部回転ナデ、底部回転糸切り→高台貼 付。 内面：口縁部～底部回転ナデ。	
6	須恵器 高台付埴	口径：12.0 底径：6.0 器高：4.8	1/4	外面：にぶい橙 内面：暗灰	褐色粒・黒 色粒・透明 粒	酸化焰	外面：口縁部～高台部回転ナデ、底部回転糸切り→高台貼 付。 内面：口縁部～底部回転ナデ→口縁部～体部暗文。	内面黒色処理。
7	須恵器 坏	口径：12.4 底径：6.5 器高：3.4	1/2	外面：浅黄橙 内面：浅黄橙	褐色粒・黒 色粒・白色 粒	酸化焰	外面：口縁部～底部回転ナデ、底部回転糸切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ。煤附着。	
No.	器種	法量 (cm・g)						備考
8	鉄製品 鉄鏃	【鏃身部】長さ：3.2 幅：1.5 厚さ：0.3 【頸部】長さ：4.7 幅：0.7 厚さ：0.5 【茎部】長さ：<4.0> 幅：0.4 厚 さ：0.5 重さ：16.35。						

11号住居跡（第36～38図／第15・16表／図版5・16）

X=47293～47297、Y=-72562～-72567に位置する。4（b）・6号溝、P-102と重複し、先後関係は4（b）・6号溝→11号住居跡→P-102と考えられる。規模は、東西4.56m、南北3.35mの長方形。主軸方位は、N-98°-E。壁高は0.18m程度で、壁面はやや急に立ち上がる。床はAs-C・Hr-FA・暗褐色土による貼床を施し、しまりが確認された。埋土はHr-FA・白色軽石粒・焼土・炭化物を含む暗褐色土である。カマドは東壁中央寄りに付設される。全長1.03m、燃烧部幅0.61m、壁外長0.67m。カマド前面～中央部の埋土内から構築部材と考えられる安山岩や被熱の痕跡が著しい凝灰岩などが検出された。内壁は被熱による赤変が認められた。火床面には灰・焼土がやや厚く堆積していた。この他、南壁下中央寄りからカマド構築部材の安山岩2点が並んだ状態で検出され、その前面には羽釜（No.2）と共に灰・焼土の堆積が確認された。規模等からカマドとは言い難いが、火の使用を伴う付帯施設であったと考えられる。一部がカマドの右袖部分と被るが、貯蔵穴と考えられる土坑1基（土坑1）が検出された。規模は0.87×0.83mの不整楕円形で、深さ0.25m。床下から土坑1基（床下土坑1）、ピット1基（床下P1）が検出された。床下土坑1の規模は0.58×0.50mの不整形で、深さ0.31m。床下P1の規模は0.42×0.33mの不整長楕円形で、深さ0.28m。出土遺物は土師器（坏・甕）、須恵器（坏・蓋・高台付坏・高台付埴・羽釜・甑）、灰釉陶器（坏・碗・高台付碗）である。カマド右袖部脇から南東隅の範囲において、須恵器（坏・高台付埴・高台付坏・羽釜）、カマド構築部材と考えられる安山岩などがやや集中して出土した。

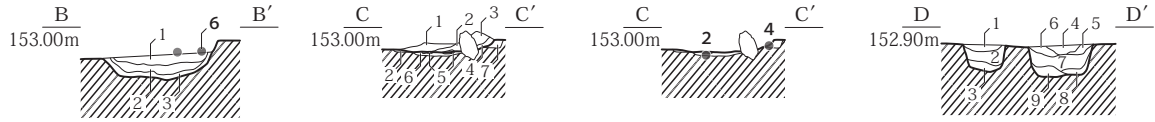


11号住居跡 土層説明（A-A'）

- |  |   |
|--|---|
| 1. 暗褐色土 As-C・Hr-FA・炭化物・灰微量。しまり・粘性ややあり。                   | 6. 暗褐色土 礫含む。Hr-FA (0.5～1.0cm) 多量、As-C中量、炭化物微量。しまり・粘性ややあり。 |
| 2. 暗褐色土 Hr-FA多量、As-C少量、焼土・炭化物微量。しまりややあり。粘性やや弱い。          | 7. 灰褐色土 灰含む。Hr-FA少量、As-C・焼土・炭化物微量。しまり・粘性ややあり。             |
| 3. 灰褐色土 灰多量、炭化物少量、As-C・Hr-FA微量。しまりややあり。粘性やや弱い。           | 8. 黒褐色土 Hr-FA中量、As-C・焼土・炭化物微量。しまり・粘性ややあり。                 |
| 4. 褐灰色土 Hr-FA (0.5～1.0cm) 多量、As-C・炭化物少量、焼土微量。しまり・粘性ややあり。 | 9. 暗褐色土 Hr-FA (0.5～3.0cm) 少量、As-C微量。しまり・粘性ややあり。           |
| 5. 黒褐色土 Hr-FA (0.5～1.0cm) ・炭化物少量、白色軽石粒微量。しまり             |   |

□ : 灰    □ : 灰・焼土範囲    □ : 焼土    0    1 : 60    2m

第36図 11号住居跡遺構図（1）



11号住居跡土坑1 土層説明 (B-B')

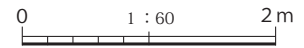
1. 褐灰色土 Hr-FA (0.5~2.0cm) 多量、白色軽石粒少量。しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 Hr-FA (0.5~5.0cm) 多量、白色軽石粒少量。しまり・粘性ややあり。
3. 暗褐色土 Hr-FA中量、白色軽石粒少量。しまり・粘性ややあり。

11号住居跡 土層説明 (C-C')

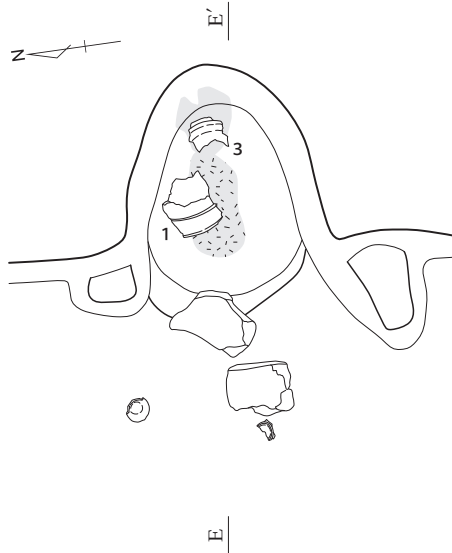
1. 暗褐色土 Hr-FA中量、焼土(0.5cm)少量。灰含む。しまり・粘性ややあり。
2. 明赤褐色土 焼土主体。しまりやや弱い。粘性弱い。
3. 暗褐色土 As-C・Hr-FA少量。しまり・粘性ややあり。
4. 暗褐色土 Hr-FA中量、As-C少量。しまり・粘性ややあり。
5. 黄灰色土 灰主体。しまり・粘性弱い。
6. 暗褐色土 焼土・灰・黒褐色土少量、炭化物微量。しまり・粘性やや弱い。
7. 褐灰色土 Hr-FA中量、As-C・黒褐色土少量。しまり・粘性ややあり。

11号住居跡床下土坑1・床下P1 土層説明 (D-D')

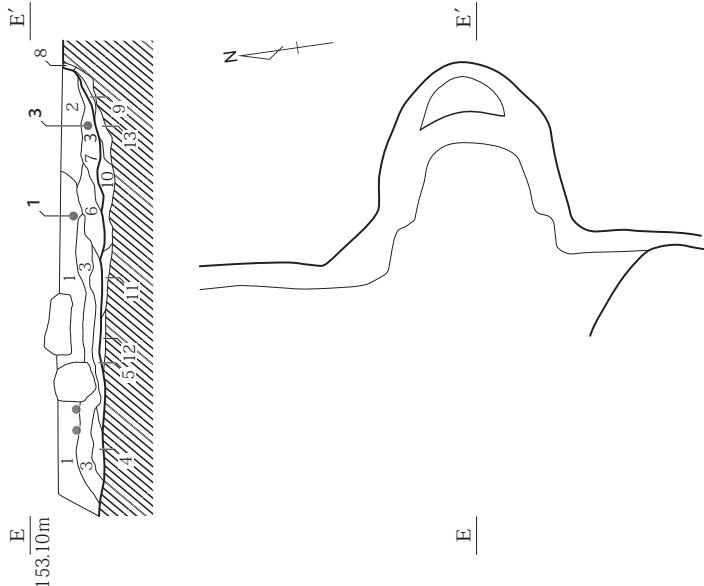
1. 暗褐色土 白色軽石粒・黄褐色粒少量。しまりあり。粘性ややあり。
2. 暗褐色土 白色軽石粒中量、黄褐色粒少量。しまり・粘性ややあり。
3. 黒褐色土 白色軽石粒・黄褐色粒・礫(0.5~2.0cm)微量。しまり・粘性あり。
4. 褐灰色土 白色軽石粒・黄褐色粒少量。しまり・粘性ややあり。
5. 暗褐色土 Hr-FA・黄褐色粒中量、白色軽石粒少量。しまり・粘性あり。
6. 褐灰色土 Hr-FA多量、白色軽石粒・黄褐色粒中量。しまり・粘性ややあり。
7. 暗褐色土 Hr-FA・黄褐色粒少量、白色軽石粒・礫(0.5~2.0cm)微量。しまりあり。粘性ややあり。
8. 黒褐色土 白色軽石粒・黄褐色粒微量。しまりあり。粘性ややあり。
9. 黒褐色土 白色軽石粒微量。しまりあり。粘性ややあり。



カマド



カマド掘方



11号住居跡カマド 土層説明 (E-E')

1. 褐灰色土 As-C・Hr-FA中量、炭化物少量。しまり・粘性ややあり。
2. 明赤褐色土 焼土多量、灰少量、As-C・Hr-FA・炭化物微量。しまりややあり。粘性やや弱い。
3. 暗褐色土 炭化物中量、As-C・焼土微量。しまり・粘性ややあり。
4. 暗褐色土 As-C少量、炭化物・砂礫微量。しまり・粘性ややあり。
5. 暗褐色土 As-C・焼土少量、Hr-FA・炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
6. 灰褐色土 焼土・灰中量、As-C・Hr-FA・炭化物少量。しまりややあり。粘性やや弱い。
7. 灰褐色土 灰主体。焼土中量。しまり・粘性弱い。

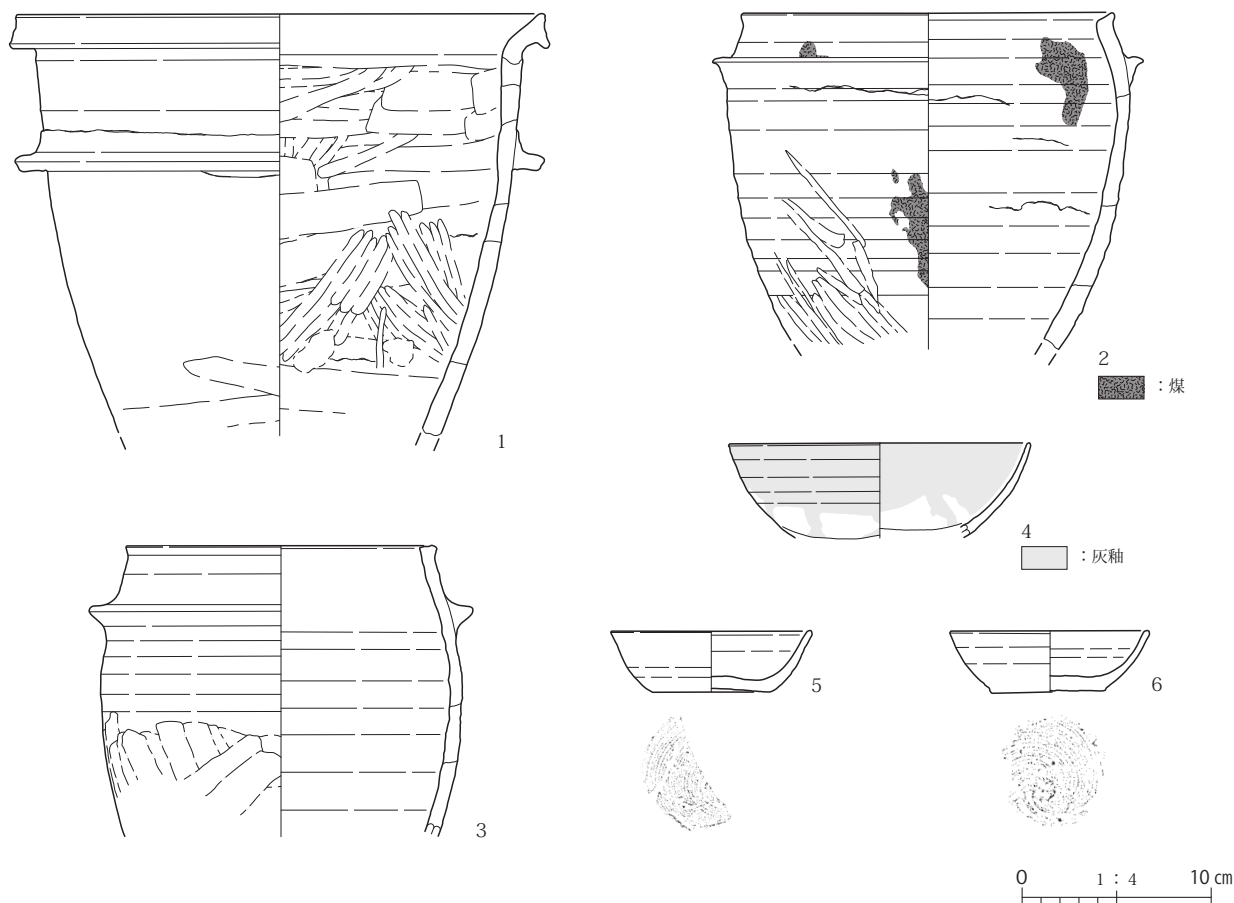
8. 褐灰色土 Hr-FA多量、焼土少量。しまり・粘性弱い。
9. 褐灰色土 Hr-FA(0.5~2.0cm)少量、黒褐色土少量、焼土微量。しまり・粘性ややあり。
10. 暗褐色土 Hr-FA(0.5cm)多量、焼土中量、As-C少量。しまり・粘性ややあり。
11. 暗褐色土 Hr-FA・白色軽石粒中量、As-C少量、焼土(0.5~2.0cm)微量。しまり・粘性ややあり。
12. 褐灰色土 Hr-FA多量、As-C微量。しまり・粘性ややあり。
13. 黒褐色土 焼土少量。しまりあり。粘性ややあり。



第37図 11号住居跡遺構図(2)

第15表 11号住居跡遺物観察表(1)

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考
1	須恵器 甕	口径:(28.0) 底径:— 器高:<22.3>	口縁部~ 胴部 1/5	外面:にぶい黄 橙 内面:にぶ い黄	黒色鉱物・ チャート・ 石英	酸化焼	外面:口縁部~胴部回転ナデ→胴部下位ヘラナデ。 内面:口縁部~胴部回転ナデ→胴部ヘラナデ・指頭圧痕。	
2	須恵器 羽釜	口径:(19.7) 底径:— 器高:<17.8>	口縁部~ 胴部 1/2	外面:にぶい黄 橙 内面:にぶ い黄橙	黒色鉱物・ チャート・ 石英	酸化焼	外面:口縁部~胴部回転ナデ→胴部下位ナデ。 内面:口縁部~胴部回転ナデ。	内外面煤付着。
3	須恵器 羽釜	口径:(16.4) 底径:— 器高:<15.4>	口縁部~ 胴部片	外面:明赤褐 内面:にぶい黄 褐	褐色粒・黒 色粒・白色 粒	還元焼	外面:口縁部~胴部回転ナデ→胴部下位ヘラナデ。 内面:口縁部~胴部回転ナデ。	
4	灰釉陶器 坏	口径:(16.0) 底径:— 器高:<5.0>	口縁部~ 体部 1/4	外面:灰黄 内面:灰白	白色粒	堅緻	外面:口縁部~体部回転ナデ。口縁部ハケナリ。釉調灰オ リーブ。 内面:口縁部~体部回転ナデ。口縁部ハケナリ。釉調灰オ リーブ。	



第 38 図 11 号住居跡遺物実測図

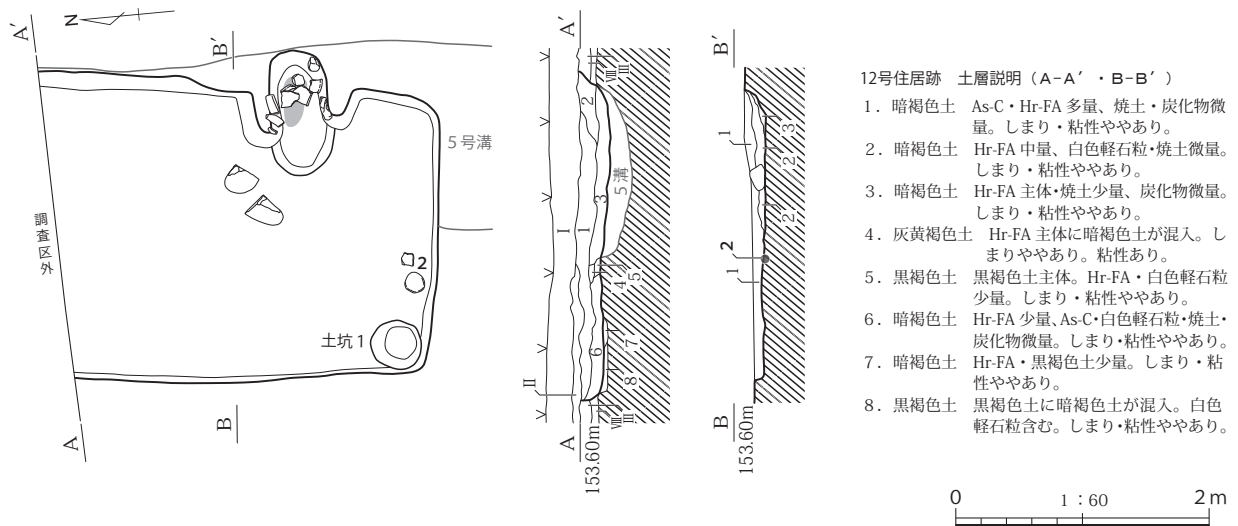
第 16 表 11 号住居跡遺物観察表 (2)

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考
5	須恵器 坏	口径：(10.7) 底径：(6.2) 器高：3.2	1/6	外面：にぶい黄 橙 内面：にぶ い橙	黒色粒・褐 色粒・白色 粒	酸化焰	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ。	
6	須恵器 坏	口径：10.6 底径：6.0 器高：3.3	3/5	外面：浅黄 内面：褐	黒色鉱物・ 褐色粒・石 英	酸化焰	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ。	

12 号住居跡 (第 39・40 図/第 17 表/図版 6・17)

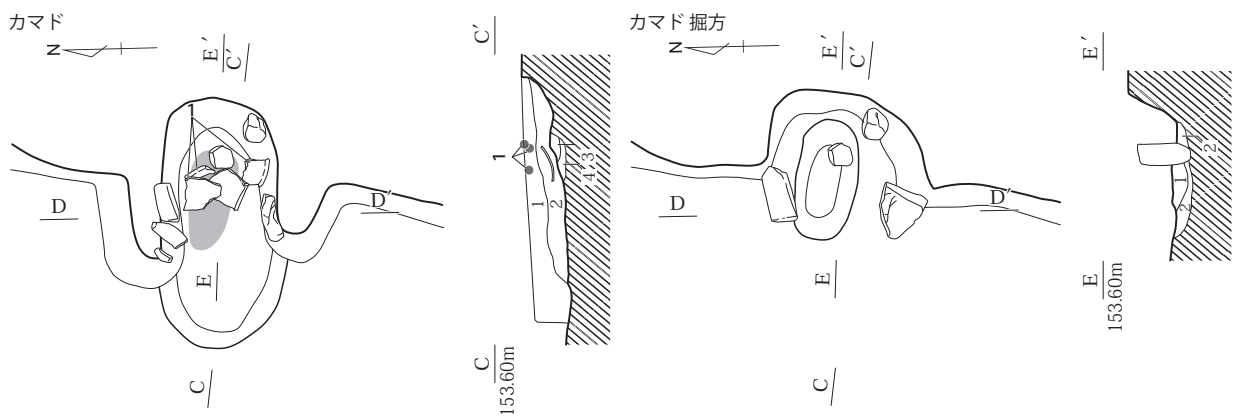
X=47309~47312、Y=-72560~-72563に位置する。5号溝と重複し、先後関係は本遺構の方が新しいと考えられる。北側は調査区外である。規模は、東西2.42m、南北〈3.23〉mの長方形基調。主軸方位は、N-97°-E。壁高は0.15m程度で、壁面はやや急に立ち上がる。床は地山硬化床で、しまりが確認された。埋土はHr-FA・白色軽石粒・焼土・炭化物を含む暗褐色土である。カマドは東壁やや南寄りに付設される。全長0.99m、燃烧部幅0.32m、壁外長0.28m。構築部材として、壁面には両側面が平坦に加工された凝灰岩、左袖部には長形状に加工された凝灰岩と右袖部には安山岩が据えられていた。燃烧部内には長形状に加工された凝灰岩製の支脚が直立した状態で検出された。内壁は被熱による焼土化がやや認められた。貯蔵穴の可能性が考えられる土坑1基(土坑1)が検出された。規模は0.40×0.37mの不整円形で、深さ0.16m。出土遺物は土師器(甕)、須恵器(坏・壺・羽釜・甑)、土師質土器(土釜)、石器・石製品(砥石・敲石)である。カマド埋土内から土師器・甕が出土した。





12号住居跡 土層説明 (A-A'・B-B')

1. 暗褐色土 As-C・Hr-FA 多量、焼土・炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 Hr-FA 中量、白色軽石粒・焼土微量。しまり・粘性ややあり。
3. 暗褐色土 Hr-FA 主体・焼土少量、炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
4. 灰黄褐色土 Hr-FA 主体に暗褐色土が混入。しまりややあり。粘性あり。
5. 黒褐色土 黒褐色土主体。Hr-FA・白色軽石粒少量。しまり・粘性ややあり。
6. 暗褐色土 Hr-FA 少量、As-C・白色軽石粒・焼土・炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
7. 暗褐色土 Hr-FA・黒褐色土少量。しまり・粘性ややあり。
8. 黒褐色土 黒褐色土に暗褐色土が混入。白色軽石粒含む。しまり・粘性ややあり。



12号住居跡カマド 土層説明 (C-C')

1. 暗褐色土 As-C・Hr-FA 少量、炭化物微量。砂礫含む。しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 焼土中量、炭化物少量。As-C微量。しまり・粘性ややあり。
3. 暗褐色土 焼土・炭化物少量。しまり・粘性ややあり。
4. 黒褐色土 白色軽石粒少量、焼土微量。しまり・粘性ややあり。

12号住居跡カマド 土層説明 (E-E')

1. 褐灰色土 焼土多量、Hr-FA・炭化物少量、灰微量。しまりややあり。粘性やや弱い。
2. 黒褐色土 焼土・炭化物微量。しまりややあり。粘性やや弱い。

12号住居跡カマド 土層説明 (D-D')

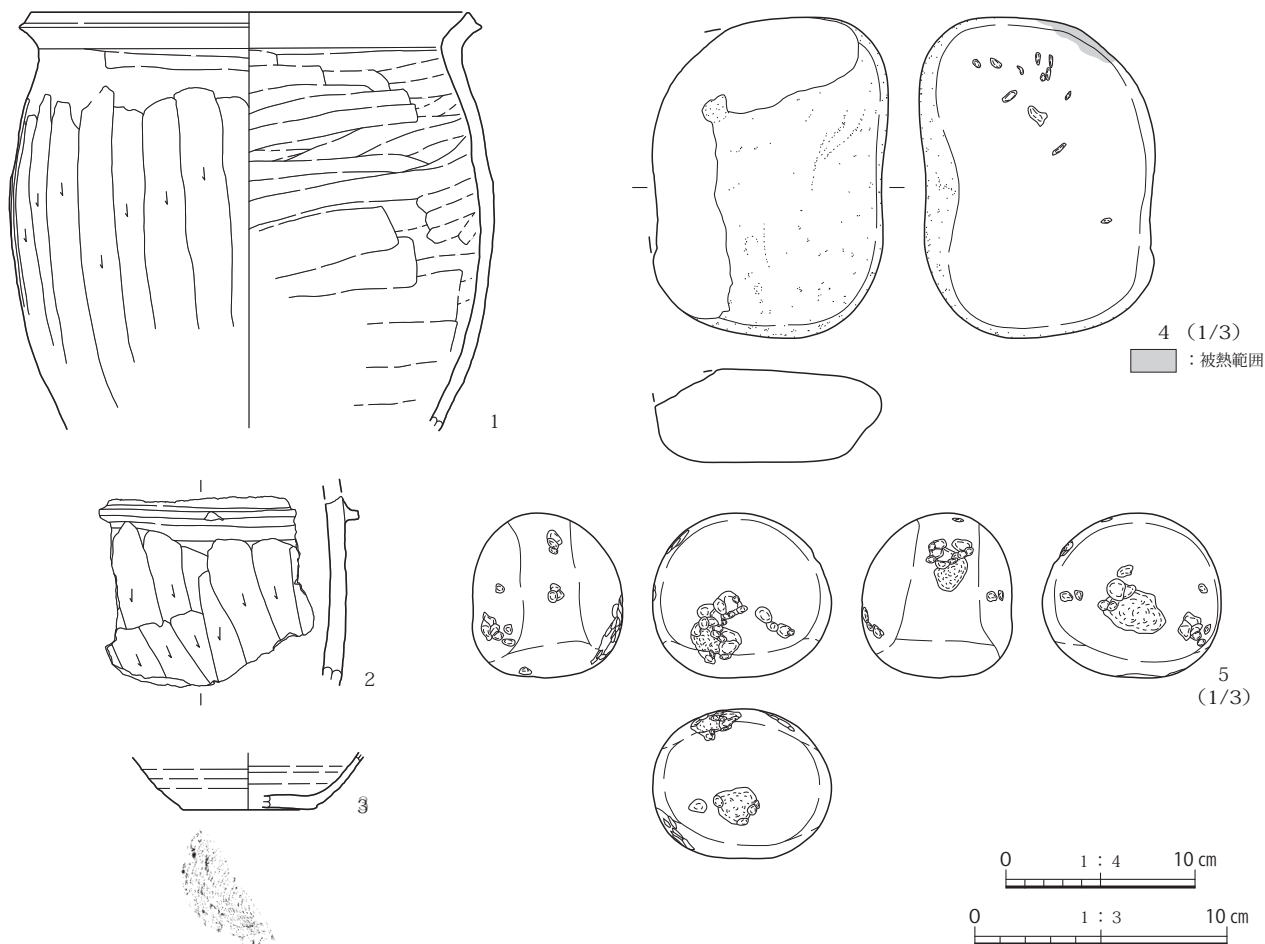
1. 暗褐色土 Hr-FA (0.5cm)・焼土少量、As-C・白色軽石粒微量。しまり・粘性あり。
2. 暗褐色土 焼土・炭化物少量、Hr-FA微量。しまり・粘性あり。
3. 暗褐色土 黒褐色土少量、As-C・Hr-FA・炭化物微量。しまり・粘性あり。
4. 暗褐色土 Hr-FA・焼土・炭化物微量。しまり・粘性あり。
5. 暗褐色土 Hr-FA少量、As-C・炭化物微量。しまり・粘性あり。

第 39 図 12 号住居跡遺構図

第 17 表 12 号住居跡遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考
1	土師質土器 土釜	口径：(24.4) 底径：— 器高：(22.0)	口縁部～ 胴部 1/4	外面：明赤褐 内面：にぶい褐	黒色鉱物・ 褐色粒・白 色粒	酸化焙	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	
2	須恵器 甌	口径：— 底径：— 器高：—	胴部片	外面：にぶい赤 褐 内面：灰褐	白色粒・黒 色粒・透明 粒	酸化焙	外面：胴部ヘラケズリ。 内面：胴部ヘラナデ。	
3	須恵器 坏	口径：— 底径：(7.2) 器高：(3.0)	体部下半～ 底部 1/4	外面：灰白 内面：灰白	白色粒・黒 色粒	還元焙	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り。 内面：体部回転ナデ。	
重さ / 石材 / 成整形の特徴等								
4	石製品 砥石	長さ：12.73 幅：(9.36) 厚さ：3.71	3/4	重さ：725.23g。石材：流紋岩。扁平礫の一面に顕著な磨耗痕が認められ、一部に敲打痕が認められる。被熱による破砕あり。				
5	石製品 敲石	長さ：6.54 幅：7.09 厚さ：5.96	ほぼ完形	重さ：409.00g。石材：閃緑岩。小型球状。全体に磨耗しており、各面の一部に敲打痕が認められる。				

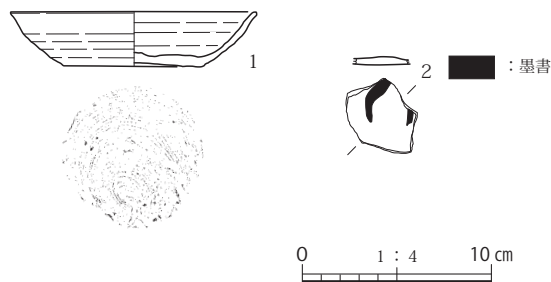




第40図 12号住居跡遺物実測図

13号住居跡 (第41・42図/第18表/図版6・17)

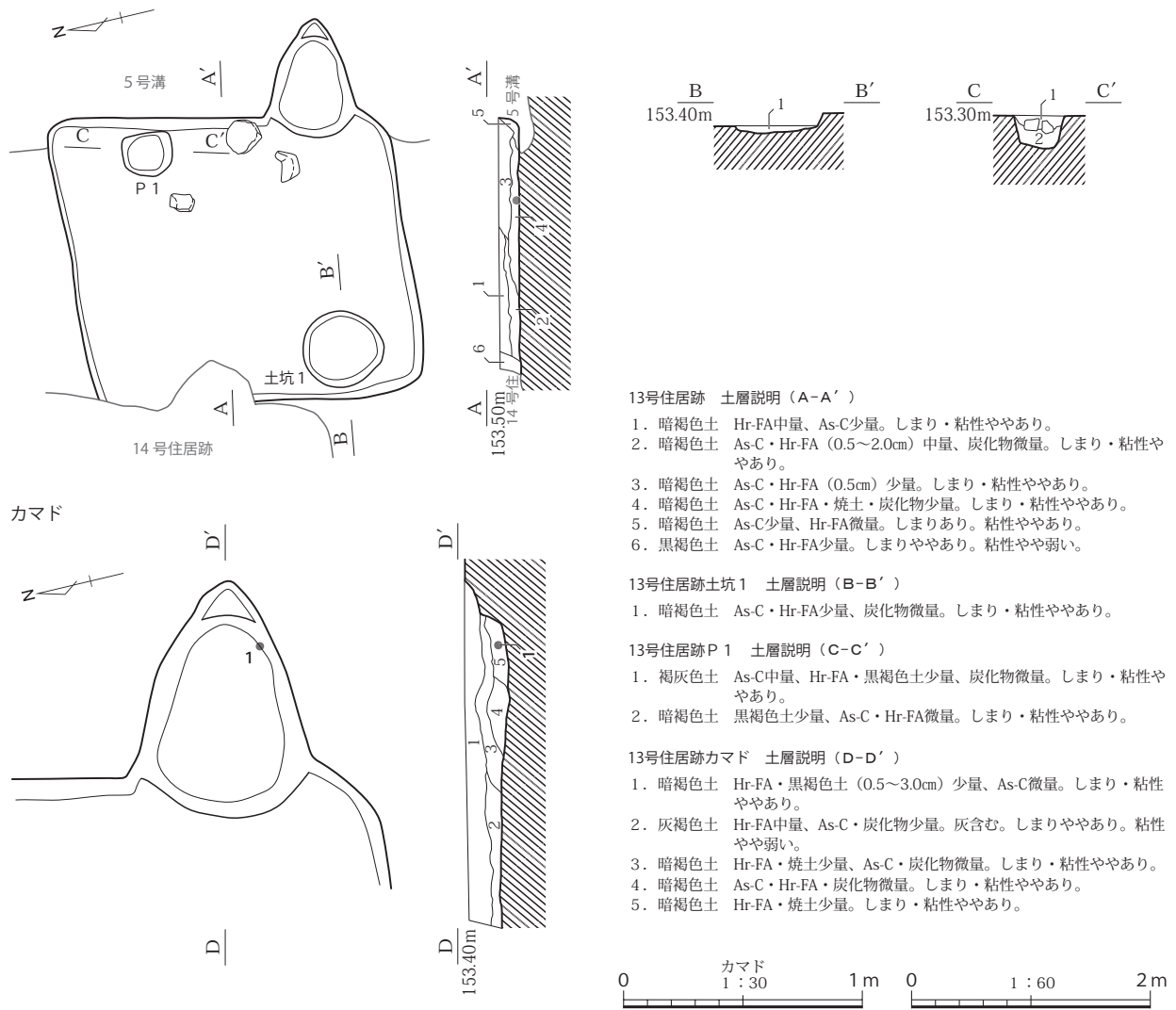
X=47306~47309、Y=-72561~-72564に位置する。14号住居跡、5号溝と重複し、先後関係は5号溝→13号住居跡→14号住居跡と考えられる。規模は、東西2.41m、南北2.86mの長方形基調。主軸方位は、N-98°-E。壁高は0.19m程度で、壁面はやや急に立ち上がる。床は地山硬化床で、しまりが確認された。埋土はAs-C・Hr-FA・白色軽石粒・焼土・炭化物を含む暗褐色土である。カマドは東壁南寄りに付設される。全長1.00m、燃烧部幅0.53m、壁外長0.78m。カマド前面には構築部材と考えられる被熱した安山岩が検出された。貯蔵穴の可能性が考えられる土坑1基(土坑1)が検出された。規模は0.67×0.64mの不整形円で、深さ0.06m。柱穴は確認されなかったが、ピット1基(P1)が検出された。規模は0.42×0.37mの不整形で、深さ0.25m。出土遺物は土師器(坏・甕)、須恵器(坏・高台付碗・甕・壺)である。カマド埋土内から墨書のある土師器・坏が出土した。



第41図 13号住居跡遺物実測図

第18表 13号住居跡遺物観察表

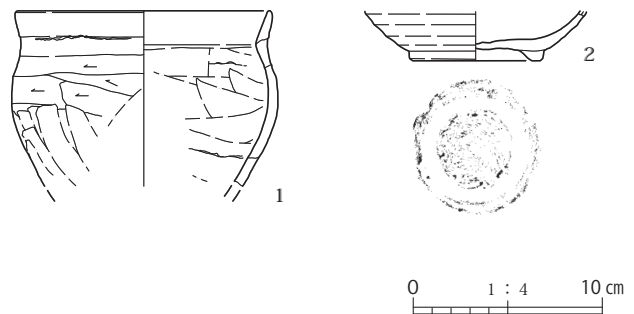
No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	口径：13.0 底径：7.4 器高：2.9	3/5	外面：灰白 内面：灰白	白色粒・黒色粒	還元焰	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ。	
2	土師器 坏	口径：— 底径：— 器高：—	1/6	外面：橙 内面：橙	片岩粒・赤褐色粒・白色粒	酸化焰	外面：底部ヘラケズリ。 内面：底部ナデ。	底部外面墨書あり。



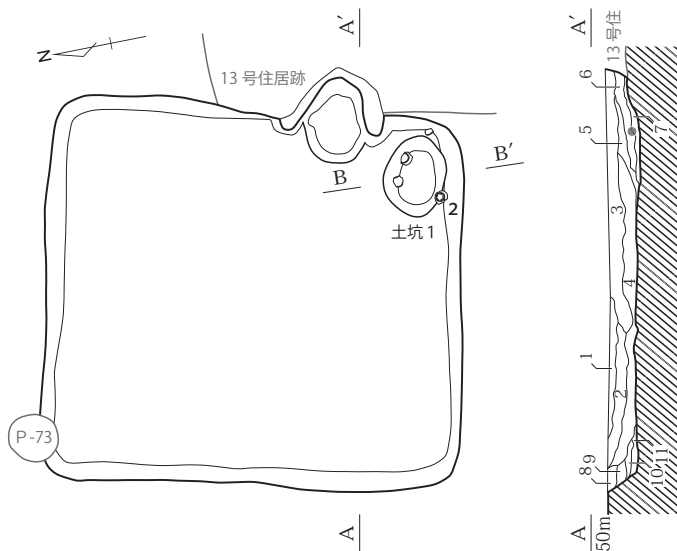
第42図 13号住居跡遺構図

14号住居跡 (第43・44図/第19表/図版6・17)

X=47307~47310、Y=-72564~-72567に位置する。13号住居跡、1号掘立柱建物跡(P-70・73)と重複し、先後関係は13号住居跡、1号掘立柱建物跡→14号住居跡と考えられる。規模は、東西3.13m、南北3.28mの方形。主軸方位は、N-98°-E。壁高は0.25m程度で、壁面はやや急に立ち上がる。床は地山硬化床で、しまりが確認された。埋土はHr-FA・白色軽石粒・炭化物を含む暗褐色土である。カマドは東壁中央より南寄りに付設される。全長0.68m、燃烧部幅0.41m、壁外長0.29m。Hr-FAと暗褐色土により構築される。内壁は被熱による赤変が認められた。火床面には焼土・灰が堆積していた。貯蔵穴と考えられる土坑1基(土坑1)が検出された。規模は0.64×0.48mの不整楕円形で、深さ0.25m。出土遺物は土師器(坏・小形甕・甕)、須恵器(坏・高台付坏・高台付埴)である。土坑1の埋土上面から須恵器高台付坏・高台付埴がやや集中して出土した。



第43図 14号住居跡遺物実測図

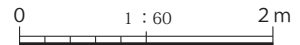
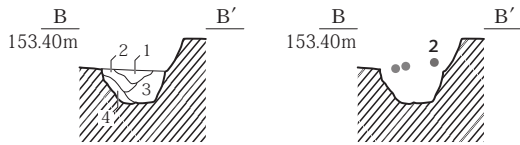


14号住居跡 土層説明 (A-A')

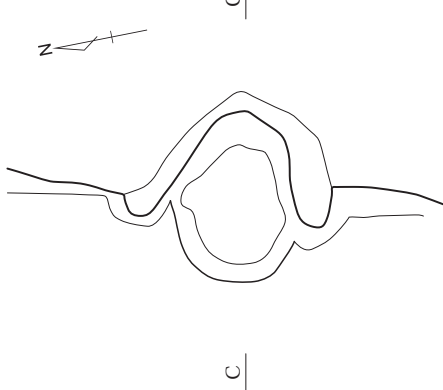
1. 暗褐色土 As-C・Hr-FA 中量、炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 As-C・Hr-FA 少量。しまり・粘性ややあり。
3. 褐灰色土 Hr-FA 多量、As-C 中量、焼土・炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
4. 暗褐色土 Hr-FA (0.5~1.0cm) 中量、As-C 少量、炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
5. 暗褐色土 As-C・Hr-FA 中量、炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
6. 暗褐色土 As-C 少量、Hr-FA・炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
7. 暗褐色土 Hr-FA 中量、焼土少量、As-C・炭化物微量。しまり・粘性あり。
8. 暗褐色土 Hr-FA (0.5~3.0cm) 少量、As-C 微量。しまり・粘性ややあり。
9. 暗褐色土 As-C 中量、Hr-FA 少量。しまり・粘性ややあり。
10. 暗褐色土 Hr-FA (0.5~2.0cm) 少量、As-C 微量。しまり・粘性ややあり。
11. 暗褐色土 As-C・Hr-FA・炭化物微量。しまり・粘性ややあり。

14号住居跡土坑1 土層説明 (B-B')

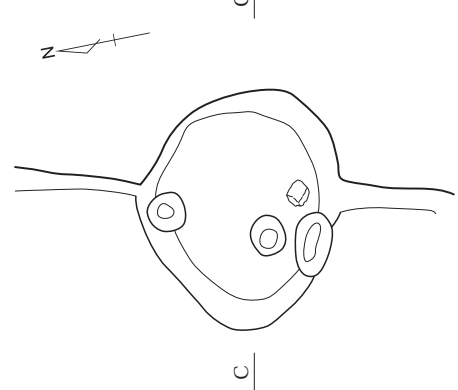
1. 褐灰色土 焼土多量、As-C・炭化物少量。しまりややあり。粘性やや弱い。
2. 暗褐色土 As-C少量、焼土・炭化物少量。しまりややあり。粘性やや弱い。
3. 暗褐色土 As-C・Hr-FA・焼土少量、炭化物微量。しまりややあり。粘性やや弱い。
4. 暗褐色土 As-C・Hr-FA・礫 (0.5~2.0cm) 微量。しまり・粘性ややあり。



カマド

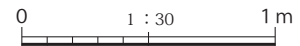


カマド掘方



14号住居跡カマド 土層説明 (C-C')

1. 暗褐色土 As-C中量、Hr-FA少量、焼土微量。しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 As-C少量。しまり・粘性ややあり。
3. 暗褐色土 As-C・Hr-FA中量。しまり・粘性ややあり。
4. 暗褐色土 As-C・Hr-FA少量、焼土微量。しまり・粘性ややあり。
5. 暗褐色土 As-C・焼土少量、Hr-FA微量。しまりややあり。粘性あり。
6. 暗褐色土 As-C多量、Hr-FA中量。しまり・粘性あり。
7. 暗褐色土 As-C・Hr-FA・焼土少量。しまり・粘性あり。
8. 明赤褐色土 焼土多量、炭化物・暗褐色土少量、白色軽石粒微量。しまりややあり。粘性やや弱い。
9. 明赤褐色土 焼土 (0.5~1.0cm) 大量、炭化物・暗褐色土少量、白色軽石粒微量。しまりややあり。粘性やや弱い。
10. 暗褐色土 白色軽石粒・灰少量、炭化物微量。しまりあり。粘性ややあり。



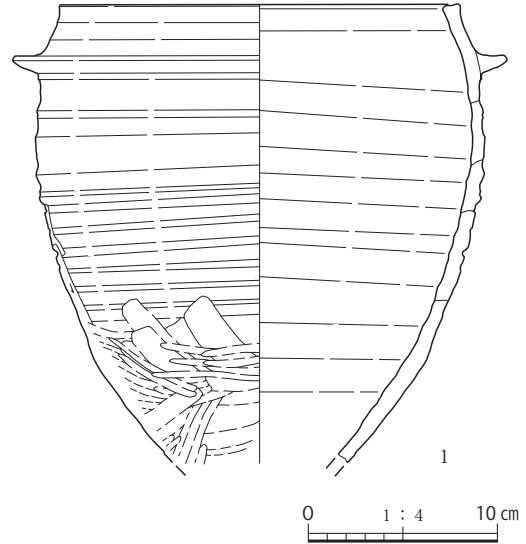
第 44 図 14 号住居跡遺構図

第 19 表 14 号住居跡遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考
1	土師器 甕	口径：(13.6) 底径：— 器高：〈9.3〉	口縁部~胴部上半 1/4	外面：褐 内面：にぶい赤褐	黒色鉱物・チャート・石英	酸化焰	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ→ヘラナデ。 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	
2	須恵器 高台付埴	口径：— 底径：7.1 器高：〈2.6〉	体部下半~底部 4/5	外面：灰白 内面：灰白	白色粒・黒色粒	還元焰	外面：体部~高台部回転ナデ、底部回転糸切り→高台貼付。 内面：体部~底部回転ナデ。	

15号住居跡（第45～47図／第20表／図版6・7・17）

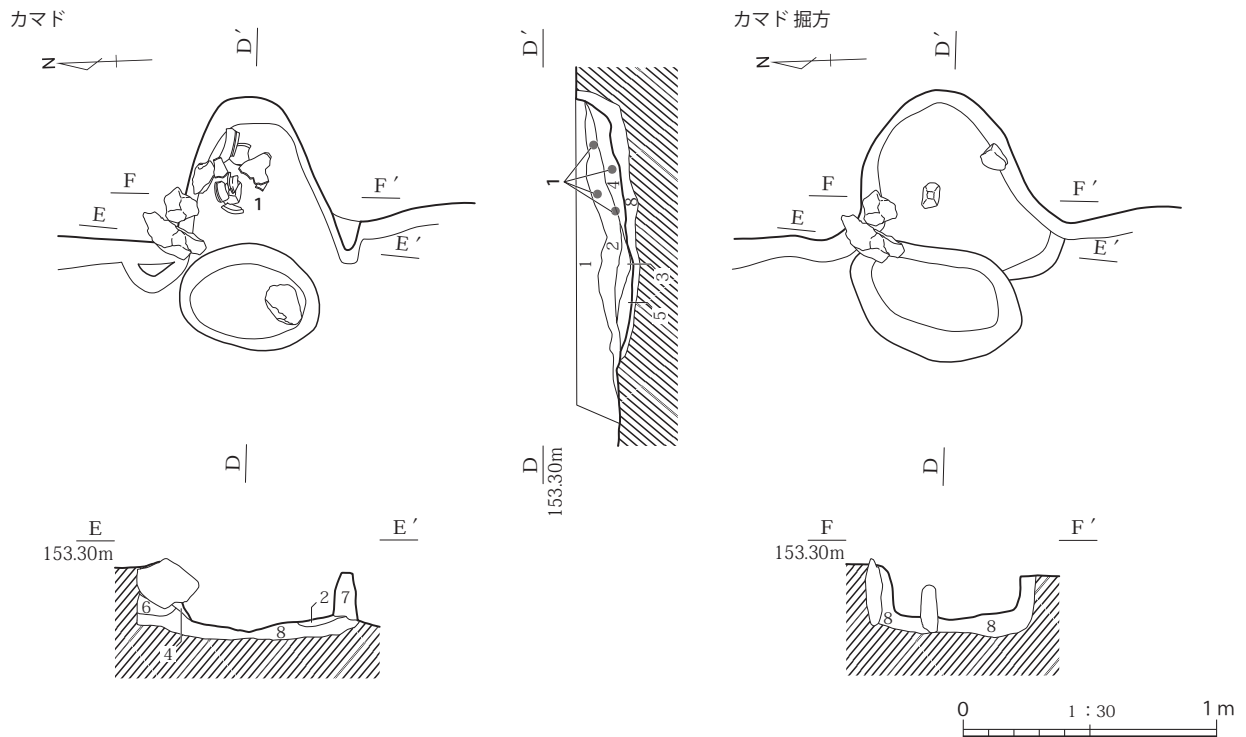
X=47299～47304、Y=-72565～-72568に位置する。8・16号住居跡、10号土坑と重複し、先後関係は16号住居跡→15号住居跡→8号住居跡、10号土坑と考えられる。規模は、東西〈2.85〉m、南北4.25mの方形基調。主軸方位は、N-92°-E。壁高は0.31m程度で、壁面はやや急に立ち上がる。床は地山硬化床で、やや顕著なしまりが確認された。埋土はHr-FA・白色軽石粒・炭化物を含む暗褐色土である。カマドは東壁中央より南寄りに付設される。全長0.67m、燃烧部幅0.55m、壁外長0.55m。構築部材として両袖部および壁面には安山岩が据えられ、袖石は他住居よりやや大型な安山岩が用いられていた。火床面には焼土・灰が堆積していたが、壁面は被熱による赤変はさほど認められなかった。貯蔵穴と考えられる土坑1基（土坑1）が検出された。規模は0.75×0.62mの不整楕円形で、深さ0.18m。床下から土坑1基（床下土坑1）が検出された。規模は0.78×0.72mの不整形で、深さ0.21m。出土遺物は土師器（坏・甕）、須恵器（坏・高台付埴・羽釜）である。カマド埋土内から羽釜の破片が出土した。



第45図 15号住居跡遺物実測図

第20表 15号住居跡遺物観察表

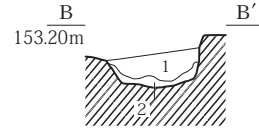
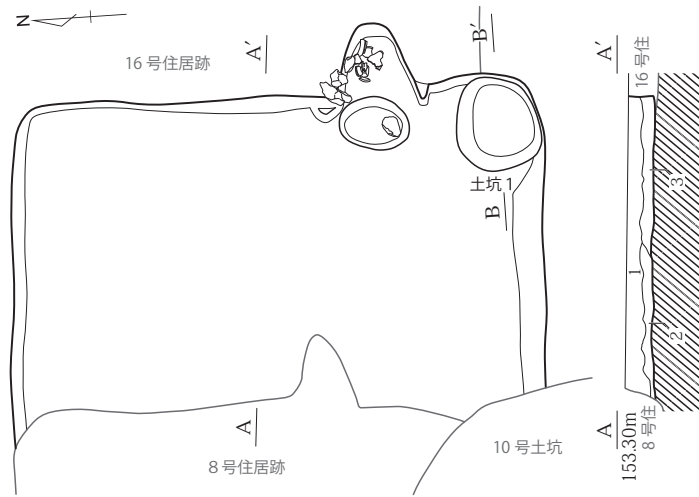
No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考
1	須恵器 羽釜	口径：(21.2) 底径：— 器高：〈24.3〉	口縁部～ 胴部 1/4	外面：にぶい黄 褐 内面：褐	黒色粒・チ ャート・石 英・白色粒	酸化焰	外面：口縁部～胴部回転ナデ→胴部下位ヘラケズリ後ナデ。 内面：口縁部～胴部回転ナデ。	



15号住居跡カマド 土層説明 (D-D'・F-F')

1. 暗褐色土 As-C中量、Hr-FA (0.5～1.0cm) 少量、焼土・炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 焼土中量、As-C・Hr-FA少量。しまり・粘性ややあり。
3. 褐灰色土 灰多量。しまりややあり。粘性やや弱い。
4. 暗褐色土 As-C中量、炭化物・灰微量。しまりあり。粘性ややあり。
5. 暗褐色土 As-C中量、Hr-FA少量。しまり・粘性あり。
6. 褐色土 Hr-FA (0.5～2.0cm) 多量、黒褐色土・暗褐色土少量。しまり・粘性あり。
7. 黄褐色土 Hr-FA (0.5～2.0cm) 多量、暗褐色土少量。しまり・粘性あり。
8. 暗褐色土 白色軽石粒・黄褐色粒・焼土少量。しまりややあり。粘性やや弱い。

第46図 15号住居跡遺構図(1)

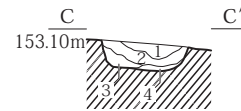
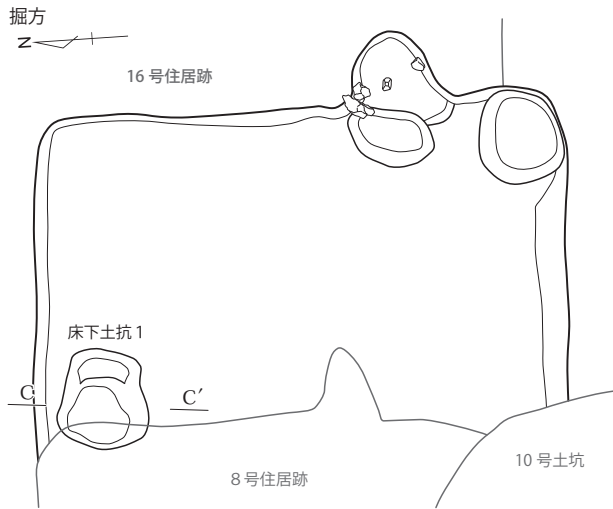


15号住居跡 土層説明 (A-A')

1. 暗褐色土 As-C 多量、Hr-FA (0.5~1.0cm) 少量、炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 As-C中量、焼土・炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
3. 暗褐色土 As-C・Hr-FA (0.5cm)・炭化物少量、焼土微量。しまり・粘性ややあり。

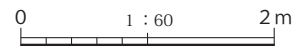
15号住居跡土坑1 土層説明 (B-B')

1. 暗褐色土 As-C・Hr-FA (0.5~2.0cm)・礫 (0.5~1.0cm) 少量。しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 Hr-FA (0.5~1.0cm) 少量、白色軽石粒・炭化物微量。しまり・粘性ややあり。



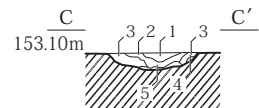
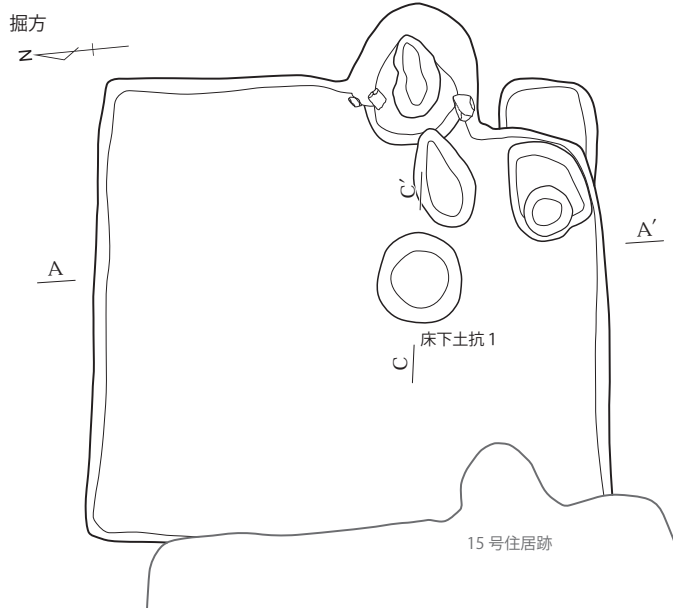
15号住居跡床下土坑1 土層説明 (C-C')

1. 褐灰色土 焼土多量、As-C・炭化物少量。しまりややあり。粘性やや弱い。
2. 暗褐色土 As-C少量、焼土・炭化物少量。しまりややあり。粘性やや弱い。
3. 暗褐色土 As-C・Hr-FA・焼土少量、炭化物微量。しまりややあり。粘性やや弱い。
4. 暗褐色土 As-C・Hr-FA・礫 (0.5~2.0cm) 微量。しまり・粘性ややあり。



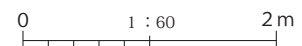
第 47 図 15 号住居跡遺構図 (2)

16号住居跡 (第 48~51 図/第 21 表/図版 7・17)



16号住居跡床下土坑1 土層説明 (C-C')

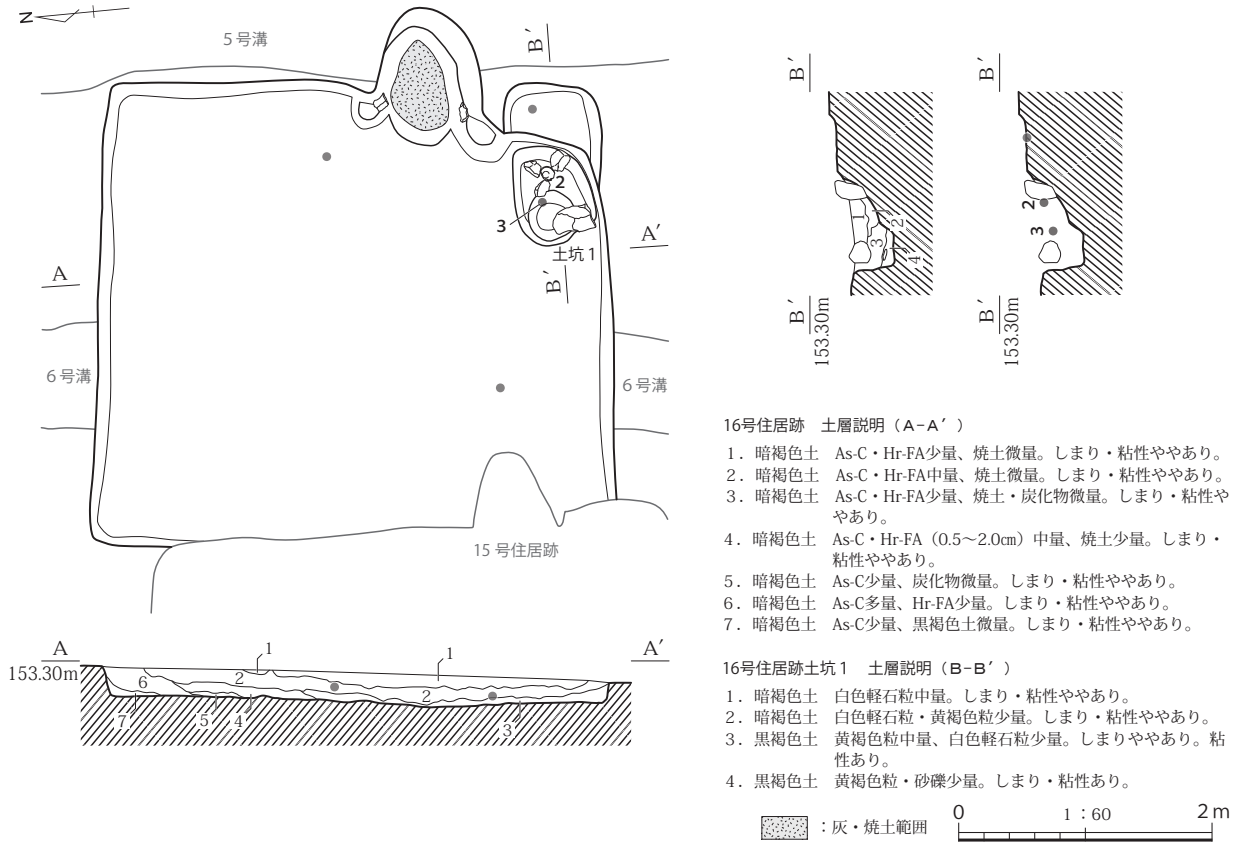
1. 暗褐色土 白色軽石粒中量、Hr-FA・焼土・灰少量。しまりあり。粘性ややあり。
2. 暗褐色土 Hr-FA (0.5~1.0cm) 多量、白色軽石粒・焼土少量。しまりあり。粘性ややあり。
3. 暗褐色土 Hr-FA (0.5cm) 多量、焼土少量。しまり・粘性ややあり。
4. 黒褐色土 白色軽石粒少量、焼土微量。しまり・粘性あり。
5. 黒褐色土 白色軽石粒・黄褐色粒少量。しまり・粘性あり。



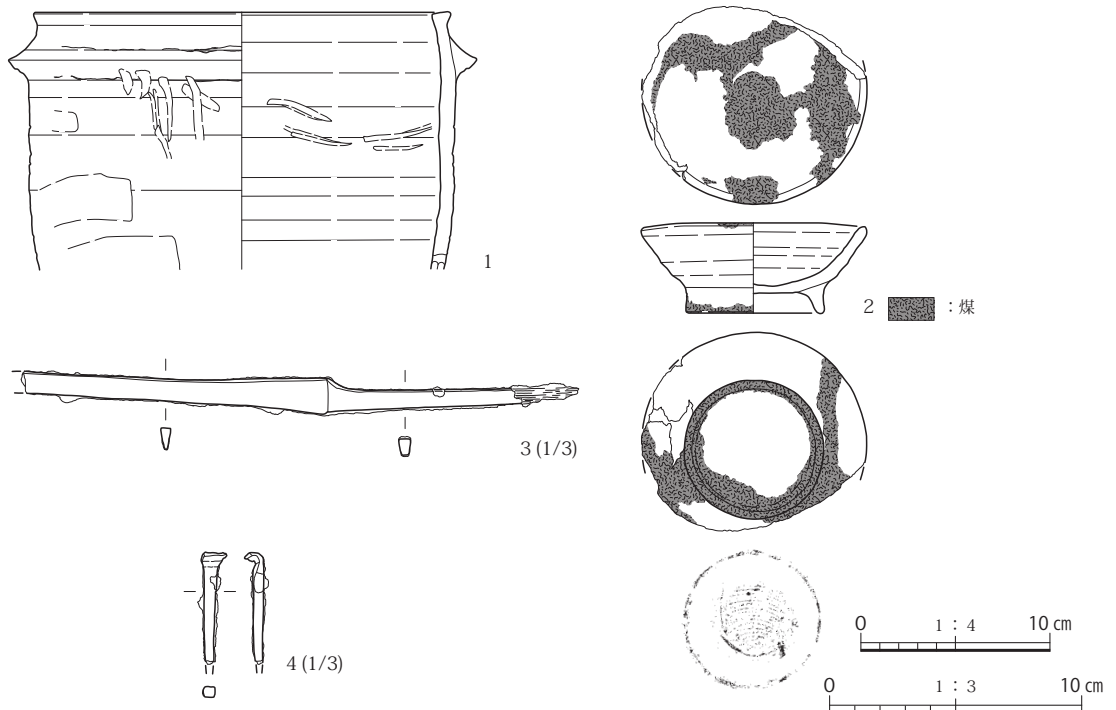
第 48 図 16 号住居跡遺構図 (1)

16号住居跡（第48～51図／第21表／図版7・17）

X = 47300 ~ 47304、Y = -72562 ~ -72566 に位置する。15号住居跡、5・6号溝と重複し、先後関係は5・6号溝→16号住居跡→15号住居跡と考えられる。規模は、東西〈3.74〉m、南北〈4.16〉mの長方形基調。南東隅、土坑1の東側は張り出し部なのか、浅い段が確認された。主軸方位は、N-97°-E。壁高は0.34m程度で、壁面はやや急に立ち上がる。床はHr-FA・白色軽石粒・黄褐色粒を含む暗褐色土で貼床を



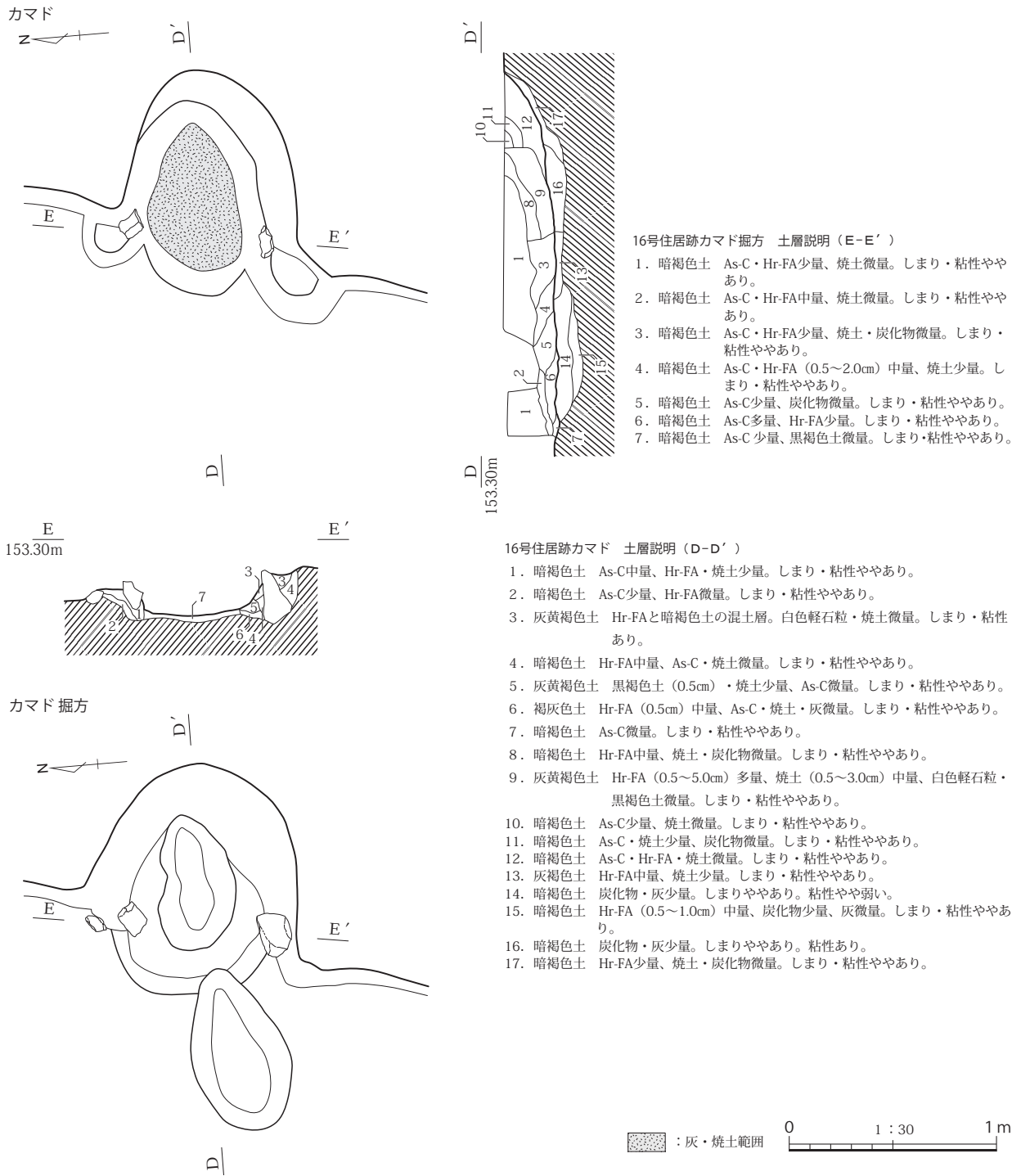
第49図 16号住居跡遺構図(2)



第50図 16号住居跡遺物実測図



施し、やや顕著なしまりが確認された。埋土はHr-FA・白色軽石粒・炭化物を含む暗褐色土である。カマドは東壁中央より南寄りに付設される。全長0.94 m、燃焼部幅0.47 m、壁外長0.63 m。構築部材として両袖部には長方形に加工された安山岩が据えられていた。壁面は被熱による焼土化が著しい。火床面には焼土を含む灰が堆積していた。貯蔵穴と考えられる土坑1基(土坑1)が検出された。規模は0.79 × 0.62 mの不整形で、深さ0.37 m。床下から土坑1基(床下土坑1)が検出された。規模は0.81 × 0.72 mの不整円形で、深さ0.13 m。出土遺物は土師器(坏・甕)、須恵器(高台付碗・蓋・甕・壺・羽釜)、鉄製品(刀子・釘)である。土坑1の埋土内にはカマド構築部材と考えられる安山岩とともに、上層から須恵器・高台付碗、鉄製品・刀子が出土した。



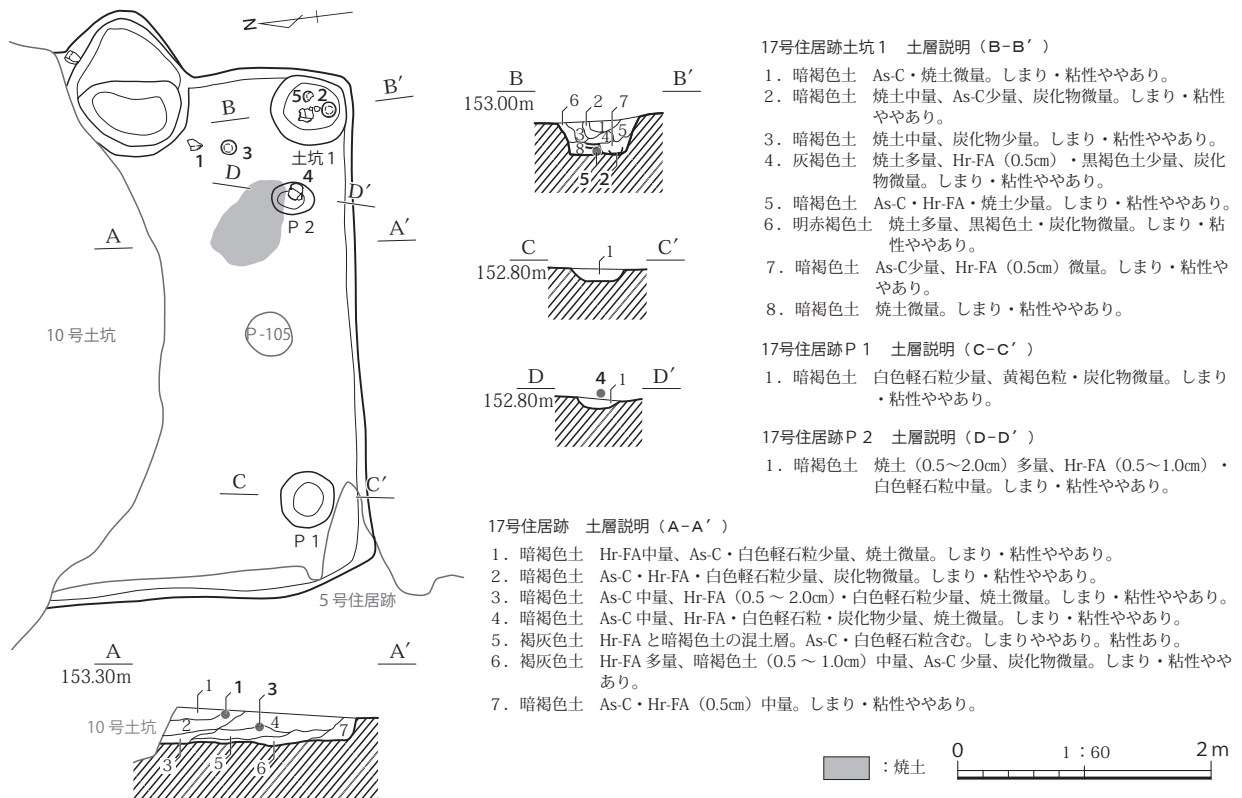
第 51 図 16 号住居跡遺構図 (3)

第 21 表 16 号住居跡遺物観察表

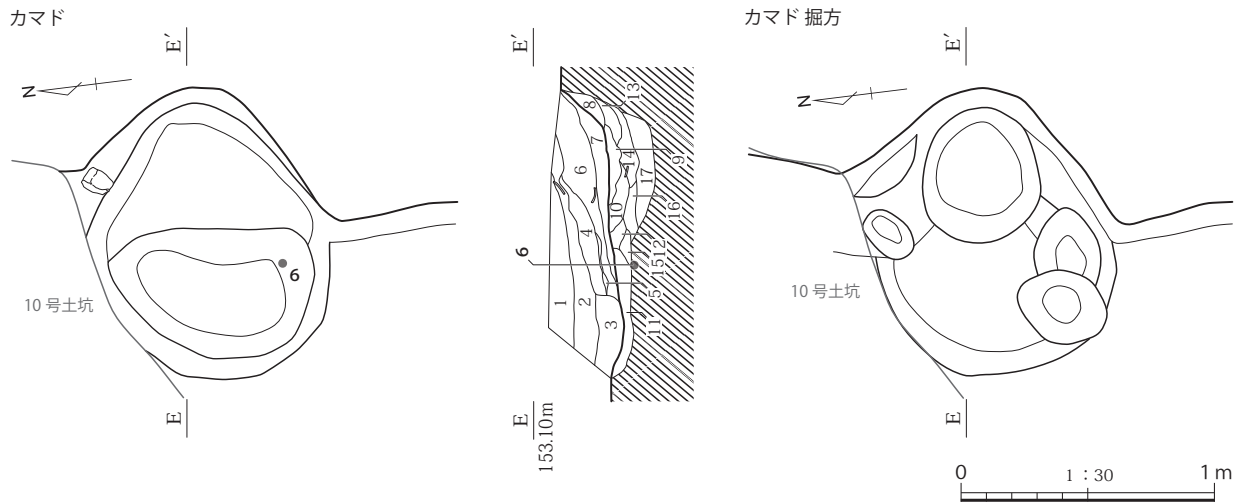
No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考
1	須恵器 羽釜	口径：(22.0) 底径：— 器高：(13.6)	口縁部～胴部上半 1/5	外面：浅黄 内面：にぶい褐	チャート・ 黒色粒・石 英	酸化焰	外面：口縁部～胴部回転ナデ→胴部ヘラナデ。 内面：口縁部～胴部回転ナデ→胴部ヘラナデ。	
2	須恵器 高台付碗	口径：12.0 底径：7.3 器高：4.8	3/5	外面：にぶい橙 内面：にぶい橙	白色粒・褐 色粒・黒色 粒・石英	酸化焰	外面：口縁部～高台部回転ナデ、底部回転糸切り→高台貼付。 内面：口縁部～底部回転ナデ。	内外面煤付着。
No.	器種	法量 (cm・g)					備考	
3	鉄製品 刀子	【刃部】長さ：(12.1) 幅：1.4 厚さ：0.4 【茎部】長さ：(9.9) 幅：0.8 厚さ：0.4 重さ：23.62。茎部に木部残る。						
4	鉄製品 釘	長さ：(4.4) 幅：0.5 厚さ：0.4 重さ：4.00。						

17 号住居跡 (第 52～54 図/第 22 表/図版 7・8・17)

X = 47294～47297、Y = -72568～-72573 に位置する。5 号住居跡、1 号井戸、10 号土坑、P-105 と重複し、先後関係は P-105 → 17 号住居跡 → 5 号住居跡、1 号井戸、10 号土坑と考えられる。規模は、東西 4.35m、南北 (2.79) m の長方形基調。主軸方位は、N-95° - E。壁高は 0.24m 程度で、壁面はやや急に立ち上がる。床は地山硬化床だが、カマド前面には Hr-F A・焼土を含む暗褐色土が貼床状に堆積し、しまりが確認された。埋土は Hr-F A・白色軽石粒・焼土・炭化物を含む暗褐色土である。カマドは東壁中央寄りに付設される。全長 1.16m、燃燒部幅 0.82m、壁外長 0.50m。上部が欠損していたものの、構築部材として、左袖部には長方形に加工された安山岩が据えられていた。壁面は被熱による赤変が著しい。火床面には焼土・灰が堆積していた。貯蔵穴と考えられる土坑 1 基 (土坑 1) が検出された。土坑 1 の規模は 0.61×0.54m の不整楕円形で、深さ 0.31m。柱穴であるかは判然としないが、ピット 2 基 (P 1・2) が検出された。P 1 の規模は 0.45×0.43m の長楕円形で、深さ 0.11m。P 2 の規模は 0.34×0.26m の長楕円形で、深さ 0.10m。出土遺物は土師器 (坏・甕)、須恵器 (坏)、鉄製品 (釘) である。遺物はカマド火床面から鉄製品、南東側の床上から土師器・坏や須恵器・坏、土坑 1 の埋土下層から土師器・坏、須恵器・坏などがややまとまって出土した。



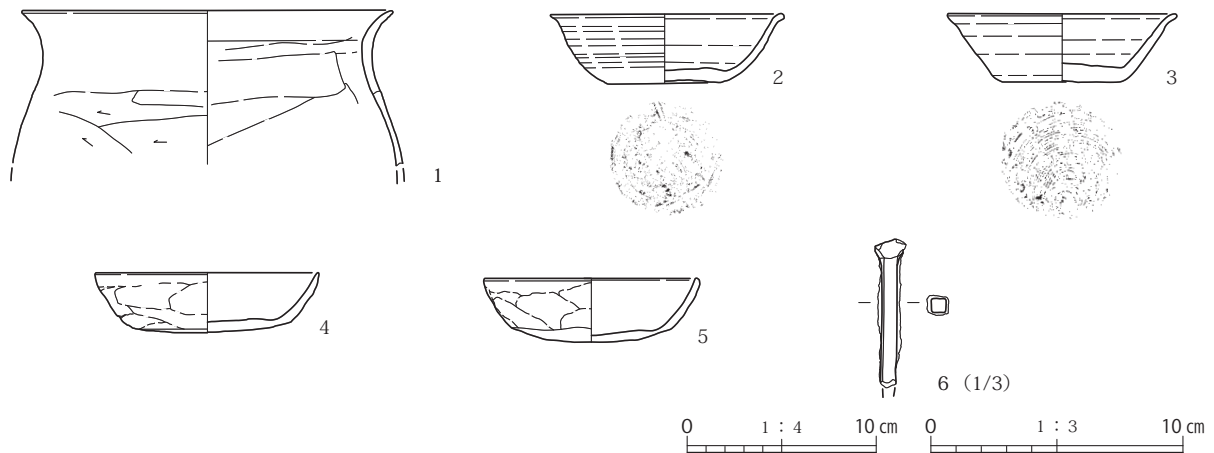
第 52 図 17 号住居跡遺構図 (1)



17号住居跡カマド 土層説明 (E-E')

- |          |  |          |   |
|----------|--|----------|---|
| 1. 暗褐色土  | Hr-FA中量、As-C・焼土少量。しまり・粘性ややあり。                | 11. 黒褐色土 | 焼土中量、炭化物少量。しまりややあり。粘性やや弱い。                    |
| 2. 暗褐色土  | 焼土少量、As-C・炭化物微量。しまり・粘性ややあり。                  | 12. 褐灰色土 | Hr-FA・白色軽石粒・黒褐色土少量、炭化物微量。しまり・粘性ややあり。          |
| 3. 灰褐色土  | 焼土・灰多量、炭化物微量。しまりややあり。粘性やや弱い。                 | 13. 褐灰色土 | Hr-FA (0.5~2.0cm) 多量、白色軽石粒・黒褐色土少量。しまり・粘性ややあり。 |
| 4. 灰褐色土  | 灰多量、焼土 (0.5cm) 少量。しまり・粘性やや弱い。                | 14. 黒褐色土 | 白色軽石粒多量、Hr-FA 少量。しまりややあり。粘性やや弱い。              |
| 5. 暗褐色土  | 焼土・灰少量、As-C・炭化物微量。しまり・粘性ややあり。                | 15. 暗褐色土 | Hr-FA (0.5~3.0cm) 多量、白色軽石粒少量。しまり・粘性ややあり。      |
| 6. 赤褐色土  | 焼土主体、炭化物少量。しまりややあり。粘性やや弱い。                   | 16. 暗褐色土 | 黄褐色粒少量、白色軽石粒・礫 (0.5~3.0cm) 微量。しまりややあり。粘性やや弱い。 |
| 7. 灰褐色土  | 焼土少量、炭化物微量。しまり・粘性ややあり。                       | 17. 黒褐色土 | Hr-FA (0.5~2.0cm) と黒褐色土の混土层。しまり・粘性やや弱い。       |
| 8. 褐色土   | 焼土 (0.5~2.0cm) 少量、白色軽石粒・黒褐色土微量。しまりあり。粘性ややあり。 |          |   |
| 9. 黒褐色土  | Hr-FA (0.5cm) ・焼土少量、白色軽石粒微量。しまりあり。粘性ややあり。    |          |   |
| 10. 暗褐色土 | 焼土多量、黒褐色土少量。しまりややあり。粘性やや弱い。                  |          |   |

第 53 図 17 号住居跡遺構図 (2)



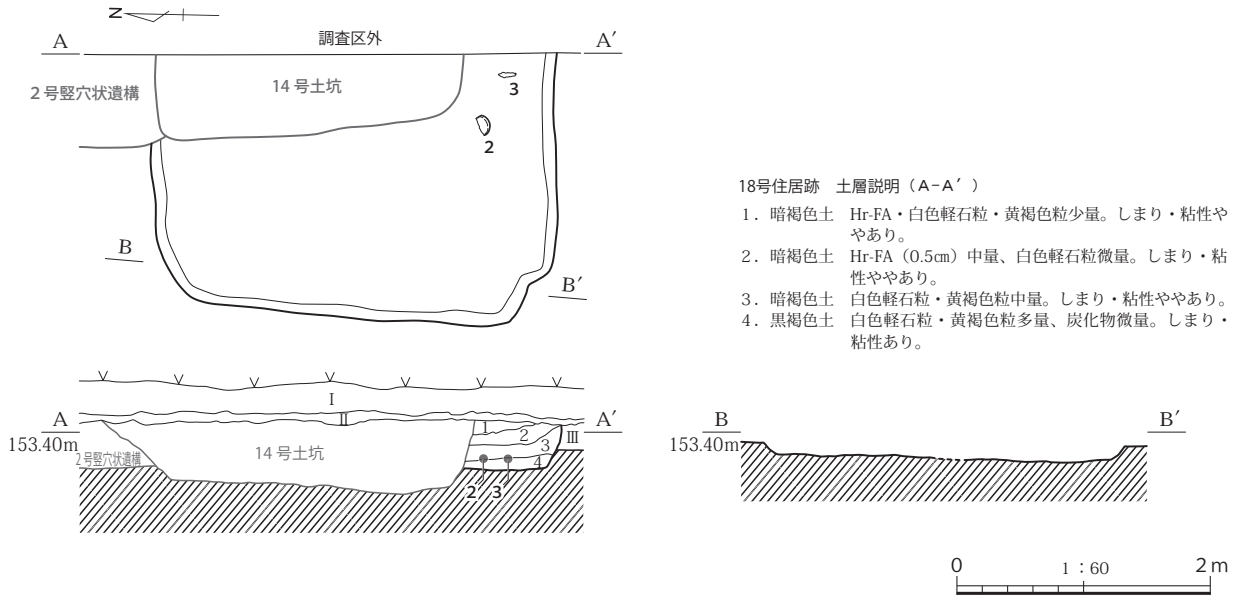
第 54 図 17 号住居跡遺物実測図

第 22 表 17 号住居跡遺物観察表

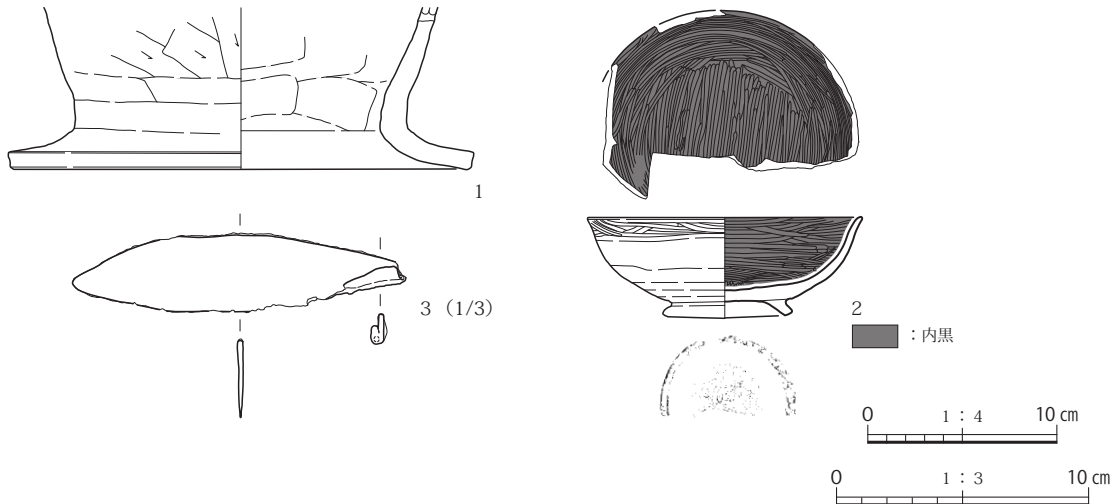
No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考
1	土師器 甗	口径：(19.6) 底径：— 器高：<8.2>	口縁部～ 胴部上位片	外面：にぶい赤褐 内面：にぶい赤褐	黒色鉱物・ 石英・チャート	酸化焰	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	
2	須恵器 坏	口径：12.6 底径：5.9 器高：3.7	ほぼ完形	外面：にぶい黄橙 内面：にぶい黄橙	褐色粒・黒色粒・石英	酸化焰	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ。	
3	須恵器 坏	口径：12.2 底径：6.4 器高：3.6	ほぼ完形	外面：灰黄褐 内面：黒褐	白色粒・チャート・黒色粒	酸化焰	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ。	
4	土師器 坏	口径：11.9 底径：8.7 器高：3.2	4/5	外面：明赤褐 内面：明赤褐	角閃石・黒色粒・白色粒	酸化焰	外面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。 内面：口縁部～底部ヘラナデ。	
5	土師器 坏	口径：(11.5) 底径：(8.5) 器高：3.4	2/5	外面：明赤褐 内面：明赤褐	角閃石・黒色粒・白色粒	酸化焰	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。 内面：口縁部～底部ヘラナデ。	
No.	器種	法量 (cm・g)						備考
6	鉄製品 釘	長さ：<5.8> 幅：0.6 厚さ：0.5 重さ：8.11。						

18号住居跡（第55・56図／第23表／図版8・18）

X=47305~47308、Y=-72556~-72558に位置する。2号竪穴状遺構、14号土坑と重複し、先後関係は2号竪穴状遺構→18号住居跡→14号土坑と考えられる。東側は調査区外である。規模は、東西〈2.19〉m、南北〈3.26〉mの方形基調。主軸方位は、N-94°-E。壁高は0.18m程度で、壁面はやや急に立ち上がる。床はHr-FA・白色軽石粒を含む暗褐色土による貼床を施し、しまりはやや弱い。埋土はHr-FA・白色軽石粒・黄褐色粒を含む暗褐色土である。カマドは調査区外と考えられる。出土遺物は土師器（甕・甔）、須恵器（蓋・高台付埴・甕・壺・甔）、不明鉄製品である。



第55図 18号住居跡遺構図



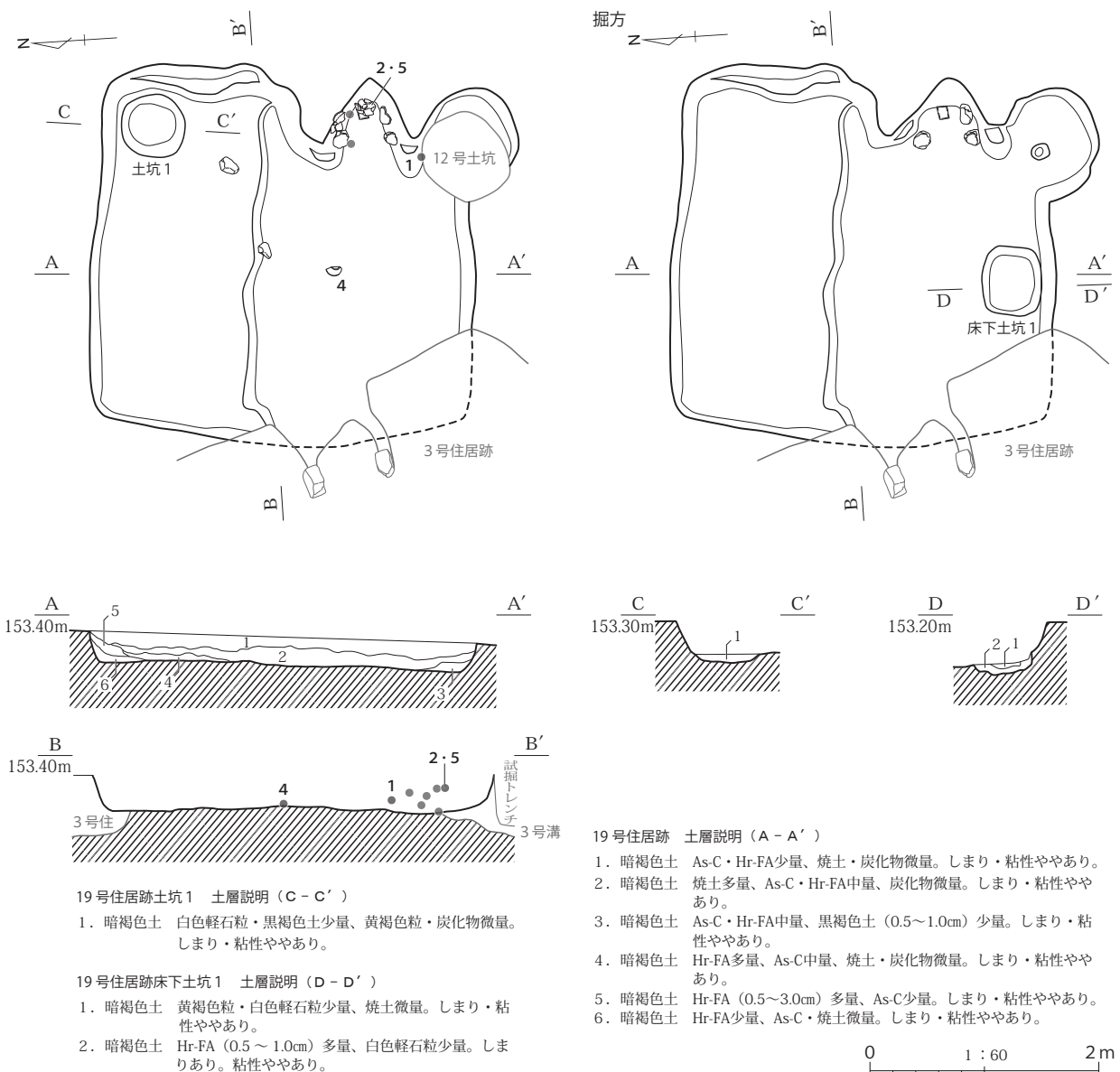
第56図 18号住居跡遺物実測図

第23表 18号住居跡遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考
1	須恵器 甔	口径：— 底径：(24.6) 器高：(8.7)	胴部下位～ 底部 1/6	外面：にぶい赤 褐 内面：にぶ い赤褐	黒色鉾物・ チャート・ 白色粒	酸化焰	外面：胴部ヘラケズリ→ヘラナデ、底部ヨコナデ。 内面：胴部～底部ヘラナデ。	
2	須恵器 高台付埴	口径：(14.5) 底径：6.8 器高：5.4	1/2	外面：にぶい黄 橙 内面：黒	黒色鉾物・ 褐色粒・石 英	酸化焰	外面：口縁部～高台部回転ナデ→口縁部暗文、高台貼付。 内面：口縁部～底部回転ナデ→口縁部～体部暗文。	内面黒色処理。
No.	器種	法量 (cm・g)						備考
3	鉄製品	長さ：(13.1) 幅：3.1 厚さ：0.7 重さ：24.77。						

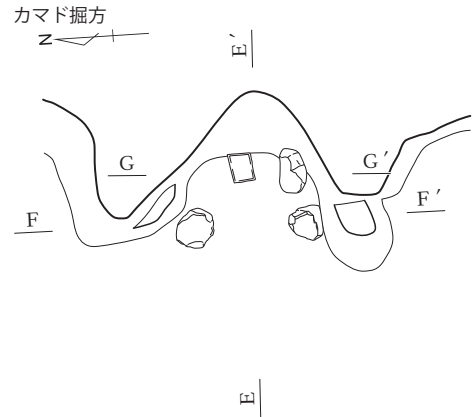
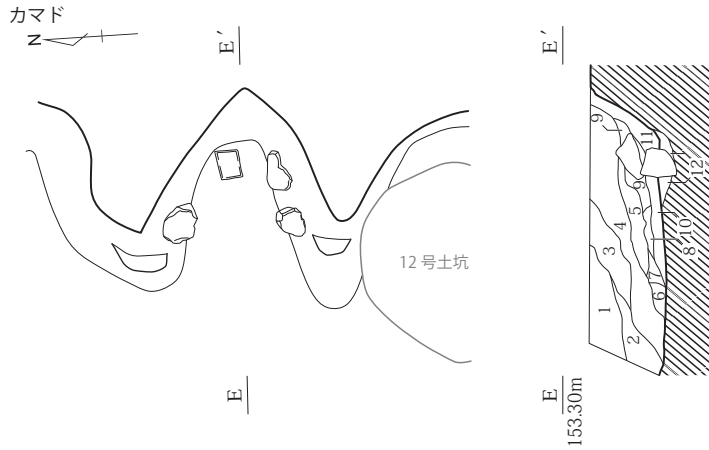
19号住居跡（第57～59図／第24表／図版8・18）

X=47299～47303、Y=-72575～-72578に位置する。3号住居跡、3号溝、12号土坑と重複し、先後関係は3号住居跡、3号溝→19号住居跡→12号土坑と考えられる。南東隅、12号土坑の東側に張り出し状の掘り込みが確認されたが、不詳である。規模は、東西〈3.29〉m、南北〈3.40〉mの方形基調。主軸方位は、N-94°-E。壁高は0.30m程度で、壁面はやや急に立ち上がる。床はAs-C・Hr-FA・焼土・炭化物を含む暗褐色土による貼床を施し、やや顕著なしまりが確認された。床面は中央を境に弱い段差がみられ、南半側が2～数cm程度低くなっている。埋土はAs-C・Hr-FA・白色軽石粒・焼土・炭化物を含む暗褐色土である。カマドは東壁南寄りに付設される。全長0.86m、燃烧部幅0.50m。構築部材として、両袖部と側面には安山岩が据えられていた。燃烧部内からは直立した状態で長方形に加工された安山岩製の支脚が検出された。壁面は被熱による赤変が著しい。火床面には焼土を含む灰が堆積していた。貯蔵穴の可能性が考えられる土坑1基（土坑1）が検出された。規模は0.56×0.56mの円形で、深さ0.08m。床下から、土坑1基（床下土坑1）が検出された。規模は0.60×0.53mの隅丸方形で、深さ0.10m。出土遺物は土師器（甕）、須恵器（坏・高台付碗・壺・甕・羽釜）、灰釉陶器（坏・高台付碗）である。遺物はカマド内から墨書のある須恵器・高台坏碗や羽釜が出土した。



第57図 19号住居跡遺構図(1)





19号住居跡カマド 土層説明 (E - E')

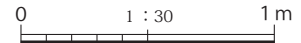
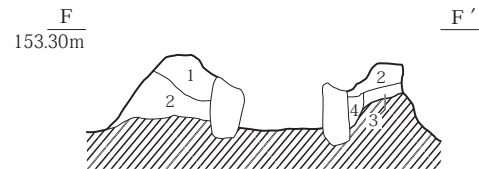
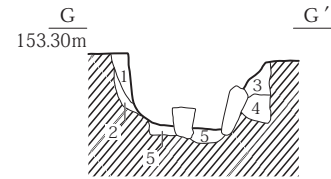
1. 暗褐色土 As-C中量、焼土微量。しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 As-C・Hr-FA (0.5~1.0cm) 少量、黒褐色土 (0.5cm)・焼土微量。しまり・粘性ややあり。
3. 暗褐色土 Hr-FA (0.5cm) 多量、As-C少量。しまり・粘性ややあり。
4. 暗褐色土 As-C少量、Hr-FA (0.5cm)・焼土・炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
5. 暗褐色土 As-C・焼土・炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
6. 褐灰色土 黒褐色土主体に灰を含む。焼土・炭化物少量。しまり・粘性やや弱い。
7. 暗褐色土 白色軽石粒・焼土微量。しまりややあり。粘性やや弱い。
8. 灰褐色土 焼土・灰少量。しまり・粘性やや弱い。
9. 暗褐色土 白色軽石粒・炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
10. 褐灰色土 焼土多量、Hr-FA 少量、炭化物微量。しまりややあり。粘性やや弱い。
11. 灰黄褐色土 Hr-FA多量、焼土・灰少量、炭化物微量。しまりややあり。粘性やや弱い。
12. 褐灰色土 Hr-FAと黒褐色土の混土层。白色軽石粒少量、焼土微量。しまりややあり。粘性やや弱い。

19号住居跡カマド掘方 土層説明 (G - G')

1. 暗褐色土 焼土中量、Hr-FA・白色軽石粒少量。しまり・粘性ややあり。
2. 褐灰色土 Hr-FA 主体。黒褐色土少量。しまり・粘性あり。
3. 褐灰色土 Hr-FA 多量、焼土・黒褐色土少量、炭化物微量。しまりあり。粘性ややあり。
4. 黒褐色土 Hr-FA 中量。しまりあり。粘性ややあり。
5. 褐灰色土 Hr-FA と黒褐色土の混土层。白色軽石粒少量、焼土微量。しまりややあり。粘性やや弱い。

19号住居跡カマド掘方 土層説明 (F - F')

1. 暗褐色土 Hr-FA (0.5~5.0cm)・白色軽石粒・焼土少量。しまりあり。粘性ややあり。
2. 暗褐色土 黄褐色粒中量、白色軽石粒・黒褐色土・焼土少量、炭化物微量。しまりあり。粘性ややあり。
3. 黒褐色土 黒褐色土と暗褐色土の混土层。白色軽石粒含む。しまり・粘性あり。
4. 暗褐色土 白色軽石粒・黄褐色粒少量。しまり・粘性あり。

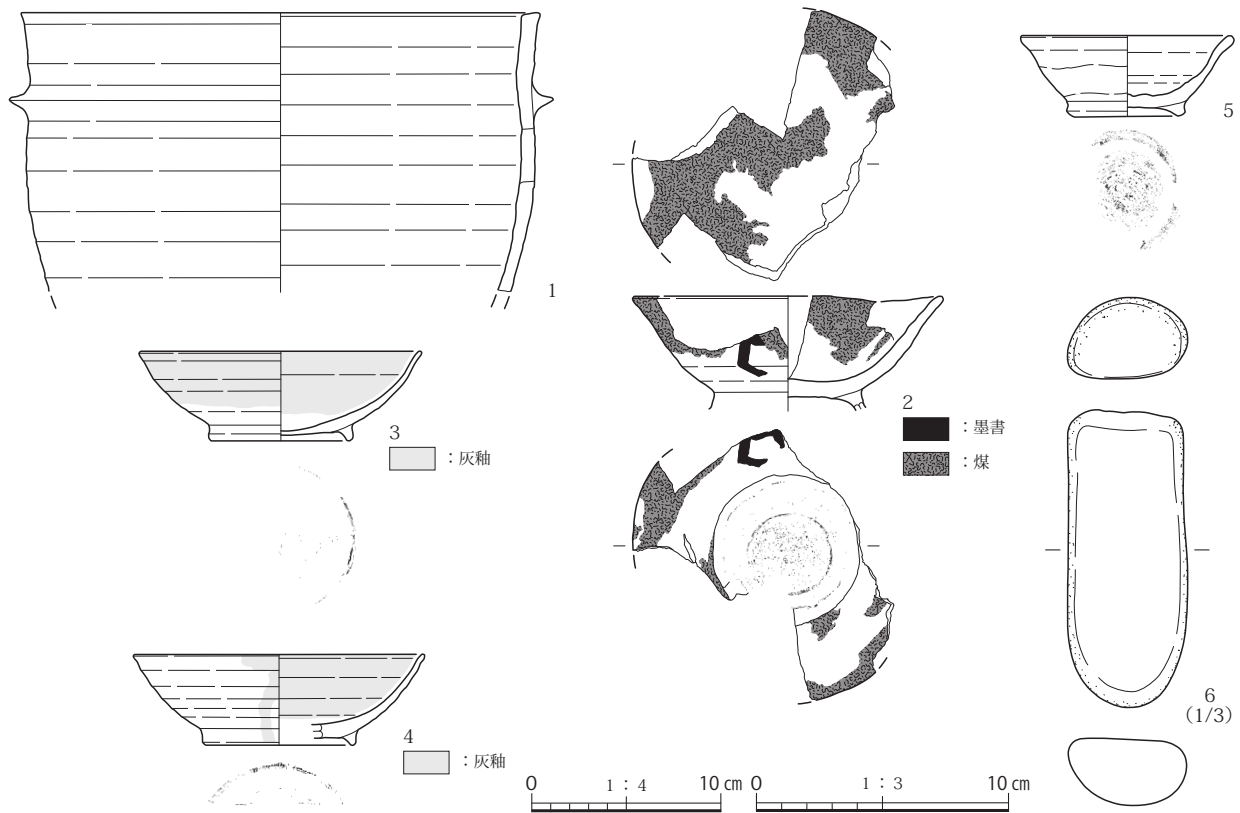


第 58 図 19 号住居跡遺構図 (2)

第 24 表 19 号住居跡遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考
1	須恵器 羽釜	口径: (27.4) 底径: — 器高: <14.8>	口縁部~胴部 上半 1/3	外面: 橙 内面: にぶい褐	黒色粒・チャート・石英	酸化焰	外面: 口縁部~胴部回転ナデ。 内面: 口縁部~胴部回転ナデ。	
2	須恵器 高台付碗	口径: (16.5) 底径: — 器高: <6.1>	1/3	外面: にぶい橙 内面: にぶい橙	黒色粒・褐色粒・白色粒	酸化焰	外面: 口縁部~高台部回転ナデ、底部回転系切り→高台貼付。 内面: 口縁部~底部回転ナデ。	外面体部墨書あり。内外面煤付着。
3	灰釉陶器 高台付碗	口径: (15.0) 底径: (7.7) 器高: 4.8	1/3	外面: 灰白 内面: 灰白	白色粒	堅緻	外面: 口縁部~高台部回転ナデ、底部回転系切り→高台貼付。口縁部~体部ツケ掛け。釉調灰オリーブ。 内面: 口縁部~底部回転ナデ。口縁部~体部ツケ掛け。釉調灰オリーブ。	
4	灰釉陶器 高台付碗	口径: (15.5) 底径: (8.2) 器高: <4.8>	1/2	外面: 灰白 内面: 灰白	白色粒	堅緻	外面: 口縁部~高台部回転ナデ、底部回転系切り→高台貼付。口縁部~体部ツケ掛け。釉調灰黄。 内面: 口縁部~底部回転ナデ。口縁部~体部ツケ掛け。釉調灰黄。	
5	須恵器 高台付碗	口径: 11.3 底径: (6.3) 器高: 4.3	5/6	外面: 灰褐 内面: 褐灰	黒色粒・チャート・褐色粒	酸化焰	外面: 口縁部~高台部回転ナデ、底部回転系切り→高台貼付。 内面: 口縁部~底部回転ナデ。	
No.	器種	法量 (cm)	残存	重さ / 石材 / 成整形の特徴等			備考	
6	石製品 砥石	長さ: 11.81 幅: 4.76 厚さ: 3.23	ほぼ完形	重さ: 301.57g。石材: 流紋岩。棒状礫を素材とし、表面・下面を砥面として利用。砥面は顕著な磨耗により平滑。				

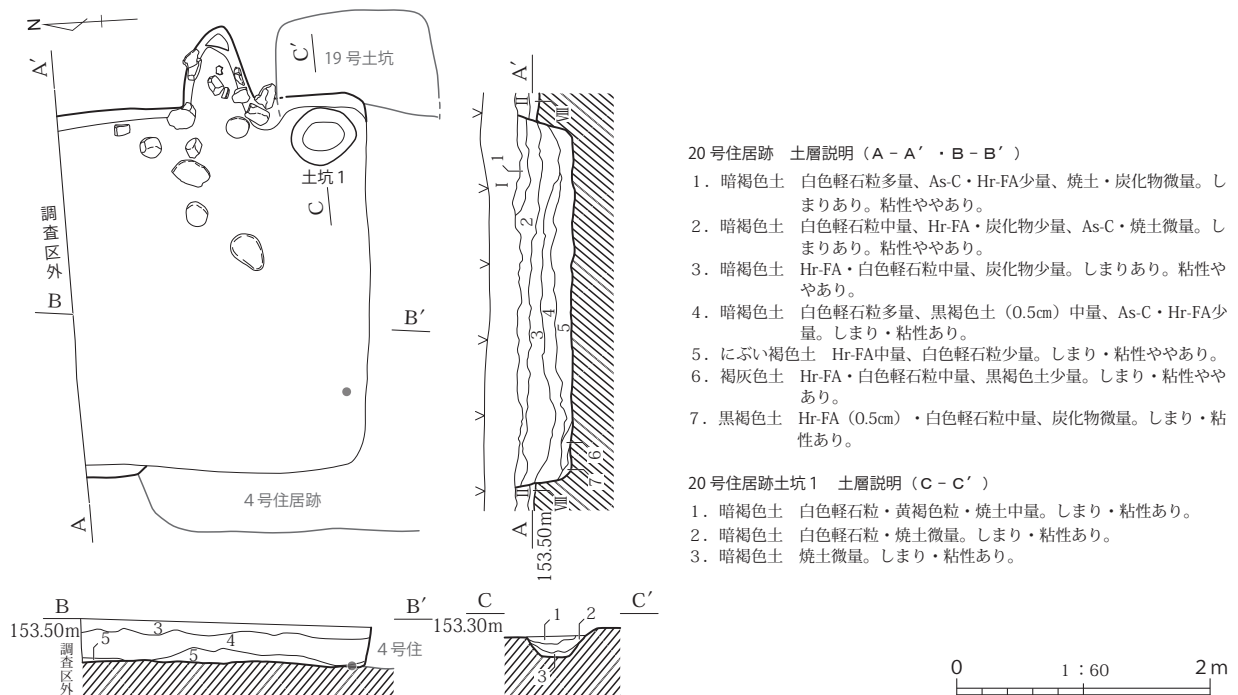




第 59 図 19 号住居跡遺物実測図

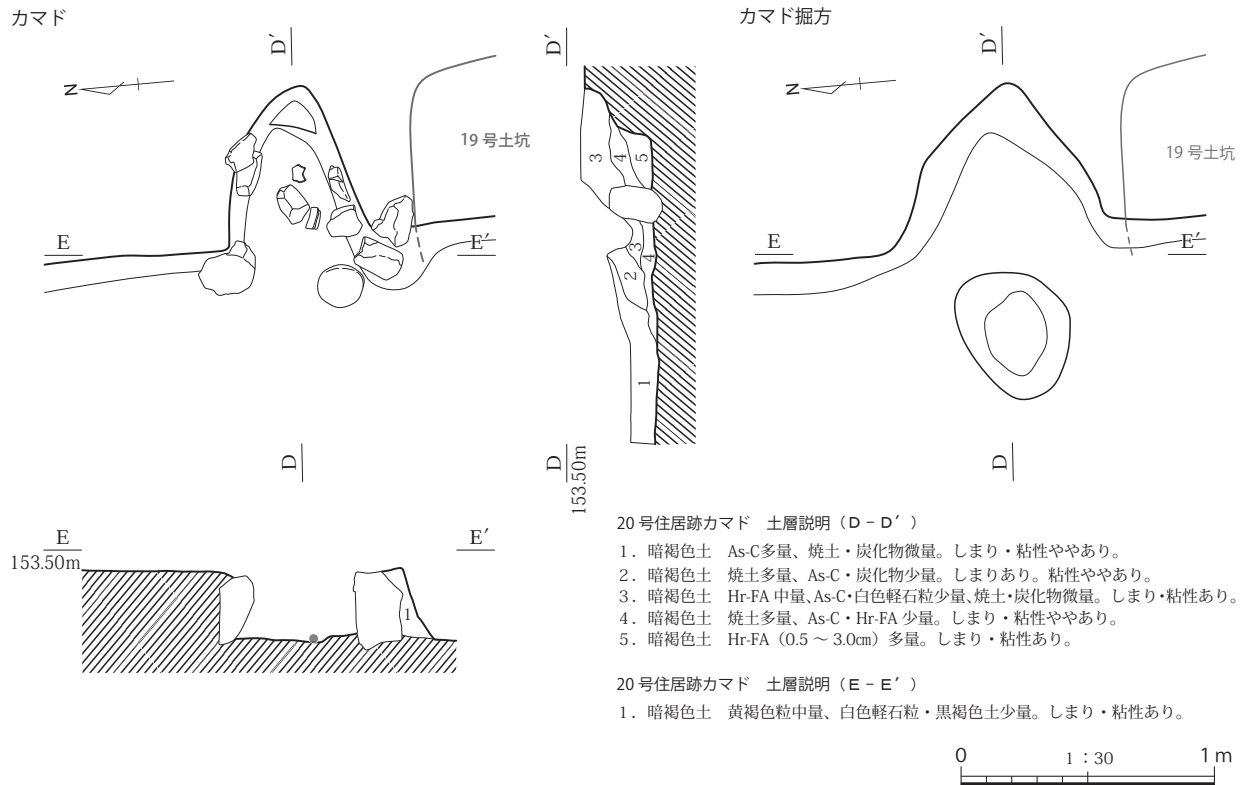
20 号住居跡 (第 60・61 図/図版 2・3)

X=47310~47312、Y=-72580~-72583に位置する。4号住居跡、19号土坑と重複し、先後関係は4号住居跡→20号住居跡→19号土坑と考えられる。北側は調査区外である。規模は、東西3.00m、南北〈2.48〉mの方形基調。主軸方位は、N-93°-E。壁高は床面から0.32m程度で、調査区壁面の観察では0.50mを測る。壁面はやや急に立ち上がる。床は地山硬化床で、しまりが確認された。埋土はAs-C・Hr-FA・白色軽石粒・炭化物を含む暗褐色土である。カマドは東壁中央よりやや南寄りに付設される。全長0.79m、燃焼部



第 60 図 20 号住居跡遺構図 (1)

幅0.43m、壁外長0.60m。構築部材として、両袖部と側面には安山岩が据えられていた。燃烧部内からは直立した状態で長方形に加工された安山岩製の支脚が検出された。壁面は被熱による焼土化が著しい。火床面には灰を含む焼土が堆積していた。貯蔵穴と考えられる土坑1基（土坑1）が検出された。規模は0.52×0.46mの不整楕円形で、深さ0.16m。出土遺物は土師器（坏・甕）、須恵器（坏・甕・羽釜）である。遺物は調査当初、1軒（4号住居跡）との認識で調査を進めていたため、埋土内一括遺物は4号住居跡として取り上げてしまっている。カマド内から羽釜の破片が出土しており、カマド前面には構築部材と考えられる安山岩が散在した状態で検出された。

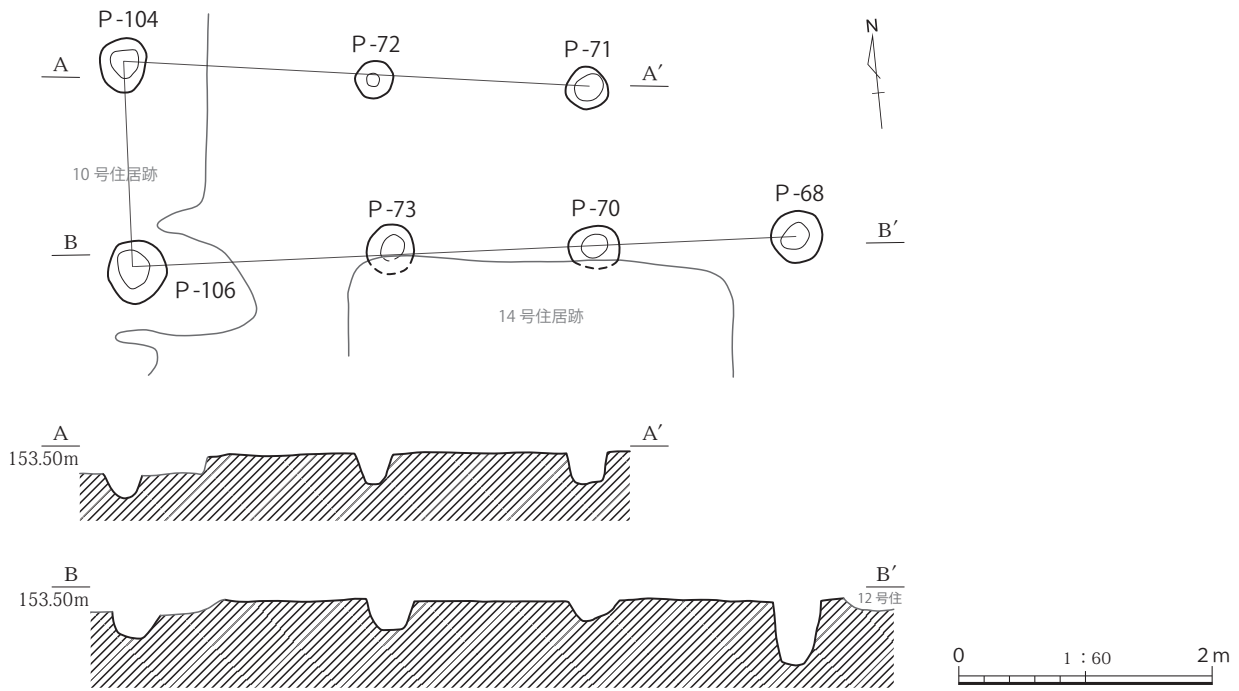


第 61 図 20 号住居跡遺構図 (2)

## 2. 掘立柱建物跡

### 1号掘立柱建物跡 (第 62 図/図版 8)

X = 47310～47312、Y = -72563～-72568に位置する。10・14号住居跡と重複し、先後関係は本遺構の方が古いと考えられる。側柱式掘立柱建物跡。柱穴は6基 (P-70～73・104・106) を想定したが、東側の範囲がP-68に及ぶ可能性が考えられる。平面形は長方形を呈し、桁行2間×梁間1間。東辺1.27m、西辺1.67m、南辺3.69 (P-68を含むと5.28) m、北辺3.71m。柱間距離は桁方向で1.62～2.05m、梁方向で1.27～1.64m。長軸方位はN-80～85°-W。埋土はAs-C・Hr-FA・白色軽石粒を含む暗褐色土である。



第 62 図 1号掘立柱建物跡遺構図

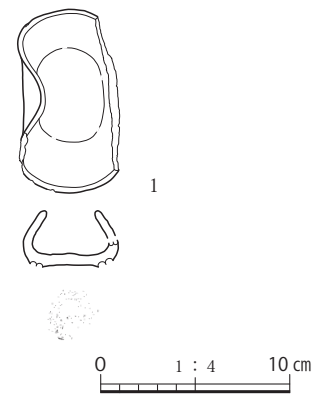
### 3. 竪穴状遺構

#### 1号竪穴状遺構跡 (第 64 図/図版 8)

X = 47292~47294、Y = -72567~-72570に位置する。規模は、東西2.54m、南北2.16mの不整形。主軸方位は、N-70°-E。壁高は0.11m程度で、壁面はやや急に立ち上がる。床面は多少の起伏がある。埋土はHr-F A・白色軽石粒を含む暗褐色土である。出土遺物は縄文土器(深鉢)、須恵器(坏)である。

#### 2号竪穴状遺構 (第 63・64 図/第 25 表/図版 9・18)

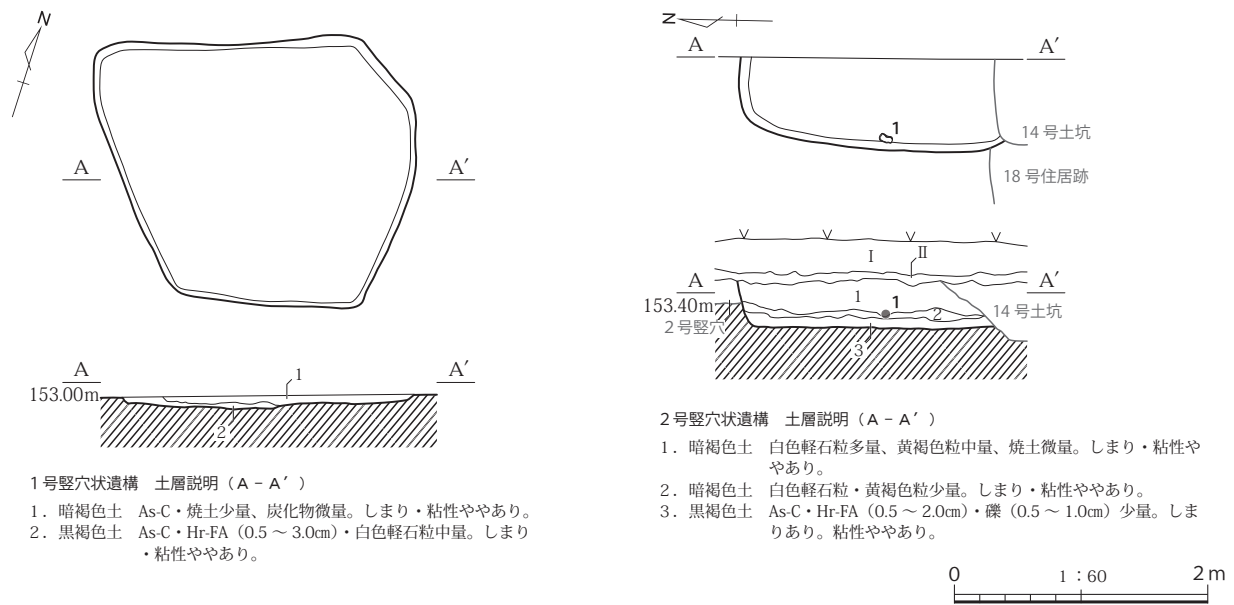
X = 47308~47310、Y = -72556・-72557に位置する。18号住居跡、14号土坑と重複し、先後関係は2号竪穴状遺構→18号住居跡→14号土坑と考えられる。規模は、東西<0.83> m、南北<2.40> mの不整形。主軸方位は、N-3°-E。壁高は0.16m程度で、壁面はやや急に立ち上がる。Hr-F A・白色軽石粒・焼土・礫を含む暗褐色土による貼床を施すが、床面のしまりはやや弱い。埋土は白色軽石粒・黄褐色粒を含む暗褐色土である。出土遺物は縄文土器(深鉢)、土師器(甕)、須恵器(耳皿)である。西壁下中央寄りの埋土中から耳皿が出土した。本遺構は竪穴住居跡である可能性が考えられる。



第 63 図 2号竪穴状遺構遺物実測図

第 25 表 2号竪穴状遺構遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考
1	須恵器 耳皿	口径：9.7 底径：— 器高：<3.3>	口縁部～ 体部 4/5	外面：橙 内面：にぶい橙	褐色粒・黒 色粒	酸化焰	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ。	



第64図 1・2号竪穴状遺構遺構図

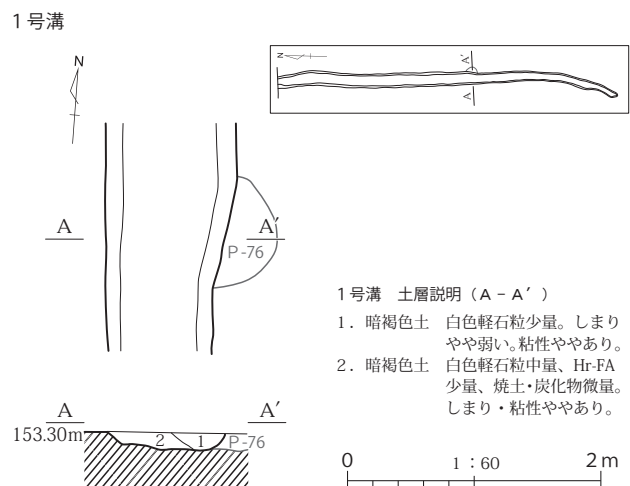
## 4. 溝

### 1号溝 (第65図/図版9)

X=47285~47312、Y=-72587~-72589に位置する。7号住居跡、2・7号溝、P-76と重複し、先後関係は7号住居跡、2・7号溝、P-76→1号溝と考えられる。北→南の方向へやや蛇行しながら走行する。北側は調査区外に延び、南側は立ち上がる。N-2°-W→N-18°-E。規模は、上端幅0.47~1.17m、下端幅0.33~0.89m。底面の標高は北153.294~南152.888mで、その比高差は約0.40m。断面形は逆台形基調で、深さは0.04~0.15m。埋土中にAs-Bの含有が認められた。出土遺物は縄文土器(深鉢)、土師器(坏・甕)、須恵器(高台付碗・蓋・甕・壺)、灰釉陶器(碗)である。

### 2号溝 (第66図/図版9)

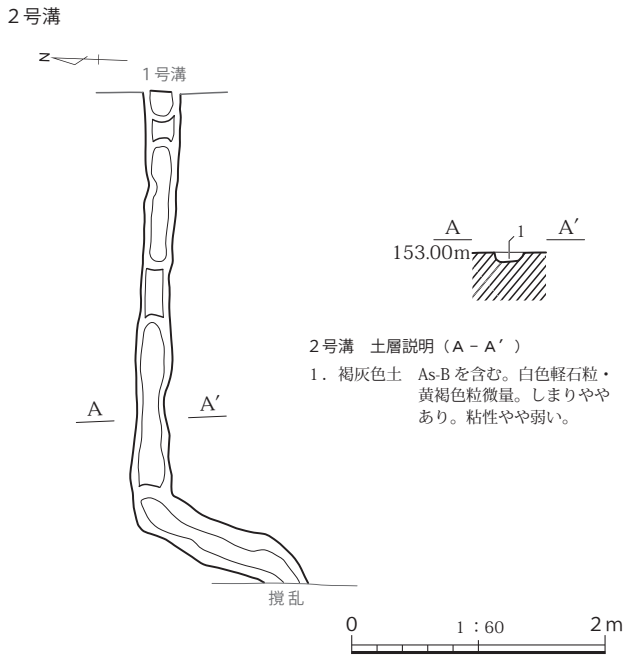
X=47293~47295、Y=-72588~-72592に位置する。1号溝と重複し、先後関係は2号溝→1号溝と考えられる。東から西方へ直線的に走行し、南西方向へ屈曲する。N-90°→N-27°-E。規模は、上端幅0.20~0.36m、下端幅0.09~0.17m。底面の標高は東153.154~南西153.109m。断面形は半円形~不整形で、底面は起伏がある。深さは0.02~0.15m。出土遺物は縄文土器(深鉢)、土師器(坏)である。



第65図 1号溝遺構図

### 3号溝 (第68・69図/第26表/図版10・18)

X=47291~47312、Y=-72572~-72578に位置する。5・6・19号住居跡、4号溝、4・12号土坑、P-8・10・13・14・32と重複し、先後関係は本遺構と4号溝はさほど時間差はないと考えられるが、その他の遺構よりは古いと考えられる。北→南方向へ弱く、くの字状に屈曲しながら走行する。N-2°-E→N

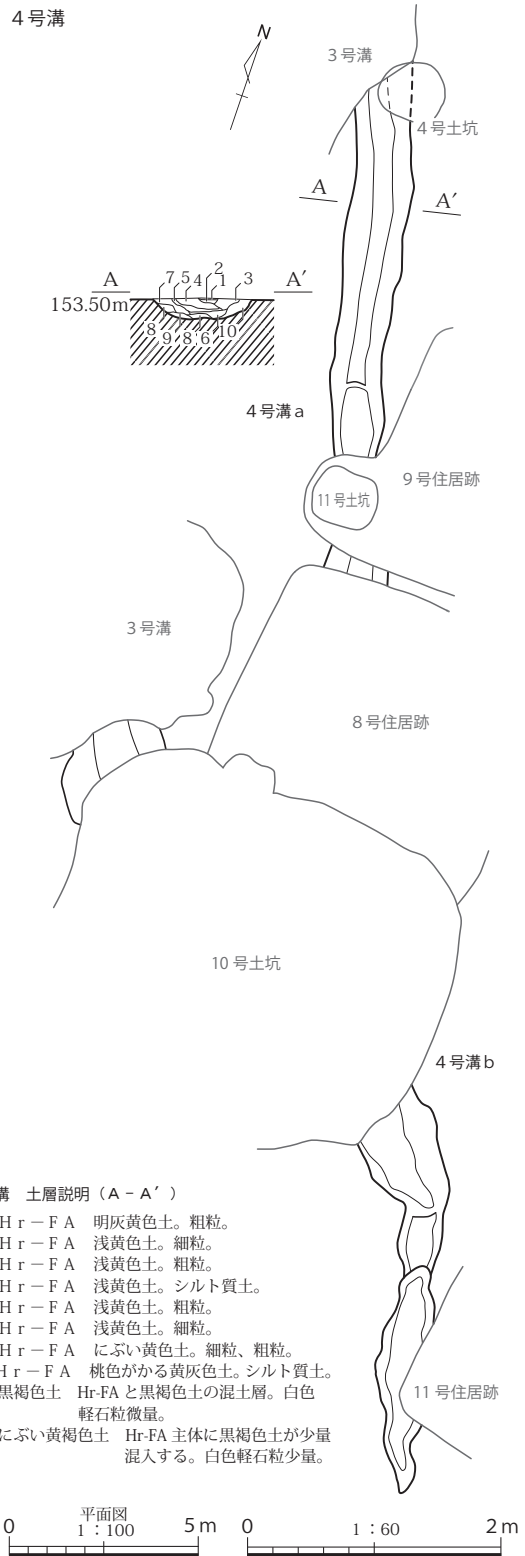


第 66 図 2号溝遺構図

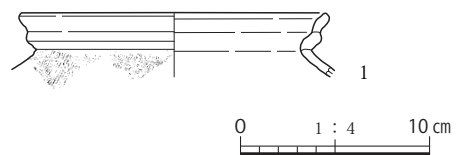
-17° - E。規模は上端幅1.00~3.28m、下端幅0.08~0.17m。底面の標高は北152.960~南152.517mで、その比高差は約0.44m。断面形はV字形~逆台形基調(有段)で、深さは0.40~0.64m。出土遺物は縄文土器(深鉢)、土師器(台付甕)である。

#### 4号溝 (第 67 図/図版 10)

X = 47292~47310、Y = -72566~-72574に位置する。便宜上、8号住居より北側を4号溝 a、南側を4号溝 bとした。8・9・11号住居跡、3号溝、4・10・11号土坑と重複し、先後関係はいずれの遺構よりも本遺構の方が古いと考えられる。規模は、上端幅 a : 0.60~0.79m、b : 0.37~1.47m、下端幅 a : 0.20~0.31m、b : 0.22~0.55m。底面の標高は a : 北153.335~南152.162mで、その比高差は約0.17m。b : 北152.960~南152.874mで、その比高差は約0.08m。断面形は a : 逆台形基調で、深さは0.12~0.17mを測る。b : 不整形で、深さは0.03~0.21mを測る。底面の標高は a は北152.960~南152.517mで、その比高差は約0.44m。b は北152.960~南152.874mで、その比高差は約0.08m。断面形はV字形~逆台形基調(有段)で、深さは a が0.20~0.53m、b は0.03~0.21m。出土遺物は縄文土器(深鉢)、土師器・台付甕である。



第 67 図 4号溝遺構図

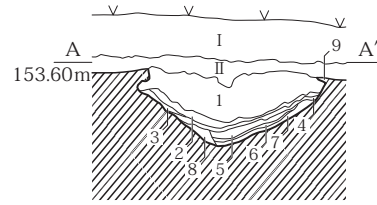
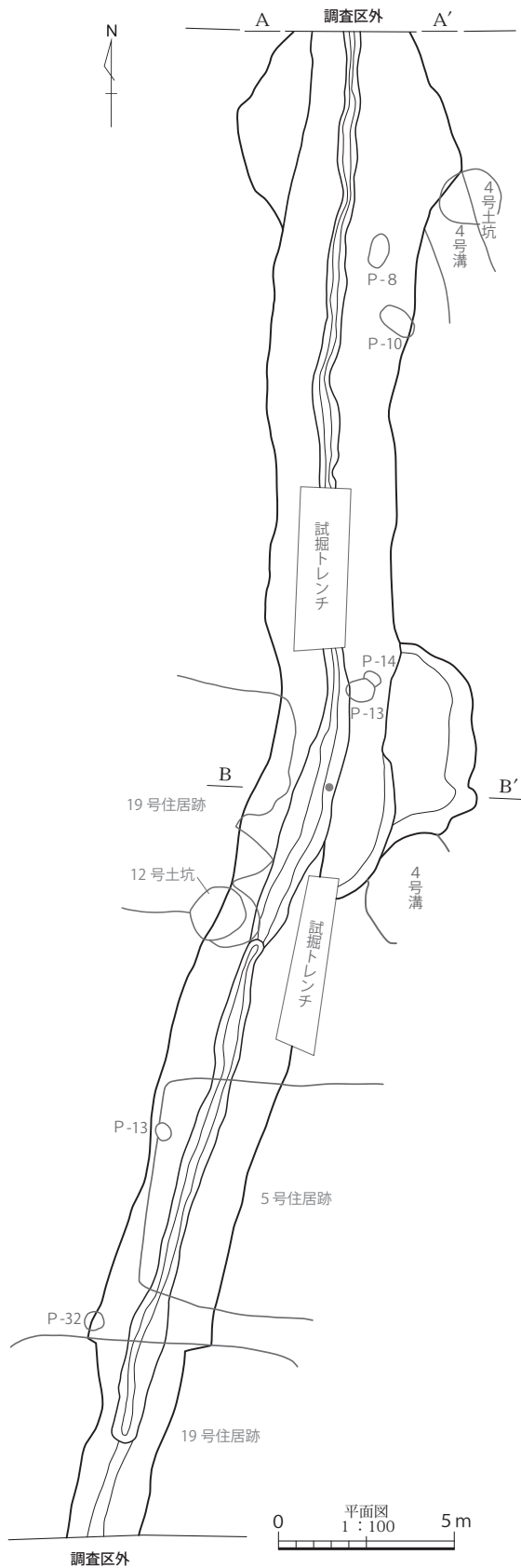


第 68 図 3号溝遺物実測図



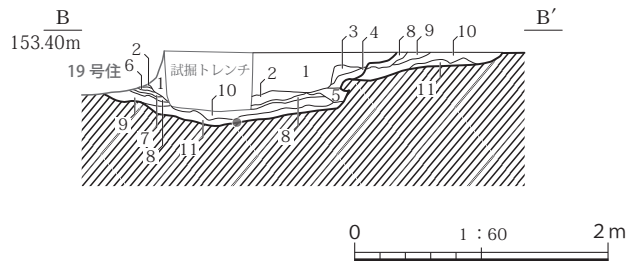
第26表 3号溝遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考
1	土師器 台付甕	口径：(16.4) 底径：— 器高：(3.2)	口縁部～ 胴部上位片	外面：明赤褐 内面：明赤褐	黒色粒・白 色粒	酸化焰	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ。 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	



3号溝 土層説明 (A-A'・B-B')

1. にぶい黄褐色土 Hr-FA火山泥流堆積物。Hr-FA主体。角閃石安山岩・砂礫を含む。しまりややあり。粘性やや弱い。
2. にぶい黄褐色土 Hr-FA火山泥流堆積物。Hr-FA主体。角閃石安山岩・砂礫は1層より少ない。しまりややあり。粘性やや弱い。
- 3～11. 灰黄～黄灰色土。Hr-FA一次堆積。
3. Hr-FA 細粒。
4. Hr-FA 細粒層とシルト質層が互層堆積。
5. Hr-FA 細粒。白色軽石粒を含む。
6. Hr-FA 細粒。黒褐色土含む。
7. Hr-FA 粗粒。
8. Hr-FA 7・9層の混土。
9. Hr-FA 細粒。白色軽石粒を含む。
10. Hr-FA 細粒。
11. Hr-FA 細粒。



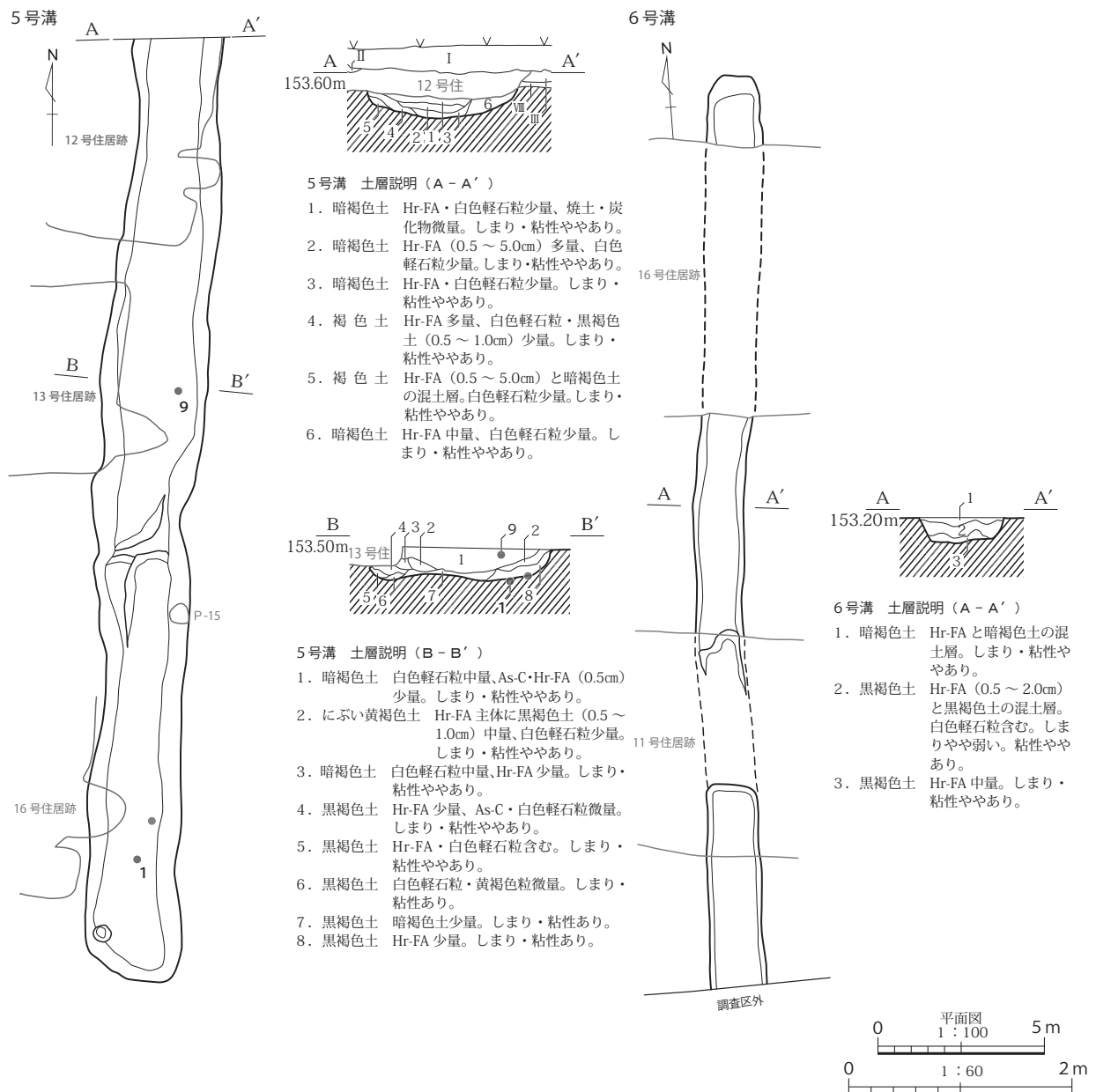
第69図 3号溝遺構図

5号溝 (第70・71図/第27表/図版10・18)

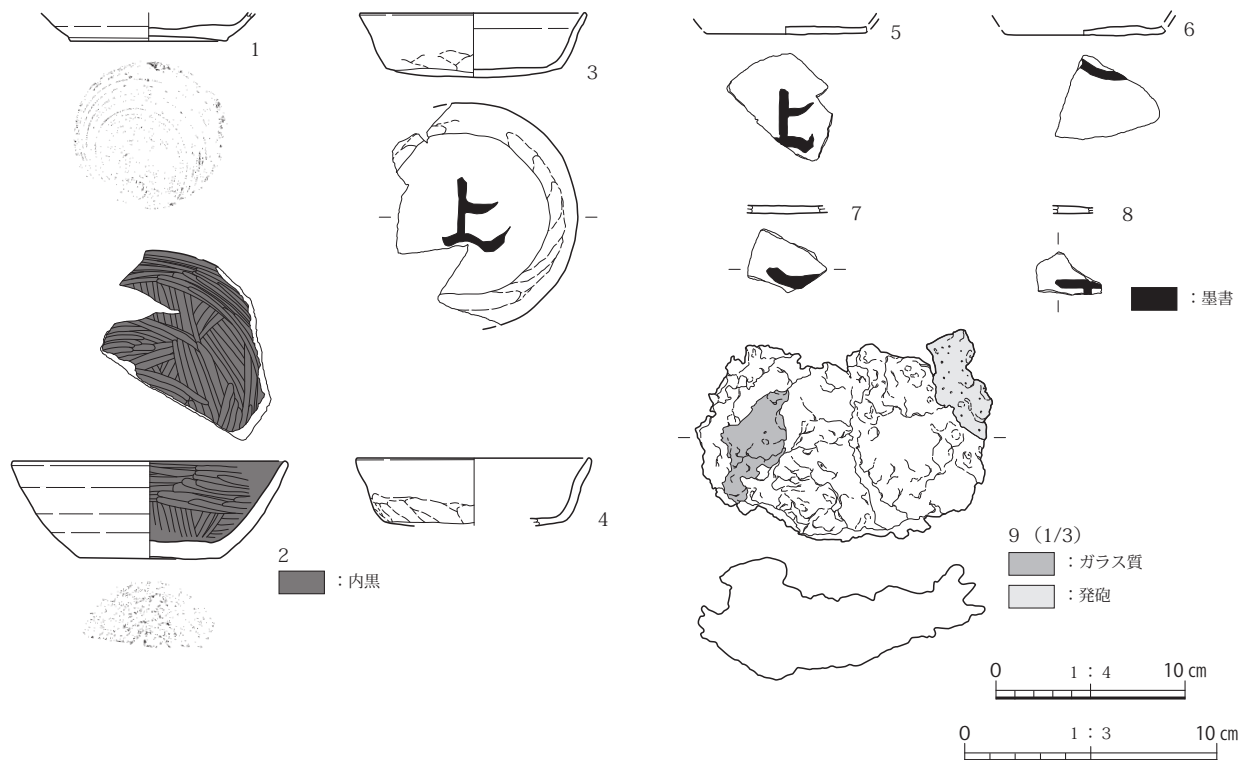
X=47298~47312、Y=-72560~-72562に位置する。12・13・16号住居跡、P-15と重複し、先後関係は5号溝→12・13・16号住居跡、P-15と考えられる。北側は調査区外に延び、南側は立ち上がる。北→南の方向へ概ね直線的に走行する。N-4°-E。規模は、上端幅1.14~1.62m、下端幅0.65~1.07m。底面の標高は北153.147~南152.951mで、その比高差は約0.20m。断面形は弧状で、深さは0.20~0.30m。出土遺物は縄文土器(深鉢)、土師器(坏・台付甕)、須恵器(坏・甕・壺)、椀型鍛冶滓である。

6号溝 (第70図/図版10)

X=47291~47305、Y=-72564・-72565に位置する。11・16号住居跡と重複し、先後関係は6号溝→11・16号住居跡と考えられる。北→南の方向へ概ね直線的に走行する。北側は立ち上がり、南側は調査区外へ延びる。N-4°-E。規模は、上端幅0.67~0.81m、下端幅0.50~0.65m。底面の標高は北153.067~南152.688mで、その比高差は約0.38m。断面形は逆台形基調で、深さは0.13~0.21m。出土遺物は縄文土器(深鉢)、土師器(甕)である。



第70図 5・6号溝遺構図



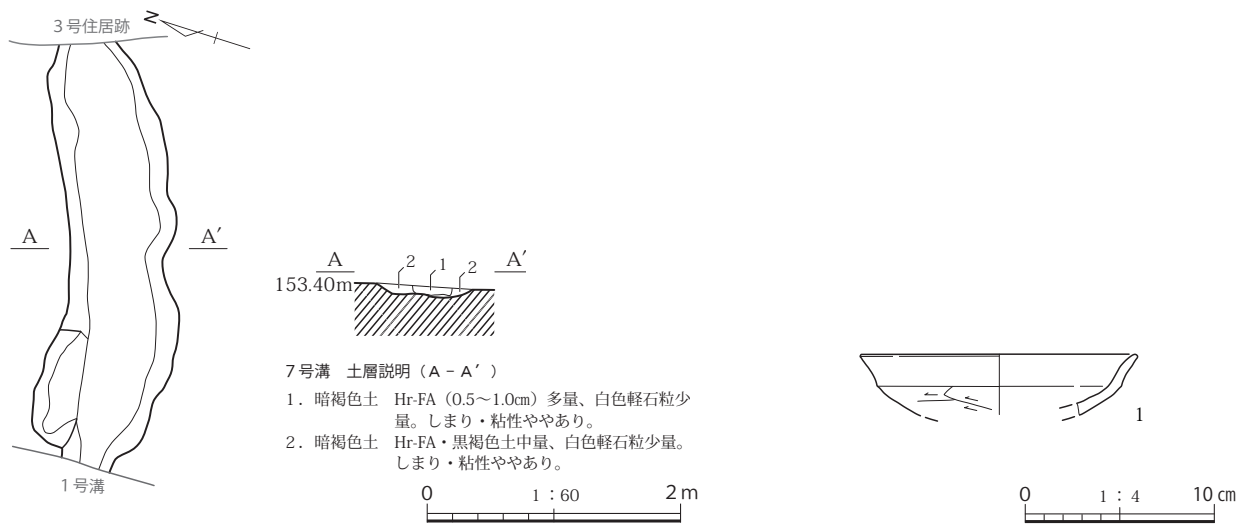
第71図 5号溝遺物実測図

第27表 5号溝遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	口径：— 底径：8.4 器高：〈1.8〉	体部下位 1/6～底部	外面：灰 内面：黄灰	砂粒・チャ ート	還元焰	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り。 内面：体部～底部回転ナデ。	
2	須恵器 坏	口径：(14.6) 底径：7.4 器高：5.2	1/3	外面：にぶい褐 内面：黒	黒褐色粒・ 褐色粒・チ ャート	酸化焰	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ。 内面：口縁部ナデ～底部回転ナデ→ミガキ。	内面黒色処理。
3	土師器 坏	口径：(12.1) 底径：(9.2) 器高：3.4	3/4	外面：明赤褐 内面：明赤褐	黒褐色粒・白 色粒	酸化焰	外面：口縁部ヨコナデ→体部ナデ、底部ヘラケズリ。 内面：口縁部～底部ナデ。	底部外面墨書あり、「上」カ。
4	土師器 坏	口径：(12.4) 底径：(9.4) 器高：〈3.5〉	1/3	外面：明赤褐 内面：暗赤褐	白色粒・黒 色粒	酸化焰	外面：口縁部ヨコナデ→体部指頭成形後ナデ、底部ヘラケ ズリ。 内面：口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	
5	土師器 坏	口径：— 底径：(8.4) 器高：〈0.4〉	底部 1/5	外面：明赤褐 内面：明赤褐	黒色粒・砂 粒	酸化焰	外面：底部ヘラケズリ。 内面：底部ナデ。	底部外面墨書あり、「上」カ。
6	土師器 坏	口径：— 底径：— 器高：〈0.4〉	底部 1/6	外面：明赤褐 内面：にぶい褐	黒色粒・砂 粒	酸化焰	外面：底部ヘラケズリ。 内面：底部ナデ。	底部外面墨書あり。
7	土師器 坏	口径：— 底径：— 器高：〈0.4〉	底部 1/5	外面：明赤褐 内面：明赤褐	黒色粒・砂 粒	酸化焰	外面：底部ヘラケズリ。 内面：底部ナデ。	底部外面墨書あり。
8	土師器 坏	口径：— 底径：— 器高：〈0.4〉	底部 1/5	外面：明赤褐 内面：明赤褐	黒色粒・砂 粒	酸化焰	外面：底部ヘラケズリ。 内面：底部ナデ。	底部外面墨書あり。
No.	器種	法量 (cm・g)						備考
9	椀形鍛冶滓	長さ：11.7 幅：8.4 厚さ：4.9 重さ：402.20。						

7号溝 (第72図/第28表/図版9・18)

X=47301~47303、Y=-72585~-72588に位置する。3号住居跡、1号溝と重複し、先後関係は3号住居跡→7号溝→1号溝と考えられる。西→東方向へやや弧状に走行する。両端部は他遺構との重複地点より延長範囲は確認されなかった。N-70°-E。規模は、上端幅0.64~0.87m、下端幅0.47~0.61m。底面の標高は東153.184~南153.239mで、その比高差は0.06m。断面形は逆台形基調で、深さは0.08~0.12mを測る。出土遺物は、土師器・坏である。



7号溝 土層説明 (A - A')

1. 暗褐色土 Hr-FA (0.5~1.0cm) 多量、白色軽石粒少量。しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 Hr-FA・黒褐色土中量、白色軽石粒少量。しまり・粘性ややあり。

0 1 : 60 2m

0 1 : 4 10cm

第72図 7号溝遺構図・遺物実測図

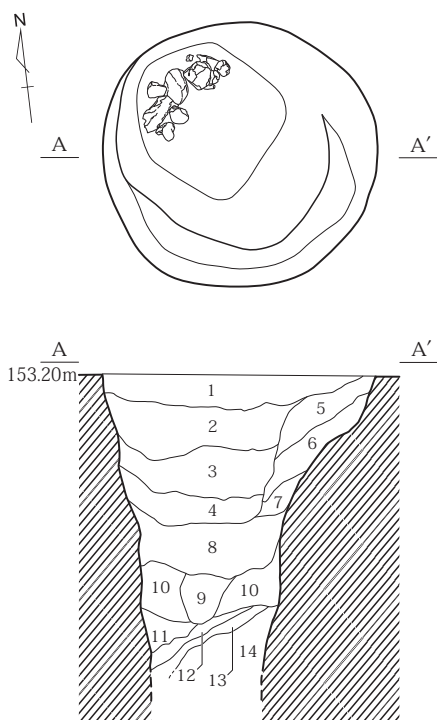
第28表 7号溝遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考
1	土師器 環	口径：(14.6) 底径：— 器高：(3.3)	口縁部～体 部上半 1/6	外面：明赤褐 内面：明赤褐	黒色粒・黒 色鋳物・白 色粒	酸化焰	外面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 内面：口縁部～体部ヘラナデ。	

## 5. 井戸

1号井戸 (第73・74図/第29表/図版11・18・19)

位置：X=47296~47298、Y=-72570~-72572。17号住居跡、10号土坑と重複し、先後関係は17号住居跡、10号土坑→1号井戸と考えられる。規模は、東西2.19m、南北2.14mの楕円形。断面形状は上半東側は段々に緩やかな傾斜を持ち、下半は円筒状を呈する。深さは安全管理を考慮し、2.32mの時点で掘り止めた。長軸方位はN-55°-W。11層以下の北半側には径数~30cm大の礫が検出された。遺物は埋土中から重複する



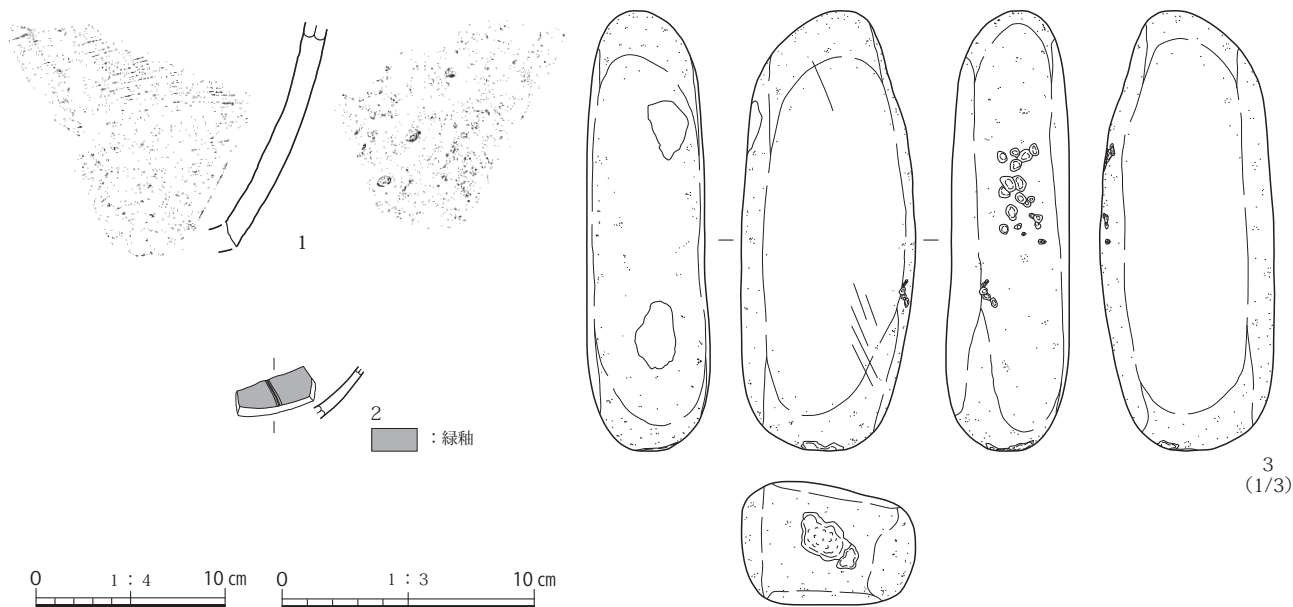
1号井戸 土層説明 (A - A')

1. 暗褐色土 As-C・砂粒多量、礫 (0.5~2.0cm) 中量、焼土・炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 As-C・Hr-FA 中量、砂粒少量。しまり・粘性ややあり。
3. 暗褐色土 As-C 中量、砂礫少量。しまり・粘性ややあり。
4. 暗褐色土 As-C・砂礫少量。しまり・粘性ややあり。
5. 暗褐色土 As-C 少量、砂礫微量。しまり・粘性ややあり。
6. 暗褐色土 As-C 微量。しまり・粘性ややあり。
7. 暗褐色土 As-C・砂礫微量。しまり・粘性ややあり。
8. 暗褐色土 As-C・砂礫微量。7層より含有量は少ない。しまり・粘性ややあり。
9. 暗褐色土 As-C 少量。しまり・粘性ややあり。
10. 暗褐色土 As-C・礫 (5.0~10.0cm) 少量。しまり・粘性ややあり。
11. 暗褐色土 As-C・礫 (5.0~15.0cm) 中量。しまり・粘性ややあり。
12. 暗褐色土 白色粒・黄褐色粒・砂礫 (5.0cm) 少量。しまり・粘性ややあり。
13. 暗褐色土 砂・礫 (5.0~20.0cm) 中量、白色粒・黄褐色粒少量。しまり・粘性ややあり。
14. 暗褐色土 白色粒・黄褐色粒・砂・礫 (5.0~20.0cm) 少量。しまり・粘性ややあり。

0 1 : 60 2m

第73図 1号井戸遺構図

住居跡からの流れ込みと考えられる土師器（坏・甕）、須恵器（坏・高台付碗・甕）、灰釉陶器（碗）、陶器（碗）、石製品（砥石）が出土した。



第 74 図 1 号井戸遺物実測図

第 29 表 1 号井戸遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考
1	須恵器 甕	口径：— 底径：— 器高：〈11.9〉	胴部片	外面：褐灰 内面：褐灰	白色粒・チャート・石英	還元焰	外面：胴部カキメ→ナデ。 内面：胴部当て具痕。	
2	陶器 碗	口径：— 底径：— 器高：〈2.7〉	体部片	胎土：灰白 釉：オリーブ黄	白色粒	堅緻	外面：体部回転ナデ。 内面：体部回転ナデ。	
No.	器種	法量 (cm)	残存	重さ / 石材 / 成整形の特徴等			備考	
3	石製品 砥石	長さ：17.46 幅：6.94 厚さ：4.89	ほぼ完形	重さ：971.98g。石材：流紋岩。棒状礫を素材とし、表裏面と左側面を底面に使用し、顕著な磨耗痕が認められる。上下端部と右側面中央には敲打痕が認められる。				

## 6. 土坑

### 1号土坑（第75図）

X=47301・47302、Y=-72590・-72591に位置する。規模は、東西1.00m、南北0.63mの不整形を呈する。断面形状は逆台形で、深さは0.08m。長軸方位はN-60°-E。底面はやや起伏がある。出土遺物は縄文土器（深鉢）、土師器（甕）である。

### 2号土坑（第75図／図版11）

X=47296・47297、Y=-72585~-72587に位置する。規模は、東西1.58m、南北0.65mの隅丸長方形を呈する。断面形状は箱型で、深さは0.14m。長軸方位はN-80°-E。底面は概ね平坦。埋土はAs-Bを含む暗褐色土である。出土遺物は縄文土器（深鉢）、土師器（甕）である。

### 3号土坑（第75図）

X=47295・47296、Y=-72580・-72581に位置する。規模は、東西0.79m、南北0.83mの不整な円形を呈する。断面形状は箱型で、深さは0.08m。長軸方位はN-20°-E。底面は概ね平坦。遺物は出土しなかった。

### 4号土坑（第75図）

X=47310、Y=-72572・-72573に位置する。3・4号溝、P-9と重複し、先後関係は3・4号溝→4号土坑→P-9と考えられる。規模は、東西0.88m、南北〈0.77〉mの不整な円形を呈する。断面形状は箱



型で、深さは0.12m。長軸方位はN-82°-E。底面は概ね平坦。遺物は縄文土器（深鉢）、灰釉陶器（碗）である。

#### 5号土坑（第75図）

X=47297・47298、Y=-72582に位置する。3号住居跡と重複し、先後関係は3号住居跡→5号土坑と考えられる。規模は、東西0.53m、南北〈0.80〉mの隅丸長方形基調。断面形状は逆台形で、深さは0.10m。長軸方位はN-9°-W。底面は概ね平坦。埋土はAs-Bを含む暗褐色土である。遺物は出土しなかった。

#### 6号土坑（第75図／図版11）

X=47311・47312、Y=-72579・-72580に位置する。北側は調査区外である。規模は、東西0.92m、南北〈1.20〉mの隅丸長方形基調。断面形状は不整形で、深さは0.17m。長軸方位はN-4°-W。底面はやや起伏をする。出土遺物は縄文土器（深鉢）、土師器（甕）である。

#### 7号土坑（第75図／図版12）

X=47296~47298、Y=-72578・-72579に位置する。規模は、東西1.40m、南北1.50mの楕円形。断面形状は皿状で、深さは0.17m。長軸方位はN-42°-E。底面は概ね平坦。埋土はAs-Bを含む暗褐色土で、安山岩系の礫が多量に投棄されたような状態で検出された。出土遺物は縄文土器（深鉢）、土師器（甕）、須恵器（高台付碗・甕）である。埋土内から検出された礫の数に差はみられるが、8号土坑と類するものと考えられる。

#### 8号土坑（第75図／図版12）

X=47307~47309、Y=-72569~-72571に位置する。9号住居跡と重複し、先後関係は9号住居跡→8号土坑と考えられる。規模は、東西1.58m、南北1.69mの不整な楕円形。断面形状は逆台形で、深さは0.30m。長軸方位はN-32°-E。底面は概ね平坦。埋土はAs-Bを含む暗褐色土で、安山岩系の礫が投棄されたような状態で検出された。出土遺物は縄文土器（深鉢）、土師器（坏・甕）、須恵器（坏・蓋・盤）である。埋土内から検出された礫の数に差はみられるが、7号土坑と類するものと考えられる。

#### 9号土坑（第75図）

X=47306~47308、Y=-72580・-72581に位置する。規模は、東西0.58~0.75m、南北1.96mの不整形。断面形状は逆台形基調で、深さは0.12m。長軸方位はN-7°-W。底面はやや起伏をするが、概ね平坦。埋土はAs-Bを含む暗褐色土である。遺物は出土しなかった。

#### 10号土坑（第76・79図／第30表／図版11・19）

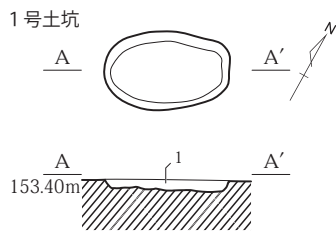
X=47296~47301、Y=-72568~-72573に位置する。5・8・17号住居跡、4号溝、1号井戸と重複し、先後関係は5・8・17号住居跡、4号溝→10号土坑→1号井戸と考えられる。規模は、東西5.42m、南北4.85mの不整形。断面形状は不整形で、深さは0.90m。長軸方位はN-84°-W。底面は起伏をする。人為的な埋没と考えられる。北東側からピット状の掘り込みが1基確認された。規模は0.67×0.57mの不整な楕円形。深さは上端部から0.46m、確認面からは0.91mである。遺物は埋土中から重複する住居跡からの流れ込みと考えられる須恵器・坏、高台付皿、椀形鍛冶滓の他、中期後半の縄文土器（深鉢）、石器が出土した。

#### 11号土坑（第75図）

X=47304・47305、Y=-72571・-72572に位置する。9号住居跡、4号溝、P-24と重複し、先後関係は4号溝→9号住居跡、11号土坑→P-24と考えられる。規模は、東西0.87m、南北0.75mの不整な隅丸長方形。断面形状は逆台形基調で、深さは0.24m。長軸方位はN-90°。底面は概ね平坦。出土遺物は縄文土器（深鉢）、土師器（甕）である。本遺構は9号住居跡に付帯する施設である可能性が考えられる。

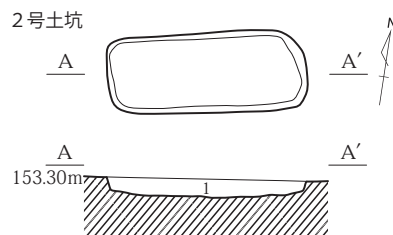
#### 12号土坑（第75図）

X=47299・47300、Y=-72575・-72576に位置する。19号住居跡、3号溝と重複し、先後関係は3号溝→19号住居跡→12号土坑と考えられる。規模は、東西0.77m、南北0.72mの不整形。断面形状は逆台形で、深さは0.30~0.35m。長軸方位はN-55°-E。底面は概ね平坦。出土遺物は縄文土器（深鉢）、土師器



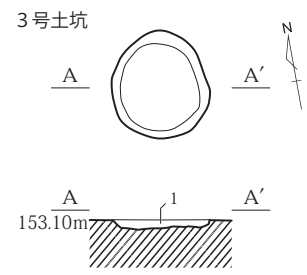
1号土坑 土層説明(A-A')

1. 暗褐色土 As-C・砂粒中量、Hr-FA(0.5 cm)少量。しまり・粘性ややあり。



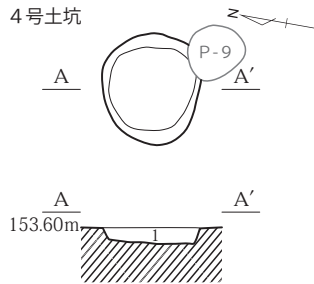
2号土坑 土層説明(A-A')

1. 暗褐色土 As-B・砂礫中量、As-C 微量。しまりややあり。粘性やや弱い。



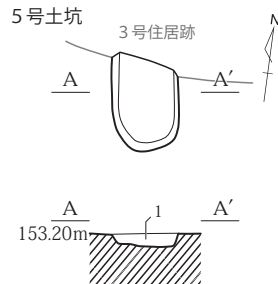
3号土坑 土層説明(A-A')

1. 暗褐色土 As-C 中量、黒褐色土少量、焼土微量。しまりあり。粘性ややあり。



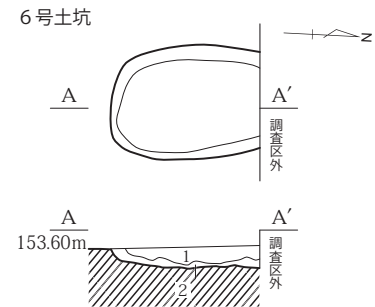
4号土坑 土層説明(A-A')

1. 褐灰色土 As-C 多量、焼土微量。しまり・粘性ややあり。



5号土坑 土層説明(A-A')

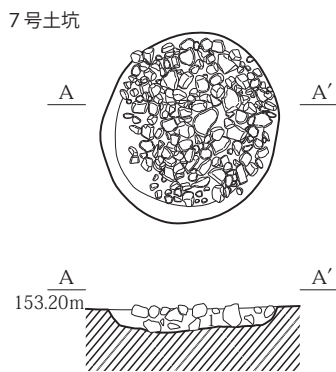
1. 暗褐色土 As-B・砂礫中量、As-C 微量。しまりややあり。粘性やや弱い。



6号土坑 土層説明(A-A')

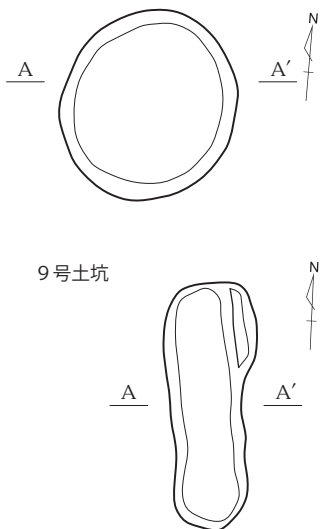
1. 暗褐色土 As-C 多量、黄褐色粒少量。しまり・粘性ややあり。

2. 黒褐色土 As-C 少量、炭化物微量。しまり・粘性ややあり。



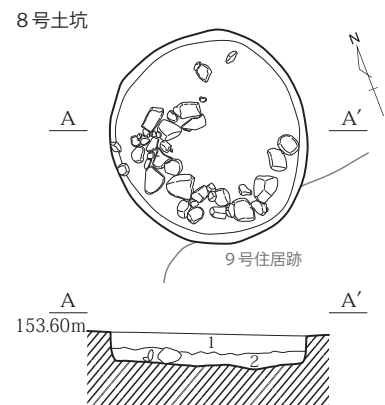
7号土坑 土層説明(A-A')

1. 暗褐色土 As-B・砂礫多量。しまりややあり。粘性やや弱い。



9号土坑 土層説明(A-A')

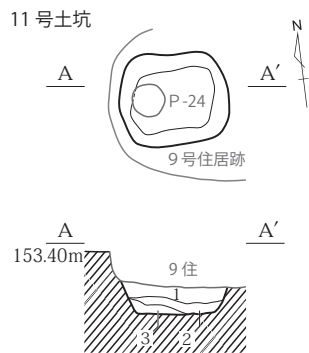
1. 暗褐色土 As-B 含む。As-C・黒褐色土(0.5 ~ 3.0 cm)少量、焼土微量。しまり・粘性ややあり。



8号土坑 土層説明(A-A')

1. 暗褐色土 As-B 含む。Hr-FA(0.5 cm)中量、As-C・黒褐色土少量。しまりややあり。粘性やや弱い。

2. 暗褐色土 Hr-FA(0.5 cm)多量、黒褐色土(0.5 cm)中量、As-C・礫(0.5 ~ 5.0 cm)少量。しまり・粘性ややあり。



11号土坑 土層説明(A-A')

1. 暗褐色土 Hr-FA(0.5 ~ 5.0 cm)多量、As-C 少量。しまり・粘性ややあり。

2. 黒褐色土 Hr-FA(0.5 ~ 2.0 cm)少量、As-C 微量。しまり・粘性ややあり。

3. 黒褐色土 Hr-FA 少量、As-C 微量。しまり・粘性ややあり。

12号土坑 土層説明(A-A')

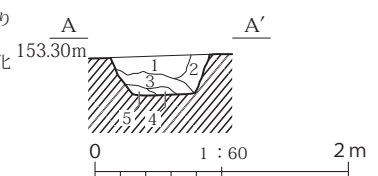
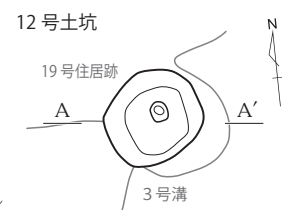
1. 暗褐色土 As-C・Hr-FA 中量、焼土少量、炭化物微量。しまり・粘性ややあり。

2. 暗褐色土 As-C・Hr-FA 少量、焼土・炭化物微量。しまり・粘性ややあり。

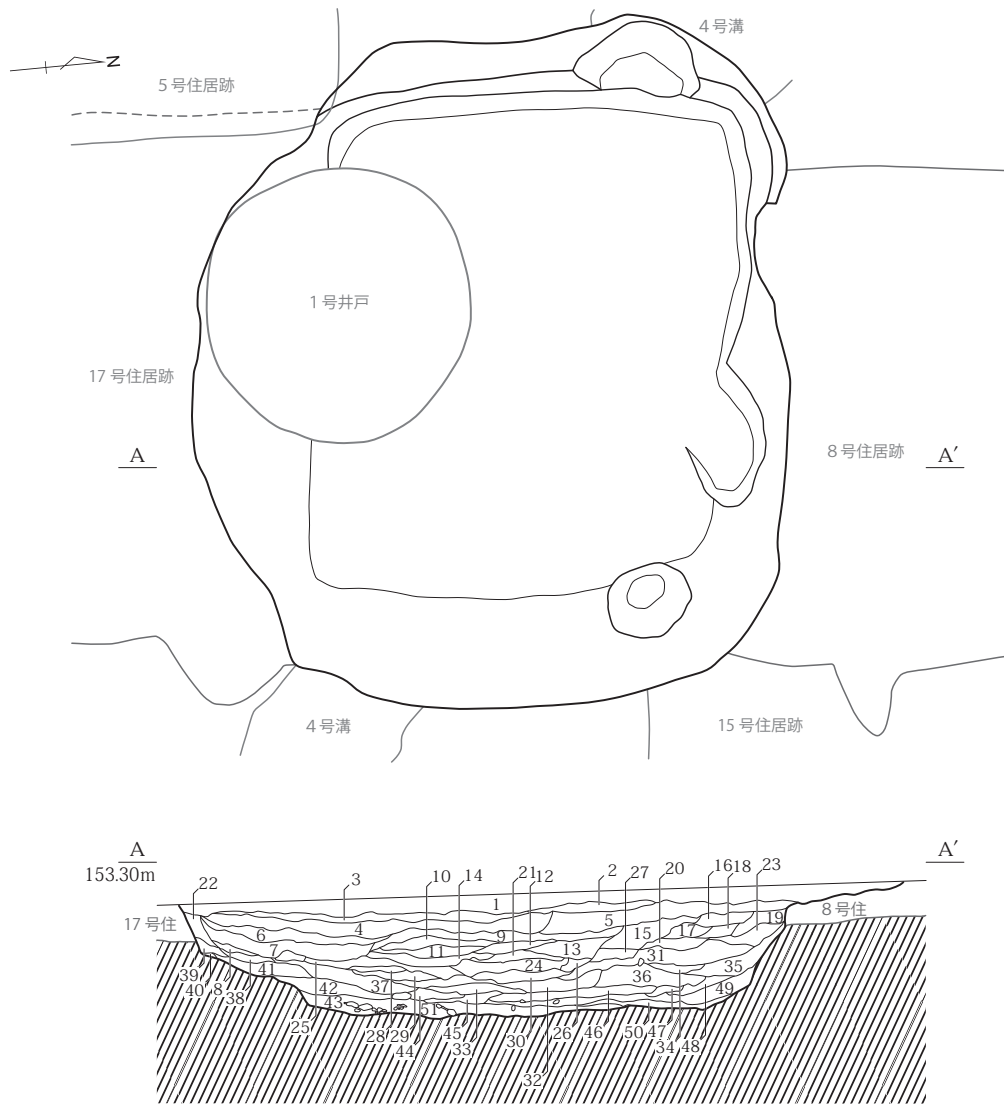
3. 暗褐色土 焼土(0.5 ~ 1.0 cm)中量、As-C・Hr-FA・炭化物少量。しまり・粘性ややあり。

4. 暗褐色土 As-C 少量。しまり・粘性ややあり。

5. 暗褐色土 As-C 少量、焼土微量。しまり・粘性ややあり。



第75図 1~9・11・12号土坑遺構図



10号土坑 土層説明(A-A')

1. 暗褐色土 Hr-FA・As-C少量、焼土・炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 Hr-FA少量、As-C微量。しまり・粘性ややあり。
3. 暗褐色土 Hr-FA・As-C少量。しまり・粘性ややあり。
4. 暗褐色土 Hr-FA中量、As-C少量、焼土微量。しまり・粘性ややあり。
5. 暗褐色土 Hr-FA少量、炭化物・礫(0.5～2.0cm)微量。しまり・粘性ややあり。
6. 暗褐色土 Hr-FA少量、As-C微量。しまり・粘性ややあり。
7. 暗褐色土 Hr-FA・As-C少量、焼土・炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
8. 暗褐色土 Hr-FA少量、As-C微量。しまり・粘性ややあり。
9. 暗褐色土 As-C中量、Hr-FA少量、炭化物・礫(0.5～2.0cm)微量。しまり・粘性ややあり。
10. 暗褐色土 Hr-FA・As-C少量。しまり・粘性ややあり。
11. 暗褐色土 As-C中量、Hr-FA少量。しまり・粘性ややあり。
12. 暗褐色土 Hr-FA(0.5cm)多量、As-C少量。しまり・粘性ややあり。
13. 暗褐色土 Hr-FA・As-C少量、黒褐色土(0.5～3.0cm)微量。しまり・粘性ややあり。
14. 暗褐色土 Hr-FA多量、As-C少量。しまり・粘性ややあり。
15. 暗褐色土 Hr-FA(0.5～1.0cm)・礫(0.5～3.0cm)中量。しまり・粘性ややあり。
16. 暗褐色土 As-C少量、Hr-FA・焼土・炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
17. 暗褐色土 Hr-FA多量、As-C少量。しまり・粘性ややあり。
18. 暗褐色土 Hr-FA中量、As-C少量、黒褐色土微量。しまり・粘性ややあり。
19. 暗褐色土 Hr-FA・As-C少量、炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
20. 暗褐色土 As-C多量、黒褐色土中量、Hr-FA少量。しまり・粘性ややあり。
21. 暗褐色土 Hr-FA中量、As-C少量、炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
22. 暗褐色土 As-C多量、Hr-FA少量、焼土微量。しまり・粘性ややあり。
23. 暗褐色土 黒褐色土中量、As-C・Hr-FA少量。しまり・粘性ややあり。
24. 暗褐色土 Hr-FA(0.5～3.0cm)多量、As-C・焼土微量。しまり・粘性ややあり。

25. 暗褐色土 Hr-FA(0.5～5.0cm)多量、As-C少量。しまり・粘性ややあり。
26. 暗褐色土 Hr-FA(0.5～2.0cm)多量、As-C少量。しまり・粘性ややあり。
27. 暗褐色土 Hr-FA(0.5cm)多量、As-C少量。しまり・粘性ややあり。
28. 暗褐色土 Hr-FA少量、As-C微量。しまり・粘性ややあり。
29. 暗褐色土 Hr-FA・As-C少量。しまり・粘性ややあり。
30. 暗褐色土 Hr-FA多量、As-C少量。しまり・粘性ややあり。
31. 褐灰色土 Hr-FA多量、As-C少量、礫(0.5～3.0cm)微量。しまり・粘性ややあり。
32. 暗褐色土 Hr-FA中量、As-C微量。しまり・粘性ややあり。
33. 暗褐色土 Hr-FA少量、As-C微量。しまり・粘性ややあり。
34. 暗褐色土 Hr-FA少量、As-C微量。しまり・粘性ややあり。
35. 暗褐色土 Hr-FAが帯状に堆積。As-C少量、焼土微量。しまり・粘性ややあり。
36. 褐灰色土 Hr-FA(0.5～3.0cm)中量、As-C少量。しまり・粘性ややあり。
37. 暗褐色土 Hr-FA(0.5～3.0cm)中量、As-C少量、焼土微量。しまり・粘性ややあり。
38. 暗褐色土 Hr-FA少量、As-C微量。しまり・粘性ややあり。
39. 暗褐色土 As-C中量、Hr-FA少量、焼土微量。しまり・粘性ややあり。
40. 黒褐色土 As-C少量、焼土微量。しまり・粘性ややあり。
41. 暗褐色土 As-C・Hr-FA少量、炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
42. 黒褐色土 As-C・黒褐色土微量。しまり・粘性ややあり。
43. 黒褐色土 As-C少量、Hr-FA微量。しまり・粘性ややあり。
44. 暗褐色土 As-C・Hr-FA微量。しまり・粘性あり。
45. 暗褐色土 As-C・Hr-FA少量、焼土・炭化物微量。しまり・粘性あり。
46. 暗褐色土 As-C・Hr-FA(0.5～2.0cm)少量、焼土微量。しまり・粘性あり。
47. 黒褐色土 Hr-FA(0.5～2.0cm)中量、As-C少量。しまり・粘性ややあり。
48. 灰黄褐色土 暗褐色土少量、As-C微量。しまり・粘性ややあり。
49. 暗褐色土 Hr-FA少量、As-C・礫(0.5～2.0cm)微量。しまり・粘性ややあり。
50. 暗褐色土 As-C微量。しまり・粘性あり。
51. 暗褐色土 As-C少量、Hr-FA微量。しまり・粘性あり。

0 1 : 60 2m

第76図 10号土坑遺構図

(甕)、須恵器(甕・羽釜)である。

### 13号土坑 (第78図/図版12)

X=47293・47294、Y=-72556・-72557に位置する。規模は、東西0.96m、南北1.02mの楕円形。断面形状は逆台形で、深さは0.43m。長軸方位はN-13°-E。底面は概ね平坦。埋土は上層中央(1層)にHr-FAブロックの混入が顕著である。出土遺物は縄文土器(深鉢)、土師器(坏・甕)、須恵器(高台付埴)である。

### 14号土坑 (第77図/図版12)

X=47306~47308、Y=-72556~-72557に位置する。18号住居跡、2号竪穴状遺構と重複し、先後関係は2号竪穴状遺構→18号住居跡→14号土坑と考えられる。東側は調査区外である。規模は、東西<0.72>m、南北2.46mの方形基調。断面形状は逆台形基調で、深さは0.60(遺構確認面から0.17)m。長軸方位はN-6°-W。底面は多少の起伏はあるものの、概ね平坦。遺物は出土しなかった。

### 15号土坑 (第78図)

X=47293・47294、Y=-72574に位置する。規模は、東西0.76m、南北0.83mの不整な楕円形。断面形状は逆台形で、深さは0.14m。長軸方位はN-37°-E。底面は概ね平坦。出土遺物は土師器(甕)、須恵器(坏・甕・羽釜)である。

### 16号土坑 (第78・80図/第31表/図版19)

X=47305・47306、Y=-72566・-72567に位置する。規模は、東西0.86m、南北0.85mの円形。断面形状は逆台形で、深さは0.24m。底面は概ね平坦。出土遺物は須恵器(坏・横瓶)である。

### 17号土坑 (第78図)

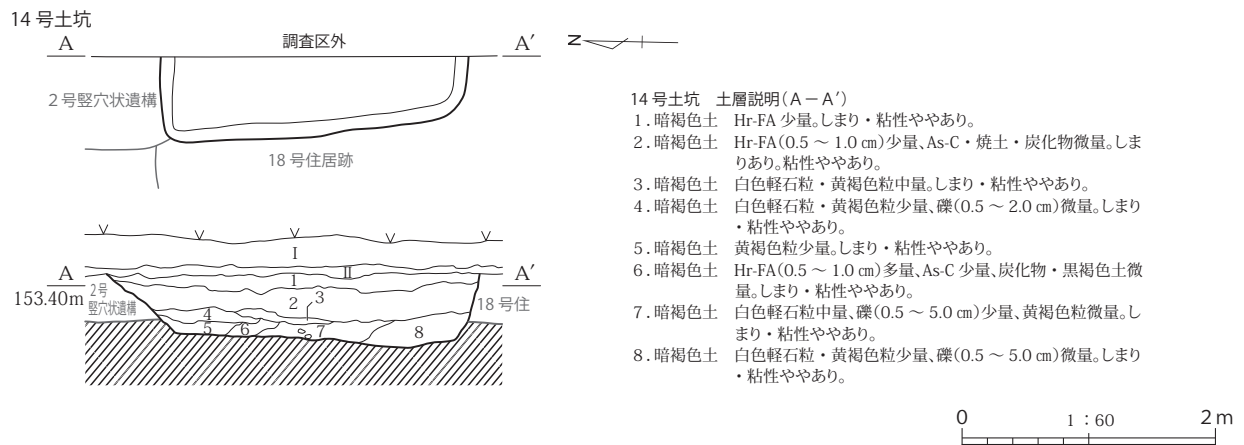
X=47306・47307、Y=-72567・-72568に位置する。規模は、東西0.82m、南北0.66mの不整形。断面形状は不整形で、深さは0.09m。長軸方位はN-60°-W。底面は起伏がある。遺物は出土しなかった。

### 18号土坑 (第78図/図版12)

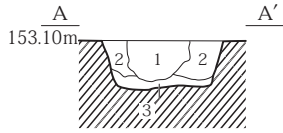
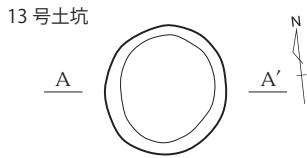
X=47311・47312、Y=-72577・-72578に位置する。P-40と重複し、先後関係は18号土坑→P-40と考えられる。規模は、東西0.85m、南北1.27mの不整な長楕円形。断面形状は逆台形で、深さは0.24m。長軸方位はN-2°-E。底面は概ね平坦。出土遺物は縄文土器(深鉢)、土師器(坏)、須恵器(坏)である。

### 19号土坑 (第78図)

X=47309~47311、Y=-72580・-72581に位置する。4・20号住居跡と重複し、先後関係は4・20号住居跡→19号土坑と考えられる。規模は、東西<0.90>m、南北<1.28>mの方形基調。断面形状は逆台形で、深さは0.25m。長軸方位はN-90°。底面は多少の起伏がみられる。遺物は出土しなかった。

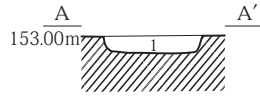


第77図 14号土坑遺構図



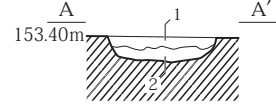
13号土坑 土層説明(A-A')

1. 暗褐色土 Hr-FA(0.5 cm)・黒褐色土(0.5 cm) 多量、As-C 少量。しまりややあり。粘性やや弱い。
2. 暗褐色土 Hr-FA・黒褐色土少量。しまりややあり。粘性やや弱い。
3. 暗褐色土 Hr-FA 中量、As-C 少量。しまり・粘性ややあり。



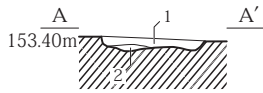
15号土坑 土層説明(A-A')

1. 暗褐色土 Hr-FA(0.5 cm)・黒褐色土(0.5 cm) 中量、As-C 少量、焼土・炭化物微量。しまり・粘性ややあり。



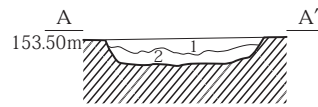
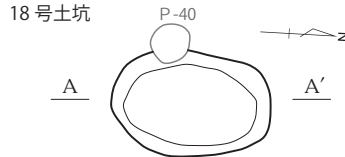
16号土坑 土層説明(A-A')

1. 暗褐色土 Hr-FA(0.5 cm)中量、As-C 少量、焼土・炭化物微量。しまりややあり。粘性やや弱い。
2. 暗褐色土 As-C・Hr-FA・炭化物少量。しまり・粘性ややあり。



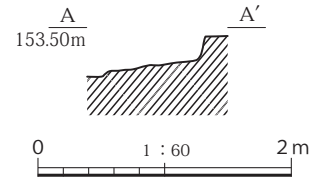
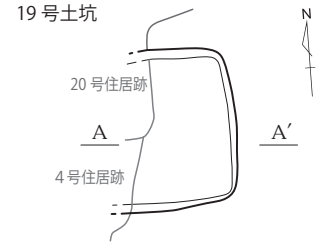
17号土坑 土層説明(A-A')

1. 暗褐色土 黒褐色土(0.5 ~ 2.0 cm)中量、Hr-FA(0.5 cm)少量、焼土・炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
2. 黒褐色土 しまり・粘性ややあり。

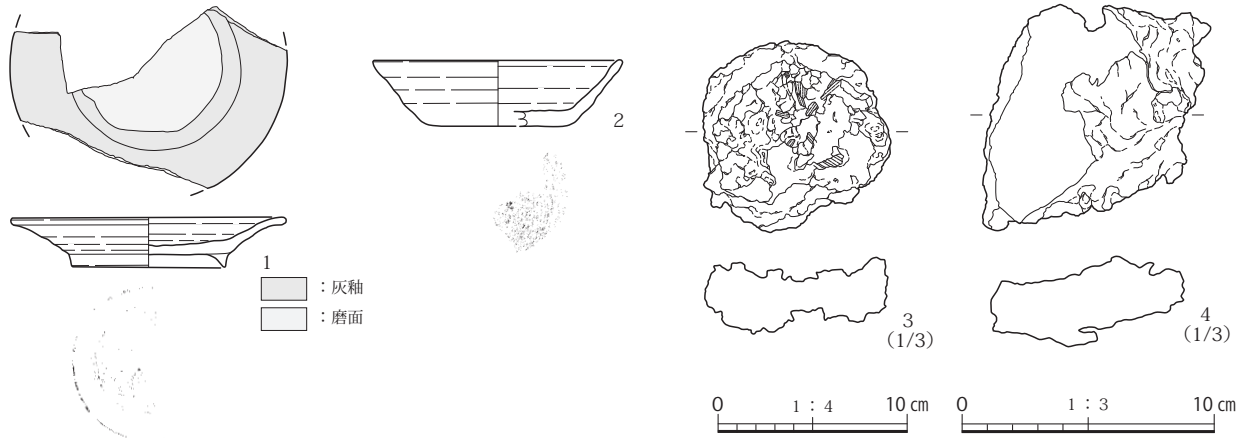


18号土坑 土層説明(A-A')

1. 暗褐色土 As-C・Hr-FA 中量。しまり・粘性ややあり。
2. 黒褐色土 As-C・Hr-FA 微量。しまり・粘性ややあり。



第 78 図 13・15 ~ 19 号土坑遺構図

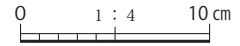
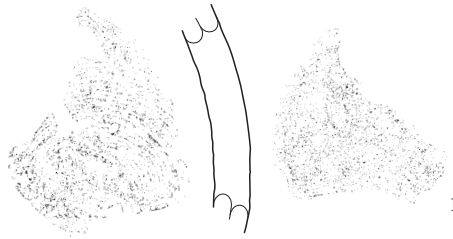


第 79 図 10 号土坑遺物実測図

第 30 表 10 号土坑遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考
1	須恵器 高台付皿	口径：14.5 底径：(8.2) 器高：2.6	1/3	外面：灰 内面：灰	白色粒	還元焼	外面：口縁部～高台部回転ナデ、底部回転系切り→高台貼付。 内面：口縁部～底部回転ナデ。	
2	須恵器 坏	口径：(13.2) 底径：(7.4) 器高：3.5	1/3	外面：黄灰 内面：灰	黒色粒・チャート・石英	還元焼	外面：口縁部回転ナデ、底部回転系切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ。	
No.	器種	法量 (cm・g)						備考
3	椀形鍛冶滓	長さ：7.6 幅：7.5 厚さ：3.0 重さ：198.90。						
4	椀形鍛冶滓	長さ：9.0 幅：9.0 厚さ：3.6 重さ：283.54。						





第 80 図 16 号土坑遺物実測図

第 31 表 16 号土坑遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考
1	須恵器 横瓶	口径：— 底径：— 器高：〈12.0〉	胴部片	外面：灰 内面：灰	黒色鉱物・ 白色粒・石 英	還元焰	外面：胴部カキメ。 内面：胴部ナデ。	内面はよく磨れている。二次利用か。

## 7. ピット (第 81 図/第 32 ~ 34 表/図版 19)

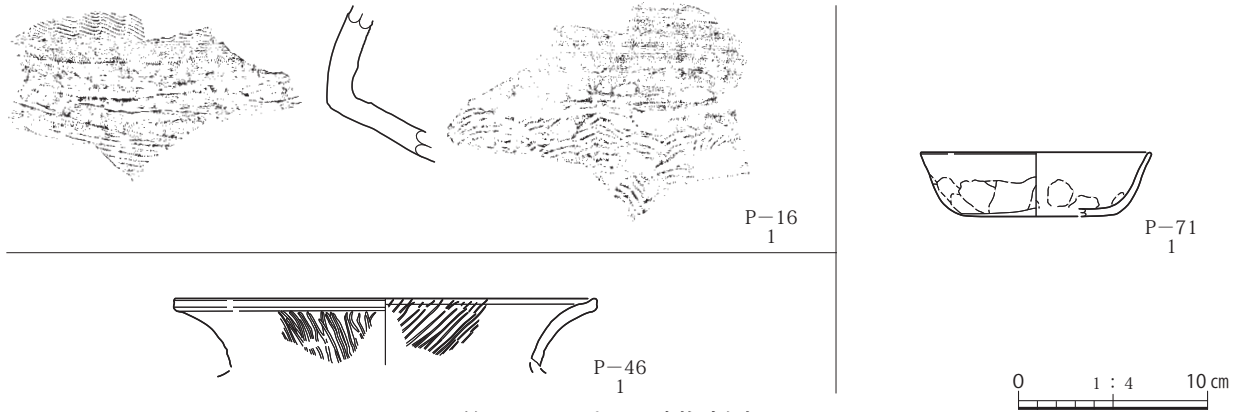
ピットは 106 基が確認された。分布に偏在性はみられない。調査区北東から掘立柱建物跡 1 棟を想定した。この他、定型的な規格・配置を擁するものは見受けられなかった。P-15・17・62・93 は A s - B の二次堆積層が埋没するため、中世以降の産物と考えられる。各遺構の計測値についてはピット計測表に提示した。

第 32 表 ピット計測表 (1)

遺構名	位置	規模 <m>			平面形状	断面形状	重複/遺物/備考	遺構名	位置	規模 <m>			平面形状	断面形状	重複/遺物/備考
		長軸	短軸	深さ						長軸	短軸	深さ			
P-1	X=47282 Y=72589・90	0.70	0.57	0.50	楕円形	U 字状	柱痕有り	P-30	X=47302 Y=72556・57	0.36	0.33	0.35	不整形	不整形	
P-2	X=47281 Y=72589・90	0.65	0.51	0.49	不整形	V 字状	柱痕有り	P-31	X=47311 Y=72559	0.36	0.26	0.21	不整形	逆台形状	
P-3	X=47279・80 Y=72588・89	0.85	0.70	0.47	楕円形	V 字状	柱痕有り	P-32	X=47294 Y=72577・78	0.28	0.27	0.17	円形	U 字状	3 号溝→P-32
P-4	X=47295 Y=72568	0.21	0.21	0.06	円形	半円形状		P-33	X=47304 Y=72576	0.34	0.29	0.33	不整形円形	U 字状	
P-5	X=47294 Y=72568・69	0.24	0.21	0.12	不整形円形	半円形状		P-34	X=47305・06 Y=72578	0.40	0.37	0.15	楕円形	V 字状	
P-6	X=47294 Y=72569	0.28	0.22	0.20	楕円形	半円形状		P-35	X=47308・09 Y=72577	0.36	0.30	0.28	円形	U 字状	
P-7	X=47293 Y=72571	0.32	0.29	0.29	不整形	逆台形状		P-36	X=47306 Y=72579	0.28	0.26	0.15	円形	U 字状	
P-8	X=47309 Y=72573・74	0.47	0.27	0.24	不整形 (長楕円形)	半円形状		P-37	X=47309 Y=72578・79	0.34	0.33	0.18	円形	U 字状	
P-9	X=47309・10 Y=72572	0.46	0.41	0.34	不整形	半円形状	4 土→P-9	P-38	X=47309 Y=72576・77	0.47	0.45	0.17	不整形円形	半円形状	
P-10	X=47308 Y=72573・74	0.55	0.31	0.23	不整形 (長楕円形)	V 字状 (有段)	3 溝→P-10	P-39	X=47310・11 Y=72577・78	0.43	0.38	0.25	円形	V 字状	
P-11	X=47297 Y=72577	0.25	0.20	0.38	楕円形	U 字状	3 溝→5 住→P-11	P-40	X=47311 Y=72578	0.32	0.30	0.08	円形	半円形状	18 土→P-40
P-12	X=47303 Y=72591	0.35	0.35	0.20	不整形円形	半円形状		P-41	X=47311・12 Y=72576	0.63	0.43	0.39	長楕円形	U 字状	剥片 (黒曜石)
P-13	X=47303 Y=72574	0.38	0.37	0.21	不整形	V 字状	P-14→P-13	P-42	X=47311 Y=72576	0.28	0.19	0.17	隅丸長方形	箱形状	
P-14	X=47303 Y=72574	0.25	0.17	0.45	不整形	U 字状	P-14→P-13	P-43	X=47310 Y=72585	0.47	0.30	0.12	不整形	弧状	
P-15	X=47304 Y=72561	0.30	0.28	0.16	不整形	U 字状	5 溝→P-15 As-B 含む	P-44	X=47310 Y=72584・85	0.64	0.39	0.13	不整形	弧状	
P-16	X=47295 Y=72559・60	0.38	0.38	0.46	不整形円形	U 字状	須恵器 (甗)	P-45	X=47305 Y=72584	0.37	0.25	0.15	不整形	逆台形状	
P-17	X=47294・95 Y=72559	0.64	0.42	0.37	不整形	半円形状 (有段)	As-B 含む	P-46	X=47306・07 Y=72585	0.32	0.30	0.21	不整形円形	U 字状	土師器 (甗)
P-18	X=47294 Y=72559	0.23	0.22	0.19	円形	U 字状		P-47	X=47304 Y=72585	0.33	0.22	0.18	不整形	U 字状	
P-19	X=47312 Y=72571・72	0.56	0.29	0.19	長楕円形	逆台形状		P-48	X=47308 Y=72585	0.30	0.23	0.10	不整形	弧状	剥片 (黒曜石)
P-20	X=47310・11 Y=72571	0.45	0.30	0.22	長楕円形	不整形 (V 字状)		P-49	X=47312 Y=72576・77	0.48	0.33	0.15	長楕円形	V 字状	
P-21	X=47309 Y=72570	0.27	0.26	0.14	不整形円形	U 字状		P-50	X=47305・06 Y=72582・83	0.29	0.27	0.12	不整形円形	U 字状	
P-22	X=47309 Y=72568	0.25	0.23	0.15	不整形円形	U 字状		P-51	X=47306 Y=72581	0.58	0.54	0.12	不整形楕円形	不整形	
P-23	X=47306・07 Y=72569	0.26	0.25	0.21	不整形円形	U 字状	P-23→9 住	P-52	X=47306 Y=72580	0.49	0.31	0.13	長楕円形	弧状	
P-24	X=47305 Y=72571・72	0.26	0.26	0.45	不整形円形	逆台形状	9 住・11 土→ P-24	P-53	X=47306 Y=72583	0.65	0.50	0.26	不整形	逆台形状	
P-25	X=47304 Y=72558	0.45	0.38	0.38	不整形	U 字状		P-54	X=47306・07 Y=72583	0.53	0.40	0.08	不整形	逆台形	P-98→P-99→ P-54
P-26	X=47302 Y=72557	0.33	0.32	0.26	円形	U 字状		P-55	X=47307 Y=72583・84	0.36	0.29	0.27	長楕円形	U 字状	
P-27	X=47302 Y=72558	0.28	0.26	0.39	不整形円形	U 字状		P-56	X=47306 Y=72586	0.27	0.26	0.22	不整形	U 字状	P-58→P-56 剥片 (黒曜石)
P-28	X=47301・02 Y=72558	0.31	0.26	0.39	不整形	U 字状		P-57	X=47308 Y=72584	0.36	0.24	0.16	長楕円形	逆台形状	P-57→4 住
P-29	X=47303 Y=72556	0.25	0.22	0.17	楕円形	U 字状		P-58	X=47306 Y=72586	0.27	0.26	0.11	楕円形基調	逆台形状	P-58→P-56

第33表 ピット計測表(2)

遺構名	位置	規模<m>			平面形状	断面形状	重複/遺物/備考	遺構名	位置	規模<m>			平面形状	断面形状	重複/遺物/備考
		長軸	短軸	深さ						長軸	短軸	深さ			
P-59	X=47308 Y=72584・85	0.36	0.26	0.20	不整形	U字状	剥片(黒曜石)	P-83	X=47312 Y=72560	0.45	0.33	0.26	不整形	弧状/U字状(有段)	
P-60	X=47312 Y=72577	0.34	0.30	0.17	不整形	U字状		P-84	X=47291 Y=72587	0.41	0.30	0.18	不整楕円形	半円形	
P-61	X=47311 Y=72584・85	0.40	0.31	0.30	長楕円形	U字状		P-85	X=47305 Y=72560	0.40	0.26	0.21	長楕円形	U字状	
P-62	X=47294 Y=72580・81	0.25	0.24	0.18	不整形	U字状	As-B含む	P-86	X=47303・04 Y=72559	<0.42>	<0.23>	0.20	長楕円形基調	U字状	東端は試掘トレンチで破壊
P-63	X=47294 Y=72579・80	0.29	0.27	0.24	不整形	U字状	剥片(片岩)	P-87	X=47297 Y=72561	0.27	0.23	0.19	不整形	U字状	
P-64	X=47294 Y=72579	0.24	0.22	0.21	不整形	U字状		P-88	X=47297 Y=72561	0.27	0.24	0.20	方形	逆台形状	
P-65	X=47295 Y=72578	0.21	0.20	0.06	不整形	逆台形状		P-89	X=47293 Y=72571	0.35	0.29	0.12	不整形	逆台形状	
P-66	X=47298 Y=72563	0.45	0.35	0.22	隅丸長方形	V字状		P-90	X=47293 Y=72573・74	0.23	0.24	0.21	不整形	U字状	
P-67	X=47310 Y=72563	0.28	0.27	0.18	円形	半円形状		P-91	X=47292 Y=72572	0.26	0.21	0.17	楕円形	U字状	
P-68	X=47310 Y=72563	0.41	0.40	0.53	円形	U字状	1掘	P-92	X=47293 Y=72573	0.28	0.27	0.30	不整形	V字状	
P-69	X=47312 Y=72563	0.44	0.41	0.27	楕円形	U字状		P-93	X=47292 Y=72574	0.32	0.26	0.15	不整楕円形	弧状	P-94 → P-93 As-B含む
P-70	X=47310 Y=72564・55	0.41	0.33	0.17	楕円形	半円形状	P-70 → 14住 1掘	P-94	X=47292 Y=72574	0.33	<0.24>	0.27	不整楕円形	U字状	P-94 → P-93
P-71	X=47311・12 Y=72564・65	0.33	0.32	0.24	不整形	U字状	1掘 土師器(環)	P-95	X=47299 Y=72574	0.39	0.32	0.34	不整形	U字状	
P-72	X=47312 Y=72566	0.30	0.30	0.34	円形	U字状	1掘	P-96	X=47285 Y=72586・87	0.32	0.29	0.17	楕円形	U字状	
P-73	X=47310・11 Y=72566	0.40	0.38	0.37	円形	U字状	P-73 → 14住 1掘	P-97	X=47289 Y=72587	0.25	0.24	0.21	円形	U字状	
P-74	X=47297 Y=72585	0.32	0.29	0.12	不整形	V字状		P-98	X=47306・07 Y=72583	<0.37>	<0.28>	0.18	方形基調	弧状	P-98 → P-99 → P-54
P-75	X=47304 Y=72587・88	0.43	0.37	0.08	楕円形	逆台形状		P-99	X=47307 Y=72583	0.30	0.29	0.14	方形	逆台形状	P-98 → P-99 → P-54
P-76	X=47296・97 Y=72587・88	<0.90>	<0.49>	0.15	円形基調	U字状	P-76 → 1溝	P-100	X=47311 Y=72579	0.60	0.43	0.27	不整 長楕円形	V字状	
P-77	X=47295 Y=72583	0.24	0.24	0.10	不整形	U字状		P-101	X=47309・10 Y=72578・79	0.24	0.18	0.10	長楕円形	U字状	
P-78	X=47294 Y=72585・86	0.32	0.30	0.14	不整形	逆台形状		P-102	X=47293 Y=72563・64	0.60	0.45	0.18	長楕円形	逆台形状	11住 → P-102
P-79	X=47295 Y=72585	0.28	0.25	0.26	楕円形	U字状		P-103	X=47299 Y=72576・77	0.27	0.26	0.29	楕円形	U字状	
P-80	X=47292 Y=72583	0.35	0.30	0.32	不整楕円形	V字状	剥片(黒曜石)	P-104	X=47312 Y=72568	0.43	0.37	0.19	不整形	逆台形状	P-104 → 10住 1掘
P-81	X=47306 Y=72586・87	0.24	0.22	0.29	不整形	V字状		P-105	X=47295 Y=72571	0.36	0.35	0.44	円形	半円形状	P-105 → 17住
P-82	X=47309・10 Y=72558・59	0.49	0.34	0.31	不整形	弧状		P-106	X=47310・11 Y=72568・69	0.50	0.47	0.27	不整形	U字状	P-106 → 10住 1掘



第81図 ピット遺物実測図

第34表 ピット遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考
P16 1	須恵器 甕	口径:— 底径:— 器高:<8.2>	口縁部~ 胴部上位片	外面:灰 内面:黄灰	黒色粒・白色粒	還元焼	外面:胴部叩き(平行叩き目)。 内面:胴部当て具痕(青海波文)。	
P46 1	土師器 甕	口径:(22.4) 底径:— 器高:<3.5>	口縁部片	外面:にぶい赤褐 内面:明赤褐	黒色粒・砂粒・チャート	酸化焼	外面:口縁部ヨコナデ→ミガキ。 内面:口縁部ヨコナデ→ミガキ。	
P71 1	土師器 環	口径:(12.2) 底径:(8.0) 器高:<3.4>	1/4	外面:黒褐 内面:にぶい褐	黒色粒・白色粒・砂粒	酸化焼	外面:口縁部ヨコナデ→体部ナデ、底部ヘラケズリ。 内面:口縁部~体部整形後ヨコナデ、底部ナデ。	

8. 遺構外出土遺物 (第82~87図/第35~39表/図版19~22)

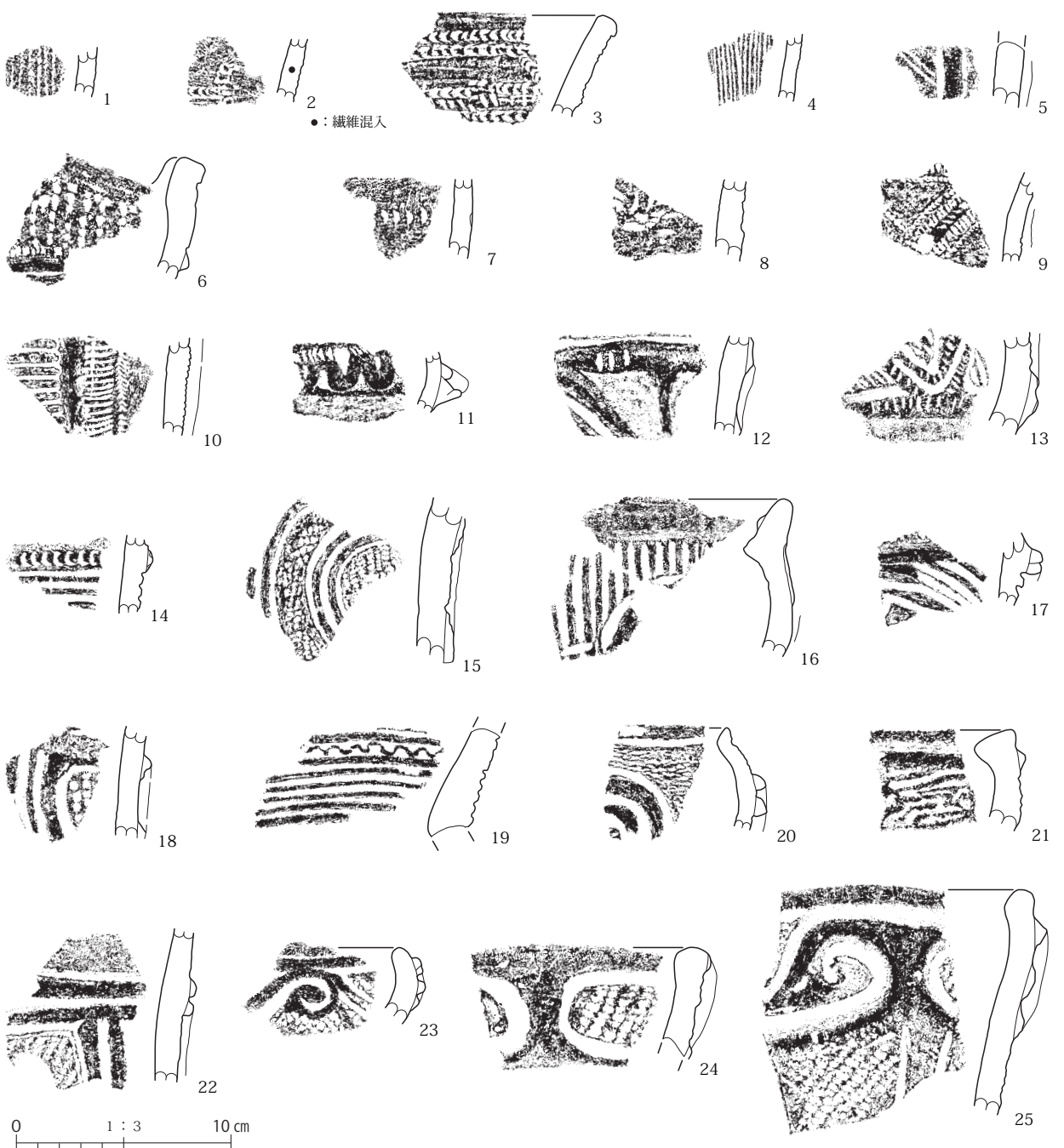
ここでは、調査区内あるいは遺構埋没土中からの出土ではあるものの明らかに遺構に帰属しない遺物に関して

遺構外出土遺物として取り扱った。

今回の調査では、多数の縄文土器や石器が出土した。縄文土器は破片点数で6,195点、総重量128.1kgに及ぶ。縄文時代に帰属する明確な遺構は検出されていないものの、少なくとも遺物包含層の存在を認めるに足る内容といえる。遺物包含層はトレンチ調査のみで対応することとなったが、その他にも後世の遺構覆土から多量に検出された。

縄文土器には早期前葉（1%以下）・前期前半（1%以下）・前期後半（1%以下）・中期前半（1%）・中期後半（66%）・後期前半（6%）・晩期前半（1%以下）・細別不明（26%）のものが見受けられ、中期後葉が突出する。中期後葉では加曾利EⅢ式の割合が高く、連弧文土器や曾利式・郷土式土器など関東地方西部や中部高地東部に分布の中心をもつ土器群が一定数含まれている。

なお、帰属する時期の幅は広く、古いものとしては各1点ずつではあるが早期前葉の撚糸文系土器と前期前半の羽状縄文系土器、新しい方では後期中葉の加曾利B式と晩期に属するとみられる土器破片が各2点確認されて



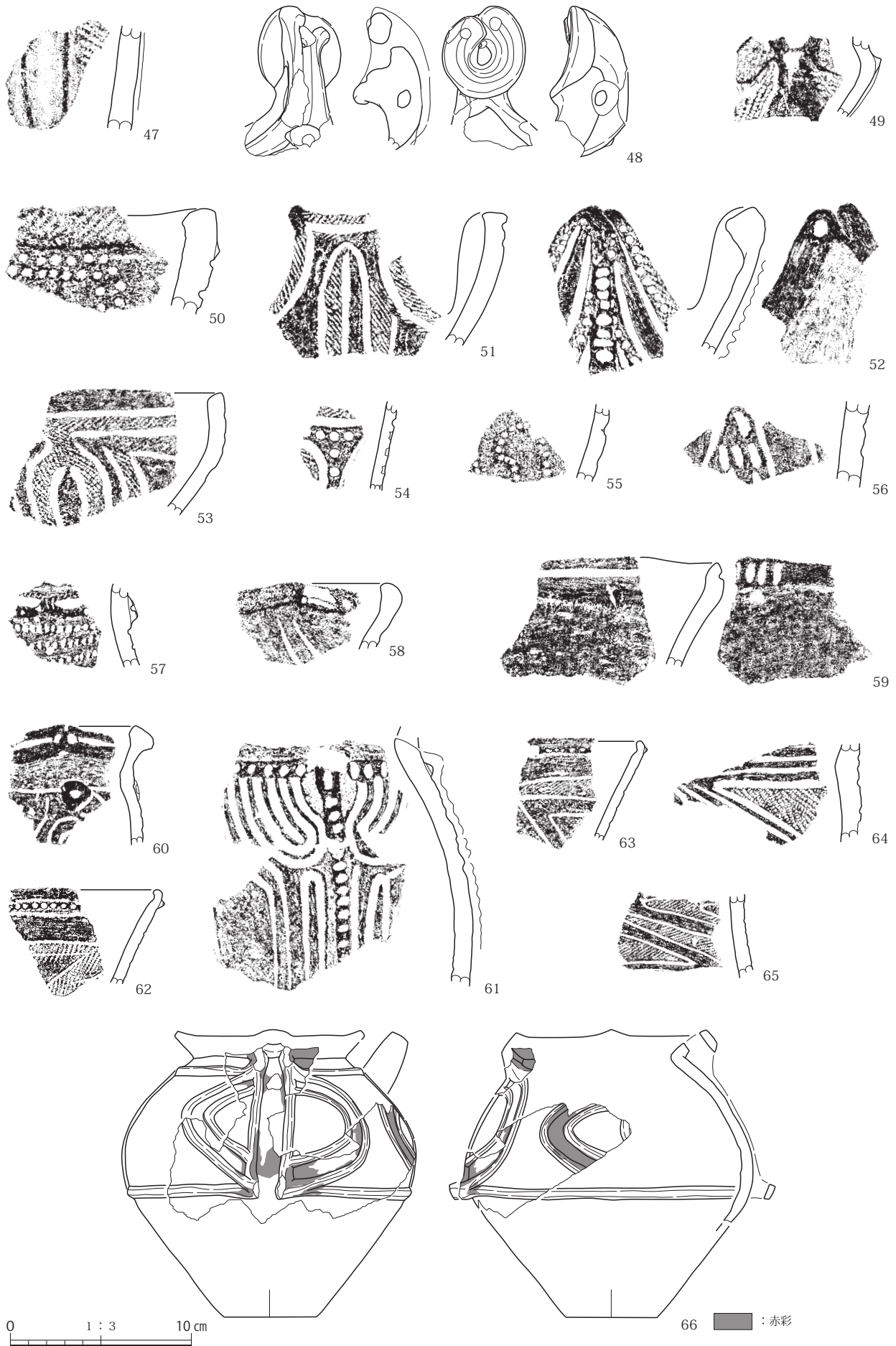
第 82 図 遺構外出土遺物実測図 (1)



いる。この他、古墳時代前期の台付甕が出土しており、周辺の既知調査地では遺構・遺物が確認されているものの、今回の調査では遺構の確認には至っていない。

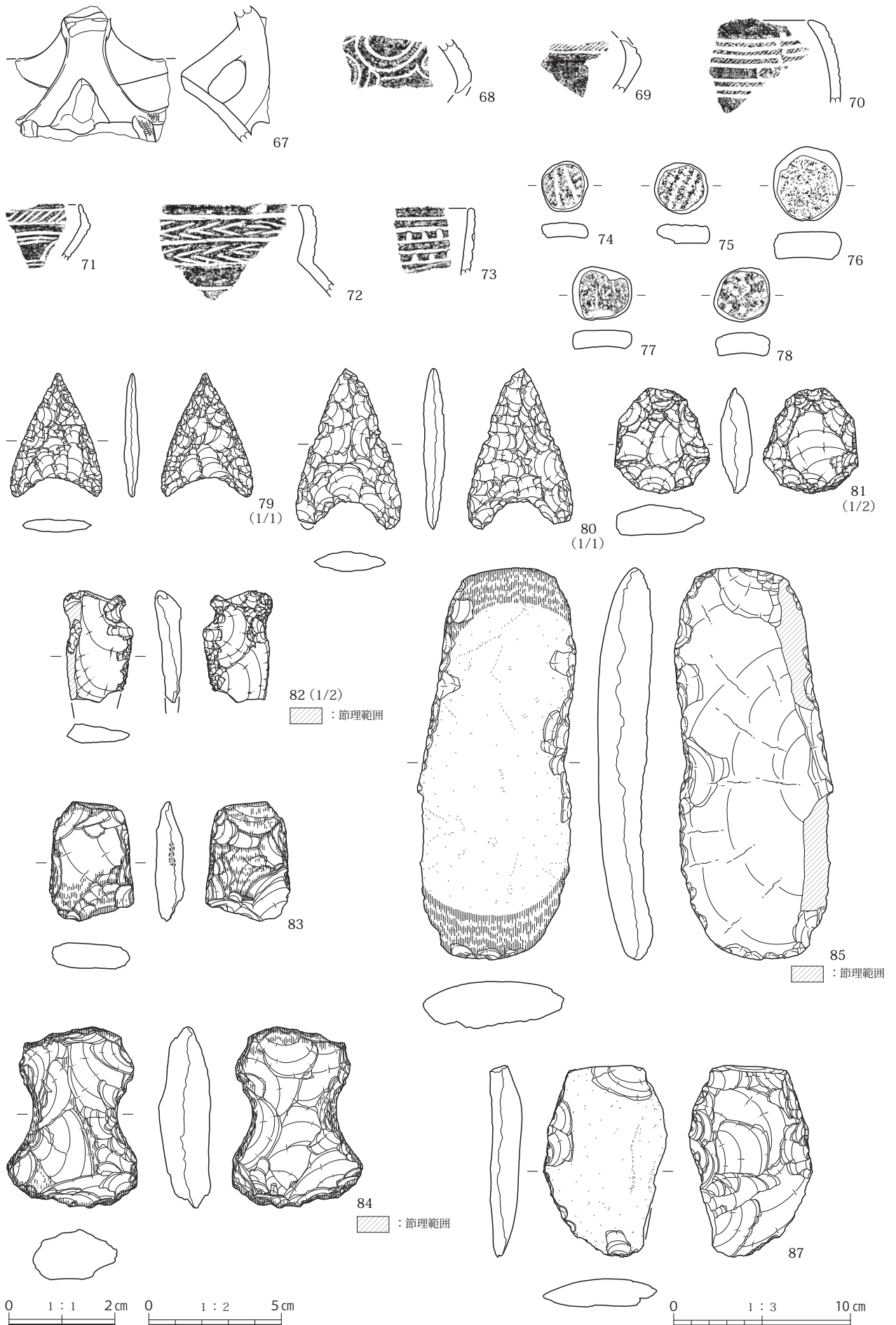


第 83 図 遺構外出土遺物実測図 (2)

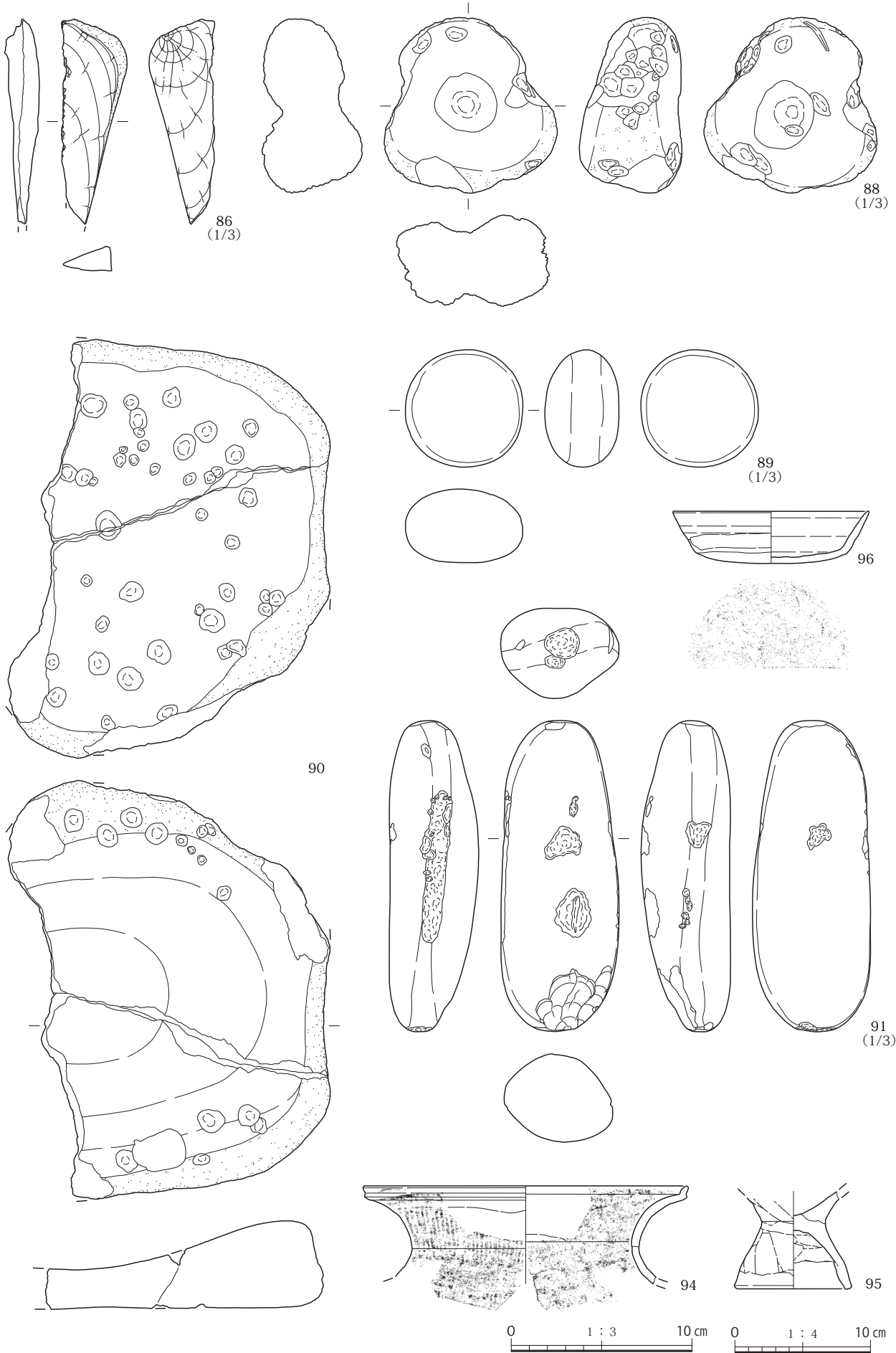


第 84 図 遺構外出土遺物実測図 (3)

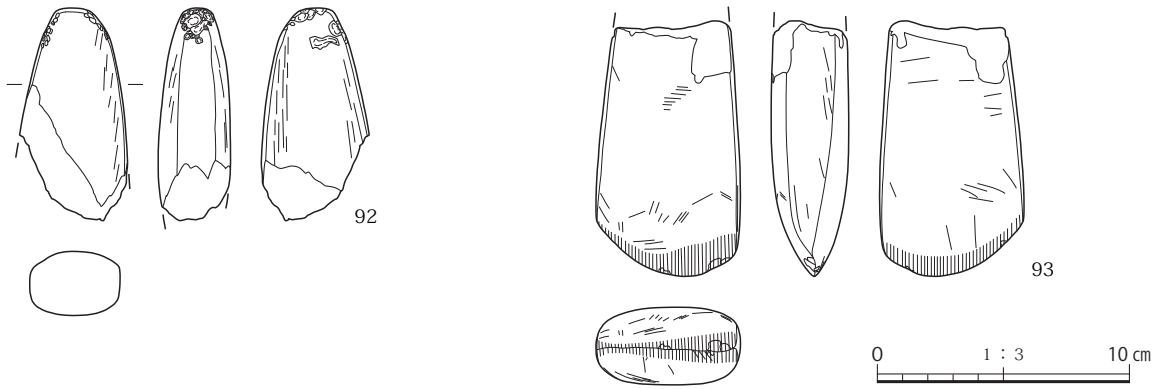




第 85 図 遺構外出土遺物実測図 (4)



第 86 図 遺構外出土遺物実測図 (5)



第 87 図 遺構外出土遺物実測図 (6)

第 35 表 遺構外出土遺物観察表 (1)

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考
1	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	胴部破片	外面：にぶい橙 内面：にぶい橙	石英・長石 黒色粒・白色粒	酸化焰	外面：胴部に撫糸紋 (L)。 内面：胴部に斜位ナデ。	9号住居跡。 早期前葉。 稲荷台式。
2	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：にぶい橙 内面：にぶい橙	繊維・長石・ 黒色粒・白色粒・赤褐色粒	酸化焰	外面：口縁部に半載竹管状工具による爪形紋。 内面：口縁部に横位ナデ。	1号溝。 前期中葉。
3	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：にぶい褐 内面：にぶい橙	チャート・ 石英・長石・ 黒色粒・白色粒・赤褐色粒	酸化焰	外面：口縁部に爪形紋。 内面：口縁部に横位ミガキ。	4号住居跡。 前期後葉。 諸磯b式。
4	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	胴部破片	外面：灰褐 内面：灰褐	石英・長石・ 黒色粒・白色粒	酸化焰	外面：胴部に半載竹管状工具による集合沈線紋。 内面：胴部に縦位ミガキ。	3号住居跡。 前期後葉。 諸磯c式。
5	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	胴部破片	外面：にぶい赤褐 内面：にぶい赤褐	石英・長石・ 黒色粒	酸化焰	外面：隆帯で縦位区画→隆帯脇の一部に丸棒状工具による沈線紋。区画内に細沈線紋。 内面：胴部に横位ナデ。	3号住居跡。 中期初頭。
6	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：にぶい橙 内面：にぶい橙	石英・長石・ 雲母	酸化焰	外面：口縁部を隆帯で区画→口唇下・隆帯脇に竹管状工具による押引紋→区画内に同様の押引紋列を縦位充填。 内面：口縁部に横位ナデ。	調査区一括。 中期前葉。 阿玉台Ib式。
7	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	胴部破片	外面：にぶい赤褐 内面：にぶい橙	石英・長石・ 雲母・白色粒	酸化焰	外面：胴部に多載竹管状工具による横位の刺突紋列。 内面：胴部に横位ミガキ。	17号住居跡。 中期前葉。 阿玉台式。
8	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	胴部破片	外面：にぶい橙 内面：褐灰	石英・長石・ 雲母・白色粒	酸化焰	外面：胴部に多載竹管状工具による襞状圧痕紋。 内面：胴部に横位ヘラナデ。	調査区一括。 中期前葉。 阿玉台式。
9	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	胴部破片	外面：にぶい赤褐 内面：にぶい橙	片岩・長石・ 白色粒・赤褐色粒	酸化焰	外面：隆帯で区画→区画脇にヘラ状工具による角押紋→三角押紋。隆帯上にキザミ。 内面：胴部上位に横位、胴部下位に斜位ミガキ。	7号住居跡。 中期中葉。 勝坂II式。
10	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	胴部破片	外面：にぶい橙 内面：にぶい赤褐	片岩・石英・ 長石・黒色粒・白色粒	酸化焰	外面：胴部を隆帯で区画→区画脇にヘラ状工具による幅広角押紋→三角押紋、区画内に半載竹管状工具による蓮華紋・条線紋。 内面：胴部に横位ナデ。器面荒れが顕著。	調査区一括。 中期中葉。 勝坂II式。
11	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：灰褐 内面：灰褐	石英・長石・ 黒色粒・白色粒・赤褐色粒	酸化焰	外面：口縁部に蛇行隆帯紋→隆帯紋脇にヘラ状工具による三角押紋。 内面：口縁部に横位ナデ。器面荒れが顕著。	2号住居跡。 中期中葉。 勝坂II式。
12	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	胴部破片	外面：褐 内面：にぶい褐	石英・長石・ 黒色粒・白色粒	酸化焰	外面：胴部を隆帯で区画→隆帯脇の一部に丸棒状工具による沈線紋。隆帯紋上の一部にヘラ状工具によるキザミ。 内面：胴部上位に横位、胴部下位に縦位ミガキ。	10号土坑。 中期中葉。 勝坂II式。
13	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	胴部破片	外面：にぶい橙 内面：にぶい赤褐	石英・長石・ 黒色粒・白色粒	酸化焰	外面：胴部を隆帯で区画→区画内にヘラ状工具による条線紋・刺突紋→隆帯上にキザミ→隆帯上・隆帯脇の一部に丸棒状工具による沈線紋。 内面：胴部に横位ミガキ。	3号住居跡。 中期中葉。 勝坂III式。
14	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	胴部破片	外面：にぶい赤褐 内面：灰黄褐	石英・長石・ 黒色粒・白色粒	酸化焰	外面：胴部を隆帯で横位区画→区画内に半載竹管状工具による条線紋、隆帯上に同様の工具による押引紋。 内面：胴部に斜位ミガキ。	7号住居跡。 中期中葉。 勝坂III式。
15	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	胴部破片	外面：にぶい赤褐 内面：にぶい褐	石英・長石・ 黒色粒・白色粒	酸化焰	外面：胴部を隆帯で区画→区画内に単節縄文 (RL)。隆帯脇に半載竹管状工具による平行沈線紋→隆帯上に単節縄文 (RL)。 内面：胴部に横位・斜位ミガキ。	7号住居跡。 中期中葉。 勝坂III式。
16	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：暗赤褐 内面：灰赤	石英・長石・ 雲母・黒色粒・赤褐色粒	酸化焰	外面：口縁部に半載竹管状工具による条線紋。隆帯紋→隆帯紋脇等に丸棒状工具による沈線紋。 内面：口唇下に隆帯紋。口縁部に横位ミガキ。	3号住居跡。 中期中葉。 勝坂III式。
17	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	胴部破片	外面：にぶい赤褐 内面：にぶい赤褐	長石・黒色粒・ 白色粒・赤褐色粒	酸化焰	外面：胴部を隆帯で横位区画→区画内に隆帯紋による懸垂文→隆帯紋脇にヘラ状工具による沈線紋。 内面：胴部に横位ナデ。	3号住居跡。 中期中葉。 焼町類型。

第36表 遺構外出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考
18	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	胴部破片	外面：明赤褐 内面：明赤褐	石英・長石・ 黒色粒・白色粒・赤褐色粒	酸化焰	外面：隆帯紋による懸垂文等→隆帯紋脇にへら状工具による沈線紋→空閑部に細いへら状工具による刺突紋。 内面：胴部に縦位ナデ。	6号住居跡1号土坑。中期後葉。焼町類型。
19	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：にぶい赤褐 内面：にぶい橙	石英・長石・ 黒色粒・白色粒	酸化焰	外面：口縁部に半截竹管状工具による横位条線紋→条線紋の一部にへら状工具による交互刺突紋。 内面：口縁部に横位ミガキ。	19号住居跡。中期後葉。三原田類型。
20	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：灰褐 内面：灰褐	長石・黒色粒・白色粒	酸化焰	外面：口縁部に擦系紋(L)→隆帯紋→口唇下・隆帯紋脇に丸棒状工具による沈線紋。 内面：口縁部に粗い横位ナデ。	10号土坑。中期後葉。加曾利EⅠ式。
21	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：にぶい橙 内面：橙	長石・黒色粒・白色粒	酸化焰	外面：口縁部に擦系紋(L)。→隆帯紋で横位区画。 内面：口縁部に横位ナデ。	16号住居跡。中期後葉。加曾利EⅠ式。
22	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	頸部～ 胴部破片	外面：にぶい黄橙 内面：にぶい黄橙	チャート・ 石英・長石・ 黒色粒・白色粒・赤褐色粒	酸化焰	外面：胴部に単節縄文(RL)→隆帯紋で横位・縦位区画→隆帯脇に多截竹管状工具による沈線紋。 内面：頸部～胴部に横位・縦位ミガキ。	4号住居跡跡カマド。中期後葉。加曾利EⅠ式。
23	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：灰黄褐 内面：にぶい赤褐	石英・長石・ 黒色粒・白色粒	酸化焰	外面：口縁部に単節縄文(RL)→隆帯紋で横位区画・蕨手文→隆帯紋脇の一部に丸棒状工具による沈線紋。 内面：口縁部に横位ミガキ。	5号溝跡。中期後葉。加曾利EⅠ式。
24	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：橙 内面：橙	チャート・ 長石・黒色粒・白色粒	酸化焰	外面：口縁部を隆帯で楕円状区画等→区画内に単節縄紋(RL)→隆帯脇に丸棒状工具による沈線紋。 内面：口縁部に横位ナデ。	10号土坑。中期後葉。加曾利EⅡ式。
25	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部～ 胴部破片	外面：にぶい橙 内面：明赤褐	石英・長石・ 黒色粒・白色粒	酸化焰	外面：口縁部を隆帯で楕円状区画・蕨手文→区画内に単節縄文(RL)→隆帯脇に凹線紋。胴部に単節縄文(RL)→丸棒状工具による2条の沈線紋で縦位区画→沈線間の縄紋を磨消。 内面：口縁部～胴部に横位・縦位ナデ。器面荒れが顕著。	調査区一括。中期後葉。加曾利EⅢ式。
26	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：明褐灰 内面：明褐灰	片岩・チャート・ 長石・黒色粒・白色粒・赤褐色粒	酸化焰	外面：口縁部を隆帯で楕円状区画→区画内に単節縄文(LR)→隆帯脇に凹線紋。 内面：口縁部に横位ナデ。	16号住居跡。中期後葉。加曾利EⅢ式。
27	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：灰褐 内面：灰褐	石英・長石・ 黒色粒・白色粒・赤褐色粒	酸化焰	外面：口縁部を隆帯で区画・蕨手文→区画内に単節縄文(RL)→隆帯脇に凹線紋・丸棒状工具による沈線紋。 内面：口縁部に横位ミガキ。	10号土坑。中期後葉。加曾利EⅢ式。
28	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：にぶい褐 内面：黒褐	長石・雲母・ 黒色粒・白色粒	酸化焰	外面：口唇下にへら状工具による刺突紋列。口縁部に単節縄文(RL)→丸棒状工具による沈線紋。 内面：口縁部に横位ミガキ。	7号住居跡。中期後葉。加曾利EⅢ式。
29	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	胴部破片	外面：にぶい橙 内面：にぶい橙	石英・長石・ 黒色粒・白色粒・赤褐色粒	酸化焰	外面：胴部を丸棒状工具による2条の沈線紋で縦位区画→区画内に複節縄紋(LRL) 内面：胴部に横位・縦位ミガキ。	7号住居跡。中期後葉。加曾利EⅢ式。
30	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	胴部破片	外面：褐灰 内面：にぶい橙	石英・長石・ 黒色粒・白色粒	酸化焰	外面：胴部に単節縄紋(RL)→凹線紋。 内面：胴部に横位ナデ。	3号住居跡。中期後葉。加曾利EⅢ式。
31	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：にぶい赤褐 内面：橙	長石・黒色粒・白色粒・赤褐色粒	酸化焰	外面：口縁部に縦位条線紋→丸棒状工具による3条の沈線紋で口唇下横位区画・弧状文。 内面：口縁部に横位ナデ。	3号溝。中期後葉。連狐文系。
32	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：橙 内面：黒褐	石英・長石・ 黒色粒・白色粒・赤褐色粒	酸化焰	外面：口縁部に縦位条線紋→多截竹管状工具による2条の沈線紋で口唇下横位区画・波状文→付帯文。 内面：口縁部に横位ミガキ。	10号土坑。中期後葉。連狐文系。
33	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：にぶい橙 内面：灰褐	片岩・長石・ 黒色粒・白色粒・赤褐色粒	酸化焰	外面：口縁部に縦位条線紋→丸棒状工具による2条の沈線紋で口唇下横位区画→沈線紋間に交互刺突紋。 内面：口縁部に横位ミガキ。	4号住居跡。中期後葉。連狐文系。
34	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：にぶい橙 内面：橙	長石・黒色粒・白色粒・赤褐色粒	酸化焰	外面：口縁部に擦系紋(R)→丸棒状工具による3条の沈線紋で口唇下横位区画・弧状文。 内面：口縁部に横位ミガキ。	10号土坑。中期後葉。連狐文系。
35	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	胴部破片	外面：橙 内面：橙	片岩・石英・ 長石・黒色粒・白色粒	酸化焰	外面：胴部に擦系紋(R)→丸棒状工具による沈線紋。 内面：胴部に斜位ミガキ。	3号住居跡P2。中期後葉。連狐文系。
36	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	頸部～胴部 破片	外面：橙 内面：橙	チャート・ 石英・長石・ 黒色粒・白色粒・赤褐色粒	酸化焰	外面：頸部にX字状把手・隆帯紋貼付→把手上に棒状工具による2条の沈線紋→頸部・胴部にへら状工具による条線紋。 内面：頸部～胴部に横位ミガキ。	10号土坑。中期後葉。曾利Ⅱ式。X把手土器。
37	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	頸部～胴部 破片	外面：にぶい橙 内面：橙	長石・黒色粒・白色粒・赤褐色粒	酸化焰	外面：頸部に低隆帯紋→低隆帯紋上に棒状工具による2条の沈線紋。胴部に半截竹管状工具による条線紋→隆帯紋→隆帯紋脇の一部に沈線紋。 内面：頸部～胴部に横位ミガキ。	10号土坑。中期後葉。曾利Ⅱ式。
38	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	胴部破片	外面：橙 内面：にぶい赤褐	石英・長石・ 白色粒・赤褐色粒	酸化焰	外面：胴部に隆帯紋→多截竹管状工具による条線紋→隆帯文上・一部の隆帯文脇に丸棒状工具による沈線紋。 内面：胴部に斜位ミガキ。	調査区一括。中期後葉。曾利Ⅲ式。
39	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	胴部破片	外面：にぶい赤褐 内面：にぶい橙	石英・長石・ 黒色粒・白色粒・赤褐色粒	酸化焰	外面：胴部に隆帯紋で渦巻文→隆帯紋間に丸棒状工具による条線紋→隆帯文脇に丸棒状工具による沈線紋。 内面：胴部に横位・斜位ミガキ。	16号住居跡。中期後葉。
40	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	胴部破片	外面：にぶい赤褐 内面：明赤褐	石英・長石・ 黒色粒・白色粒・赤褐色粒	酸化焰	外面：胴部に隆帯紋→隆帯紋間にへら状工具による条線紋。 内面：胴部に横位・斜位ミガキ。	16号住居跡。中期後葉。



第37表 遺構外出土遺物観察表(3)

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考
41	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:— 器高:—	口縁部破片	外面:にぶい赤褐 内面:にぶい橙	長石・黒色粒・白色粒・赤褐色粒	酸化焰	外面:口唇下を隆帯で区画→丸棒状工具による沈線紋・条線紋。 内面:口唇下に横位、口縁部に縦位ミガキ。	9号住居跡。 中期後葉。 郷戸式。
42	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:— 器高:—	口縁部～胴部破片	外面:赤褐 内面:明赤褐	石英・長石・黒色粒・白色粒・赤褐色粒	酸化焰	外面:口縁部を隆帯で区画(剥離)→棒状工具による沈線紋で楕円状区画→区画内に2本一對のへら状工具による縦位短沈線紋を充填。胴部を丸棒状工具による沈線紋で縦位区画、区画内に櫛歯状工具による条線紋。 内面:口縁部に横位ミガキ、胴部に斜位ナデ。	10号土坑。 中期後葉。 曾利系。
43	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:— 器高:—	胴部破片	外面:にぶい赤褐 内面:にぶい橙	石英・長石・白色粒・赤褐色粒	酸化焰	外面:胴部に丸棒状工具による3条の沈線紋により縦位区画→区画内に櫛歯状工具(6歯)による条線紋。 内面:胴部に縦位ナデ。器面荒れが顕著。	調査区一括。 中期後葉。 曾利系。
44	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:— 器高:—	口縁部～胴部破片	外面:褐灰 内面:褐灰	長石・黒色粒・白色粒・赤褐色粒	酸化焰	外面:口唇下を隆帯で区画→胴部に単節縄紋(LR)。 内面:口縁部～胴部に横位ケズリ→横位ナデ。	8号住居跡。 中期後葉。 加曾利EIV式。
45	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:— 器高:—	胴部破片	外面:にぶい赤褐 内面:にぶい橙	石英・長石・雲母・黒色粒・白色粒・赤褐色粒	酸化焰	外面:胴部を細隆帯で区画→区画内に単節縄紋(RL)。 内面:胴部に斜位ミガキ。	19号住居跡。 中期後葉。 加曾利EIV式。
46	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:— 器高:—	胴部破片	外面:浅黄橙 内面:浅黄橙	石英・長石・黒色粒・白色粒・赤褐色粒	酸化焰	外面:胴部を細隆帯で区画→区画内に縄紋→細隆帯紋の一部分に丸棒状工具による沈線紋。 内面:胴部に横位ナデ。指頭痕。 内外面共に器面荒れが顕著。	7号住居跡。 中期後葉。 加曾利EIV式。
47	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:— 器高:—	胴部破片	外面:橙 内面:浅黄橙	石英・長石・黒色粒・白色粒・赤褐色粒	酸化焰	外面:胴部を2条1対の細隆帯で区画→区画内に単節縄文(LR)。 内面:胴部にナデ。	10号土坑。 中期後葉。 加曾利EIV式。
48	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:— 器高:—	口縁部把手破片	外面:明赤褐 内面:明赤褐	石英・長石・黒色粒・白色粒	酸化焰	外面:環状・橋状把手。把手部に孔・窩紋繋ぎ沈線紋。口縁部把手下にボタン貼付紋。 内面:口縁部にミガキ。	3号溝。 後期初頭。 称名寺式。
49	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:— 器高:—	口縁部破片	外面:にぶい赤褐 内面:黒褐	石英・長石・黒色粒・白色粒・赤褐色粒	酸化焰	外面:捻転状把手(破損)。口縁部を細隆帯で区画→区画内に単節縄紋(LR)→細隆帯紋間にへら状工具による沈線紋。 内面:口縁部に横位ミガキ。コゲの付着が顕著。	3号住居跡。 後期初頭。 閑沢類型。
50	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:— 器高:—	口縁部破片	外面:にぶい黄橙 内面:橙	石英・長石・黒色粒・白色粒・褐色粒	酸化焰	外面:口縁部を細隆帯で区画→口唇下に単節縄紋(LR)・区画内に丸棒状工具による刺突紋列。 内面:口縁部に横位ナデ。	3号住居跡。 後期初頭。 閑沢類型。
51	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:— 器高:—	口縁部破片	外面:にぶい褐 内面:にぶい褐	石英・長石・黒色粒・白色粒	酸化焰	外面:口縁部に丸棒状工具による沈線紋→沈線紋間等に無節縄紋(L)。 内面:口縁部に横位・縦位・斜位ミガキ。	4号住居跡。 後期初頭。 称名寺I式。
52	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:— 器高:—	口縁部破片	外面:褐灰 内面:明褐灰	チャート・長石・白色粒	酸化焰	外面:口縁部を隆帯で縦位区画→丸棒状工具による沈線紋→沈線紋間等に単節縄文(LR)→沈線紋と同様の工具による刺突紋列→隆帯上に同様の工具によるキザミ。 内面:波頂下肥厚部に窩紋。口縁部に縦位ミガキ。	3号住居跡。 後期初頭。 称名寺I式。
53	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:— 器高:—	口縁部破片	外面:橙 内面:にぶい橙	石英・長石・黒色粒・白色粒・赤褐色粒	酸化焰	外面:口縁部に棒状工具による併行沈線紋で横位区画・紡錘文等→沈線紋間に単節縄文(LR)。 内面:口縁部に横位ミガキ。	7号住居跡。 後期初頭。 称名寺I式。
54	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:— 器高:—	口縁部ないし胴部破片	外面:明褐灰 内面:明褐灰	石英・長石・黒色粒・白色粒	酸化焰	外面:丸棒状工具による沈線紋→単節縄文(LR)、竹管状工具による刺突紋。 内面:横位ミガキ。	調査区一括。 後期初頭。 称名寺I式。
55	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:— 器高:—	口縁部ないし胴部破片	外面:橙 内面:橙	長石・黒色粒・白色粒・赤褐色粒	酸化焰	外面:棒状工具による沈線紋→沈線紋内に尖頭状工具による刺突紋列。 内面:内外面共に器面荒れが顕著。	調査区一括。 後期初頭。 称名寺II式。
56	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:— 器高:—	口縁部ないし胴部破片	外面:にぶい赤褐 内面:にぶい赤褐	石英・長石・黒色粒・白色粒・赤褐色粒	酸化焰	外面:丸棒状工具による沈線紋→角棒状工具による列点紋。 内面:横位ミガキ。	3号住居跡。 後期初頭。 称名寺II式。
57	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:— 器高:—	頸部～胴部破片	外面:にぶい橙 内面:にぶい橙	石英・長石・白色粒・赤褐色粒	酸化焰	外面:頸部を隆帯で横位区画→隆帯上に角棒状工具による列点紋→隆帯上にへら状工具によるキザミ。胴部に角棒状工具による横位の刺突紋列。 内面:口縁部に横位ケズリ→斜位ミガキ。	8号住居跡。 後期初頭。
58	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:— 器高:—	口部～胴部破片	外面:にぶい黄橙 内面:にぶい橙	チャート・石英・長石・雲母・白色粒・赤褐色粒	酸化焰	外面:口部に窩紋繋ぎ沈線紋。胴部にへら状工具による沈線紋。 内面:口部～胴部に横位ミガキ。	10号土坑。 後期前葉。 堀之内1式。
59	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:— 器高:—	口頸部破片	外面:浅黄橙 内面:浅黄橙	チャート・石英・長石・黒色粒・白色粒・赤褐色粒	酸化焰	外面:口部に丸棒状工具による沈線紋。 内面:口唇下の一部に棒状工具による縦位短沈線紋。口頸部に横位ミガキ。	7号住居跡。 後期前葉。 堀之内1式。
60	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:— 器高:—	口頸部～胴部破片	外面:灰褐 内面:にぶい橙	長石・黒色粒・白色粒・赤褐色粒	酸化焰	外面:口部に棒状工具による窩紋繋ぎ沈線紋。胴部を丸棒状工具による沈線紋で横位区画→区画下に同様の沈線紋で渦巻文等→区画上に竹管状工具によるボタン貼付紋。 内面:口頸部～胴部に横位ミガキ。	3号住居跡。 後期前葉。 堀之内1式。
61	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:— 器高:—	胴部破片	外面:浅黄橙 内面:浅黄橙	片岩・チャート・石英・長石・黒色粒・白色粒・赤褐色粒	酸化焰	外面:胴部を隆帯で横位・縦位区画→交点に竹管状工具による8字状貼付紋(破損)→区画内に竹管状工具による沈線紋で弧状文・懸垂文→隆帯上に沈線紋と同様の工具によるキザミ。 内面:胴部に横位ナデ。	10号土坑。 後期前葉。 堀之内1式。
62	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:— 器高:—	口縁部破片	外面:灰褐 内面:灰褐	石英・長石・黒色粒・白色粒・赤褐色粒	酸化焰	外面:口唇下に細隆帯→隆帯上に丸棒状工具によるキザミ。 口縁部にへら状工具による併行沈線紋で三角文→沈線紋間に単節縄紋(LR)。 内面:口唇下に凹線紋。口縁部に横位ミガキ。	調査区一括。 後期前葉。 堀之内2式。



第38表 遺構外出土遺物観察表(4)

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考
63	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：にぶい橙 内面：にぶい橙	片岩・長石・ 黒色粒・白色 色粒・赤褐色 色粒	酸化焰	外面：口唇下に細隆帯→隆帯上に丸棒状工具によるキザミ。 口縁部に丸棒状工具による併行沈線紋で三角文→沈線 紋間に単節縄紋 (LR)。 内面：口唇下に凹線紋。口縁部に斜位ミガキ。	7号住居跡。 後期前葉。 堀之内2式。
64	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：にぶい橙 内面：にぶい橙	石英・長石・ 黒色粒・白色 色粒・赤褐色 色粒	酸化焰	外面：口縁部に丸棒状工具による併行沈線紋で区画等→区画 内に単節縄紋 (RL)。 内面：口縁部に横位ミガキ。	調査区一括。 後期前葉。 堀之内式。
65	縄文土器 鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：にぶい橙 内面：灰褐	石英・長石・ 黒色粒・白色 色粒・赤褐色 色粒	酸化焰	外面：口縁部にヘラ状工具による併行沈線紋で三角文→沈線 紋間に単節縄紋 (LR)。 内面：口縁部に横位ミガキ。	7号住居跡。 後期前葉。 堀之内2式。
66	縄文土器 注口土器	口径：— 底径：— 器高：—	口部～体部 破片	外面：褐灰 内面：灰褐	石英・長石・ 白色粒・赤褐色 色粒	酸化焰	外面：横位橋状突起。体部上半を隆帯紋で横位・縦位区画→ 区画内に同様の隆帯紋で弧状文。赤彩。 内面：口部～体部に横位ミガキ。	3号溝・調査 区一括。 後期前葉。 後期初頭～前 葉。
67	縄文土器 注口土器	口径：— 底径：— 器高：—	口頸部破片	外面：にぶい橙 内面：にぶい橙	長石・白色 色粒・赤褐色 色粒	酸化焰	外面：口頸部～体部に把手・隆帯紋→隆帯紋上に単節縄紋 (LR)。 内面：口頸部に横位ミガキ。	調査区一括。 後期前葉。 堀之内式。
68	縄文土器 注口土器	口径：— 底径：— 器高：—	体部破片	外面：褐灰 内面：灰黄褐	長石・黒色 色粒・白色粒・ 褐色色粒	酸化焰	外面：体部にヘラ状工具による併行沈線紋→沈線紋間の一部 に尖頭状工具による刺突紋列。 内面：体部に粗い横位ナデ。	7号住居跡。 後期前葉。 堀之内式。
69	縄文土器 注口土器	口径：— 底径：— 器高：—	体部破片	外面：褐灰 内面：褐灰	長石・黒色 色粒・白色粒・ 赤褐色色粒	酸化焰	外面：体部にヘラ状工具による沈線紋→無節縄文 (L)。 内面：体部に横位ミガキ。	調査区一括。 後期前葉。 堀之内式。
70	縄文土器 鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：褐灰 内面：褐灰	石英・長石・ 雲母・黒色 色粒・白色粒	酸化焰	外面：口縁部にヘラ状工具によるクランク状多段併行沈線紋 ・の字文。 内面：胴部に横位ミガキ。	3号溝。 後期中葉。 加曽利B I式。
71	縄文土器 注口土器	口径：— 底径：— 器高：—	口頸部破片	外面：褐灰 内面：灰褐	長石・黒色 色粒・白色粒・ 赤褐色色粒	酸化焰	外面：口部に棒状工具による沈線紋で横位区画→区画内に斜 位短沈線紋を充填。頸部に条線紋・沈線紋で横位文・ の字文。 内面：口部に横位ヘラナデ、頸部に横位ナデ。	調査区一括。 後期中葉。 加曽利B I式。
72	縄文土器 鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部～ 胴部破片	外面：にぶい橙 内面：にぶい橙	石英・長石・ 黒色粒・白色 色粒・赤褐色 色粒	酸化焰	外面：口唇部外縁に押捺紋→口縁部にヘラ状工具による沈線 紋で横位区画→区画内に矢羽根状沈線紋。胴部と同様 の沈線紋で区画→単節縄紋 (LR)。 内面：口縁部～胴部に横位ミガキ。	7号住居跡。 晩期前半。
73	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：橙 内面：にぶい橙	長石・黒色 色粒・白色粒・ 赤褐色色粒	酸化焰	外面：口縁部にヘラ状工具による条線紋→沈線間にヘラ状工 具によるキザミ。 内面：口縁部に横位ミガキ。	19号住居跡掘 方。 晩期前半。
74	土製品 土製円盤	長さ：2.9 幅：2.6 厚さ：0.8	1/1	外面：にぶい赤 褐 内面：褐灰	石英・長石・ 黒色粒・白色 色粒・赤褐色 色粒	酸化焰	表面：丸棒状工具による沈線紋、単節縄紋 (RL)。 裏面：ナデ。 側面：破断面に磨痕。 重さ：7.4g	17号住居跡1 号土坑。
75	土製品 土製円盤	長さ：2.9 幅：3.0 厚さ：1.1	1/1	外面：にぶい橙 内面：にぶい赤 褐	長石・黒色 色粒・白色粒	酸化焰	表面：単節縄紋 (LR)。 裏面：ナデ。 側面：破断面に磨痕。 重さ：9.9g	P-8。
76	土製品 土製円盤	長さ：4.2 幅：3.9 厚さ：1.5	1/1	外面：にぶい赤 褐 内面：にぶい赤 褐	チャート・ 石英・長石・ 黒色粒・白色 色粒・赤褐色 色粒	酸化焰	表面：縄紋。器面荒れが顕著。 裏面：横位ナデ。 側面：破断面に磨痕。 重さ：29.1g	10号土坑。
77	土製品 土製円盤	長さ：3.0 幅：3.4 厚さ：1.0	1/1	外面：にぶい赤 褐 内面：黒褐	石英・長石・ 黒色粒・白色 色粒・赤褐色 色粒	酸化焰	表面：櫛歯状工具による条線紋。器面荒れが顕著。 裏面：横位ミガキ。 側面：破断面に磨痕。 重さ：12.2g	14号住居跡。
78	土製品 土製円盤	長さ：3.1 幅：3.2 厚さ：1.2	1/1	外面：明赤褐 内面：にぶい赤 褐	チャート・ 石英・長石・ 黒色粒・白色 色粒	酸化焰	表面：縦位ナデ。器面荒れが顕著。 裏面：縦位ミガキ。 側面：破断面に磨痕。 重さ：12.9g	6号溝跡。
No.	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	成整形の特徴 / 残存状況	備考
79	石器 石鏃	2.35	1.74	0.3	0.77	チャート	凹基無茎。完形。	15号住居跡掘方。
80	石器 石鏃	<3.05>	2.00	0.42	1.75	黒色安山岩	凹基無茎。先端部と片脚部が欠損。	3号住居跡。
81	石器 (石鏃)	3.98	3.58	1.18	1.56	黒色安山岩	未製品カ。礫皮をもつ小型剥片の周縁に、連続する2次加工が認 められる。	3号住居跡。
82	石器 石匙	<4.23>	2.63	1.02	9.86	チャート	縦型。上部には剥離加工により抉入部が作出される。先端部が欠 損。	18号住居跡。
83	石器 打製石斧	6.76	4.77	1.63	59.81	ホルンフェ ルス	小型品。剥片を素材とし、両側縁に両面加工が施され、中央は敲 打加工が顕著。全体に磨耗痕が認められる。使用に伴い小型化し たとみられる。	5号溝。
84	石器 打製石斧	10.24	7.37	2.94	214.94	黒色頁岩	分胴形。割礫を素材とし、周縁に両面加工が施される。刃部や基 部に磨耗痕が認められ、部分的に微細剥離痕あり。	7号住居跡
85	石器 打製石斧	22.19	8.98	3.11	790.30	はんれい岩 カ	大型短冊形。大型割礫を素材とし、両側縁に両面加工が施される。 上下端部には使用痕とみられる磨耗痕や微細剥離痕が認められる。	7号住居跡。
86	石器 スクレイパー	<11.36>	3.63	1.92	55.63	頁岩	礫打面をもつ縦長剥片を素材とし、縁辺に微細剥離痕が認められ る。下端部が欠損。	5号溝。
87	石器 スクレイパー	10.85	7.01	1.81	156.46	頁岩	礫皮を打面とする縦長剥片を素材とし、左側縁に両面加工を施し 刃部とする。刃部には磨耗痕や微細剥離痕が認められる。	3号溝。
88	石器 凹石	<9.72>	<9.58>	5.67	395.82	安山岩	表裏面に磨耗痕が認められる。表裏面中央や両側縁中央には掃鉢 状の大きな凹孔が認められ、上下端部には敲打痕あり。磨石→ 凹・敲石。	5号住居跡。
89	石器 磨石	6.49	6.50	4.10	255.52	安山岩	小型円形。器面全体に磨耗痕が認められる。	7号住居跡。

第 39 表 遺構外出土遺物観察表 (5)

No.	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	成整形の特徴 / 残存状況	備考
90	石器 石皿	30.89	<23.76>	6.52	6.280	安山岩	板状礫を素材とする。皿面は挿鉢状に深く窪み、顕著な磨耗痕が認められ、縁部には凹穴あり。台部は平滑しており、多数の凹穴が認められる。被熱による破砕痕あり。磨石→凹石。欠損品。	調査区一括。
91	石器 敲石	17.20	6.53	4.95	800.58	流紋岩	棒状礫を素材とし、上下端部や表裏面中央や両側縁に顕著な敲打痕が認められる。	9号住居跡。
92	石器 磨製石斧	<8.44>	<4.28>	<2.87>	144.16	緑色岩類	敲打・研磨による丁寧な加工が施される。中央～刃部が欠損。基部に研磨成形後の敲打痕が認められる。	3号溝。
93	石器 磨製石斧	<10.35>	5.73	3.08	301.57	緑色岩類	研磨による丁寧な加工が施される。刃部は使用痕らしき磨耗痕や微細剥離痕が認められる。基部が欠損。	調査区一括。
No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考
94	須恵器 甕	口径：(24.0) 底径：— 器高：<7.2>	口縁部～ 胴部上位片	外面：黄灰 内面：黄灰	黒色粒・石 英・白色粒	還元焰	外面：口縁部ハケメ→ヨコナデ、胴部上位ヘラナデ。 内面：口縁部～胴部回転ナデ→胴部ヘラナデ。	調査区一括。
95	土師器 台付甕	口径：— 底径：8.6 器高：<7.2>	胴部下位～ 台部 4/5	外面：褐 内面：暗赤褐	白色粒・褐 色粒・砂粒	酸化焰	外面：胴部～台部ヘラナデ。 内面：胴部～底部ナデ、台部ヘラナデ。	調査区一括。
96	須恵器 坏	口径：(14.4) 底径：(11.0) 器高：3.9	2/5	外面：灰 内面：灰	白色粒・黒 色粒・砂粒	還元焰	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部ヘラナデ。 内面：口縁部～底部回転ナデ。	調査区一括。

## VI まとめ

長久保大畑遺跡は古代集落を中心とした複合遺跡である。今回検出した主要な遺構は、古墳時代の溝3条、奈良・平安時代の竪穴住居跡20軒、掘立柱建物跡1棟、竪穴状遺構2基、中世以降の溝1条、井戸1基、大型土坑1基である。遺物は縄文時代中期を中心とした縄文土器や石器類が多量に出土したことが特筆される。ここでは近在する既往の調査成果も踏まえ、若干の補説を行い、結語としたい。

### 1. 古墳時代の溝について

該期の溝が3条確認され、走行方向は概ね南北を指向する。構築時期はHr-F A (榛名ニツ岳渋川テフラ、6世紀初頭)が一次堆積をする4号溝→Hr-F Aが二次堆積をする5・6号溝で、Hr-F A降下前後と考えられる。既往の調査成果から概ね水路として機能していたものと想定されるが、前述したように周辺を含め該期の遺構は少ない。4号溝は近接する3次調査区1号溝、5号溝は同区7号溝の延長部分と想定される。壁面には泥流ないしは火砕流による災害の痕跡であろう蛇行状の抉りがみられる。底面には流水による凹地が残り、南側の底面は砂礫層が露呈する。調査当初、形状等から人為的に構築された溝かと考えたが、蛇行して走行することなどから自然流路を人為的に監理し水路として利用された可能性が推考される。事例として渋川市の金井東裏遺跡31号溝が挙げられる。また、本遺跡南500mに位置する見柳東遺跡以南では古墳時代の自然流路を再掘削した古代の灌漑用水路が確認されていることから、本地域を含め南北軸に大規模な水路が整備・管理されていた可能性が考えられる。

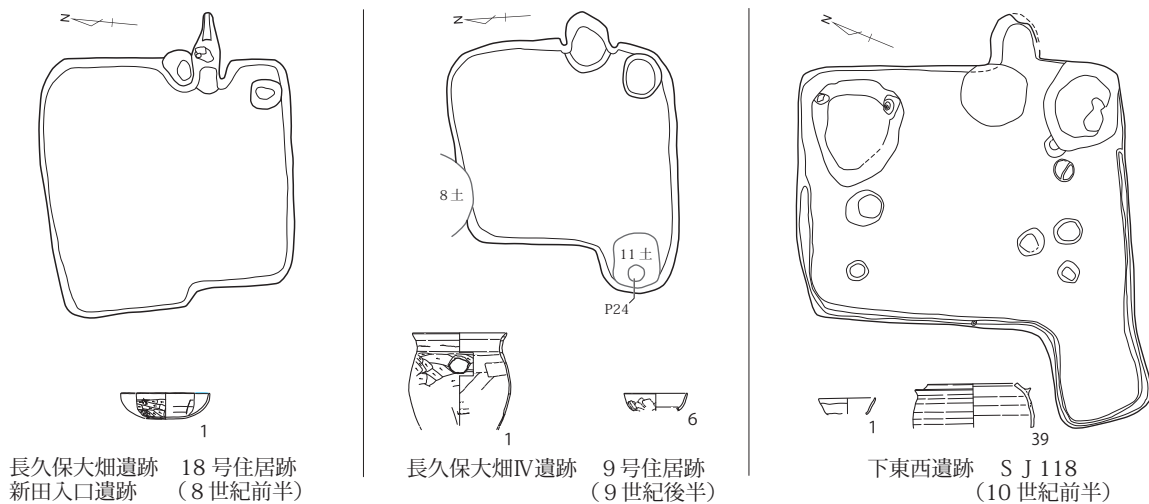
### 2. 奈良・平安時代の集落について

1～3次調査区を含めた本遺跡地周辺は8～11世紀の集落地で、5号溝から東側の低地は生産遺構が中心となっている。竪穴住居跡の分布をやや狭義的にみると、本調査区では4号溝と5号溝間でやや密度が高く、一部ではほぼ同軸方位で重複する。近接する既知調査地と照らし見ると、南北軸上ないしは東西軸線上に分布する傾向が窺われる。本遺跡北方、午王頭川左岸に立地する沼南遺跡は10世紀から集落が形成されるようになるが、報文では重複する住居に対し、東-西ないしは南-北軸でやや位置をずらして建て替えが行われたのではないかと推考されており、本遺跡においても4号住(南)→20号住(北)や8号住(西)→16号住(東)などにその傾向が看取される。9号住は平面形がL字状を呈しており、こうした張り出しを持つやや特異な形態は県内で散見される。町内では本遺跡の他に中町遺跡1号住、見柳東遺跡22号住、見柳東Ⅱ遺跡5号住にみられ、7世紀末から8世紀が盛期と推考されている。本遺構の類似例は前橋市・旧群馬町(現・高崎市)に所在する下東西遺跡S J 118にみられ、9号住と同様にカマド対面の西壁南側に張り出し部をもつ。土師器・須恵器・灰釉陶器の外、円面硯の破片などが出土しており、10世紀後半の所産である。

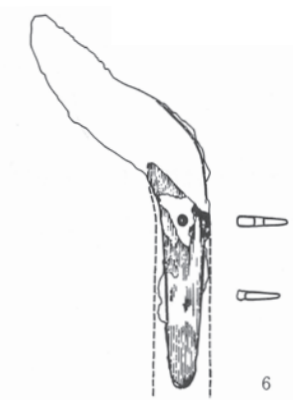
遺物について特筆されるのは18号住から出土した鉄製品(No.3)が挙げられる。刃部のみ遺存で、初見の印

象は鎌である。本鉄製品については不詳であったため、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団を来訪し、御教示を受けた。簡易的にX線写真撮影をして頂いたが、地金等の遺存状態を含め、肉眼で得られる情報とほぼ相違はなかった。都合上、金属学的解析は行っていないが、見分の談によれば鉄質は良く炭素が多いか、とのことである。折り返し部分近くの刃部に関がある可能性が指摘された。県内では酷似した鉄製品にあらず、現段階では形状等は高崎市・元島名B・吹屋遺跡 SD34 から出土した金属器（鎌）が一番近い。

形状から鎌あるいは類似する鉄製品とみると、直刀系で長辺が刃先となっており、茎寄りの峰の重ねはやや厚い。身は直刀系の鎌等と比べるとやや薄い。本鉄製品の刃の折り返しは長辺の刃部側で、隅角が巻くように折り返されている。一般的な直刀系の鎌等であれば鉄板の片方の端を折り返し、木柄を着装するが、この形状から直角あるいは鈍角であったのか、また、どのような柄が着装されていたかは想像するに難しい。草刈鎌のようなものであれば目釘のあった茎の部分を調整し、二次的に加工された可能性も考えられる。利器か素材か。あるいは、用途や利き手等に合わせて再造されたものか。現時点では不明な点が多く、想像の域を超えるものではない。



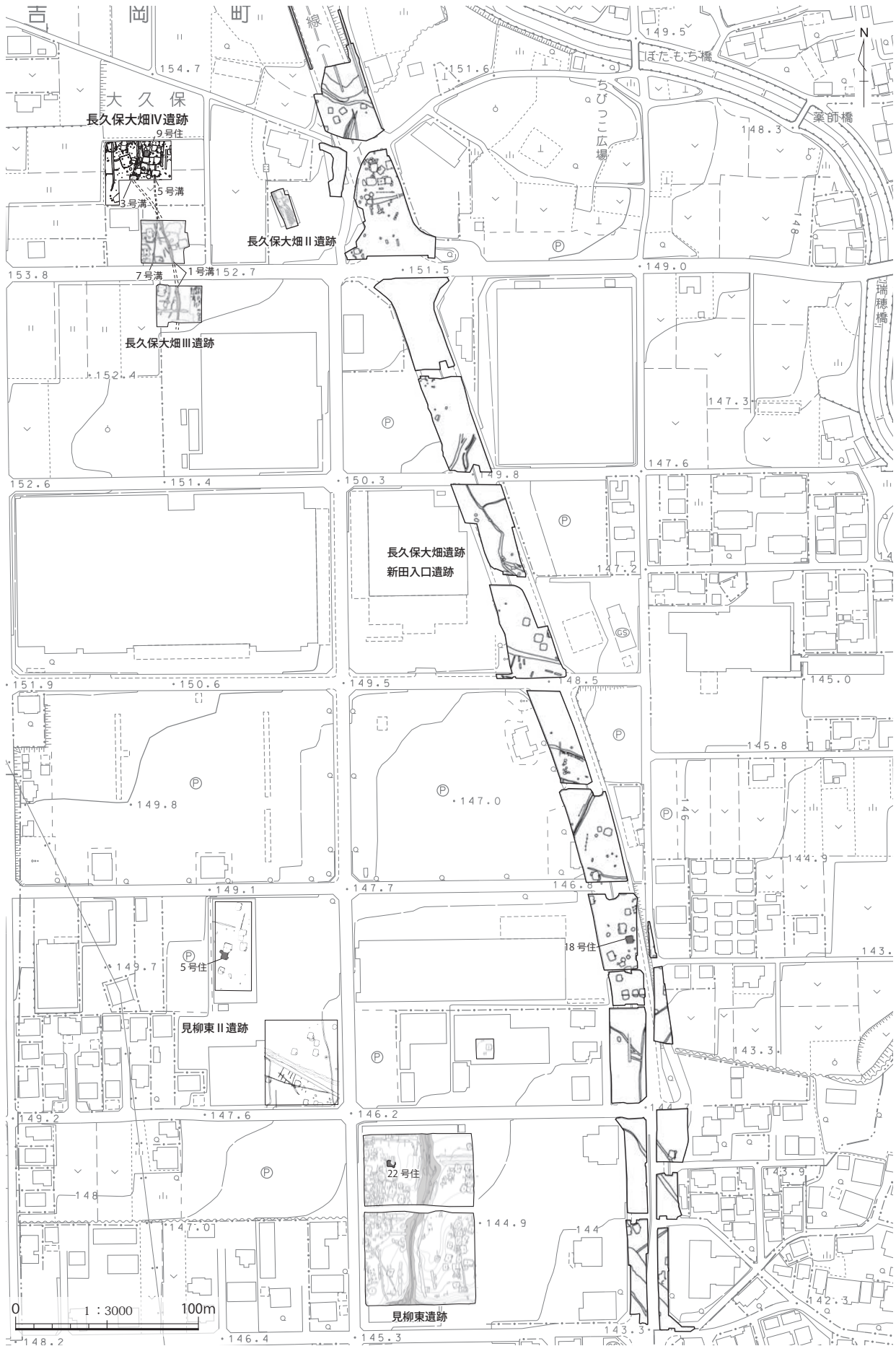
第88図 張り出しを持つ竪穴住居跡



第89図 元島名B・吹屋遺跡出土金属器



第90図 18号住居跡No.3 X線写真



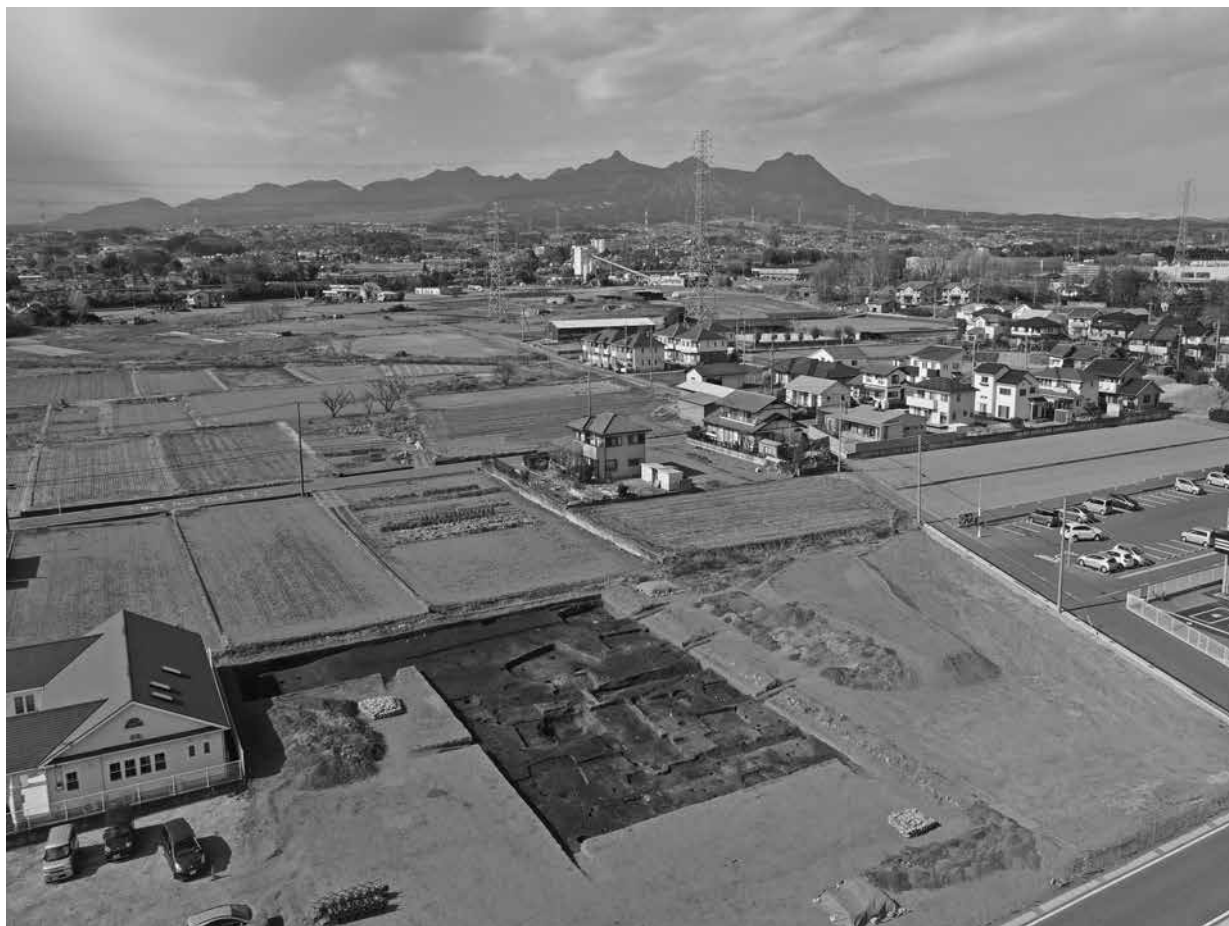
第 91 図 周辺の遺跡

【引用・参考文献】

- 大江正行 1982『元島名B・吹屋遺跡』 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 神谷佳明 1987『下東西遺跡』 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 松村 和男 1999『沼南遺跡』 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 田村公夫 2000『長久保大畑遺跡 新田入口遺跡』 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 瀧野 巧・折原洋一 2001『見柳東Ⅰ遺跡』群馬県北群馬郡吉岡町遺跡調査会
- 平野岳志・山崎 悟 2001『ローズタウン遺跡群 富田下大日Ⅳ遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 瀧野 巧 2003『長久保大畑Ⅱ遺跡』 群馬県北群馬郡吉岡町教育委員会
- 瀧野 巧・山崎 悟 2005『見柳東Ⅱ遺跡』 群馬県北群馬郡吉岡町遺跡調査会
- 瀧野 巧・大越直樹 2006『長久保大畑Ⅲ遺跡』 群馬県北群馬郡吉岡町遺跡調査会
- 杉山秀宏・大木紳一郎 2019『金井東裏遺跡《古墳時代編》』 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 前田和昭・中村岳彦 2022『七日市東遺跡 七日市遺跡』 群馬県北群馬郡吉岡町教育委員会 株式会社ジョイフル本田  
技研コンサル株式会社



# 写真図版



遺跡遠景（南東から）



遺跡全景（上が北）

図版 2



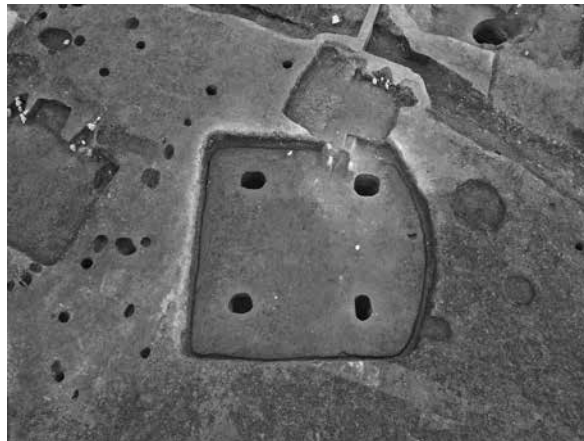
1号住居跡全景（南西から）



1号住居跡カマド全景（南西から）



2号住居跡全景（西から）



3・19号住居跡全景（南西から）



3号住居跡カマド遺物出土状態（南西南から）



3号住居跡カマド周辺遺物出土状態（南西南から）



4・20号住居跡全景（西から）



4号住居跡遺物出土状態（北から）





4号住居跡カマド全景（西から）



20号住居跡カマド全景（西から）



5号住居跡全景（西から）



5号住居跡カマド全景（南西から）



5号住居跡床下土坑1全景（東から）



5号住居跡床下土坑1土層断面（南から）



6号住居跡全景（西から）



6号住居跡土坑1遺物出土状態（南から）



図版 4



7号住居跡全景（西から）



7号住居跡カマド全景（西から）



7号住居跡カマド掘方（北西から）



7号住居跡カマド遺物出土状態（西から）



8号住居跡全景（西から）



8号住居跡遺物出土状態近景（東から）



9号住居跡全景（西から）



9号住居跡カマド全景（西から）





10号住居跡全景（西から）



10号住居跡カマド全景（西から）



10号住居跡カマド遺物出土状態（西から）



10号住居跡遺物出土状態近景（西から）



11号住居跡全景（西から）



11号住居跡カマド全景（西から）



11号住居跡カマド遺物出土状態（西から）



11号住居跡焼土・礫検出状態（北から）



図版6



12号住居跡全景（西から）



12号住居跡カマド遺物出土状態（西から）



13号住居跡全景（西から）



13号住居跡カマド全景（西から）



13・14号住居跡全景（西から）



14号住居跡カマド全景（西から）



15号住居跡全景（西から）



15号住居跡カマド遺物出土状態（西から）





15号住居跡カマド全景（西から）



15号住居跡カマド掘方（西から）



16号住居跡全景（西から）



16号住居跡カマド全景（西から）



16号住居跡土坑1 遺物出土状態（北から）



16号住居跡土坑1 遺物出土状態近景（北から）



17号住居跡全景（西から）



17号住居跡カマド全景（西から）





17号住居跡カマド周辺遺物出土状態（西から）



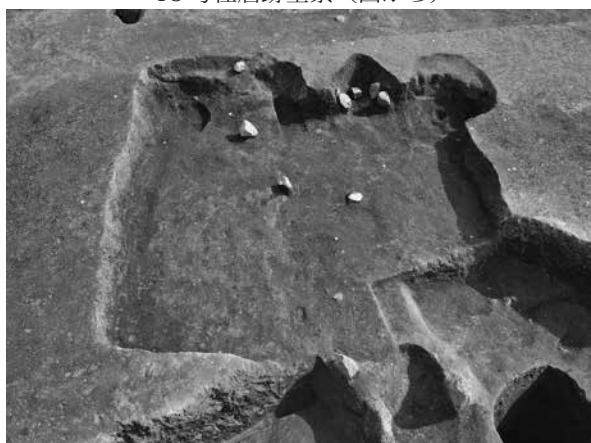
17号住居跡土坑1遺物出土状態（西から）



18号住居跡全景（西から）



18号住居跡遺物出土状態（西から）



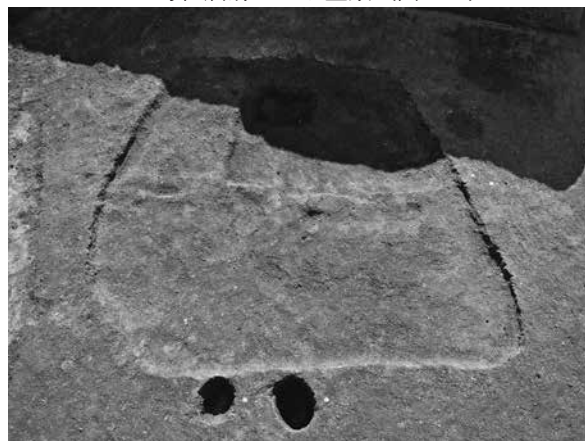
19号住居跡全景（西から）



19号住居跡カマド全景（西から）



1号掘立柱建物跡全景（南から）



1号竪穴状遺構全景（北から）





2号縦穴状遺構全景（西から）



2号縦穴状遺構遺物出土状態（西から）



2号溝全景（東から）



7号溝全景（北東から）



1号溝全景（南から）





3・4号溝全景（北から）



3号溝土層断面（南から）



4号溝土層断面（南から）



5号溝全景（北から）



6号溝全景（北から）





1号井戸、10号土坑全景（南から）



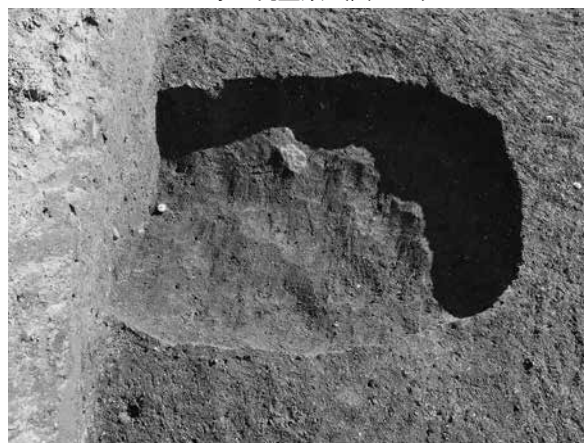
1号井戸全景（南西から）



10号土坑全景（西から）

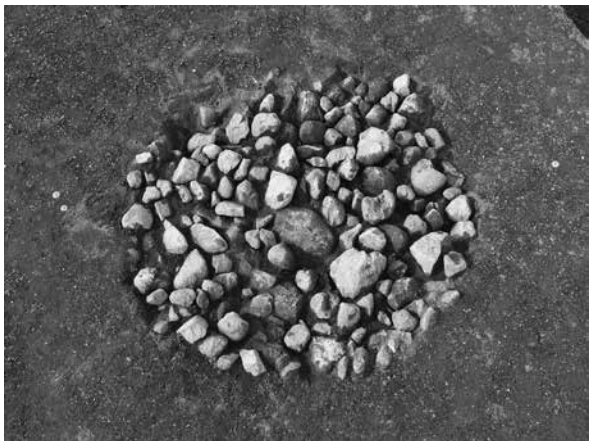


2号土坑全景（北から）



6号土坑全景（西から）





7号土坑礫検出状態（東から）



7号土坑全景（西から）



8号土坑礫検出状態（東から）



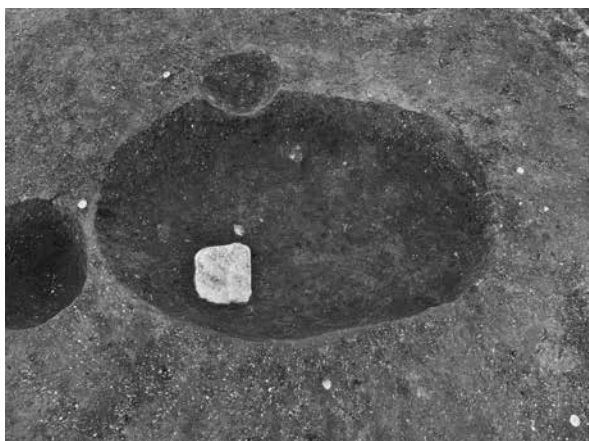
8号土坑全景（東から）



13号土坑全景（西から）



14号土坑全景（西から）



18号土坑全景（東から）



基本層序土層断面（北から）



1

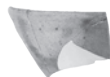


2

1号住居跡出土遺物



1



2



3

2号住居跡出土遺物



1



2



3



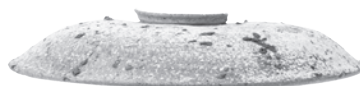
5



4



6



7



8



9



10



11



12



13



14



15



16



17



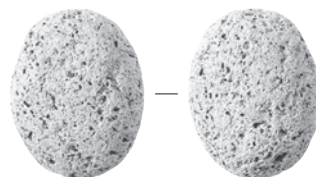
18



19



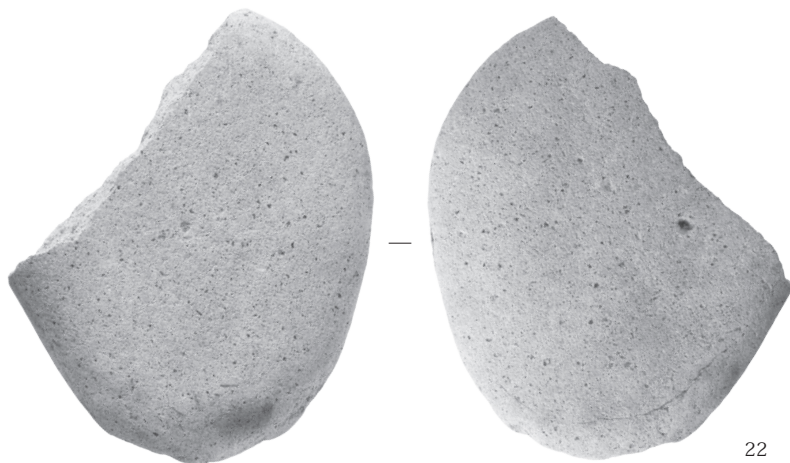
20



21

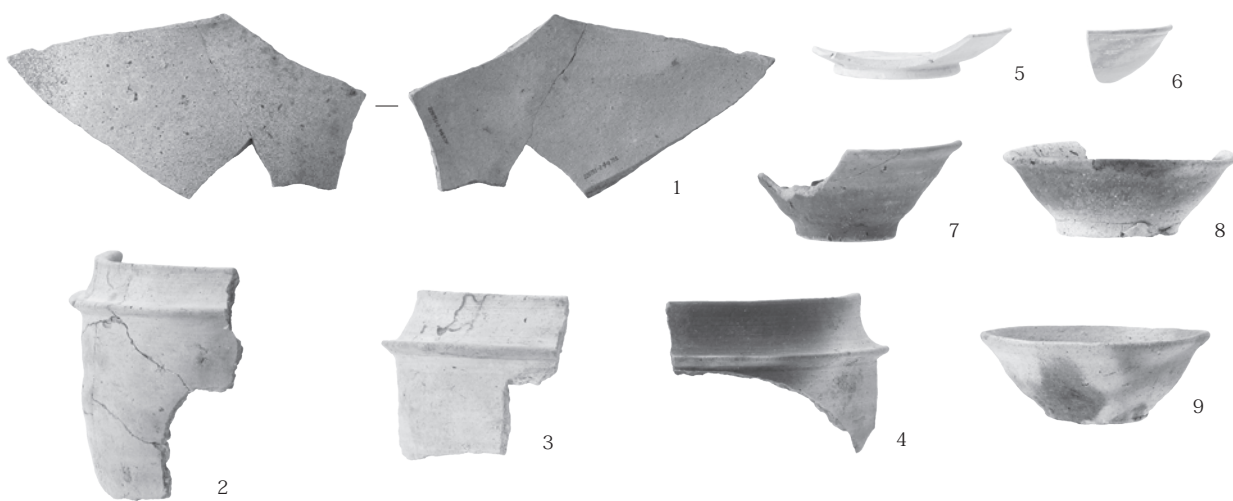
3号住居跡出土遺物 (1)



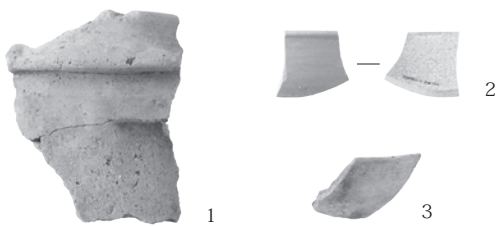


22

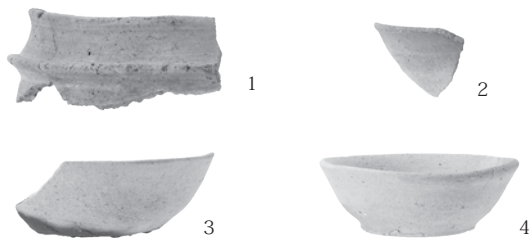
3号住居跡出土遺物(2)



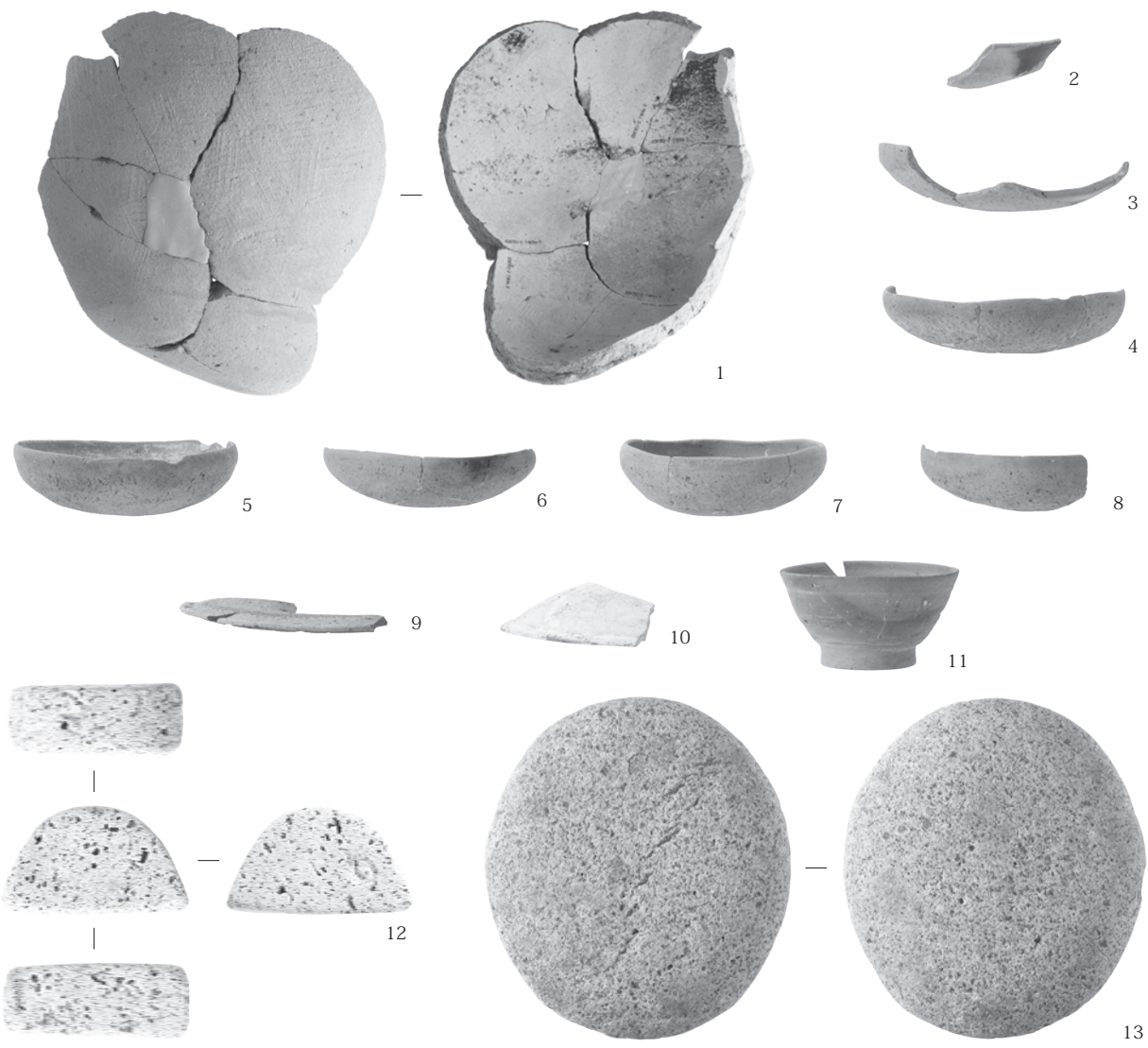
4号住居跡出土遺物



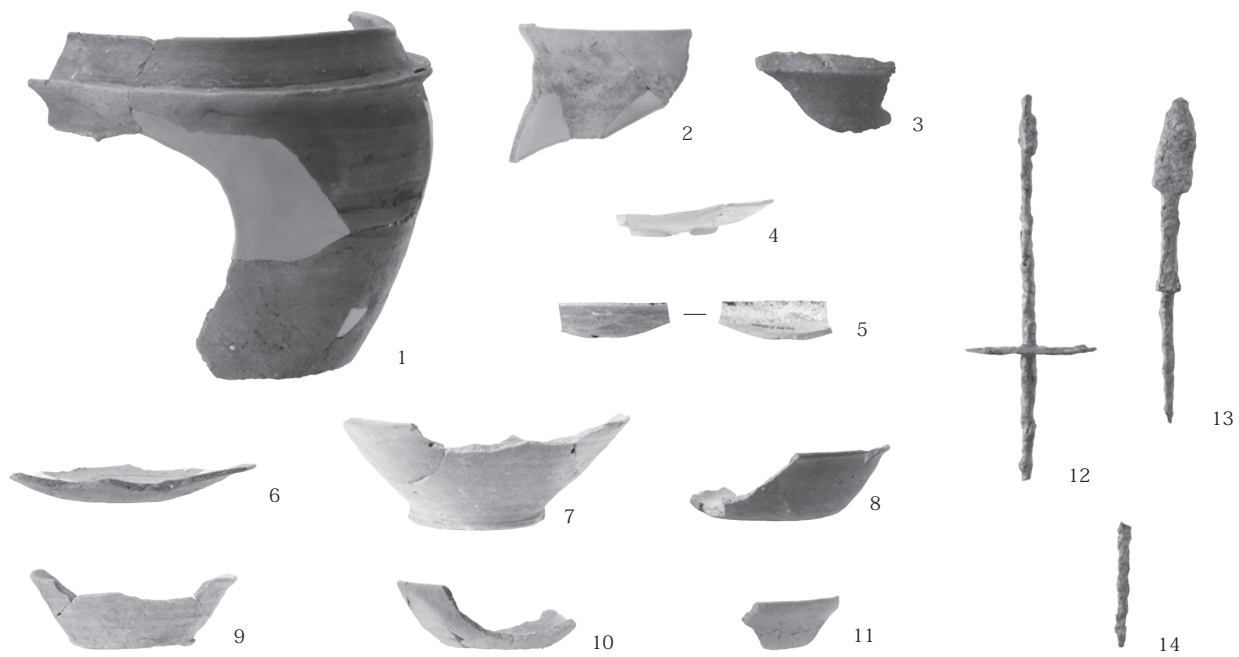
5号住居跡出土遺物



6号住居跡出土遺物

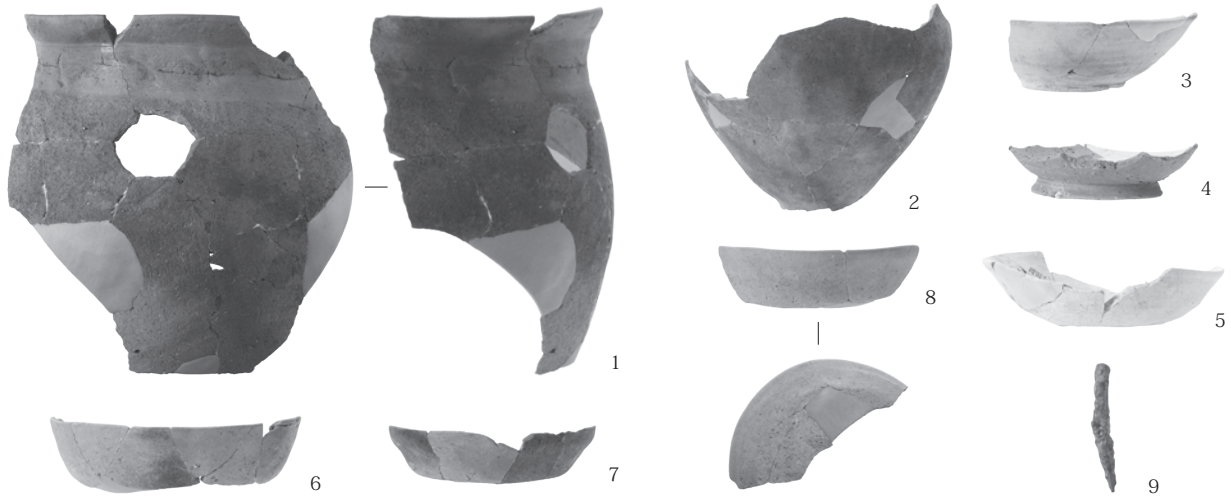


7号住居跡出土遺物

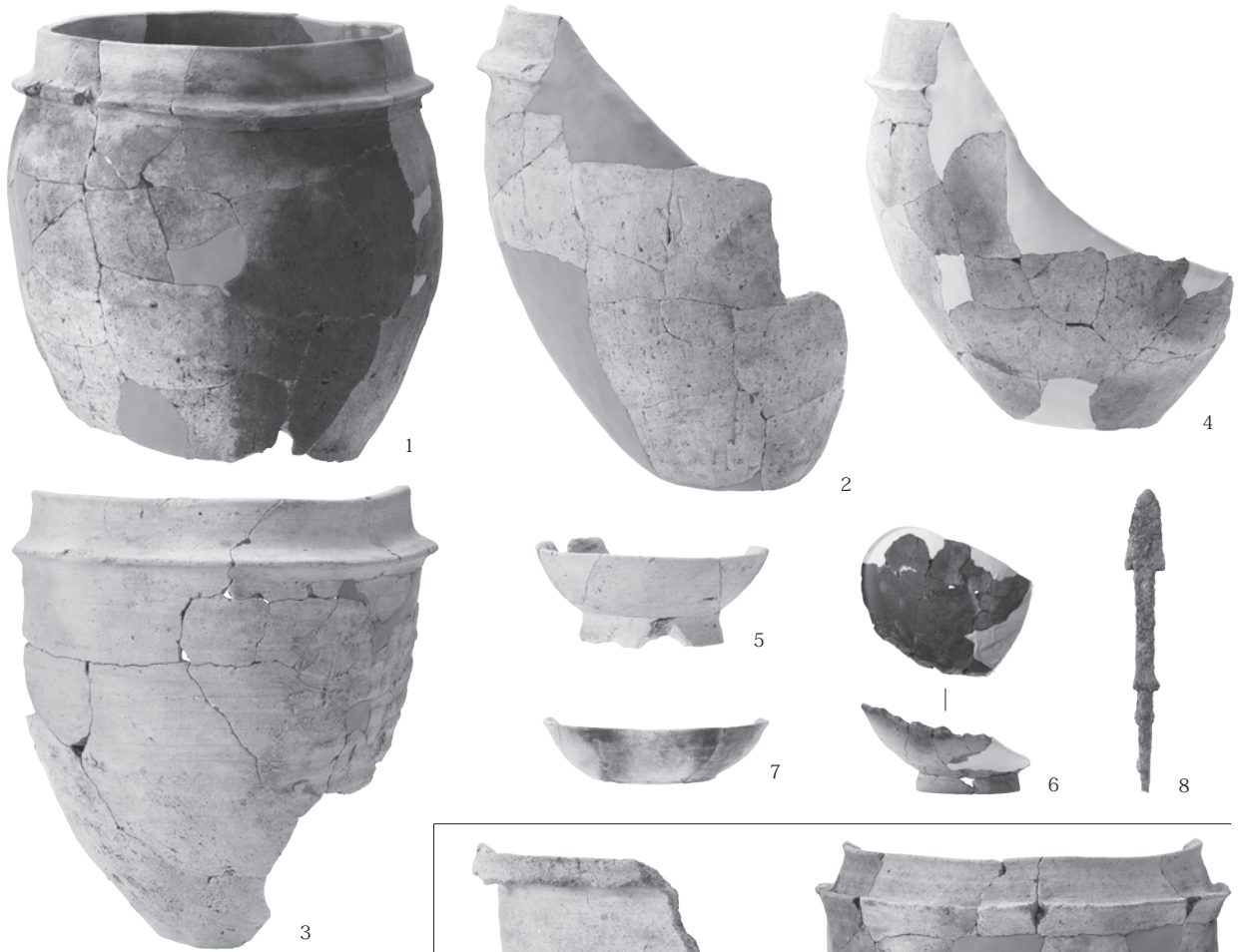


8号住居跡出土遺物

图版 16



9号住居跡出土遺物

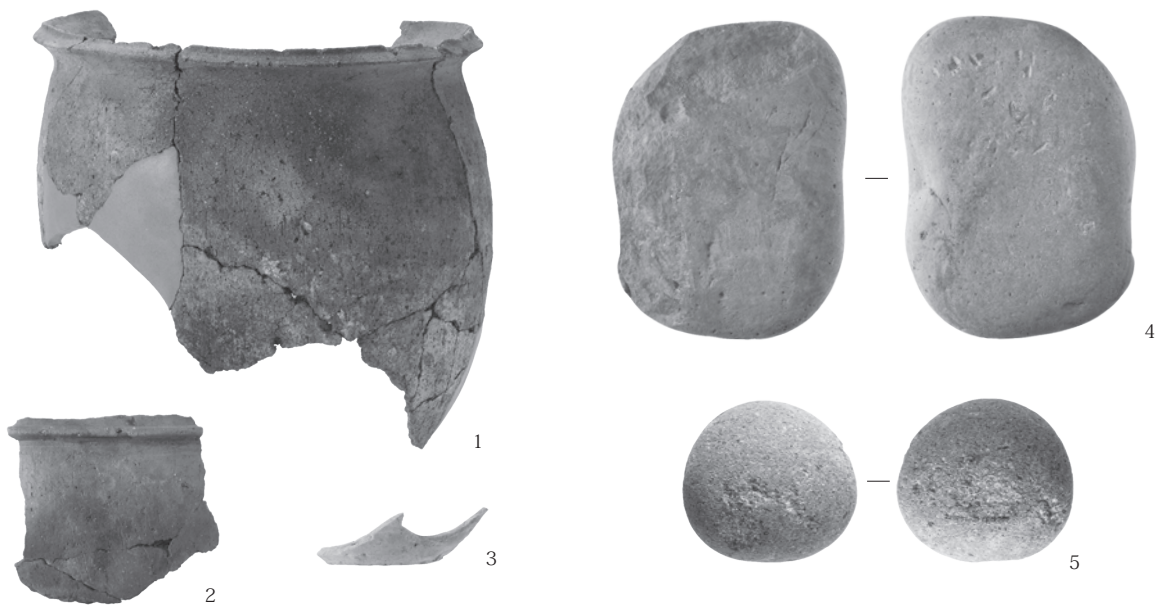


10号住居跡出土遺物

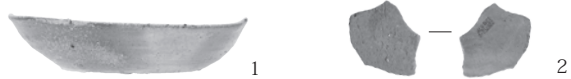


11号住居跡出土遺物





12 号住居跡出土遺物



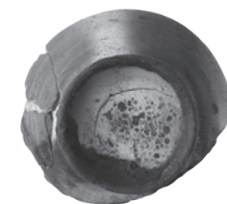
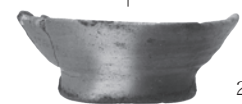
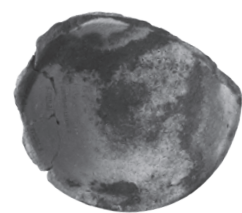
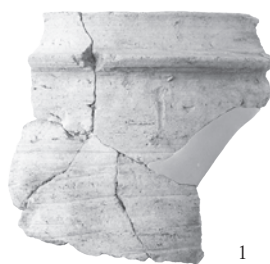
13 号住居跡出土遺物



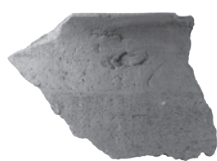
14 号住居跡出土遺物



15 号住居跡出土遺物



16 号住居跡出土遺物



17 号住居跡出土遺物



图版 18



1



2



3

18号住居跡出土遺物



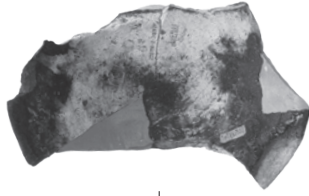
1



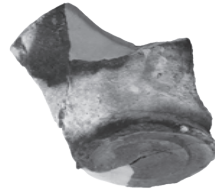
2号竖穴状遺構出土遺物



1



2



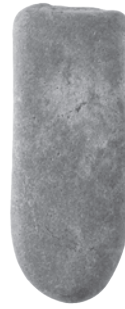
3



4



5



6

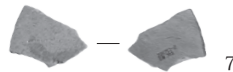
19号住居跡出土遺物



1



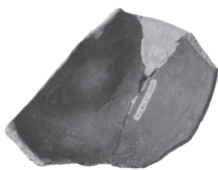
3



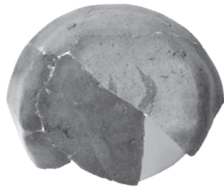
7



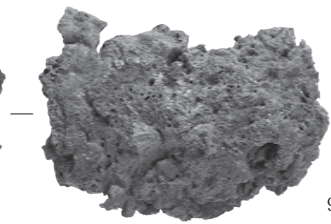
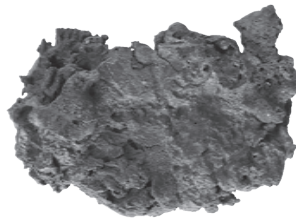
8



2

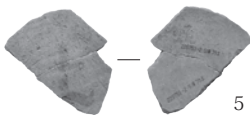


4

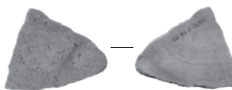


9

5号溝出土遺物



5



6



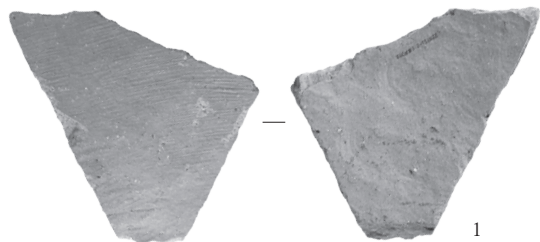
1

3号溝出土遺物



1

7号溝出土遺物



1

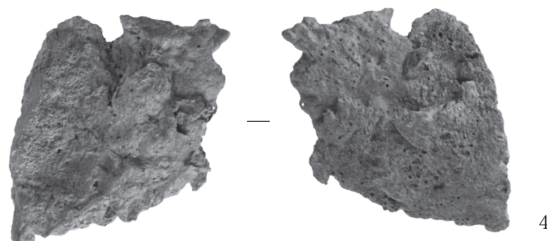
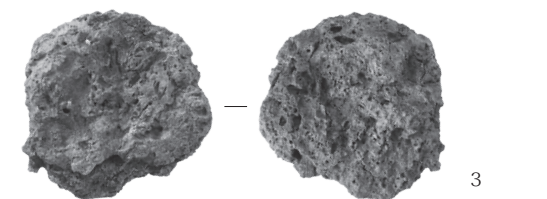
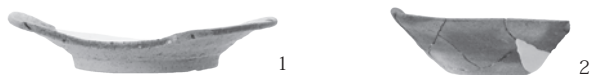


2

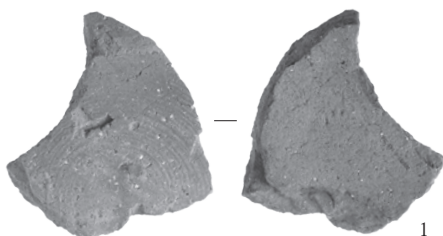
1号井戸出土遺物(1)



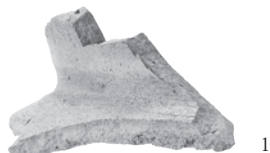
1号井戸出土遺物(2)



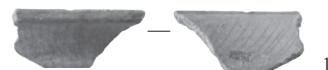
10号土坑出土遺物



16号土坑出土遺物



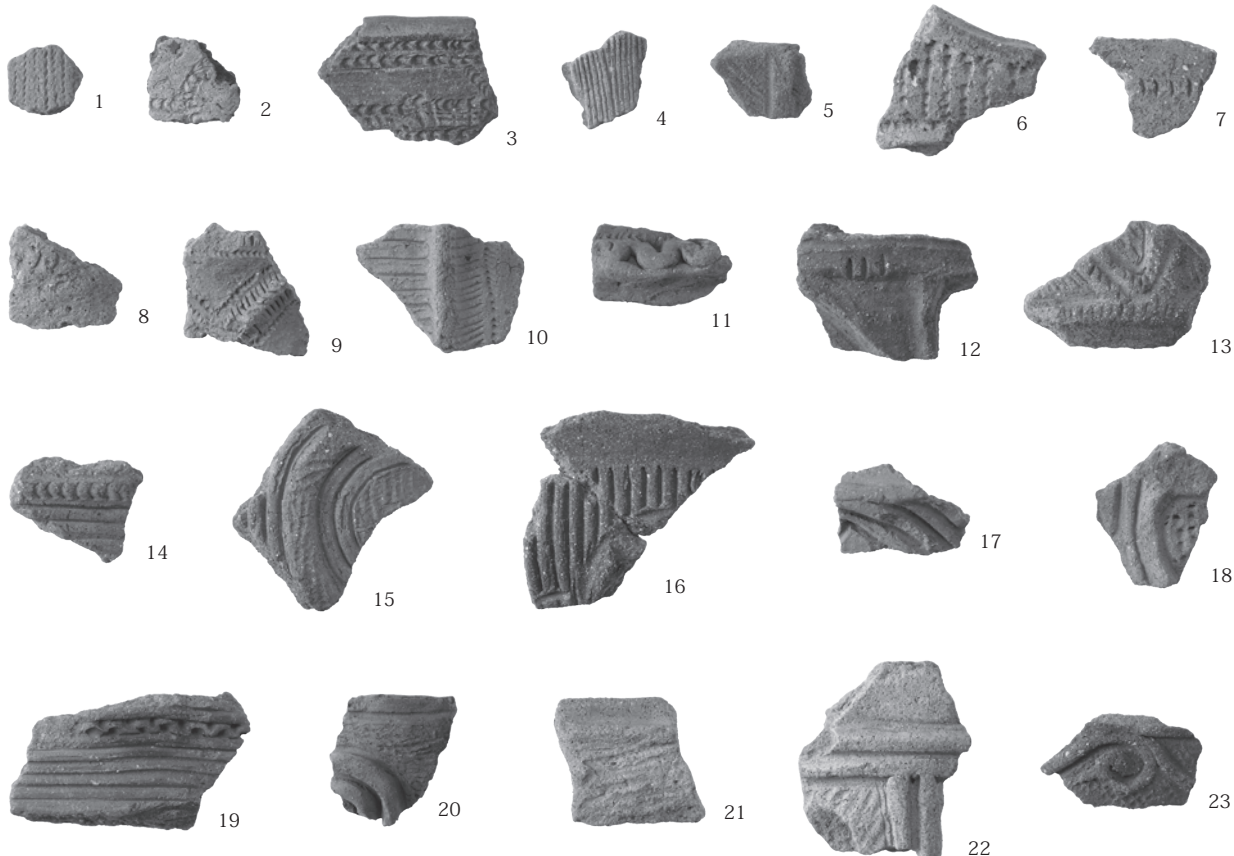
P-16 出土遺物



P-46 出土遺物

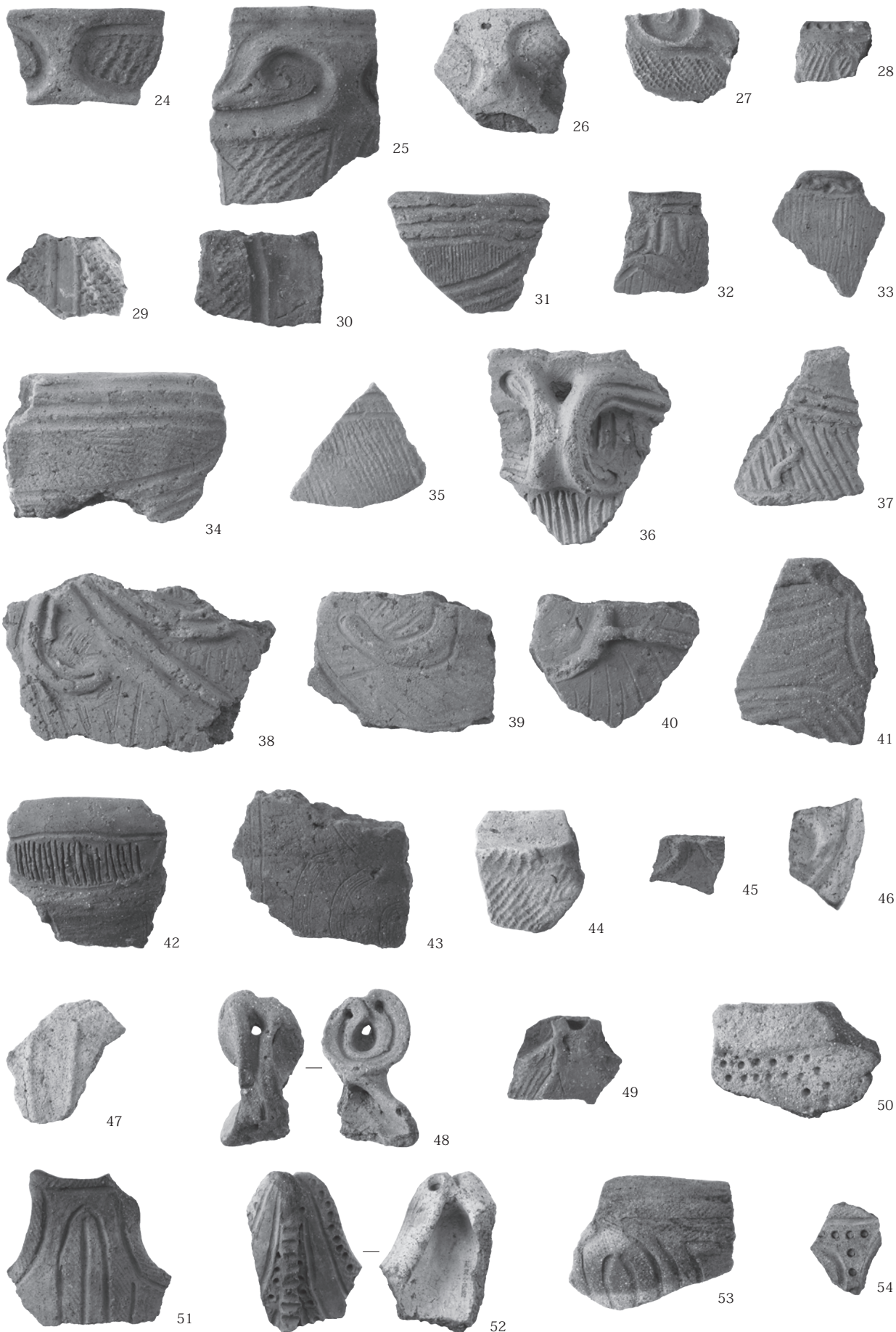


P-71 出土遺物



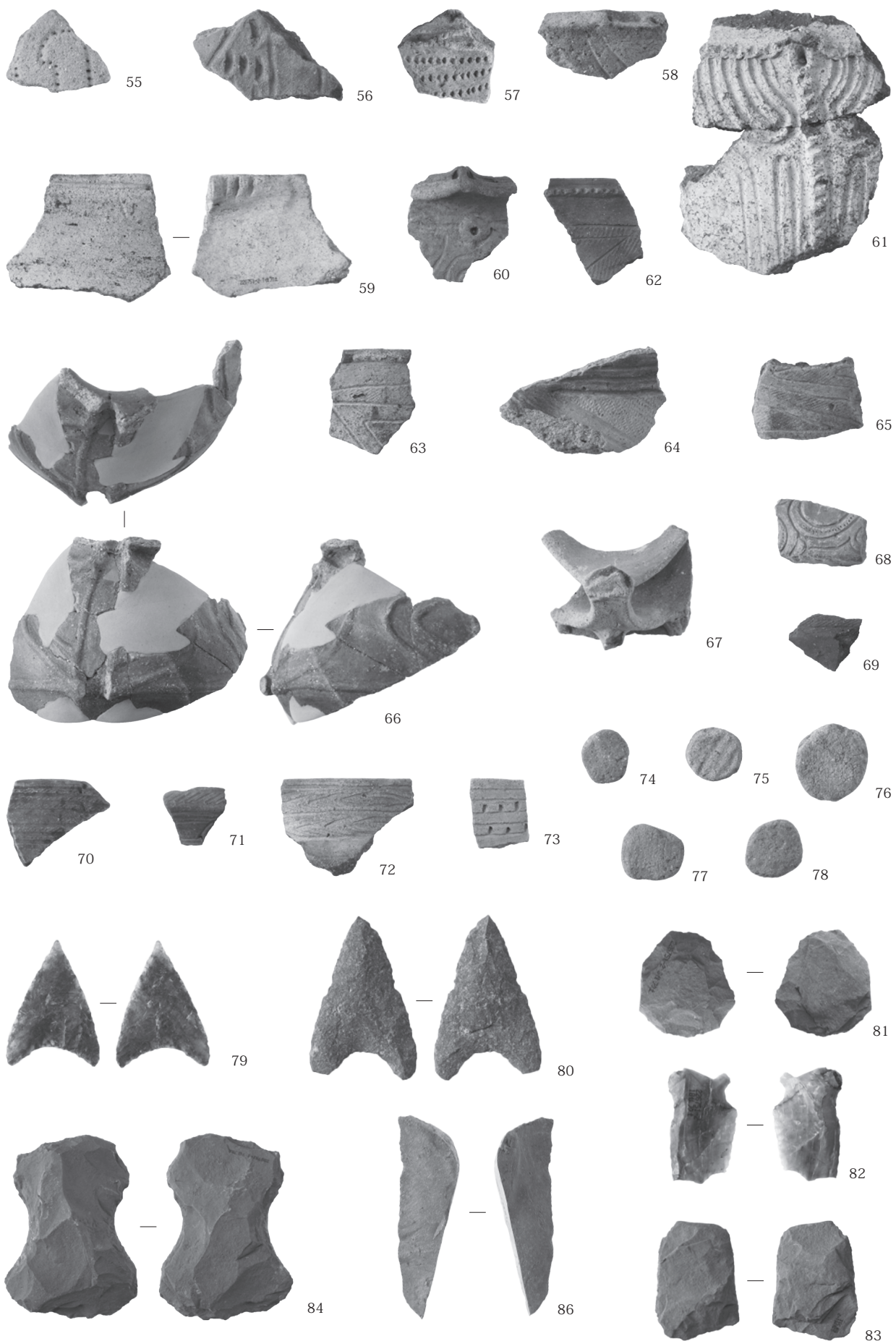
遺構外出土遺物(1)

图版 20



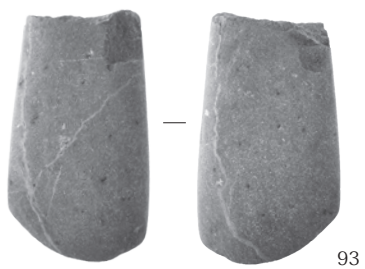
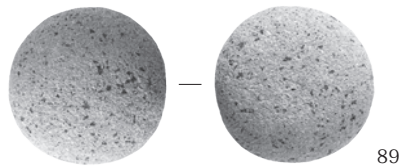
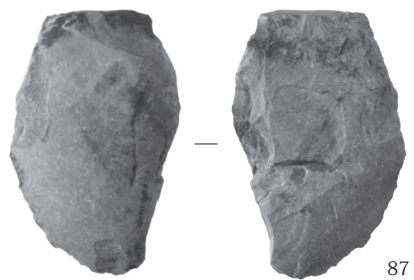
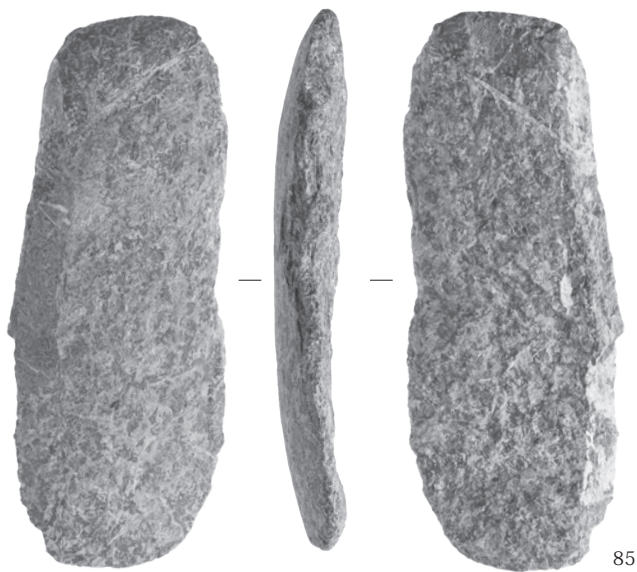
遺構外出土遺物 (2)





遺構外出土遺物 (3)





## 抄 録

ふりがな	ながくぼおおぼたけよんいせきはくつちようさほうこくしよ
書 名	長久保大畑IV遺跡発掘調査報告書
副 書 名	
シリーズ名	吉岡町文化財調査報告書
シリーズ番号	第42集
編著者名	白石光男 山本千春
編集機関	有限会社毛野考古学研究所 〒379-2146 群馬県前橋市公田町1002-1 TEL 027-265-1804
発行機関	吉岡町教育委員会 〒370-3692 群馬県北群馬郡吉岡町下野田560 TEL 0279-54-1054
発行年月日	令和5年7月14日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡	北緯	東経			
ながくぼおおぼたけよん 長久保大畑IV 遺跡	ぐんまけんきたぐんま 郡吉岡町大字 おおくぼおおぼたけ 大久保字大畑 751-2	10345	154	36° 25' 24"	139° 01' 26"	20221212 ～ 20230208	948㎡	株式会社コスモス薬品 出店建物工 事

所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
長久保大畑IV 遺跡	その他 集落	縄文時代 奈良・平安時代 古代以降	竪穴住居跡	20軒	縄文土器 土師器 須恵器 灰釉陶器 土製品 石器 石製品 鉄製品	奈良・平安時代の集落 跡が確認された。
			竪穴状遺構	2基		
			掘立柱建物跡	1棟		
			溝	7条		
			井戸	1基		
			土坑	19基		
			ピット	106基		

吉岡町文化財調査報告書 第42集  
株式会社コスモス薬品出店建物工事に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書

### 長久保大畑IV遺跡

発 行 吉岡町教育委員会  
編 集 有限会社毛野考古学研究所  
印 刷 所 朝日印刷工業株式会社  
発行年月日 令和5年7月14日